

ミトラ仏と観貨邏の仏教 3

ミトラ仏と観貨邏の仏教 3

タジキスタン

カラ・イ・カフィルニガン遺跡出土品図録
ブストン窟遺構と周辺現場発掘調査報告ほか

蓮池 利隆

Бобомуллоев, Саидмурод



科学研究費補助金(研究種目名 基盤研究(B))

研究課題名

「タジキスタン拝火教遺構の発掘調査及び阿弥陀仏の起源としてのミトラ神についての研究」

(課題番号 25300041)の助成による成果報告

本研究は JSPS 科研費 JP25300041 の助成を受けたものです。

ミトラ仏と覩貨邏の仏教3

**「タジキスタン拝火教遺構の発掘調査及び阿弥陀仏の
起源としてのミトラ神についての研究」**

JSPS科研費JP25300041の助成による成果報告

発行日:2018年1月16日

発行者:蓮池 利隆

印刷社:ちよ古つ都製本工房

非売品

カラ・イ・カフィルニガン遺跡

出土遺物図録

2007 年度～2013 年度



凡例

遺物写真 註： 2014年にタジキスタンで出版された『カライカフィルニガン遺物カタログ』（ISBN 978-99947-39-78-3）に基づき、一部収録を変更して再編している。カタログの番号はそこに記載されたもの。番号がないものは新たに掲載した遺物である。	遺物名（カタログの番号） テラコッタ、土器、金属製品、貴石・その他、に分類、さらに年度順に配列 材質・工法（化粧土の有無） 出土年度 出土場所：KKF-X、KKF-XI、KKF-XII、ナウス（墳墓） K□番号：タジキスタン登録台帳番号
--	--

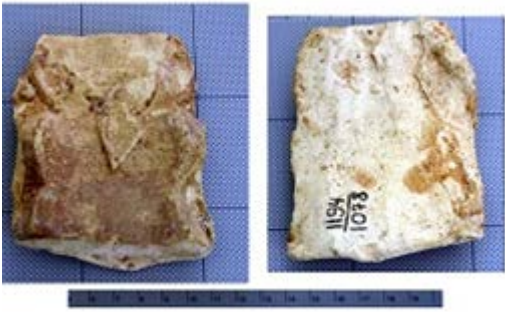
KKF 遺物図録 テラコッタ(1)

	人物像テラコッタ (108) 粘土・焼成 (赤色化粧土) 高さ 9 cm 衣紋が描かれた下半身像 上半身欠損 2006 年採取 予備調査中に表面採取 K Ⅱ : 1194-354
	神像テラコッタ (107) 粘土・焼成 (赤色化粧土) 高さ 9 cm 頭部を欠く 左手に携帯拝火炉、右手に三叉杖 鎧、鎖帷子、膝下に拝火壇 2007 年出土 出土場所 : KKF-XI K Ⅱ : 1194-355
	動物テラコッタ (5) 粘土・焼成 (赤色化粧土) 4.4 x 3.7 x 2.2cm 2008 年出土 出土場所 : KKF-XI K Ⅱ : 1194-624
	土偶 (78) 粘土 研究員の話として、他の遺跡からも出土 例があり、アナーヒターの偶像だとの説 もあるとのこと 2009 年出土 出土場所 : KKF-XI

KKF 遺物図録 テラコッタ(2)

	人物像テラコッタ (23) 粘土・焼成 (化粧土なし) 6.8×3.2×1.1cm 頭部を欠く 2009 年出土 出土場所：KKF-X K Π：1194-844
	邪神像テラコッタ (94) 粘土・焼成 (化粧土なし) 高さ：6.6cm 幅：3.4cm 遺跡付近の崖面が崩落して出土 頭部に瘤状の隆起 2009 年採取 K Π：1194-879
	神像テラコッタ (92) 粘土・焼成 (赤色化粧土) 高さ：8.0cm 幅：4.0cm 表面の磨滅が激しく詳細は不明 2009 年出土 出土場所：KKF-XI K Π：1194-781
	動物テラコッタ (11) 粘土・焼成 (赤色化粧土) 8.8×9.0×3.8cm 2009 年出土 出土場所：KKF-X K Π：1194-2009

KKF 遺物図録 テラコッタ(3)

	動物テラコッタ断片 (15) 粘土・焼成 (褐色化粧土) 10.0×2.9×2.2cm 後足部を欠く 2009 年出土 出土場所：KKF-X K Ⅱ：1194-858
	テラコッタ断片 (26) 粘土・焼成 (黄色化粧土) 頭部を欠き、全体として不明瞭 10.4×11.9×4.0cm 2010 年出土 出土場所：KKF-X 1194-1078
	動物テラコッタ断片 粘土・焼成 (赤色化粧土) 2009 年出土 出土場所：KKF-X K Ⅱ：1194-2001
	人物像テラコッタ (22) 粘土・焼成 (赤色化粧土) 7.0×3.2×1.5cm 頭部を欠く 2010 年出土 出土場所：KKF-X K Ⅱ：1194-2005

KKF 遺物図録 テラコッタ(4)

	動物テラコッタ断片 (12) 粘土・焼成 (黄色化粧土) 8.2×8.8×4.2cm 脚部を欠く 2010 年出土 出土場所: KKF-X K Π: 1194-2020
	楽土像テラコッタ (14) 粘土・焼成 (赤色化粧土) 10.2×3.4×3.7cm 頭部・両腕を欠く 琵琶状の楽器 (三弦) 2010 年出土 出土場所: KKF-X K Π: 1194-2025
	人物像テラコッタ (18) 粘土・焼成 (赤色化粧土) 2.8×5.0×2.0cm 胸部以外を欠く 右手に物を執る 2010 年出土 出土場所: KKF-X K Π: 1194-2031
	土偶断片 2011 年出土 出土場所: KKF-X K Π: 1194-2055

KKF 遺物図録 テラコッタ(5)

	動物テラコッタ (4) 粘土・焼成・手捻り (バラ色化粧土) 高さ：5.7cm 幅：3.5cm 2011 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-20107
	神像テラコッタ断片 (93) 粘土・焼成・手捻り (赤色化粧土) 高さ：6.6cm 右手に半月状の物を捧げる 2013 年出土の神像 (K Ⅱ：1194-1150) と同じ型によるものと推定 2011 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-2045
	神像テラコッタ (20) 粘土・焼成 (化粧土なし) 11.9 x 3.8 x 3.0cm 菩薩像のような天冠を戴く 左右の手の状態は不明瞭 粘土を型に入れる際に、斜めに隙間が入ったものと考えられる。 2011 年出土 出土場所：KKF-X K Ⅱ：1194-2011
	人物像テラコッタ (91) 粘土・焼成 (赤色化粧土) 高さ：9.4cm ヘアー・バンドを付け、右手を胸前に 挙げる、K Ⅱ：1194-844、2005 と同類 の型から成形と推測される 2011 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-20101

KKF 遺物図録 テラコッタ(6)

	動物テラコッタ 粘土・焼成・手捻り (化粧土なし) 2012 年出土 出土場所：KKF-XII K Ⅱ：1194-2144
	神像テラコッタ 粘土・焼成（赤色化粧土） 高さ：5.9cm 幅：3.3cm 上半身断片、半跏思惟弥勒菩薩像にも 似たアルカイック・スマイル 2013 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-1118
	人物像テラコッタ 粘土・焼成（赤色化粧土） 高さ：6.5cm 幅：3.3cm 胸部より上以外を欠く 2013 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-1119
	神像テラコッタ 粘土・焼成・手捻り（赤色化粧土） 高さ：10.5cm、幅：4.0cm 右手に半月状の物を捧げる 2011 年出土の神像（K Ⅱ：1194-2045） と同じ型によるものと推定 2013 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-1150

KKF 遺物図録 テラコッタ(7)

	人物像テラコッタ 粘土・焼成（化粧土なし） 高さ：6.2cm 幅：4.1cm 頭部を欠く 2013 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-1151
	神像テラコッタ 粘土・焼成・手捻り（赤色化粧土） 高さ：8.7cm 幅：4.0cm 鎧を着用、左手に三叉の聖杖、右手に 炎の上がるマジマル（携帯拝火炉） K Ⅱ：1194-2011 と同神格と推定 2013 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-1267
	女神像テラコッタ 粘土・焼成・手捻り（赤色化粧土） 高さ：10.3 幅：3.9 豊穡多産を願う女神像、地母神に近い 神格と推測 2013 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-1219
	馬テラコッタ断片 粘土・焼成・手捻り（赤色化粧土） 馬具を付けた馬の頭部のみ、 2013 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-1252

KKF 遺物図録 土器(1)

	灯明皿（断片）(3) 粘土・焼成・手捻り 9.1×3.0cm 皿の縁に塑像、下半身のみ残存 2006年出土 出土場所：KKF-XI KⅡ：1194-391
	水差しとカップ4個 粘土・焼成・手捻り（赤色化粧土） 2007年
	テラコッタ型（ミフル神像）(21) 粘土・焼成 11.2×5.2×3.2cm 膝下に拝火壇 右手に聖杖 眉間に白毫相 2007年出土 出土場所：KKF-X KⅡ：1194-181
	灯明皿（チラク） 粘土・焼成・手捻（赤色化粧土） 2008年出土 出土場所：KKF-XI KⅡ：1194-588

KKF 遺物図録 土器(2)

	神面断片 (27) 粘土・焼成・手捻り (黄色化粧土) 9.0×8.0×4.0cm 目と眉の一部、頬の上の残存状況から 髭を蓄えた男性面と推測 2008 年出土 出土場所：KKF-X K Ⅱ：1194-726
	柄香炉 (マジマル) 断片 粘土・焼成・手捻り (赤色化粧土) 皿と柄が部分的に残存 仏具の柄香炉の原型と推測 2008 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-521
	携帯拝火炉 (マジマル) 断片 (65) 粘土・焼成・手捻り (赤色化粧土) 高さ：3.2cm 径：15.0cm 縁の一部が突出してチラクと同じ機能 を持ったものと推定 2008 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-550
	携帯拝火炉 (マジマル) (104) 粘土・焼成・手捻り (化粧土なし) 2008 年出土 径：15.0cm 出土場所：KKF-X K Ⅱ：1194-727

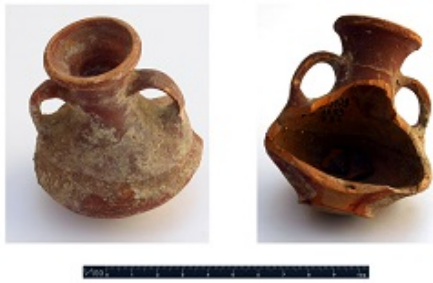
KKF 遺物図録 土器(3)

	土器製錘 (145) 粘土・焼成・手捻り (化粧土なし) 高さ：8.0cm 底辺：4.0cm 重さ：150g 印章と複数の丸い刻印 2008 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-639
	土器製錘 (147) 粘土・焼成・手捻り (化粧土なし) 高さ：6.0cm 底辺：3.5cm 重さ：98g 上と側面の 2 か所に印章 2008 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-640
	土器製錘 粘土・焼成・手捻り (化粧土なし) 高さ：6.7cm 底辺：3.5cm 重さ：85g 2008 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-641
	土器製印章 粘土・焼成・手捻り (化粧土なし) 長さ：9.0cm 印章面：2.5 x 2.5cm 側面に紐用の穴あり 2009 年出土 出土場所：KKF-X K Ⅱ：1194-845

KKF 遺物図録 土器(4)

	土器製錘 粘土・焼成・手捻り（化粧土なし） 2009 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-802
	灯明皿（チラク） 粘土・焼成・手捻（赤色化粧土） 2009 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-1018
	灯明皿（チラク） 粘土・焼成・手捻（赤色化粧土） 2009 年出土 出土場所：KKF-X K Ⅱ：1194-826
	台付き灯明皿（チラク）(111) 粘土・焼成・手捻 （赤色化粧土） 支柱上に皿、基盤部には線状装飾 高さ：6.0cm 径：9.0cm 2009 年出土 出土場所：KKF-X K Ⅱ：1194-983

KKF 遺物図録 土器(5)

	灯明皿（チラク） 粘土・焼成・手捻（赤色化粧土） 2009 年出土 出土場所：KKF-X K Ⅱ：1194-1002
	灯明皿（チラク）(109) 粘土・焼成・手捻（赤色化粧土） 高さ：3.7cm 2009 年出土 出土場所：KKF-X K Ⅱ：1194-872
	小壺（47） 粘土・焼成・手捻り（化粧土なし） 高さ：5.8cm 外径：8.0cm 2009 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-820
	土器製壺（43） 粘土・焼成・轆轤形成（赤色化粧土） 高さ：8.5cm 口径：3.3cm 2009 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-782

KKF 遺物図録 土器(6)

	土器製壺 (50) 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 高さ：9.0cm 径：3.7cm 2009 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-821
	土器片 (71) 粘土・焼成・手捻り (化粧土なし) 線刻文様あり 2009 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-822
	土器片 粘土・焼成・轆轤形成 (黄色化粧土) 高さ：6.5cm 幅：8.5cm 木葉文様と三角形文様による刻印 2009 年出土 出土場所：KKF-X K Ⅱ：1194-849
	土器片 (77) 粘土・焼成・轆轤形成 (黄色化粧土) 高さ：18.0cm 幅：16.0cm 線刻による波模様 バクトリア文字銘文 2009 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-797

KKF 遺物図録 土器(7)

	土器鉢 (80) 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 高さ：5.4cm 径：4.6cm 2010 年出土 出土場所：墳墓 (ナウス) K Π：1194-1075
	土器鉢 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 径：7.0cm 2010 年出土 出土場所：墳墓 (ナウス) K Π：1194-1062
	土器製壺 (82) 粘土・焼成・轆轤形成 (黄色化粧土) 高さ：9.0cm 径：3.4cm 2010 年出土 出土場所：ナウス (墳墓) K Π：1194-1074
	小壺 (29) 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 高さ：6.3cm 径：3.2cm 2010 年出土 出土場所：KKF-X K Π：1194-2026

KKF 遺物図録 土器(8)

	小壺 (42) 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 高さ：6.1cm 径：4.2cm 2011 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-2047
	土器片 (40) 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 高さ：10.8cm 2011 年出土 出土場所：KKF-X K Ⅱ：1194-2041
	土器片 粘土・焼成・轆轤形成 (黄色化粧土) 2011 年出土 出土場所：KKF-X K Ⅱ：1194-2066
	土器片 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 2011 年出土 出土場所：KKF-X K Ⅱ：1194-2063

KKF 遺物図録 土器(9)

	土器片 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 2011 年出土 出土場所：KKF-X K Ⅱ：1194-2060
	土器片 粘土・焼成・轆轤形成 (黄色化粧土) 2011 年出土 出土場所 KKF-X K Ⅱ：1194-2061
	土器製壺部分 (38) (赤色化粧土) 高さ：3.3cm 2011 年出土 出土場所：KKF-X K Ⅱ：1194-2059
	土器片 粘土・焼成・轆轤形成 (黄色化粧土) 2011 年出土 出土場所：KKF-X K Ⅱ：1194-2064

KKF 遺物図録 土器(10)

	土器片 粘土・焼成 植物文様 2011 年出土 出土場所：KKF-X K Ⅱ：1194-2063
	土器片 粘土・焼成 植物文様 2011 年出土 出土場所：KKF-X K Ⅱ：1194-2068
	土器片 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 2011 年出土 出土場所：KKF-X K Ⅱ：1194-2062
	土器片 粘土・焼成・轆轤形成 (黄色化粧土) 波状文様 2011 年出土 出土場所：KKF-X K Ⅱ：1194-2058

KKF 遺物図録 土器(11)

	土器片 粘土・焼成・轆轤形成 (黄色化粧土) 2011 年出土 出土場所：KKF-X K Ⅱ：1194-2057
	土器片 粘土・焼成・轆轤形成 (黄色化粧土) 2011 年出土 出土場所：KKF-X K Ⅱ：1194-2056
	土器取っ手 (9) (赤色化粧土) 6.0 x 1.2cm 犬の顔を模った装飾 2011 年出土 出土場所：KKF-X K Ⅱ：1194-20106
	土器片 粘土・焼成・轆轤形成 取っ手付き 2011 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-2075

KKF 遺物図録 土器(12)

	土器製高坏断片 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 2011 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-2070
	土器製壺(取っ手付き)(60) 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 高さ：10.4cm 2011 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-2080
	土器製高坏(58) 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 高さ：17.2cm 2011 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-2071
	土器製高坏(57) 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 高さ：12.2cm 2011 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-2072

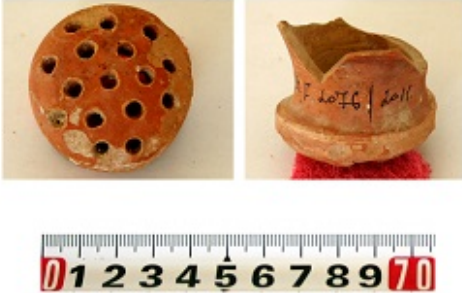
KKF 遺物図録 土器(13)

	土器製高坏断片 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 2011 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-2069
	土器片 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 2011 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-2079
	土器片 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 2011 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-2078
	土器製高坏断片 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 2011 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-2081

KKF 遺物図録 土器(14)

	土器製高坏 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 2011 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-2073
	土器製高坏 (59) 粘土・焼成・轆轤形成 (黄色化粧土) 高さ：8.7cm 2011 年 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-2074
	土器片 粘土・焼成・轆轤形成 (黄色化粧土) 2011 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-2083
	土器片 (72) 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 2011 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-2083

KKF 遺物図録 土器(15)

	土器漉し器 (69) 粘土・焼成・手捻り (化粧土なし) 2011 年出土 出土場所: KKF-XI K Ⅱ: 1194-2077
	土器製高坏 (52) 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 高さ: 6.2cm 2011 年出土 出土場所: KKF-XI K Ⅱ: 1194-2082
	土器漉し器 (67) 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 2011 年出土 出土場所: KKF-XI K Ⅱ: 1194-2076
	土器製水差し (49) 粘土・焼成・手捻り (化粧土なし) 高さ: 9.8cm 径: 8.7cm 取っ手付き 2011 年出土 出土場所: KKF-XI K Ⅱ: 1194-2099

KKF 遺物図録 土器(16)

	土器製礎盤 (46) 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 高さ : 9.1cm 径 : 12.0cm 2011 年出土 出土場所 : KKF-XII K Ⅱ : 1194-2092
	土器壺開口部 (45) 粘土・焼成・轆轤形成 高さ : 6.2cm 2011 年出土 出土場所 : KKF-XI K Ⅱ : 1194-2094
	土器台座部 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 2011 年出土 出土場所 : KKF-XI K Ⅱ : 1194-2033
	土器片 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 2011 年出土 出土場所 : KKF-XI K Ⅱ : 1194-2087

KKF 遺物図録 土器(17)

	土器製壺 (53) 粘土・焼成・手捻り (化粧土なし) 高さ：5.3cm 径：5.2cm 2011 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-2091
	土器高坏断片 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 2011 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-2098
	土器紡錘車 粘土・焼成・轆轤形成 2011 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-2084
	土器断片 (74) 粘土・焼成・轆轤形成 (黄色化粧土) 2011 年出土 小円形の刻印 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-2086

KKF 遺物図録 土器(18)

	土器片 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 2011 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-2096
	土器片 (7) 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 2011 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-2010
	土器高坏基盤部 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 2011 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-2095
	土器製紡錘車 粘土・焼成・手捻り 高さ：3.4cm 径：6.0cm 外周に縦に線状の刻印による装飾 2011 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-20105

KKF 遺物図録 土器(19)

	灯明皿（チラク） 粘土・焼成・手捻り 2011 年出土 出土場所：KKF-XII K Ⅱ：1194-20113
	柄香炉（マジマル） 粘土・焼成・手捻り （赤色化粧土） 仏具の柄香炉の原型と推測 2011 年出土 出土場所：KKF-XII K Ⅱ：1194-20117
	土器片 粘土・焼成・轆轤形成 （赤色化粧土） 2011 年出土 出土場所：KKF-XII K Ⅱ：1194-20119
	柄香炉（マジマル） 粘土・焼成・手捻り （赤色化粧土） 仏具の柄香炉の原型と推測 2011 年出土 出土場所：KKF-XII K Ⅱ：1194-2011x

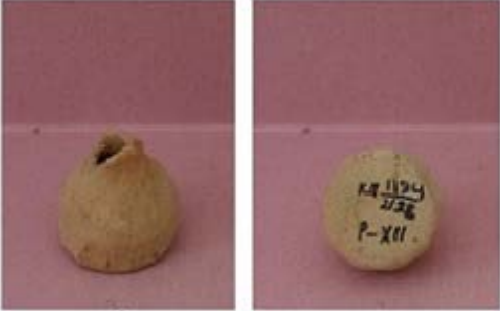
KKF 遺物図録 土器(20)

	柄香炉（マジマル） 粘土・焼成・手捻り （赤色化粧土） 仏具の柄香炉の原型と推測 2011 年出土 出土場所：KKF-XII K Ⅱ：1194-20116
	土器片 粘土・焼成・手捻り （赤色化粧土） 2011 年出土 出土場所：KKF-XII K Ⅱ：1194-20120
	土器製紡錘車 粘土・焼成・手捻り （赤色化粧土） 2011 年出土 出土場所：KKF-XII K Ⅱ：1194-20114
	灯明皿（チラク） 粘土・焼成・手捻り （赤色化粧土） 2011 年出土 出土場所：KKF-XII K Ⅱ：1194-20115

KKF 遺物図録 土器(21)

	土器杯 (81) 粘土・焼成・手捻り (黄色化粧土) 高さ：7.8cm 径：5.4cm 2011 年出土 出土場所：KKF-XII K Ⅱ：1194-20121
	土器杯断片 粘土・焼成・手捻り (黄色化粧土) 2011 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-20123
 2085/2011	土器蓋 (62) 粘土・焼成・手捻り (黄色化粧土) 表面に取っ手 高さ：12.2cm 2011 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-2085
	土器脚部分 (76) 粘土・焼成・手捻り (化粧土なし) 長さ：6.6cm 2011 年出土 出土場所：XI 1194-20109

KKF 遺物図録 土器(22)

	土器壺 (86) 粘土・焼成・手捻り (化粧土なし) 高さ：3.9cm 径：3.6cm 2012年出土 出土場所：KKF-XII KⅡ：1194-2128
	土器壺 (85) 粘土・焼成・轆轤形成 高さ：10.9cm 径：3.4cm 2012年出土 出土場所：KKF-XII KⅡ：1194-2129
	灯明台 (116) 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 高さ：18.0cm 2012年出土 出土場所：XI KⅡ：1194-2130
	土器壺 (118) 粘土・焼成・手捻り (バラ色化粧土) 高さ：15cm 2012年出土 出土場所：KKF-X KⅡ：1194-1147

KKF 遺物図録 土器(23)

	土器片 粘土・焼成・手捻り 2012 年出土 出土場所：KKF-XII K Ⅱ：1194-2140
	土器小壺 粘土・焼成・手捻り (赤色化粧土) 2012 年出土 出土場所：KKF-XII K Ⅱ：1194-2150
	土器片 粘土・焼成・轆轤形成 2012 年出土 出土場所：KKF-XII K Ⅱ：1194-2148
	土器紡錘車 粘土・焼成・轆轤形成 径：2.0cm 2012 年出土 出土場所：KKF-XII K Ⅱ：1194-2126

KKF 遺物図録 土器(24)

	灯明皿（チラク） 粘土・焼成・手捻り （赤色化粧土） 2013 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-1135
	土器碗 粘土・焼成・轆轤形成 （赤色化粧土） 2013 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-1178
	土器高坏断片 粘土・焼成・轆轤形成 （赤色化粧土） 2013 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-1148
	灯明皿（チラク） 粘土・焼成・手捻り （赤色化粧土） 2013 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-1185

KKF 遺物図録 土器(25)

	土器小壺 粘土・焼成・轆轤形成 (黄色化粧土) 2013 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-1155
	土器漉し器 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 2013 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-1158
	土器壺断片 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 2013 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-1163
	土器片 粘土・焼成・轆轤形成 (赤色化粧土) 2013 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-1157

KKF 遺物図録 土器(26)

	土器断片装飾部 粘土・焼成・手捻り (赤色化粧土) 犬の顔 2013 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-1193
	土器製錘 粘土・焼成・手捻り (赤色化粧土) 2013 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-1268
	土器礎盤 粘土・焼成・手捻り (赤色化粧土) 2013 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-1279
	テラコッタ型 粘土・焼成・手捻り 左手に半月状の物を捧げる 2013 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-1253

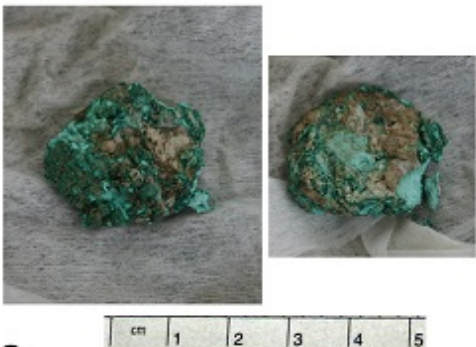
KKF 遺物図録 金属製品(1)

	鉄製小刀 長さ：20.0cm 2007 年出土 出土場所：KKF-X
	コイン 径：2.7cm イスラーム期か？ 2007 年出土 出土場所：KKF-X
	コインと金属片 バクトリア・コインか？ 上段：表、下段：裏 2007 年出土 出土場所：KKF-X
	鈴と装飾品 2007 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-284

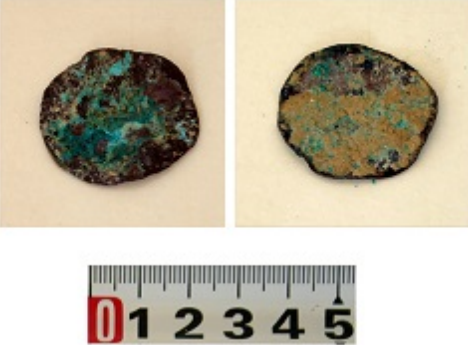
KKF 遺物図録 金属製品(2)

	コイン 径：2.2cm 2007 年出土 出土場所：KKF-XI
	装身具断片 2008 年出土
	金属片 2009 年出土 出土場所：KKF-X
	指輪断片？ 2010 年出土 出土場所：KKF-X

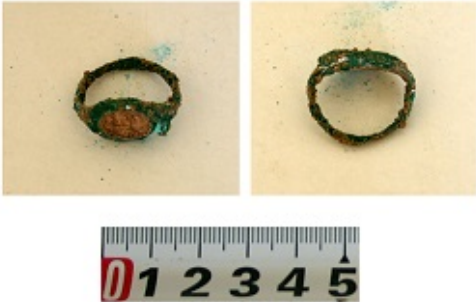
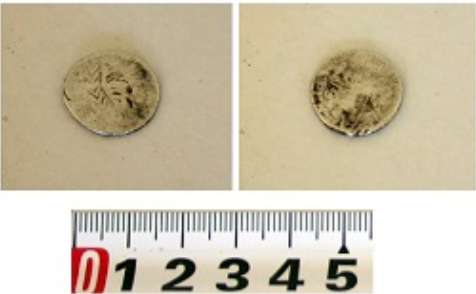
KKF 遺物図録 金属製品(3)

 ⑰	コイン 2010 年出土 出土場所：KKF-X
 ⑱	コイン 2010 年出土 出土場所：KKF-X
 ㉑	コイン 2010 年出土 出土場所：KKF-X
 ㉒	コイン クシャーン期 表面：王の立ち姿、右手下の拝火壇や左手の槍は磨滅して確認できないが、クシャーン朝のコインの特徴。 2010 年出土 出土場所：KKF-X

KKF 遺物図録 金属製品(4)

 26	バクトリア・コイン 表面：ヘルメットを被った男性横顔 裏面：馬に乗った人物 文字や印章は磨滅して失われている がバクトリア・コインの典型的デザイン。 2010 年出土 出土場所：KKF-X
	コイン 2011 年出土 出土場所：KKF-XI
	コイン 2011 年出土 出土場所：KKF-XII
	鉄製品 2011 年出土 出土場所：KKF-XI

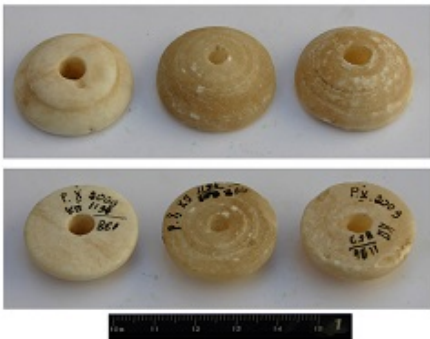
KKF 遺物図録 金属製品(5)

	指輪 2011 年出土
	コイン？ 2011 年出土
	三脚の金属壺 2011 年出土 出土場所：KKF-XI
	鉄製ナイフ 長さ：15.0cm 2011 年出土 出土場所：KKF-XII K Π：1194-2174

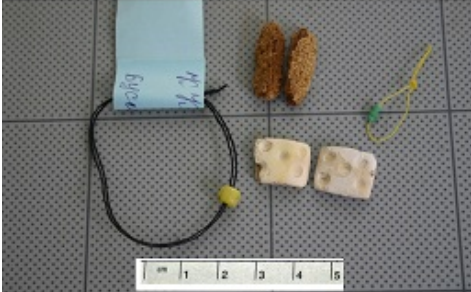
KKF 遺物図録 金属製品(6)

	鈴 (84) 銅 径 : 4.5cm 2012 年出土 出土場所 : ナウス (墳墓) K Ⅱ : 1194-1086
	鉄製劔 2012 年出土 長さ : 8.0cm 出土場所 : KKF-XII K Ⅱ : 1194-2173
	鉄製劔 2013 年出土 出土場所 : KKF-XI K Ⅱ : 1194-1281
	金属製容器 2013 年出土 出土場所 : KKF-XI K Ⅱ : 1194-1260

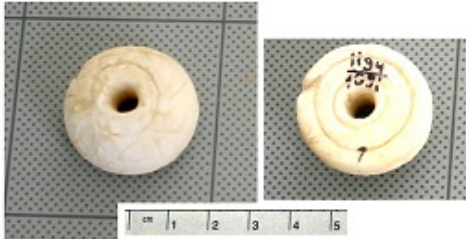
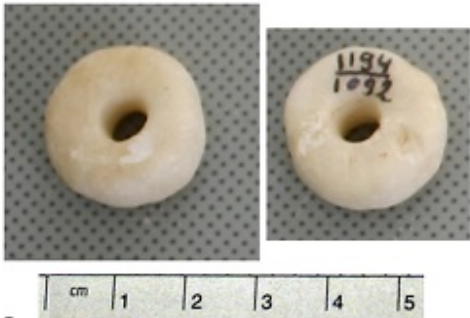
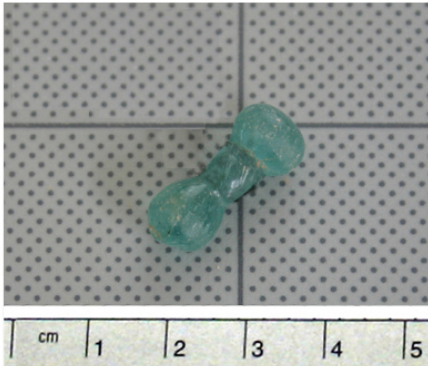
KKF 遺物図録 貴石・その他(1)

	石製乳棒 (83) 2008 年出土 出土場所：KKF-XI K Π：1194-107
	装身具、左より ガラス・ビーズ (126) 1.3 × 1.1cm K Π：1194-831 瑪瑙ビーズ 2 (124) 1.0 × 0.6cm、1.0 × 1.0cm K Π：1194-831 象牙軸棒 (143) 長さ：5.0cm K Π：1194-829 2009 年出土 出土場所：KKF-X
	石製紡錘車 2009 年出土
	石製紡錘車 大理石 2009 年 KKF-X 1194-859、860、861

KKF 遺物図録 貴石・その他(2)

	遊具駒 大理石 2009 年出土 出土場所：KKF-X 1194-828 (6 個)
	ペンダント 2.4 × 2.6 × 0.9cm 表には棍棒を手にする人物、裏には山羊が刻まれている 2009 年出土 出土場所：KKF-X
	印章(115) 大理石 高さ：5.3cm 底辺：1.1 × 1.1cm 2009 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-692
	装身具 2010 年出土 出土場所：KKF-X

KKF 遺物図録 貴石・その他(3)

 ⑤	石製紡錘車 大理石 2010 年出土 出土場所：KKF-X K Π：1194-1091
 ⑦	装身具 貝殻 2010 年出土 出土場所：KKF-X
 ⑨	石製紡錘車 大理石 2010 年 K Π：1194-1092
	ビーズ ガラス製品 2010 年出土 出土場所：KKF-X

KKF 遺物図録 貴石・その他(4)

 ①	石製紡錘車 2010 年出土 出土場所：KKF-X K Ⅱ：1194-2028
 ②	軸棒と管 (142・144) 軸棒・骨 長さ：9.0cm K Ⅱ：1194-2024 管・象牙 長さ：5.0cm 幅：1.0cm K Ⅱ：1194-2048 2010 年出土 出土場所：KKF-XI
 ③	石製紡錘車 大理石 2010 年 KKF-X K Ⅱ：1194-2030
	石製紡錘車 大理石 径：3.0cm 線刻の装飾 2011 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-345

KKF 遺物図録 貴石・その他(5)

	石製紡錘車 石灰岩 2011 年出土
	貝殻 (120) 2011 年出土
	錘の管 (141) 象牙 長さ : 8.0cm 幅 : 1.0cm 2011 年出土 出土場所 : KKF-XI K Π : 1194-2048
	装身具 貴石・ビーズ・貝殻 2011 年出土 出土場所 : KKF-X K Π : 1194-831

KKF 遺物図録 貴石・その他(6)

	石製紡錘車 (70) 石灰岩 高さ : 3.1cm 径 : 7.6cm 2011 年出土 出土場所 : KKF-XI K Ⅱ : 1194-20105
	礎石 (56) 高さ : 11.6cm 幅 : 12.7cm 2011 年出土 出土場所 : KKF-XI K Ⅱ : 1194-2097
	播り石 (48) 高さ : 6.4cm 2011 年出土 出土場所 : KKF-XI K Ⅱ : 1194-2090
	紡錘車 (162) 大理石 高さ : 0.8cm 径 : 5.0cm 2011 年出土 出土場所 : KKF-XII K Ⅱ : 1194-2122

KKF 遺物図録 貴石・その他(7)

	石製紡錘車 石灰岩 高さ：1.2cm 径：3.0cm 2012 年出土 出土場所：KKF-XII K Ⅱ：1194-1122
	基盤部？ 石灰岩 径：12.0cm 中心の大きい穴と側面の三つの穴 2013 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-1183
	装身具 貴石（瑪瑙） 径：1.5cm 2013 年出土 出土場所：KKF-XI
	装身具 ビーズ 縦に筋の文様 径：1.0cm 2013 年出土 出土場所：KKF-XI

KKF 遺物図録 貴石・その他(8)

	装身具 赤サンゴ 長さ：1.0cm 2013 年出土 出土場所：KKF-XI
	石器 石灰岩 2013 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-1182
	石製紡錘車 大理石 2013 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-1173
	石製紡錘車 粘土・焼成・手捻り 径：2.5cm 2013 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-1175

KKF 遺物図録 貴石・その他(9)

	礎盤 石灰岩 2013 年出土 出土場所：KKF-XI K Ⅱ：1194-1210
	乳鉢と炭化した柱 2008 年出土 出土場所：KKF-X
	炉 2008 年出土 出土場所：KKF-XI
	新旧二つの炉 2008 年出土 出土場所：KKF-X

KKF 遺物図録 貴石・その他(10)

	一対の礎石 拝火炉施設の基礎 2008 年出土 出土場所：KKF-XI
	礎石 四角の台座に円筒形の軸受部を削り出した構造 西域南道の遺跡からも木造ではあるものの同形の基盤が出土している。 2009 年出土 出土場所：KKF-X
	未焼成の粘土塊 計量された粘土塊、KKF-XI の炉のそばから大量に出土した。中には頂点を切り取った四角錐の形に成形されたものも含まれている。図では左から三列目。 2009 年出土 出土場所：KKF-XI
	大形壺・甕 2009 年出土



Google Mapより ヒサール(図にはギッサルと表記)周辺



上図左下部拡大 ヒサール(図にはギッサルと表記)周辺
ハナカ川とカフィルニガン川 ほぼ中央が現場
【口絵51】



ヒサール城址（城門以外の城壁は最近の修復）



ヒサール城址前、左がキャラバン・サライ、正面が博物館
【口絵52】

2013 年 7 月タジキスタン側・ブストン予備発掘作業

	
7 月 4 日 ボボムロエフ館長とヒサール地区の研究 所所長（2014 年以後も調査が継続する と思ひ、名前を確認していなかった）	7 月 4 日 発掘作業
	
7 月 4 日 発掘作業	7 月 4 日 窟前での集合写真
	
7 月 4 日 第一窟発掘終了	7 月 4 日 第二窟発掘終了

2014 年度 ブストン発掘調査(1)

	
Google Map の衛星写真を拡大 道を挟んで右の二つの小屋の間に窟の 入口がある。反対側の家が宿舎（間借）	8月26日（火） 道側から眺めた宿舎（2014 年以後も調査 が継続すると思い、家主の名前を確認して いなかった）
	
8月26日（火） 中庭とボボムロエフ館長 手前の木にはスタッフ等を立て掛けて いる。	8月26日（火） 中庭側から宿舎を望む 一番奥の一間が蓮池の部屋
	
8月27日（水） 第二窟入口（高さ：1.5m、幅：1.0m）、崩 落の危険性があり、慎重に調査する。	8月27日（水） 衛星写真に写った二つの小屋の内、北の小 屋とその前に設置した仮の原点

2014 年度 ブストン発掘調査(2)

	
8 月 2 8 日（木）2013 年度の調査で採取 城址前の研究所で保管	8 月 2 8 日（木）2013 年度の調査で採取 城址前の研究所で保管
	
8 月 2 8 日（木）2013 年度の調査で採取 城址前の研究所で保管	8 月 2 8 日（木）2013 年度の調査で採取 城址前の研究所で保管
	
Google Map 衛星写真の部分拡大 南北に流れるハナカ川が東から流れてい るカフィルニガン川に合流する。	8 月 2 9 日 ハナカ川 川上方向を望む。この川下でカフィルニガ ン川と合流する。

2014 年度 ブストン発掘調査(3)

	
8月29日 カフィルニガン川 カラ・イ・カフィルニガン遺跡はこの川下 (右方向)にある。	8月29日 丘陵の西斜面 石窟寺院址かという情報をもとに調査 地域の伝承にも数例あり
	
発掘現場衛星写真 現場1が北側の空き地。現場2が南側の空 き地。(Google Map 衛星写真の部分拡大)	8月29日 発掘現場1 発掘開始
	
8月29日 発掘現場1 西側より撮影	8月29日 発掘現場1 南東隅のイスラーム墓

2014 年度 ブストン発掘調査(4)

	
Google Map (北緯 : 38.27、東経 : 68.42) の衛星写真画像。白く見えるのが塩田	8月31日(日) 岩塩を溶かして流れてくる地下水を溜めた塩田
	
8月31日(日) 塩田風景	8月31日(日) 塩田で塩を集める人
	
8月31日(日) マルチェル氏も泥を掛けられ泥風呂?	8月31日(日) ボボムロエフ館長も泥を掛けられ泥風呂状態。頭には日よけの紙を掛けられて。

2014 年度 ブストン発掘調査(5)

	
8月31日(日) 館長の息子、ボボ君。高濃度の塩水のため 身体が浮いている。	8月31日(日) ボボ君と宿舎の家主(2014 年以後も調査 が継続すると思い、名前を確認していなか った)塩田の帰路、チャイハナで。
	
9月1日(月) 発掘現場 1 子どもの遺骨がイスラーム墓より出土 Bn_02 の座標として記録する。	9月2日(火) 発掘現場 1、ゴミだめから青銅製皿が出土 する。
	
9月2日(火) 青銅製皿	9月2日(火) ほぼ完形の皿。 13 x 10cm

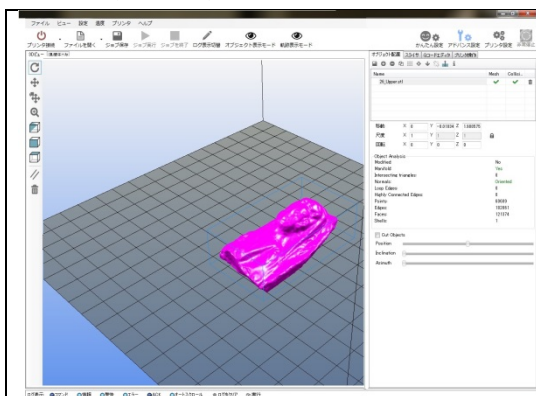
2014 年度 ブストン発掘調査(6)

	
9月3日(水) 窟1の入り口、機械点 p01 を設置する。この時、入力ミスを行ってしまう。	9月3日(水) 天井の測点を観測するために、トータルステーションを低めに定位。中腰での観測は腰に負担がかかった。
	
9月3日(水) 第一窟内部より出入口を撮影	9月3日(水) 第一窟のニッチ部
	
9月3日(水) トータルステーションを操作するマルチェル氏。シャッタースピードを遅くしているため、姿がぼけてしまっている。	9月3日(水) 第二窟のニッチ部

2014 年度 ブストン発掘調査(7)

	
9月4日(木) ヒサール城址内の沼浚渫作業で発見された柱頭	9月4日(木) 柱頭の周りの土砂を掻き出す作業 側面の装飾部分が確認できるようになった。
	
9月4日(木) 全体が現れた柱頭、上下逆さまの状態。 直径0.7m、高さ約1.0m	9月4日(木) 沼のほとりで休憩する館員と見物客。 右下に柱頭
	
9月4日(木) 沼から採取された陶片	9月4日(木) 沼から採取された陶片

2016 年度 研究経過



SC00V0 Studio に Object26.stl を読み込んだ時のパソコン画面(右ペイン上に緑のチェックが入っている。)
画面横広のため、一部編集



熱溶解積層型プリンター SC00V0 x9 で造形中の菩薩像
首より下の部分はすでに造形が完了し、より高い位置にある顔部分を造形中。



左：出土時の菩薩像
右：3 Dプリンターで作成したレプリカを押し付けて作った型を焼成したもの。



左：3 Dプリンターで作成したレプリカに鼻を盛り上げ、目と口を刻んだ補正版
右：補正版から作成した型を焼成した。
本文 36p. 参照

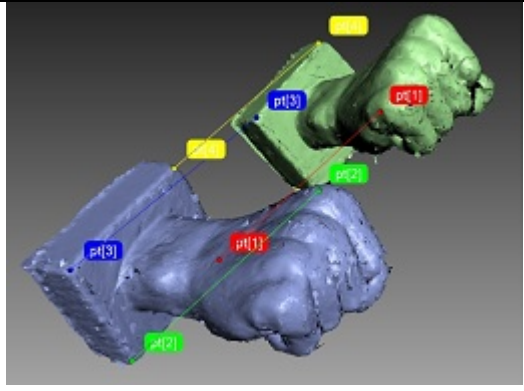
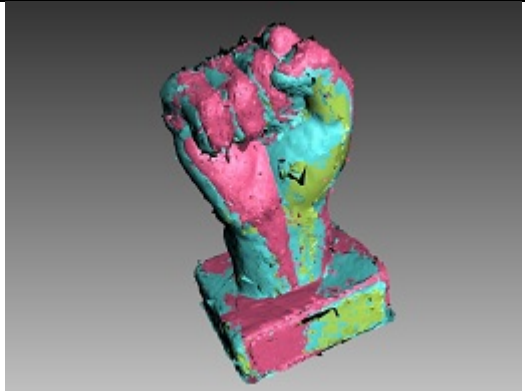
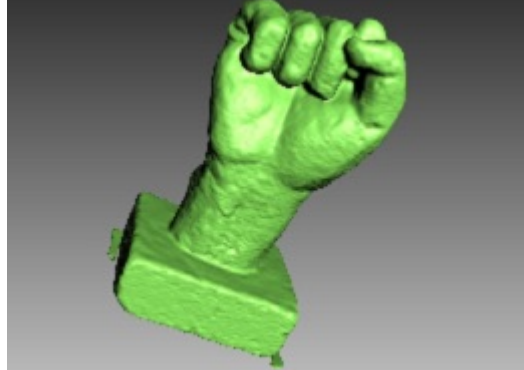
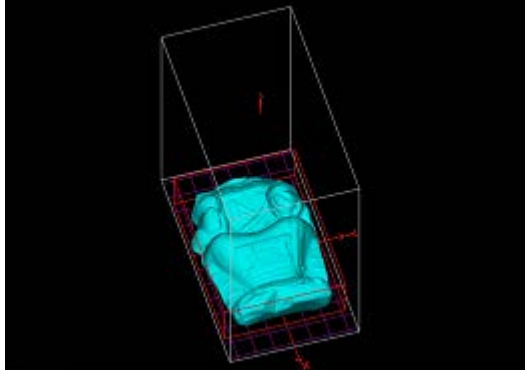
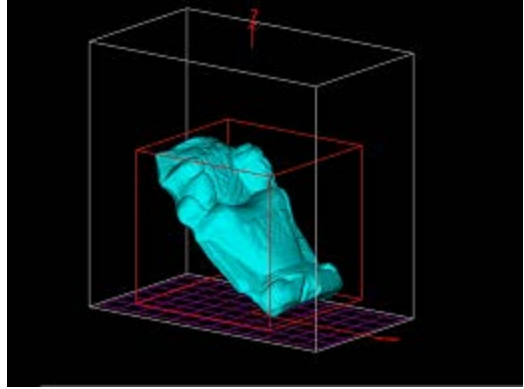
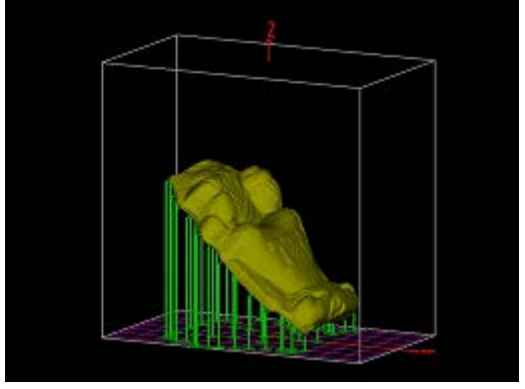


家庭用オーブンで焼成する前の菩薩像
アルミ箔の上に並べた様子はクッキーでも焼いているような感じ。大量生産が可能となる。



オーブンで 180° Cで 40 分間焼成したレプリカのテラコッタ菩薩像
ナイロン袋に説明書を添付して配布用の資料を作成
本文 36p. 参照

2017 年度 研究経過

	
Artec Studio 11 professional 二つのデータを統合するため、共通の三点を指定する。 本文 39p. 参照	Artec Studio 11 professional 三つのデータを統合した結果。三つの色がまだらになっているのは統合した状態。 本文 39p. 参照
	
Artec Studio 11 professional Autopilot 機能を使用してノイズを除去 本文 40p. 参照	光造形型 3D プリンター MIICRAFT-125 の MIISLICER に Object23. stl を読み込んだ パソコン画面の一部 本文 41p. 参照
	
MIICRAFT の MIISLICER に Object23. stl を読み込んだパソコン画面の一部 y 軸に 60° の角度、5mm の間隔を置いて設置した。 本文 41p. 参照	MIICRAFT の MIISLICER に Object23. stl を読み込んだパソコン画面の一部 サポーターを手動で設定する 本文 41p. 参照

ミトラ仏と観貨選の仏教3

タジキスタン

カラ・イ・カフィルニガン出土品図録

ブストン窟遺構と周辺現場発掘調査報告ほか

蓮池 利隆

Бобомуллоев, Саидмурод



目 次

カラ・イ・カフィルニガン遺跡出土品カタログ

はじめに

調査篇

2014年度ブストン窟遺構と周辺現場発掘調査報告…………… p. 1

2015年度調査報告…………… p. 26
機材撤収作業

2016年度研究報告…………… p. 32
熱溶解型3Dプリンターによるレプリカ作成

2017年度研究報告…………… p. 38
3Dハンディースキャナーの実際
光造形型3Dプリンターによるレプリカ作成

研究篇

1. 『ブン・ダヒシュン(原初の創造)』はじめに…………… p. 43

2. 『原初の創造』(和訳)…………… p. 44

3. 解 説

大宇宙としての睡眠…………… p. 146

小宇宙としての人間に内在するディーン…………… p. 149

大宇宙と小宇宙の相即…………… p. 154

まとめ…………… p. 155

後記…………… p. 156

はじめに

本研究は JSPS 科研費 JP25300041 の助成を受けたものである。

この度、「ミトラ仏と観貨邏の仏教」と題して第三巻まで製本することができた。観貨邏とはトハラの音写である。その語源は『ブン・ダヒシュン』の中にあるイラーンに対するトゥラーンと同源より由来するものと思われる。トハラは、玄奘三蔵『大唐西域記』にもあるように、中央アジア一帯の歴史的呼称であった。この地域特有のゾロアスター教を基盤とする習俗が阿弥陀の起源に深く関わったという観点から、ゾロアスター教の有力な神格、ミトラを中心に研究を進めてきた。それがミトラ仏という言葉に込めた意義である。

長いものでタジキスタン現地調査は2004年から2014年までの十年を数えるまでとなった。タジキスタンの考古学的研究は旧ソヴィエト連邦主導の下で行われてきた。東西冷戦の状況下、その学術的成果が完全に西側諸国に伝わっていたとはいえない。さらには、ソ連邦崩壊後の政治的混乱や内戦によって、海外の研究者が容易に調査を実施できない状況が続いた。2000年前後、漸く安定に向かいつつある中、この地域における調査・研究は新たな資料を提供するものとして期待されてきた。しかし、それも束の間、2010年以降のイスラーム過激派、アイ・エスの動向は中央アジアにも様々な形で影響を及ぼしている。タジキスタンでも2014年9月に首都市街地で銃撃戦が起こり、2015年以降の調査を断念せざるをえなくなった。

私たちがタジキスタン調査に着手できたのは、龍谷大学国際文化学部・佐野東生教授の紹介によって、当時の在タジキスタン臨時日本大使、三好功一氏との面識を得たことによっている。2003年大谷探検隊100周年シンポジュームの開催中、帰国していた三好氏が宮学舎を来訪、中央アジアにも仏教遺跡があり、その調査をやってみないかとお誘いを受けた。その話の中、都城遺跡内の方形仏堂の存在も紹介され、私たちはその遺跡調査におおいに興味を抱いたのである。佐野教授には2004年春季に第一回目の調査を企画・実施、タジキスタン側との交渉を進めて頂き、タジキスタン国立博物館館長ボボムロエフ氏に現地発掘の指揮を執ってもらうに至った。さらに、調査の進展にともない、国立歴史考古民族博物館収蔵品の調査を実施した。理工学部岡田至弘教授を代表とする龍谷大学古典籍デジタル・アーカイブ研究センターでは、調査で入手した画像資料をもとにデータベースを作成した。その成果として、2005年に開催されたEXPO2005「愛・地球博」において、中央アジア館における大涅槃仏レプリカ展示と並行して、タッチパネル形式による画像資料展示を実施した。さらに、同年9月からはタジキスタン科学アカデミーからの承認を得てインターネット上で公開している。

2016年から2017年までの期間は現地調査を実施することはできなかったが、それまでに収集した資料と文献学的資料を突き合わせて研究することができたのは有意義であったと考えている。大乘経典成立の背景としての世俗的・習俗的宗教環境を考察することができた。発掘で得られた資料と文献資料とを総合的に検討する上でも、必須の時間であった。

調査開始当時、タジキスタン科学アカデミーの考古学会員たちとの会食の際、十年は調査を継続したいと挨拶をした。変動する国際状況の中、その約束を守ることができたことは、実に幸いなことであったと感謝する次第である。

2014年ブストン発掘調査報告

日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜(休)	土曜
						8/23 22:30 関空発 TK047
8/24 istanbul TK254	8/25 3:45 ドシャンベ着	8/26 15:00 ブストン 現地移動	8/27 発掘調査 測量	8/28 発掘調査 測量	8/29 休日 下痢・発熱	8/30 発掘調査 測量
8/31 休日 砂風呂へ	9/1 発掘調査 測量	9/2 発掘調査 測量	9/3 発掘調査 測量	9/4 発掘調査 測量	9/5 発掘調査 測量	9/6 調査終了 ドシャンベ着
9/7 ヴァルゾフ溪 遊園(メーラ)	9/8 5:40 ドシャンベ発 TK255	9/9 17:55 関空着 TK046				

調査概要

昨年度までのカラ・イ・カフィルニガン遺跡発掘調査を終了して、今年度よりドシャンベから西30キロ・メートルほどにあるヒサール（ギサール）へと現場を移動する。昨年度末3月には現地の視察調査を実施している。カラ・イ・カフィルニガン遺跡に比較すると、ドシャンベからの行程は半分以下であり、車で40分程度の距離である。



ヒサルは19世紀ころに城砦都市として栄え、現在ではその遺構がタジキスタンでも有名な観光名所として知られている。【口絵52】城の前にはイスラーム寺院が博物館として改装され、隣接してキャラバンサライ（宿泊施設）の遺構もある。

しかし、歴史的に遡れば、玄奘三蔵『大唐西域記』第一巻に記録されるトカラの故地の一つであるシュマーン国の一都城であったと考えられる。玄奘三蔵はトカラの故地27カ国について記述しているが、その中の8カ国がタジキスタン国内に位置し、その中の愉漫（シュマーン）国については「愉漫国は東西四百里、南北百余里。国の大都城は周十六、七里。其の王系は素と突厥なり。伽藍二箇所。僧徒寡少。（唐の一里は約400m）」と記されている。

石窟遺構は城砦遺跡から南西へ2～3Kmほどのブストン村であり、都城址がある市街地から遠からず近からずの位置である。【口絵51】周辺にはクシャーン朝の墓地跡や中世ころにゾロアスター教寺院からイスラーム寺院に改築された遺構などがあり、都市周辺の宗教施設群の特徴を示している。崖に洞窟として掘り込まれた遺構が二箇所あり、すでに昨年度5月のカラ・イ・カフィルニガンにおける最終発掘調査の後、7月初旬にタジキスタン側の研究者により発掘が開始されている。【口絵53】

それぞれ幅4メートル前後で奥行きは10メートル前後、かまぼこ型の窟で、一番奥には半円形のニッチ（壁龕）構造が認められる。幅20～30センチ・メートル、高さ50センチ・メートルほどの基壇が設けられている。新たな発掘現場でもあり、測量の基準点となる三角点を調査して、衛星写真との照合も行いたい。また、本格的に発掘を実施する前の地形を測量して基礎的地形図も早急に作図する必要がある。

調査日誌

8月23日（土）

トルコ航空の機内食は充実しているので、早めの夕食として、しばらくは食べられないザルそばを取る。

京都駅発、5時45分の「はるか」に乗車して関空に向かう。機内預けのスーツケースには追加のプリズムターゲットと簡易三脚、若干のピンポールを納め、トータルステーションと電子平板ソフトのブルートレンドをいれたパソコン・タフブックを手荷物として機内に持ち込む。

8月24日（日）

早朝にイスタンブールに到着して、半日以上を待合室から待合室へと移動しながら過ごす。昨年度の3月にドシャンベ便がキャンセルになった時、トルコ航空の案内カウンターで世話になったことを思い出した。その折に、帰りの便のリコンファームもできることもわかっていたので、今回は空港で手続きをすませてしまった。

ドシャンベではなにかと不便なので、一安心である。

8月25日(月)

午前4時ごろにドシャンベ空港に到着。入国手続を済ませて空港を出ると、ボボ君が出迎えてくれた。出土品カタログの進捗状況を尋ねると、良いと言うことで安心する。国立博物館の近くのカヨン・ホテルにチェックインする。このホテルは前回も使用している。

インターネットはWi-Fiの電波が弱くてほとんど利用できない。とにかく、この一日だけは休養にあてることにする。ホテルの近くのスーパーで食料品と飲料水を買って、後はベッドの中で過ごす。

明日は午前中に1.5リットルの飲料水半ダースを一つ買っておくことにする。痛風もちの身体には水分補給が十分にできるかが一番の問題だからである。

8月26日(火)

ホテルを午後2時に出発することになっていたが、ホテル側がタクシーを用意していた。荷物もあることだし、しかたがないので、となりの博物館まで乗ることにしたが、それが失敗のもとであった。すぐにいらないと断るべきだったのだ。博物館前の道が一方通行であったため、迂回しているのかと思いきや、運転手は別の博物館に連れて行こうとする。ボボムロエフ館長に電話口を通して運転手に説明してもらい、もとのホテルへもどることができた。ホテルに着くとボボ君が待っていた。もう少し早く迎えに来てくれていたなら問題もなかったものと思うこと頻り。

3時前に再出発して、ヒサールの現場へと向かう。借家は大きな民家の一部を借り受けたものであり、石窟遺構のすぐ南隣の民家、というよりもこの民家の道を挟んだ敷地内に石窟があるというのが正しいようである。【口絵54】

衛生環境はよろしくない。昔の日本の農家のような雰囲気、中庭には牛が二、三頭つながれている。トイレは別棟で、穴を掘った上に板を渡し、周りを板塀で囲い、入り口は垂れ幕、屋根はない。特に、水回りは、用水路の水がそのまま飲料水である。もしも、その環境で同じ生活をしたならば、ひとたまりもなく下痢状態になることは間違いない。火を通したもののだけを口にするようにすれば良いとは思いますが、それがきちんとできるかどうか。不安な調査の始まりである。

8月27日(水)

事前に想定していた測点は利用できないことがわかったので、仮の基準点を設定する。三角点などが分かった時点で誤差を算出して正規の基準点に変更することにしたい。当面は石窟遺構のまえに基準点を設置して、磁北を基準にした上で、電柱の位置をポイントとして入力。発掘現場までトランジットを実施する。そのデータとグーグル・マップの衛星写真(電柱の位置も確認可能)とを合成することで地形図・平面図を作成することになる。

ただし、タジキスタンの磁北は、真北から西偏6度前後の修正を要することは要注意である。仮の基準点は二棟の家畜小屋の間に設置したが、つながれた牛を目の前にしての作業となつてなかなか思い通りに進まない。【口絵54】

8月28日(木)

午前9時半にヒサール城塞遺跡の南筋向いにある科学アカデミー研究所に立ち寄り、遺物写真撮影する。昨年度7月の調査時に採取された四点で、一点は青銅器時代で残りはクシャーン朝期のものと推定されている。【口絵55】出土場所は今回の第二現場南方の高台周辺だということであるが、正確な出土ポイントは測定する術もない。

その後、ブストン村の東側の丘陵地帯を斜面に沿って1.5Km南下。ハナカ川がコハルニホン川と合流する地点の東斜面にある、石窟遺構とおもわれる場所を視察に出かける。すでに早朝から下痢状態で車による移動も少々苦になる。【口絵55-56】

8月29日(金)

朝から下痢、若干の発熱。朝食は控えて、持参の腹薬を飲む。借家の当主の孫と思しきメフラブ君に手伝ってもらい、仮の基準点から第一現場まで、トランジット測量を行う。



窟遺構前より宿舎を望む



窟遺構前より南に続く道を望む



窟遺構前より北に続く道とEp02、Ep03を望む



Ep02より窟遺構前の二つの小屋とその間のEp01を望む

第一現場図化のための測点(機械点)を設置するのが本日の目的である。それぞれの座標を次に示す。

Ep01 : $x = -0.284$ 、 $y = 5.350$ 、 $z = 0.433$ (x は南北軸、 y は東西軸、以下同じ)

Ep02 : $x = 32.914$ 、 $y = -15.239$ 、 $z = -2.702$

Ep03 : $x = 60.420$ 、 $y = -32.246$ 、 $z = -3.046$

Ep04 : $x = 111.126$ 、 $y = -53.919$ 、 $z = -0.735$

Ep05 : $x = 113.898$ 、 $y = -47.358$ 、 $z = -0.541$

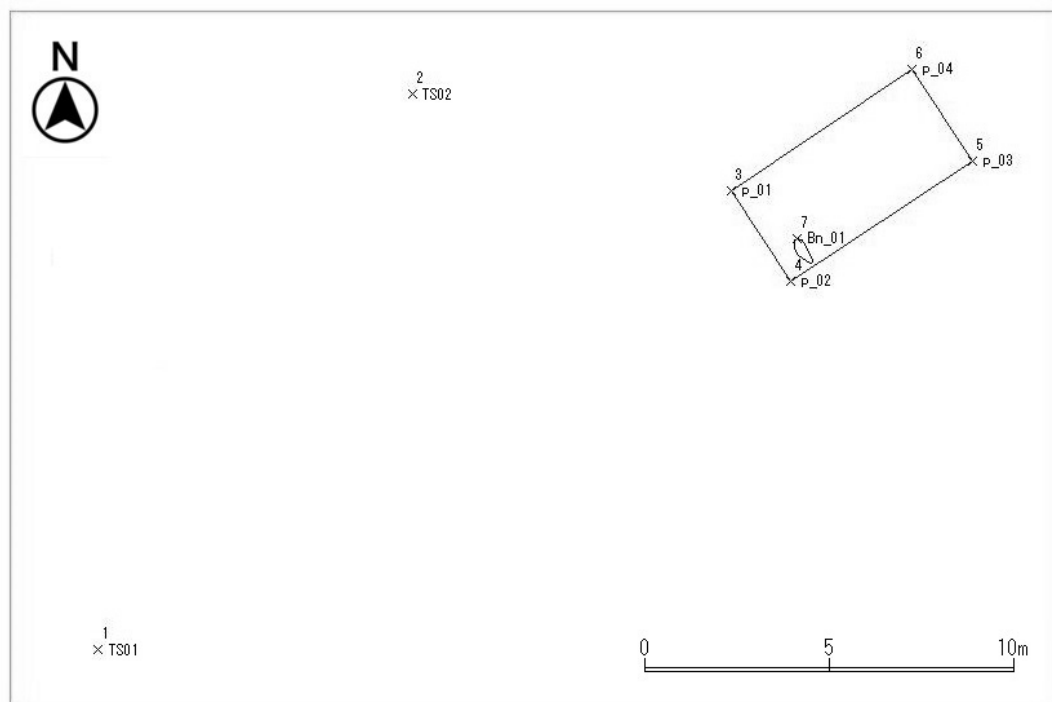
Ep06 : $x = 278.444$ 、 $y = 32.914$ 、 $z = -0.109$
 Ep07 : $x = 372.218$ 、 $y = -34.786$ 、 $z = 6.492$
 Ep08 : $x = 420.157$ 、 $y = -55.901$ 、 $z = 4.048$
 Ep09 : $x = 472.856$ 、 $y = -50.640$ 、 $z = 4.173$
 TS01 : $x = 506.972$ 、 $y = -3.024$ 、 $z = 4.974$
 TS02 : $x = 522.008$ 、 $y = 5.498$ 、 $z = 4.554$



前図中、Zero は仮の基準点、Ep は電信柱、TS は機械点を示す。

トランジットの途中、でプリズムターゲットが倒れてプラスチックのケース部分にひびが入ったが、使用には支障がないようである。

また、ブルートレンドの画面に注意マークが出てしまう。Launch Internet Explorer Browser. Ink との注記が出るがデータの記録に関する問題なのかどうか分からない。新規作成の画面では表示されないのが気になる。



第一発掘現場のエリアの四ポイントを観測する。【図版 5 6】座標は以下の通り。

p_01 : $x = 519.383$ 、 $y = 14.156$ 、 $z = 4.880$ (x は南北軸、 y は東西軸、以下同じ)
 p_02 : $x = 516.935$ 、 $y = 15.785$ 、 $z = 4.980$

p_03 : x =520.199、y =20.698、z =5.055

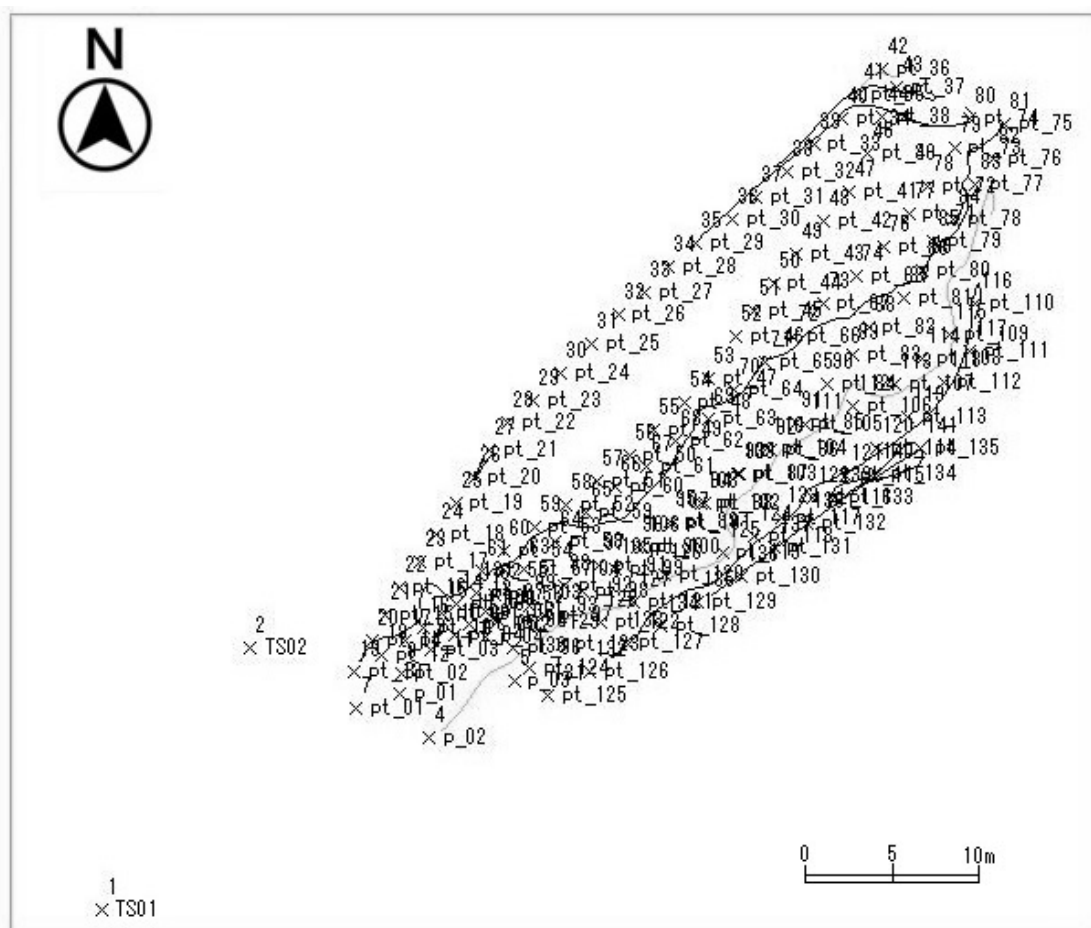
p_04 : x =522.671、y =19.072、z =4.890

すでにイスラーム墓の一部が検出されており、上図には Bn_01 と表示している。

8月30日(土)

午前6時から TS01 にトータルステーションを定位して、博物館研究員のマルチェル氏に機械操作を手伝ってもらい、地形図作成のための測定を開始する。

ほぼ 1.5 メートルの間隔で地表面に沿ってターゲットを移動させていく。午前中は間に休憩をいれて、p_04 から p_164、p_165 から p_262、そして昼食後は、p_263 から p_401、さらに p_547 までを入力する。平板測量の場合、スタッフの位置を微妙に変えながら等高線を記入していくのが一苦勞である。しかし、デジタル平板では自動等高線算出の機能があり、数値を計算して等高線を割り出して描画してくれる。もっとも、多くのポイントを入力していくという点では大変なことに変わりはないように思う。



8月31日(日)

休日ではあるが、皆との付き合いで保養地へ行く。腹の具合は小康状態である。

朝食後、借家の当主とボボムロエフ館長、マルチェル氏、館長の息子のボボ君、そして蓮池の五人は、ブストン村から南西へ27Kmの距離にある保養施設へ向かった。コハルニホン川に沿って南下し、川筋がウズベキスタン国境側へと入る少し手前で西側の山の麓へと入り込む。岩山から流れ出る地下水が岩塩を溶かして塩水となっている。それを塩田に溜めて濃度を上げ、結晶化させている。

グーグル・マップ（北緯：38.27、東経：68.42）の衛星写真画像で見ると、白い塩田が広がっているのを確認できる。【口絵57】

保養施設内の食堂でラグマン（麺入りのスープ）を食べた後、皆で連れ立って塩田の間の畦道を進んでいく。山腹の洞窟で一休みした後、さらに先へと進む。

何が目的なのか良くわからずについて来たのだが、ついに明らかになったのは、炎天下での砂風呂ならぬ泥風呂であった。ただでさえ腎不全の身の上、そんな暴挙に及んでは死んでしまうと、強く辞退する。ボボムロエフ館長、ボボ君、マルチェル氏、そして当主のご老体の四人は横たわって土砂をかけられ、汗を流している。【口絵57】

私はテントの中でパンをかじりながら、待つこととなった。水分補給に気を付けねばならない上、もともとの高血圧。日本の温泉地でも砂風呂では断られるのだからどうしようもない。塩の結晶を少しばかり採取して記念とするのみである。

帰路にヒサールのレストランに寄って夕食。骨付きのばら肉（カブラー・シャシリク）を食べてみた。塩っ辛いのは致し方ないとして、肉が少量でしっかり焼いてある点では安心である。はじめはチャイだけで済ませるつもりだったが、ウォッカを飲むことになる。地酒のウォッカで、腹にこたえないか気がかりである。

店を出るとボボムロエフ館長はタクシーでドシャンベへ帰る。9月は博物館の行事などで多忙とのことであった。

9月1日（月）

朝食後、7時頃から第一現場で等高線作図のためのポイントを記録していく。ボボムロエフ館長は博物館での仕事で現場にはいない。

p_548 から観測開始である。

p_668 まで入力した後、8時30分に TS03 を設定して測点移動。

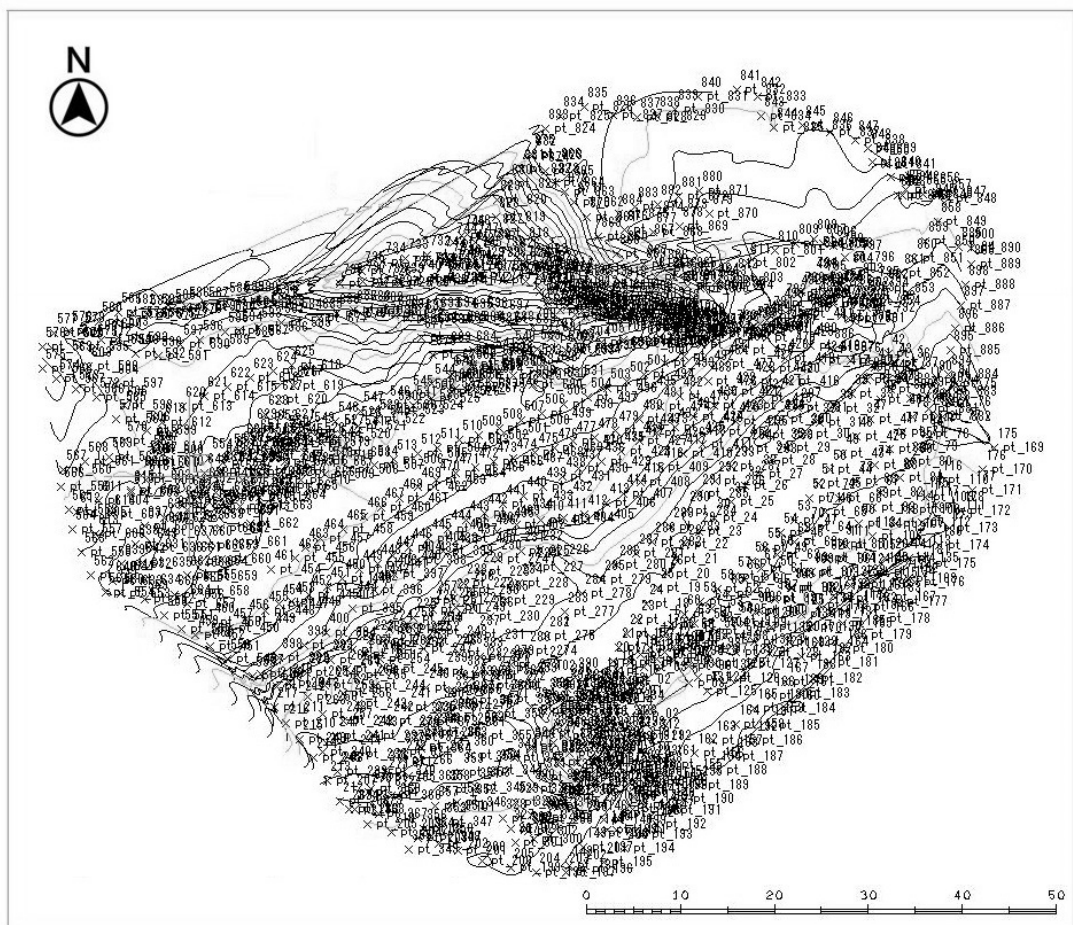
TS03: $x=554.411$ 、 $y=1.669$ 、 $z=2.081$ （ x は南北軸、 y は東西軸）

p_690 まで入力した時点で、第一現場でイスラーム墓から子どもの遺骨が出土する。

【口絵58】Bn_02 で記録するがターゲットの高さが足らず、50cmを継ぎ足して計測する。したがって、 z 値は観測値 4.936 から 0.5 を引いた値、4.436 になる。

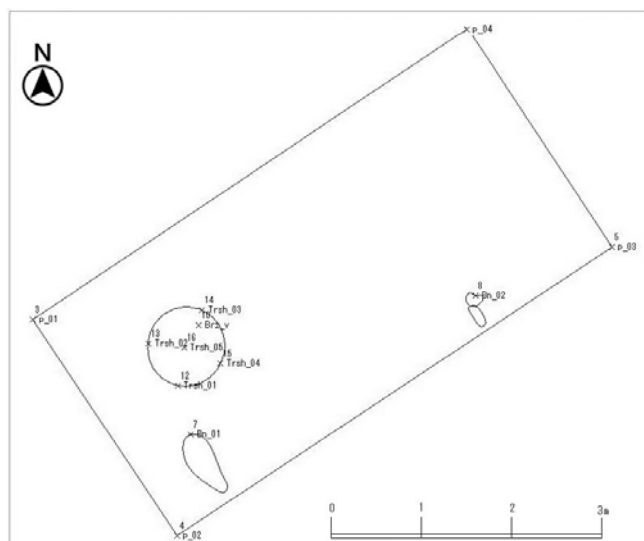
Bn_02 : $x=519.655$ 、 $y=19.162$ 、 $z=4.436$

この日は地形測量のためのポイント p_890 までを入力する。



9月2日(火)

午前7時から。前日に引き続き、第一現場でp_891より開始する。青銅製皿が発掘トレンチのBn_01の北側、ゴミ捨て場跡から出土する。【図絵58】



大きさは13cm×10cmである。ゴミ捨て場の位置も trsh_01 から trsh_05 のポイントとして記録する。

さらに、地形図作成のために測点を TS05 に移動する。その座標は、

TS05: $x=512.319$ 、 $y=18.558$ 、 $z=5.638$ (x は南北軸、 y は東西軸)

である。

9月3日(水)

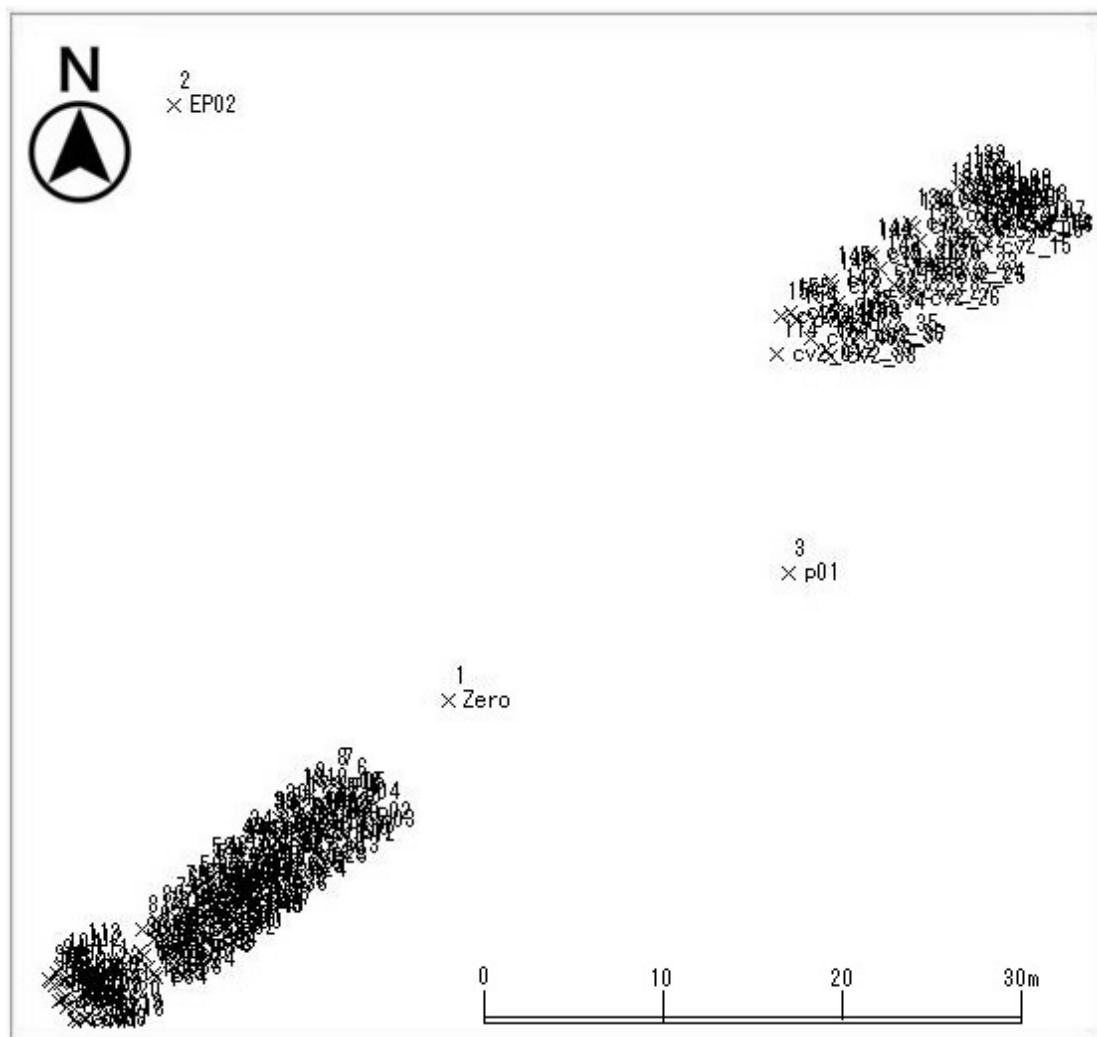
基準点の横の洞窟遺構を測量する。窟1と窟2は昨年(2019年)の7月に発掘調査を行っており、窟内はもとの床面が検出された状態になっている。



床面と内壁面をトータルステーションで測量して CAD 形式のデータにした後、3D画像を作成できないかと考えている。窟内のトータルステーションの設置をマルチェル氏にやってもらうが、苦戦している様子。私も手伝いながら、機械高を70～80cmに設置する。【口絵59】内壁天井部もデータを取りたいと考えたからである。マルチェル氏には気の毒ではあるが、中腰での観測を強いてしまった。

南側の窟1では、基準点から窟入口の p01 に機械点移動した時に、機械点と後視点とを

あべこべに入力してしまったようである。窟2は入り口部分の天井面が崩壊しかけている部分もあり、注意深く測量する。両方の窟とも奥のニッチ（壁龕）部分にはよく整っており、高い技術が窺い知れる。両窟を測量し終わって確認すると、下図のように窟1では、あるべき場所の反対側にポイントが表示されてしまう。



昼食後、第一現場の発掘状況が思わしくないもようで、第二現場の発掘も開始したいとのこと。第一現場から第二現場までトランジットを実施し、第二現場の測点、の2点を設置する。

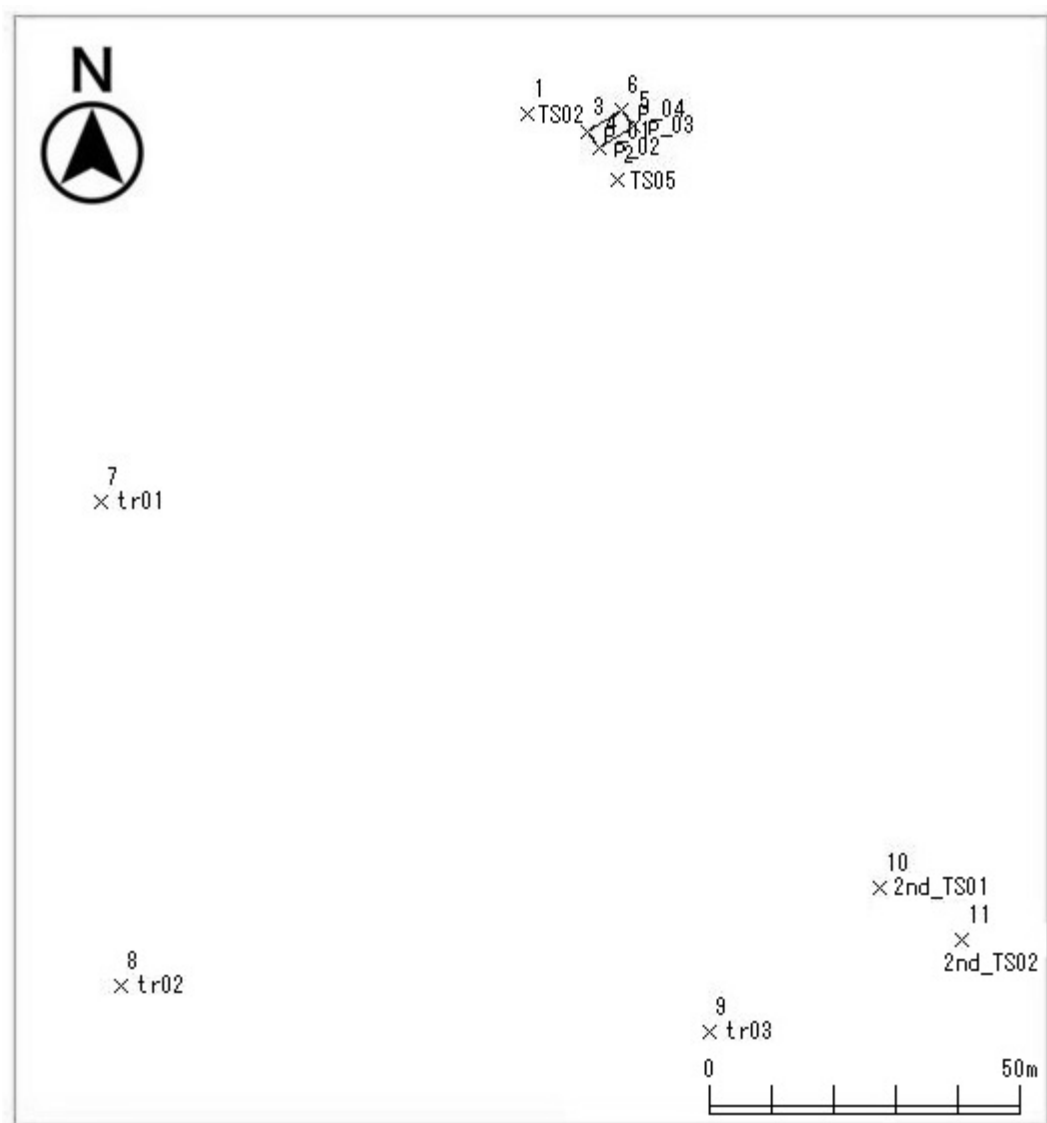
さらに、地形図作成のための測量を午後4時から開始する。

第二現場の機械点、2nd_TS01 と 2nd_TS02 の座標は、以下の通りである。

2nd_TS01 : $x = 410.568$ 、 $y = 56.262$ 、 $z = 9.089$ （ x は南北軸、 y は東西軸、以下同じ）

2nd_TS02 : $x = 503.089$ 、 $y = 67.942$ 、 $z = 9.575$

そうこうするうちに、本日の作業時間は終了し、窟 1 を観測しなおすことは後日に回さざるをえなくなった。



9月4日（木）

午前6時から第二現場の地形測量。はじめに、発掘トレンチの四隅を測定する。座標は以下の通り。

pt_01 : $x = 407.296$ 、 $y = 66.703$ 、 $z = 9.355$ （ x は南北軸、 y は東西軸、以下同じ）

pt_02 : $x = 404.800$ 、 $y = 65.141$ 、 $z = 9.248$

pt_03 : $x = 407.789$ 、 $y = 60.053$ 、 $z = 9.194$

pt_04 : $x = 410.551$ 、 $y = 61.679$ 、 $z = 9.137$

午前7時40分から午前9時まで、第二現場 p01 から p168 を観測・入力する。一時間ほど休みを取って、午前10時から午前11時まで、同じく第二現場 p169 から p320 までを観測・入力する。

昼食後、ヒサル城塞内から柱頭が出土したとのことで、その視察のために同行する。泉によってできた沼の浚渫作業が行われており、重機で底にたまった泥を掻き出している最中である。その重機のバケットが動く傍でマルチェル氏とボボ君が上半身裸になってスコップとバケツで柱頭の周りの泥を除いていく。柱に接続する下の部分を上に逆さまの状態に泥の上に露出しているが、直径は約70cmもあって、かなり大きい。周りの泥を掻き出してしまった時点で高さを測ると約1mあった。【口絵60】バクトリア期の繁栄を偲ばせる遺物である。周辺からは陶磁器の破片も多数出土して、二人は遺物採取に没頭する。落款のある破片もあり、これもシルクロードの交易の広さを示している。

帰路にビデオでヒサル城塞周辺を撮影するが、たむろしている青年たちの視線と投げかけられた声からは若干の敵意のようなものが感じられた。昨年度までの田舎とは違い、日本人、あるいは中国人への警戒感のようなものがあるようである。この地域での単独行動は慎まなければならないようにも思われた。

その後、レストランで夕食。その時にボボムロエフ館長から、まだカタログは印刷していないとの事実を聞かされる。これでは帰国するまでには間に合わないと思い、今年度中に航空便で送ってくれるように提案する。しかし、その必要はないとの回答である。ただし、館長のPCがこわれてしまったので、いくらかのデータが欲しいとのことである。借家に戻ってインターネット端末を借りて文科省や龍谷大学のサイトを閲覧し、科研費関連のデータを調べた。出版物には科研費からの助成を受けた旨、謝辞の形で明記する必要がある、その場合、課題番号も正しく記載するようになっている。さらに、持参のPCやメモリーから必要な画像ファイルなどを探し出して館長に手渡したが、こんなことで間に合うのかと念を入れて尋ねると、大丈夫だとの答えである。

この二、三日、夜具を度々日光にさらしてみているが、ダニかシラミの類がいるのだろう。身体中を刺されて痒くてよく眠ることができない。感染症の恐れもあるのではないかと不安になる。ネットでは東京でデング熱が見つかったとの記事もあった。腎不全の我が身にとって、大事にならないようにと念ずるばかり。

9月5日（金）

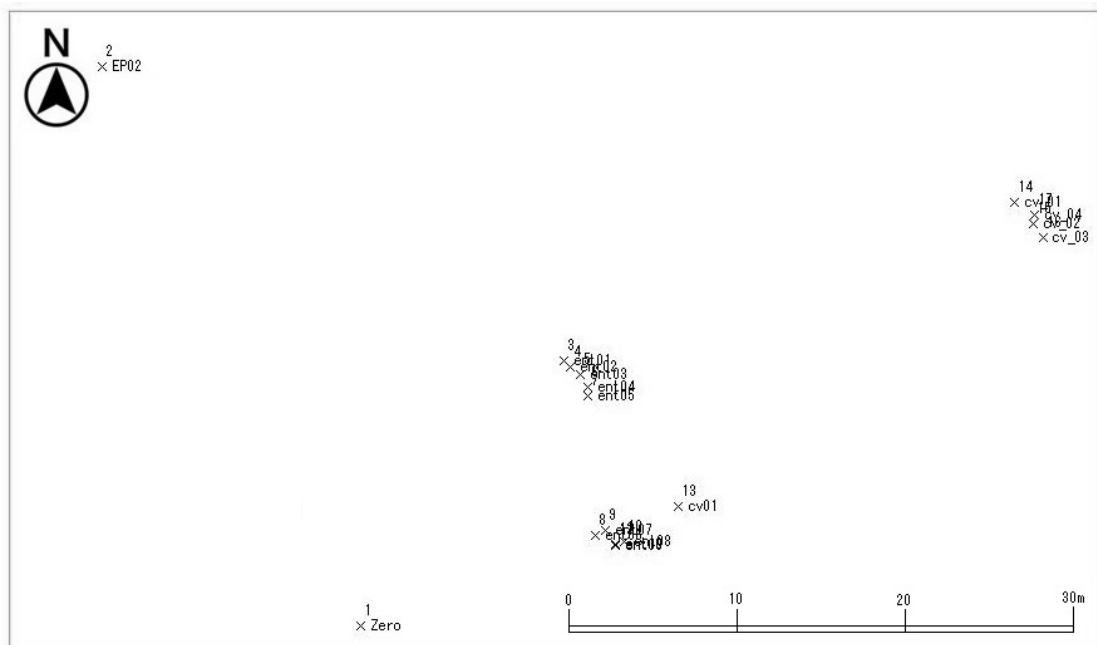
午前6時より第二現場で地形測量を開始する。

ブストンの現場はヒサル城塞を北北西に望む場所であり、窟遺構も残っており、僧院があった可能性も高いと思われるが、ボボムロエフ館長はあまり期待していない様子である。館長によれば城塞内に僧院があったのではということであった。城塞内は2004年度の予備調査で訪れた時に比べて、観光施設としての整備が進んでいる。沼の浚渫もその一環であり、住居遺構の復元や城壁の修復が進められている中で、発掘作業は困難なよう

に思われる。それよりも、窟遺構のあるブストン周辺を根気よく調査継続した方がより可能性があると考えてよいだろう。

昼食後、窟 1 の測定を再度実施した。

ただし、全部をやり直す時間も気力もなくなっていたので、3 日の平面図を修正するために、一番奥のニッチ（壁龕）の四点を測定した。



Cv_01 から Cv_04 までの座標は以下の通り。

Cv_01 : $x = 24.961$ 、 $y = 38.610$ 、 $z = 2.691$

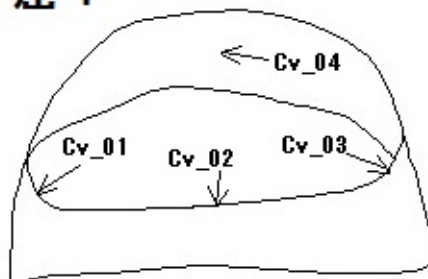
Cv_02 : $x = 23.710$ 、 $y = 39.716$ 、 $z = 2.675$

Cv_03 : $x = 22.834$ 、 $y = 40.287$ 、 $z = 2.769$

Cv_04 : $x = 24.216$ 、 $y = 39.834$ 、 $z = 3.800$

9 月 3 日の測定値を修正した後、上の四点と照合して窟 1 の修正平面図等を作成することにした。

窟 1



その後、第二現場で地形図作成のための測量を継続する。

午後 5 時過ぎに測量を終了し、機材の清掃をおこなう。明日はドシャンベへの移動日である。各国の要人が集まる会議のために、ホテル・カヨン 2 は部屋がふさがってしまったとのこと。ボボムロエフ館長が自分のアパートか別のホテルか何れが良いかと尋ねるので、ホテルにしたいと答える。というのも、二、三年前にアパートに厄介になった時、警察の住民調査に出くわした苦い思い出があったからだ。館長のアパートは空港への幹線道路に面しているため、監視が厳しいということであった。

夕食後、今回の調査で撮影した写真とビデオのデータは全てコピーして手渡した。

9月6日（土）

午前3時頃から手足が痒くて仕方がない。夜具からとび出し、ダニ・シラミの類を見つけようとするが、暗くてよくわからない。そのままスーツケースや機材の梱包をする。午前7時過ぎには全員移動の準備が終わり、ドシャンベへと向かう。借家にいた女性ひとりも同乗する。実は彼女、博物館研究員だったことが判明。調理を担当していたようであるが、借家の家族の一員と勘違いしていた。三度の食事もこの一家と同じテーブル、同じメニューで提供されていたので、今年は調理担当の人員はいないと思っていたのだ。食事に関していえば、借家の主人から、「なぜ、我が家のチョコラ（乳製品）を食べないのか？」と尋ねられたこともあった。日本で言えば「自慢の自家製の味噌や醤油を何故食べてくれないのか？」という感覚であることは重々承知してはいるが、初っ端から下痢にみまわれたとも言い出せず、「日本人は胃袋がきしゃなんだ」と謝るしかなかった。

途中、道路工事のため迂回路を通る。デーナウ（クシャーン朝の都）を左手に見ながら、ほどなくしてドシャンベ市内に入る。車は駐車場に入っていく、そこがホテルだという。一階はレストラン、その裏手からエレベーターで階上に上がると受付があった。一泊60ドル、二泊であるから120ドルを前金で支払う。館長によれば、明日にはカタログができるということで、午前11時には持参するとのこと、8日にはボボ君が午前2時にホテルに迎えに来て、空港へ送ってくれるとのことであった。部屋はツインの403号室である。すぐにバスルームに直行し、湯船に湯（ぬるめなのが残念ではあるが）を張り、およそ2週間ぶりの入浴である。石ケンで入念に洗い、シラミがいると疑われる衣類は脱ぎ捨てて、素っ裸でベッドにもぐり込む。

毛布が欲しいとフロントに伝えたが、なしのつぶて。しばらくしてドアをノックするので出てみると、フロントのおばさんがいて、毛布を持ってきたのかと思えば、レストランで食事をしろと言う。今日はもうすましたから明日にでもと言うと、今日でないとだめだとのこと。結局はいらないとドアを閉めてしまった。刺されたあとが痒いのか、それともまだシラミの類がいるのか、痒みが治まらない。調査装備の夜具のクリーニングあるいは交換してもらわないとだめだと思いつくづく思った。

9月7日（日）

午前6時、起床。朝食はホテル内のレストランでできるのかと思っていたが、どうも朝食なしのようである。道理で安いはずだと思う。昨日の買い置きの食料をひっぱりだして朝食とする。トマトやキュウリもスーパーで買ったものをよく洗い、ただし、ホテルの水は蛇口をひねると泥まじりの水がドッパ、ドッパという感じで出て信用できない。洗った後、水気がなくなるまでよく拭き取って、日本から持参のウェットティッシュで拭いて、丸かじりする。スーパーで買った乳製品、おそらく昨日まで食卓に出されていたチョコラと同じものだと思うが、水気の多いクリームチーズもなかなか美味である。

食後に衣類をひっくり返して、パンセツでシラミとおぼしきものをつまみ取ってはつぶしてみる。半時間ほどそれに費やし、午前9時すぎて日が高くなってきたので、虫干しをしようと思った矢先にボボムロエフ館長から電話があり、10分ほどでそちらへ行くとのこと。虫干しは急遽中止となる。

午前10時すぎにボボムロエフ館長がカタログ二冊と領収書を持参してホテルの部屋を訪れた。これで昨年度からの懸案であったタジキスタンにおける科研費助成による発掘調査出土品カタログ出版が終了したことになる。この件は、今回の調査期間中、常に気にかかっていただけにおおいに安堵する。その後、館長が出かけようと言うので、カメラも要るのかと聞くと、要るとの答え。念のため1.5リットルのミネラルウォーターをかばんにいれ、カメラを提げて館長の後に従う。

ホテル前の幹線道路を白タク3番で中心街へ、ルダキー通りから西へ入るイズモイル・ソモニー通りの入り口で下車し、かつてのバザール跡地筋向いの公園まで徒歩で向かう。車で待機していた館長の友達二人と合流し、市街地を北に向かいバザールで羊の肉や野菜を調達。さらにルダキー通りをヴァルゾフ川に沿って北上し、キャンプ場のような施設に到着する。水路に沿って並んだ東屋の中で気に入ったものに陣取って、バーベキューならぬプロフ（ピラフと同じ語源だとも）・パーティーが始まる。タジキスタンの行楽の一つ、メーラと呼ぶもののようで、明日には帰国する私のために宴を開いてくれたのである。さらに、三人が合流してプロフができるまで、サラダの準備をしたり、ウォッカを飲んだり……。最後の締めくくりに出来立てのプロフをいただく。調理につかうのは水路からくんだ水で、煮炊きしたものは良いとしても、サラダもその生水で洗ったものである。ボボムロエフ館長は用水路の水を汲んでそのまま飲んでいて、スイカの皮やビンなどが流れているのにもかかわらず、である。

午後5時には二台の車で市内へともどり、ホテルの近くで降ろしてもらい、403号室に戻った。部屋に入るとすぐにバスタブに湯を張り入浴する。その後、荷造りをして就寝。日曜日で結婚式披露宴が大ホールで開かれてか、午後8時過ぎまで大音響で眠れなかった。9月8日（月）

午前2時前にボボ君から電話があり、ホテルの下まで来たが玄関が施錠されていて中に入れないとのこと。フロントに行くとスタッフが寝ている。声をかけて起こし、チェックアウトしたいと伝え、宿泊費は払ったのかと聞く。前払いで済ましていると言うと、電話を掛けたりしていたが、どうやら納得した様子で玄関のドアを開けてくれた。安宿はやはり安宿でしかないと思う。ホテルがらみのトラブルは出国手続きにも響いてしまう。ホテル側が作成したレジストレーションの書類に不備があり、空港の管理事務所まで連行されてしまう。電話でボボムロエフ館長に助けを求めようとしたが、夜明け前でもあり、電源を切っているためか通じない。どさくさに紛れて携帯電話を管理室の机の上に置き忘

れてしまった。結局、手荷物カバンの中を探し回ってホテルの領収書が出てきたので、それを証拠書類として提出、どうにかこうにか出国審査をパスすることができた。

何とも腹立たしく、レジストレーションの取り方を再検討する必要性を感じた。食事の問題も考え合わせれば、民家に間借りするのはタジキスタン側の研究者だけにしてもらって、私は発掘現場近くのホテル（ヒサールには観光ホテルが1軒ある）に宿泊し、レジストレーションを書いてもらうか、あるいはアカデミーから調査滞在を証明してもらうか、いずれかにする必要があるだろう。

午前6時前にはドシャンベ空港を出発して、午前9時過ぎにはイスタンブールのアルタチュルク空港に到着。15時間を空港で過ごした後、明日の午前0時50分のトルコ航空で関空へ向かう。

9月9日（火）

アルタチュルク空港を出て、関空に午後6時頃に到着。はるか号で京都に帰り着いた。定期健診でどれほどの数値がでるかが気がりではあるが、来年度の調査では完成させた地形図をもとに発掘作業を進めていきたいものである。今年度のうちにやっておくべきこととして、窟遺構のデータを修正して平面図を書き上げることを挙げておきたい。

その後の作業

窟遺構のデータ修正

窟1遺構の測量に際して、基準点から第一機械点へ移動した時、夫々の数値の入力ミスによって平面図が反転していた。窟内で第一機械点から第二機械点に移動した時には正しく入力していたので、全体的にデータを変換してやれば正しい平面図となると考えていた。念のために、窟の奥のニッチ（壁龕）部の4点を計測していたので、そのデータとの照合も行った。データの修正は基準点と第一機械点の x 、 y 、 z 座標の差を加算することで可能となるだろう。 x 、 y 、 z は修正後の数値、 x_1 、 y_1 、 z_1 は観測値である。

$$x = -x_1 + 6.992, \quad y = -y_1 + 18.784, \quad z = z_1 + 0.714$$

また、ニッチ（壁龕）部分の修正値（ x 、 y 、 z ）と後日観測した3点（ x_2 、 y_2 、 z_2 ）を比較すれば以下ようになる。

$$Cv_01 : x = 24.861, \quad y = 39.470, \quad z = 2.902$$

$$x_2 = 24.961, \quad y_2 = 38.610, \quad z_2 = 2.692$$

$$Cv_02 : x = 23.657, \quad y = 40.393, \quad z = 2.797$$

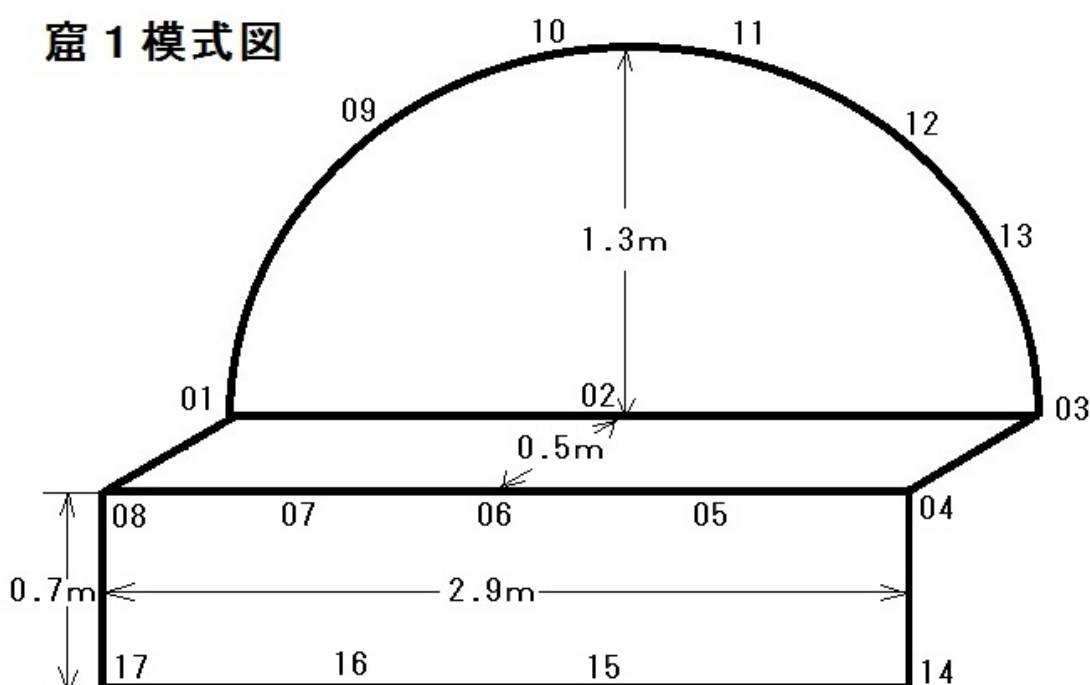
$$x_2 = 23.710, \quad y_2 = 39.716, \quad z_2 = 2.675$$

$$Cv_03 : x = 22.429, \quad y = 40.974, \quad z = 2.906$$

$$x_2 = 22.834, \quad y_2 = 40.287, \quad z_2 = 2.769$$

同ポイントで測定しているのではないから、若干の誤差は仕方がないように思う。

窟 1 模式図



【口絵 5 9 参照】

Cv1_01 : $x = 24.861$ 、 $y = 39.470$ 、 $z = 2.902$

Cv1_02 : $x = 23.657$ 、 $y = 40.393$ 、 $z = 2.797$

Cv1_03 : $x = 22.429$ 、 $y = 40.974$ 、 $z = 2.906$

Cv1_04 : $x = 22.114$ 、 $y = 40.574$ 、 $z = 2.871$

Cv1_05 : $x = 22.712$ 、 $y = 40.330$ 、 $z = 2.698$

Cv1_06 : $x = 23.470$ 、 $y = 39.947$ 、 $z = 2.643$

Cv1_07 : $x = 24.120$ 、 $y = 39.560$ 、 $z = 2.632$

Cv1_08 : $x = 24.667$ 、 $y = 39.006$ 、 $z = 2.734$

Cv1_09 : $x = 24.657$ 、 $y = 39.525$ 、 $z = 3.678$

Cv1_10 : $x = 23.988$ 、 $y = 39.957$ 、 $z = 4.043$

Cv1_11 : $x = 23.515$ 、 $y = 40.225$ 、 $z = 4.091$

Cv1_12 : $x = 22.818$ 、 $y = 40.666$ 、 $z = 3.916$

Cv1_13 : $x = 22.540$ 、 $y = 40.917$ 、 $z = 3.430$

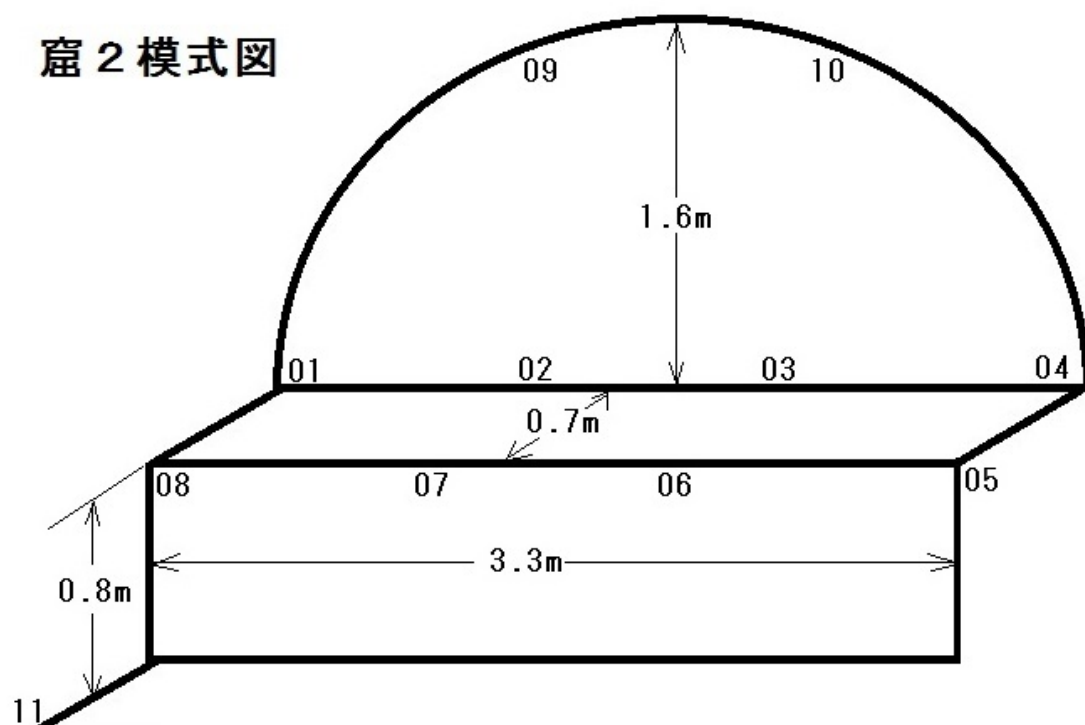
Cv1_14 : $x = 21.834$ 、 $y = 40.365$ 、 $z = 2.066$

Cv1_15 : $x = 22.503$ 、 $y = 40.016$ 、 $z = 2.024$

Cv1_16 : $x = 23.606$ 、 $y = 39.449$ 、 $z = 2.019$

Cv1_17 : $x = 24.650$ 、 $y = 38.866$ 、 $z = 2.109$

窟 2 模式図



Cv2_01 : $x = 28.801$ 、 $y = 28.618$ 、 $z = 2.721$

Cv2_02 : $x = 27.925$ 、 $y = 29.541$ 、 $z = 2.724$

Cv2_03 : $x = 27.044$ 、 $y = 30.483$ 、 $z = 2.798$

Cv2_04 : $x = 26.318$ 、 $y = 30.899$ 、 $z = 2.878$

Cv2_05 : $x = 26.954$ 、 $y = 30.344$ 、 $z = 2.791$

Cv2_06 : $x = 26.907$ 、 $y = 29.580$ 、 $z = 2.682$

Cv2_07 : $x = 27.715$ 、 $y = 28.814$ 、 $z = 2.615$

Cv2_08 : $x = 28.395$ 、 $y = 28.129$ 、 $z = 2.709$

Cv2_09 : $x = 27.769$ 、 $y = 29.158$ 、 $z = 3.972$

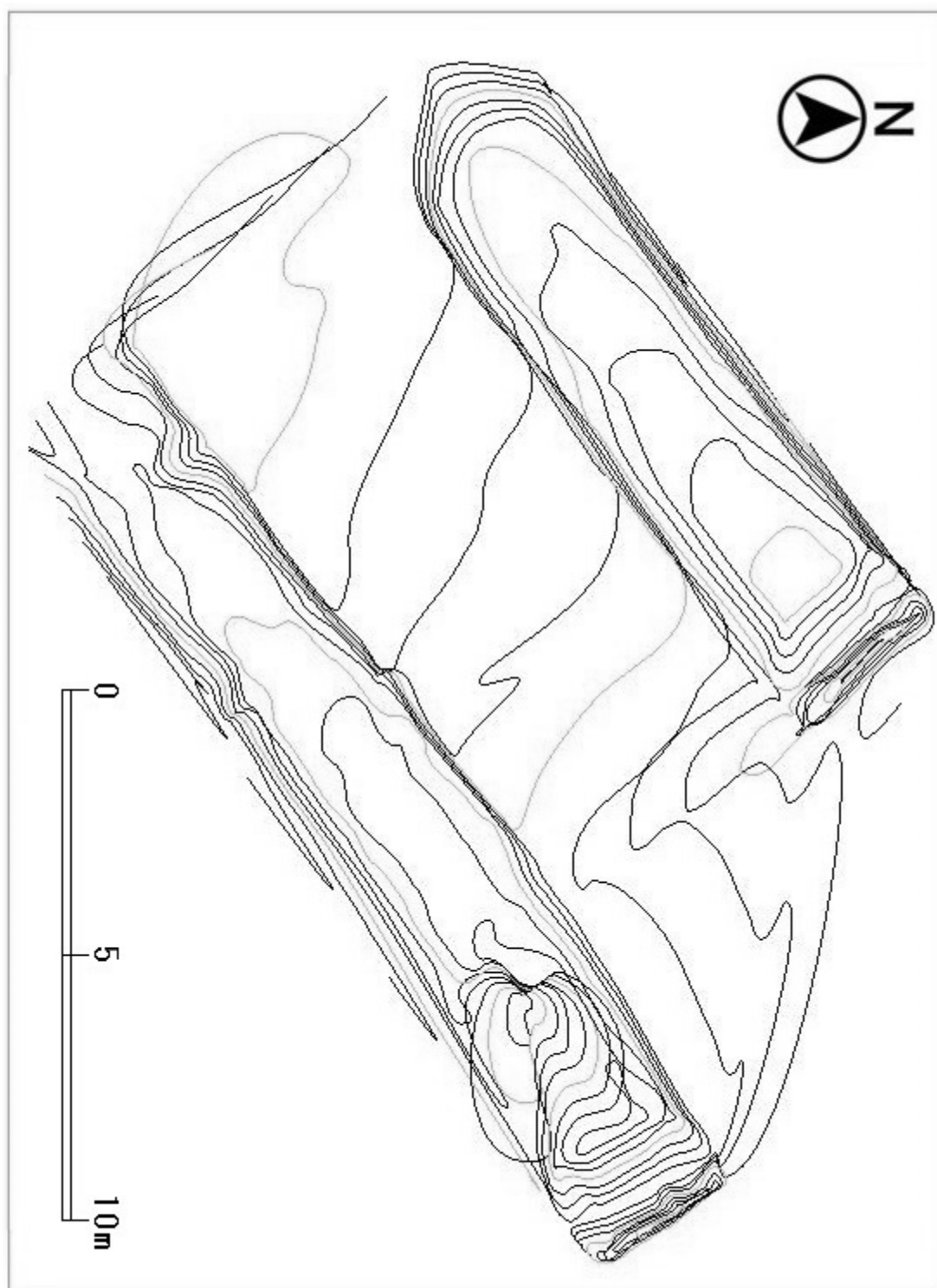
Cv2_10 : $x = 27.103$ 、 $y = 29.852$ 、 $z = 4.304$

Cv2_11 : $x = 27.825$ 、 $y = 27.346$ 、 $z = 1.934$

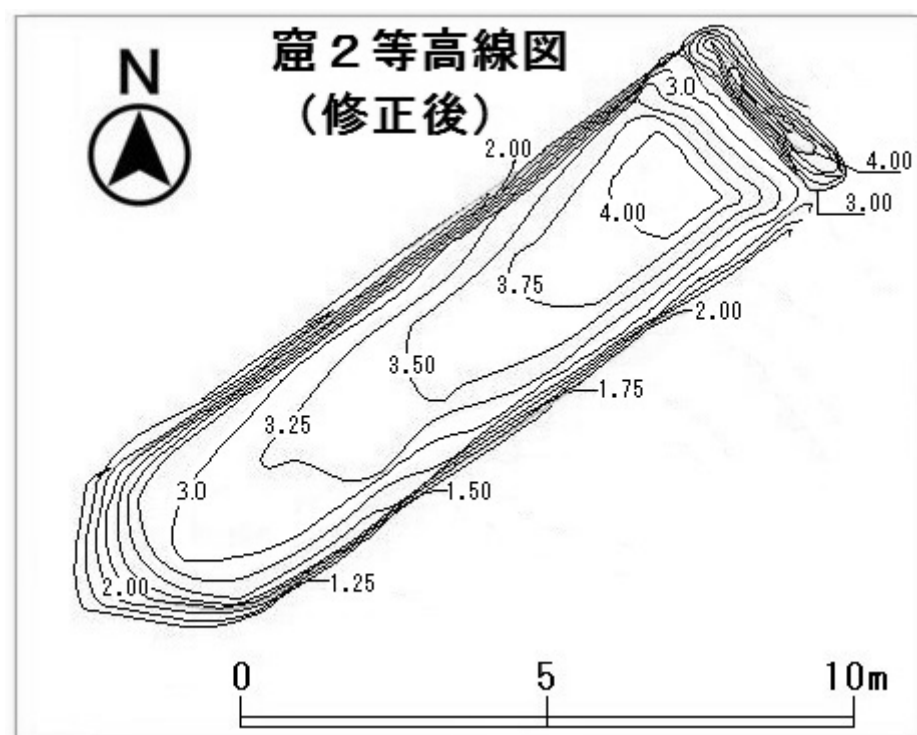
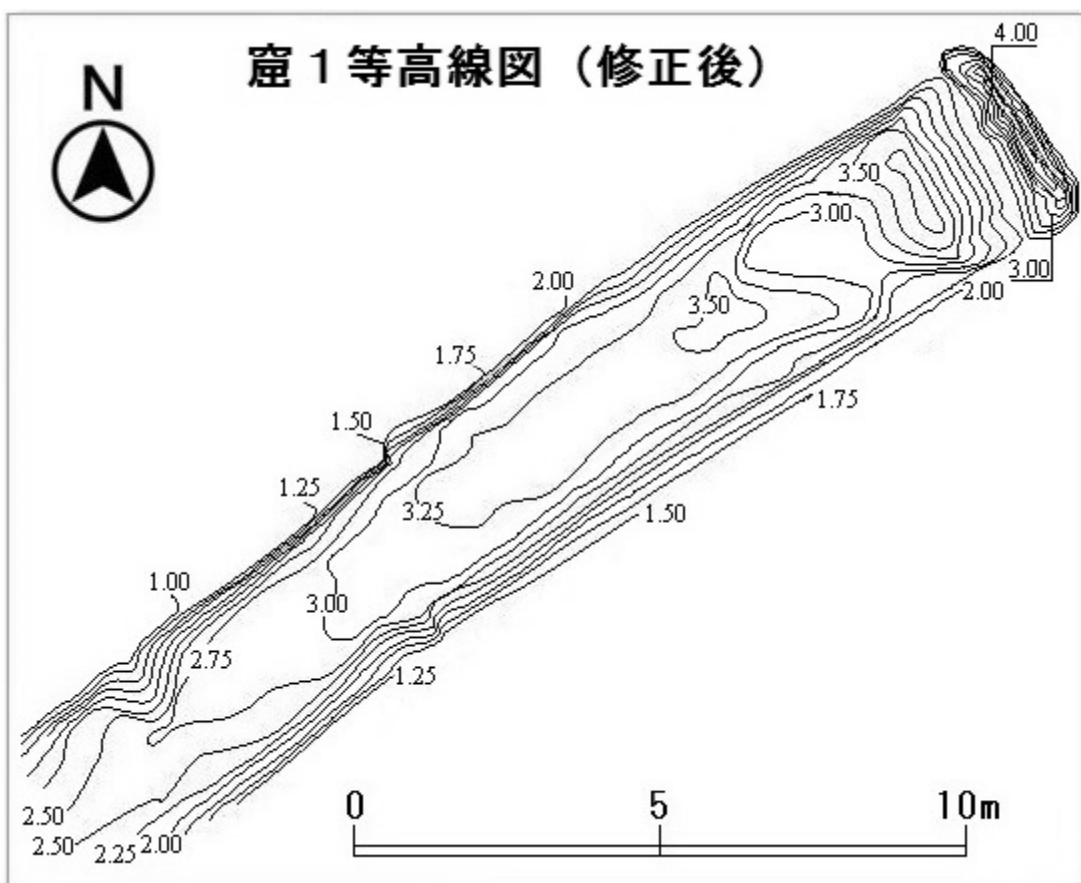
【口絵 5 9 参照】

窟 1 のニッチ（壁龕）全体の高さが 2.0m、壇の高さが 0.7m、幅が 2.9m であり、窟 2 はニッチ（壁龕）全体の高さが 2.4m、壇の高さが 0.8m、幅が 3.3m であった。窟 2 のほうが窟 1 に比べて若干大きい。次ページに挙げた測点の分布からも窟 1 と窟 2 の大きさの違いが判る。ニッチ（壁龕）の構造は西域北道のキジル千仏洞と同じで、ニッチ（壁龕）の壇上には釈迦涅槃像が安置されていた可能性が高い。半円形の壁には何れもキリル文字とみられる落書きがあり、近年に書かれたことが推測できる。

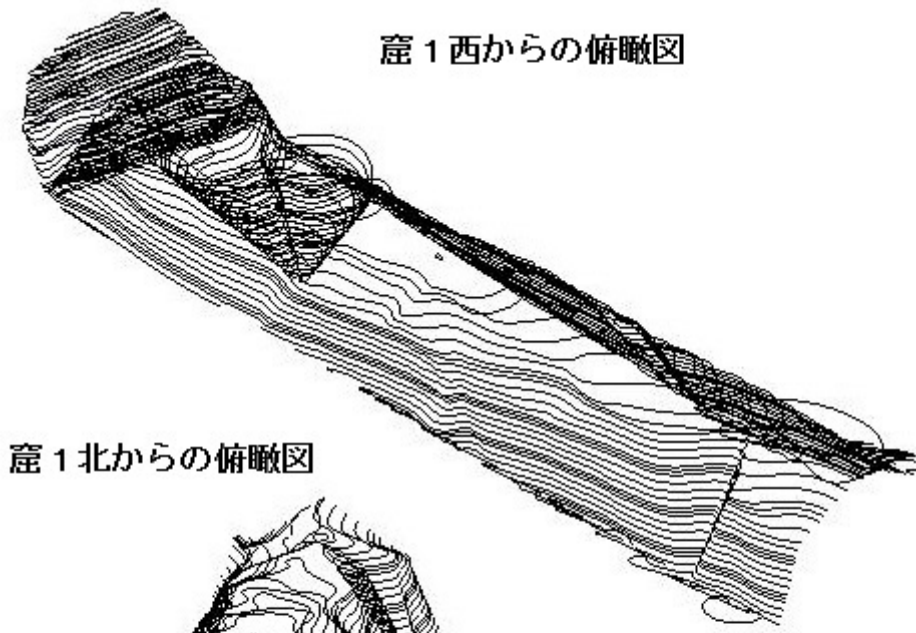
次ページ図は右に 90 度回転して掲載している。



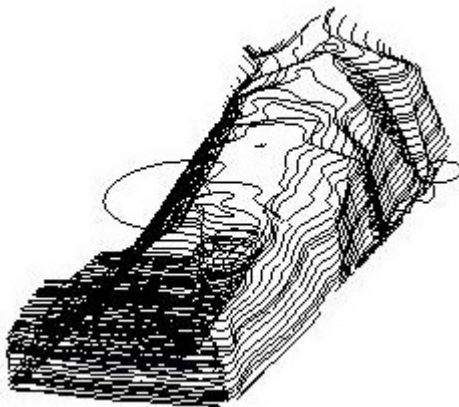
自動コンタ機能で作図したままのもので、等高線が交差している点など修正が必要であるが、おおよそのイメージを知るのには十分であろう。天井・床面がわずかに出口に向かって低くなっており、全体がそのような傾斜して掘削されているのがわかる。



窟 1 西からの俯瞰図



窟 1 北からの俯瞰図



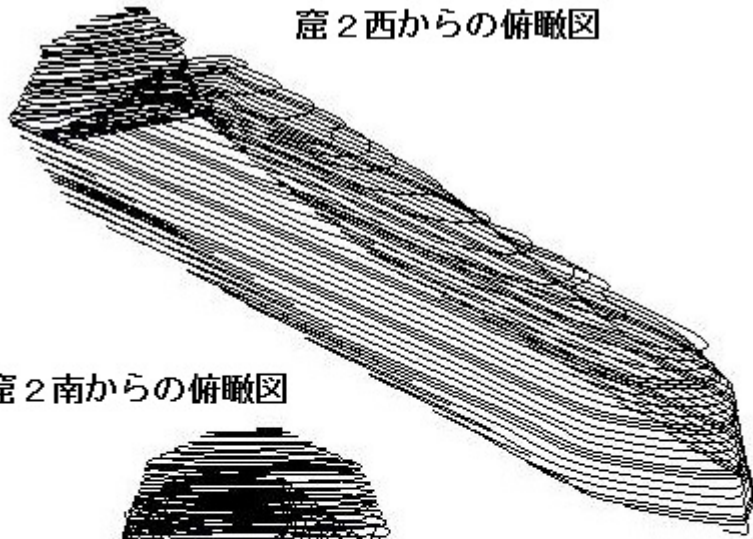
等高線は0.1m間隔

DM-ViewConFree-ソフトを使った3D画像

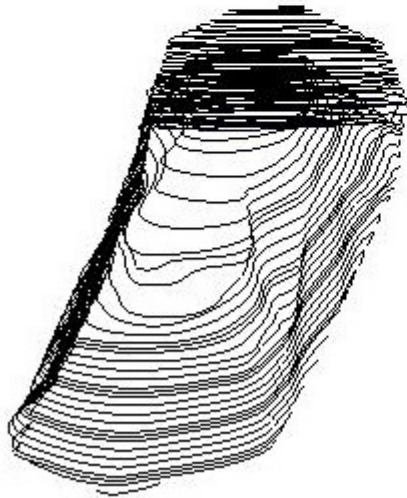
測量ソフト、ブルートレンドの自動コンタ（等高線）描画機能で作成した図面を、外部ファイル書き込み機能を使って JSP-SIMA-DM(J) 形式のファイルとして保存する。次に、DM-ViewConFree-のインポート機能を使いファイルを読み込めば等高線による3D画像を作成することができる。ブルートレンドの等高線の間隔を 0.10m に設定すれば、上図のようにより立体的に描画できるようである。

ニッチ（壁龕）の半円形の壁はよく描画できているように思うが、そのすぐ前で大きく下に切れ込んだようになっているのは、壇の下面のポイントにつながるように算出したためである。天井面とニッチ（壁龕）の半円形の縁がつながるように調整すればかまぼこ型の全体像が描画できるのではと考えている。さらにニッチ（壁龕）の壁部分を面で描くことができればより実物に近い図像がえられるものと考えられる。

窟2西からの俯瞰図



窟2南からの俯瞰図



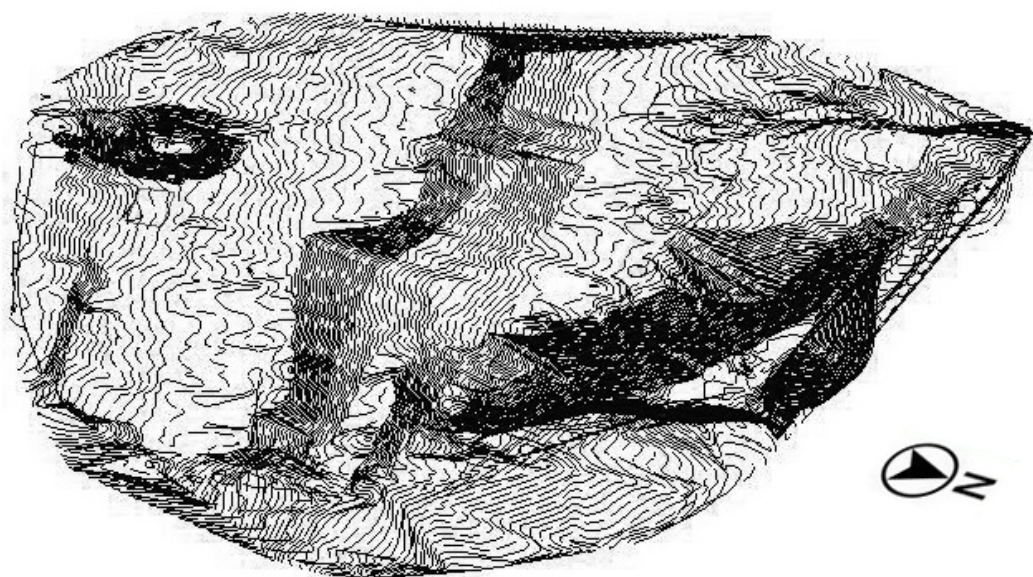
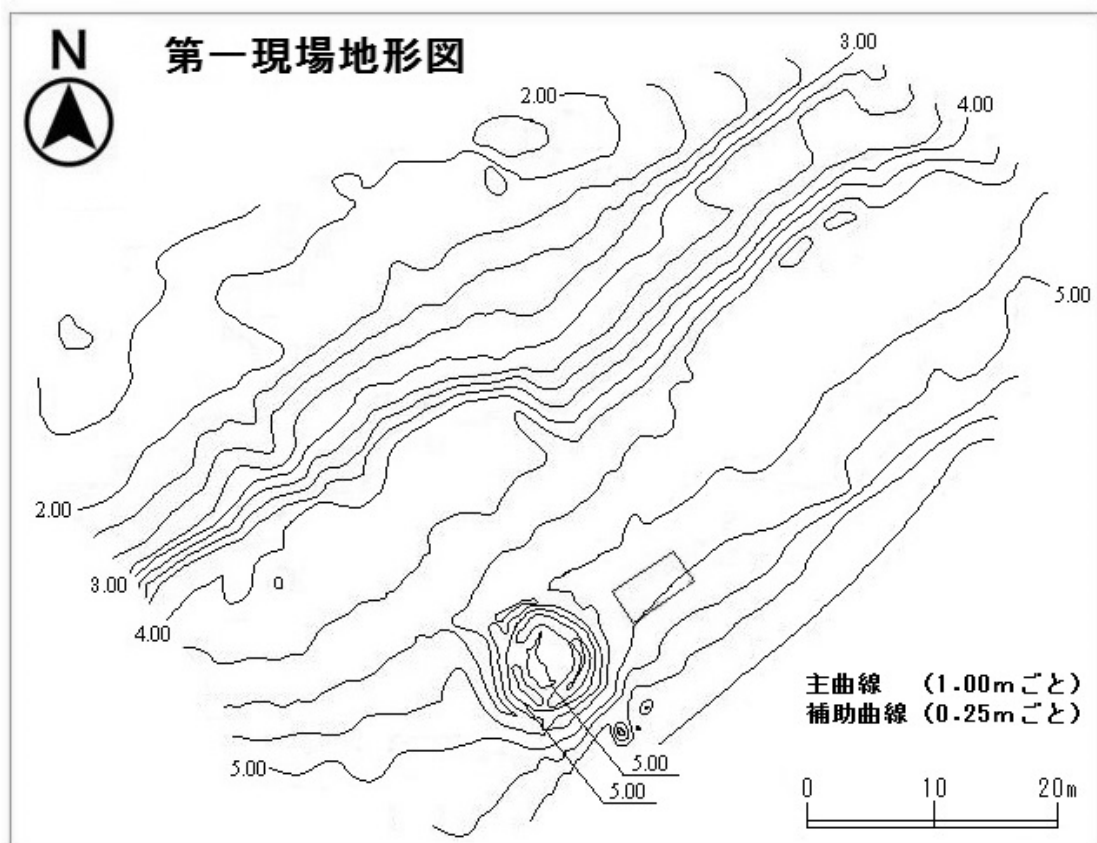
等高線は0.1m間隔

発掘現場1と2の地形図【口絵56】

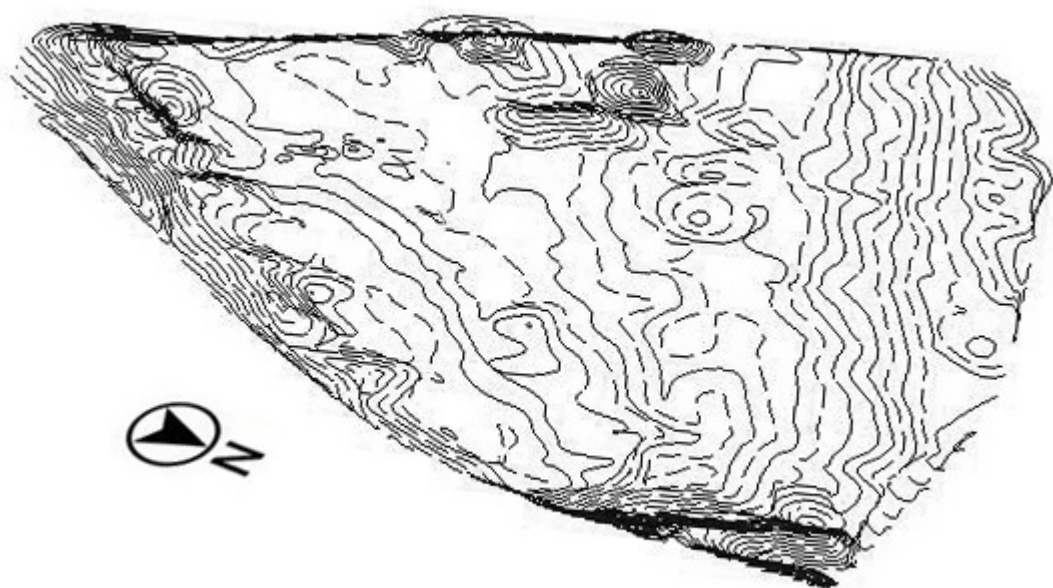
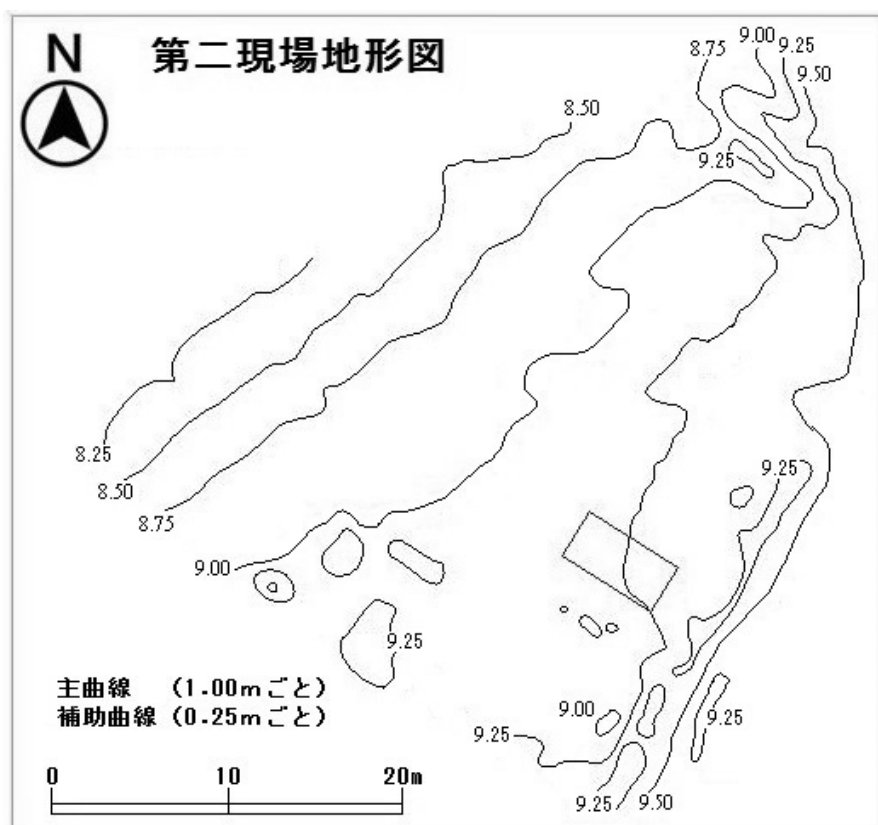
第一現場は東西80m、南北50mの範囲であって、南東から北西にかけて緩やかに傾斜している空地である。南東には北方向へぬける道路がある。中央4.00mの等高線の前後は傾斜が急になっていて、雨水がたまった湿地の状態である。北側は雑木林で、北西方向には民家がある。南側中央には盛り土の状態になっており、中央部分はいったん窪んではいるが再度5.00m以上の高さとなっている。6m×3mの発掘トレンチは、その盛り土の状態の東がわに位置する。

第二現場はイスラーム墓地の東側の空き地、東西50m、南北50mの範囲である。

それぞれの地形図の下に示したものは俯瞰図である。地形図と俯瞰図の磁北を示す矢印を参考にして見て欲しい。



第一現場の地形図（上）と北東から俯瞰した第一現場3D画像（下）、3D画像の等高線は0.1m間隔で表示している。南のマウンドと中央の段差による溝、北側の窪地がよくあらわれている。



第二現場の地形図（上）と北東から俯瞰した第二現場の3D画像（下）、3D画像の等高線は0.1m間隔で表示している。南西と南東にある複数のマウンドがよくあらわれている。

2015年タジキスタン調査

日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜(休)	土曜
		8/25 22:30 関空発 TK47	8/26 イスタンブール TK254	8/27 3:45 ド・ジャンベ`着	8/28	8/29
8/30 博物館 撤収作業	8/31 博物館 休館	9/1 博物館 撤収作業	9/2 ボボ君と 打合せ	9/3 5:40 ド・ジャンベ`発 TK255	9/4 17:55 関空着 TK46	

調査概要

今年度の計画をたてるに当たり、6月頃にボボムロエフ氏にメールを送るが返信がなく、息子のボボ君に確認のメールを送る。その返信にはボボムロエフ氏が博物館館長を辞めたこと、したがって、これまでのような調査への支援も困難になった旨が書かれていた。

昨年度の調査では、今後の発掘作業に向けた地形図作成に力を注いでいただけに、突然の打ち切りに途方に暮れたものの、これまでタジキスタンに預けていた機材の撤収のため、また、何よりも実態把握のためにもタジキスタンへ出かけることとなった。

また、日本に到着した9月4日には、ドジャンベ郊外で銃撃戦があったとの情報が伝えられ、今後のタジキスタン調査も影響を受けるものと懸念された。

調査記録

8月25日(火)

午前9時頃、台風15号が九州を縦断して日本海側へぬける。午後6時15分発「はるか」号に乗車しようとするが、台風の影響で35分の遅れがでて、6時20分に京都駅を出発する。心配していたものの、台風の雲の上を飛ぶからか、トルコ航空は時間通りのフライトであった。今回はトータルステーションを持参していないので、スーツケースと手荷物の2個で随分と楽な移動である。

8月26日(水)

午前5時35分にアルタチュルク空港着。午後9時のフライトまでの15時間を空港で過ごす。トルコ航空のエコノミークラスではキャビン預かりの荷物は1個までとのこと。帰路はビジネスクラスに変更する必要があるかもしれないと考え、持参の現金を全てドルに換金しておく。午後8時頃によろしく出発ゲートが掲示されて、314番ゲートへ向かう。待合室ではヨーロッパ系の旅行者の姿が目につく。一様にトレッキングの装備であり、年配者も多い。

8月27日(木)

午前4時前にドジャンベ空港着。新築のターミナルを通して移動後、以前と同じ入管手続き棟で審査を受ける。荷物を受け取り、預かりの半券を渡して外に出る。しばらく見まわしているとボボ君がいた。荷物を持ってもらうが、自家用車ではなくタクシーで迎えに

きていた点に館長辞任の影響があるのかと考えてしまう。タジキスタン・ホテルに到着、チェックイン。昨年のトラブルでオビールを確実に処理してくれるホテルでないといけな
いと感じたが、タジキスタン・ホテルであれば安心。裏庭に面したシングルの608号室
ではあるが、一泊200ドル……。外国人価格にしても高いと思うが、致し方ない。
午前10時にボボ君がホテルに来るが、ボボムロエフ氏は会議等で忙しく、今日は来れな
いとのこと。それでは仕方がないということでボボ君とも別れ、ツム（土産物店デパート）
に向かった。チェブラーシカ関連のものは見当たらず、民族衣装店を覗いているとパミ
ール地方のフェルト帽が目についた。値段は150ソモニだったが、店のおばさんを相手に買
う、買わない、とやっているうちに100ソモニにまで下がった。悪いので買って帰る。明
日は午前10時に博物館で元館長と会うという約束をしていたので、本日はこれまで、ス
ーパーで調達した食品で夕食を済ませ、早々にベッドに入る。

8月28日（金）

午前3時に起床。日本との時差が4時間であるから、午前7時に相当。今回は短期滞在
なので日本時間で寝起きすることにする。在タジキスタン日本大使館への挨拶のメールを
作成、送信する。やはり何かあったならば頼りにすべき場所ではあるから。午前10時に
ボボ君がホテルにやってくる。連れ立って徒歩で博物館へ向かう。その道すがら、マッソ
フ氏が館長になったことを知らされる。新しい館長に挨拶するためにスーツ姿で臨んだの
だが、マッソフ氏であれば科学アカデミー長官の頃から面識もあり、苦手な相手でもある
ので、挨拶は止めることにする。ボボ君は多くを語らなかったが、一悶着あったことが窺
えた。博物館事務所に到着して一時間ほど経ったころの午前11時、ボボムロエフ元館長
が会議を終えて事務所にやって来る。この時、昨年度、ドシャンベ空港で紛失した携帯電
話を手渡された。

今回の目的が機材の撤収であることを伝え、事務所内のロッカーにあるネクストエンジ
ン3Dスキャナーとターンテーブルを確認する。他の預け置きの身の回り品も確認し、必
要なものは選りだして、残りは処分してもらうように依頼する。博物館裏手の倉庫に向か
い、測量機材をチェックする。レベル三脚、トータルステーション三脚、オートレベル本
体、プリズムターゲット2個、プリズムターゲット用簡易三脚2脚を選り出して事務所に
搬入する。何れもかなり汚れており、掃除する必要がある。本日の作業はここまでに
して、30日の日曜日以降にホテルまで搬出する予定である。ボボ君によれば、奈良県立大学で
開かれるシンポジウムに参加する予定で、準備をしている。ついては発表内容について
相談に乗って欲しい。さらに、奈良明日香地方の酒船石・須弥山石・猿石などの写真を示
して、何か知っていることはないかと尋ねられた。

飛鳥奈良仏教については、龍谷大学の一般向け講座で何度か取り上げ、講座の際のレジュ
メや画像を使ったパワーポイント資料も作成していた。その中にゾロアスター教の影響
を証明する資料として明日香の一群の石像も紹介したことがある。今回は測量作業もない

ので重いタフブック(デジタル平板ソフト、ブルートレンドをインストール)は敬遠して、普段使い慣れたPCを持参していたが、さいわいにもその中に関係する資料も入っている。最大限の協力をしたいとボボ君には答えた。昼過ぎにはホテルに帰って休む。明日は午前10時に元館長とボボ君がホテルまで迎えにくるとのことである。メール確認等をした後、5時過ぎには就寝。

8月29日(日)

午前2時に起床。ボボ君に提供するための画像をパワーポイントのファイルに整理する。午前7時過ぎにホテル一階のレストランで朝食を取る。毎日ほぼ同じメニューで変わりばえもしないが火を通した野菜が食べられるのがうれしい。午前7時すぐではまだ料理が全部揃わないようで、午前7時半まで待つのがよさそうである。ティーポットに紅茶のティーバッグ3個を入れて給湯器の湯を入れ、二杯飲む。ホットミルクを多めに入れるのが今回の調査でのマイブームである。



午前10時少し前にフロントからボボムロエフ氏が到着したとの電話があり、すぐにロビーへ降りて行く。ボボ君も程なくして到着する。持参した3Dプリンターの試作品、ミフル像他3点を手渡す。これには二人とも大いに興味をもったようで、材料費はいくらか等の質問があった。午前10時半ころにホテルを出て、中央公園をぬけ、競馬競技場の横の滝施設を過ぎて食堂で一休みする。待ち合わせの人物がなかなか来ない。その間、3D

スキャナーと3Dプリンターの話題となり、私は、科研費で購入した機器を博物館に寄贈してもよいと申し出た。ただし、大学の研究部と相談をしてからの話で、メールで追って連絡することにした。待ち合わせの人物、アクバル氏から電話で公園横まで車で来るとのこと。待つこと暫し、アクバル氏の車に乗り込むが、昨年のヴァルゾフ溪でも顔をあわせた年配の男性も乗車していた。郊外のタラブホナ（何度か訪れたことのある店）で下車。ウォッカを酌み交わしながら早めの夕食となる。



タジキスタン ドシャンベの中央公園の国旗



公園中央のシンボルタワー



レストラン タラブホナ



ウォッカで乾杯

午後5時過ぎにはホテルに帰り着く。

8月30日（日）

午前3時起床。午前7時半に朝食を済ませ、部屋にてボボ君のために資料を整理する。午前10時すぎに徒歩にて博物館に到着。汚れた機材を清掃し、トータルステーションの三脚を分解する。錆びついてネジがなかなか外れないなど苦労して本体部、石突部と三本の角材アルミ脚部と六本のパイプ状脚部分に分けてザックに詰め込み、ホテルへ持ち帰る。部屋に戻るとスーツケースの中に収納しようとするが、四角柱アルミ脚三本は斜めにしてもはみ出してしまう。角材アルミ脚だけはスーツケースと別に梱包して機内預け荷にしなければならないようである。

8月31日（月）

午前3時起床。午前8時に朝食を済ませ、この日もボボ君のために資料を整理する。月

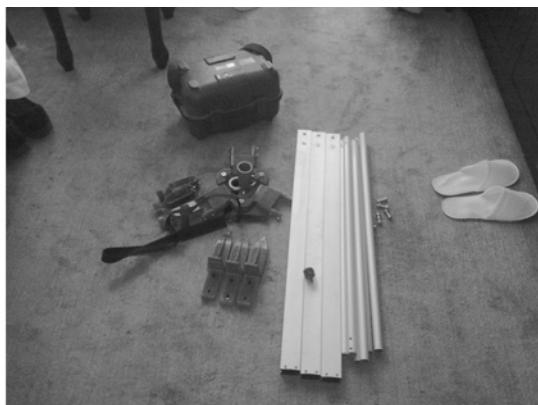
曜日は博物館が閉館であるため作業もできない。午前中にトルコ航空の営業所に出かけ、リコンファームと機内預けの荷物についての相談をする。ビジネスクラスに変更する必要はなく、2個までならエコノミークラスでも受け付けてくれるとの答えであった。この日の予定はこれで終了。午後6時には就寝。

9月1日（火）

午前3時起床。午前8時に朝食を済ませる。午前10時に博物館に到着。オートレベルの清掃、レベルケース内部にも砂が入り込んでいる。ウエットティッシュで拭き取り、乾いた布で水気を取る。レベルの三脚の分解は昼食の時間になってしまったので、そのままの状態で担いでホテルに戻る。食料品店で買ったパンとチーズ、オレンジジュースで昼食を済ますと、三脚の分解作業を始めた。トータルステーションの三脚よりも二三年前から使っていたためか、錆でネジが回らず、本体部分とパイプ状脚部分二本がどうしても分解できない。そのままではスーツケースに収納できない。午後2時に、分解できない部分だけを再度博物館に持ち帰り、博物館員に頼んで大きな工具で外してもらった。分解できた三脚の部分を持ってホテルに着いたのが午後4時過ぎだった。午後6時には就寝。



トータルステーションの三脚を分解



自動レベルのケースと分解した自動レベルの三脚

9月2日（水）

午前3時起床。午前8時に朝食を済ませる。午前10時に博物館に到着。ボボ君と奈良県立大学で開かれるシンポジュームの打合せをした。博物館の近くのネットカフェでシンポジュームのサイトを閲覧し、大会の趣旨を知ることができた。それによると、飛鳥奈良時代のイラン系渡来人がどのような影響を及ぼしたのかという内容であった。参考資料として掲載された写真も猿石や酒船石、亀をモチーフにした庭園の流水施設などである。空き時間にホテルで作成していたパワーポイント資料で十分に対応できそうだと。ボボ君にその資料を渡して、自由に使えるように伝えた。また、10月17日のシンポジュームには会場まで出向くことも約束した。ボボ君と別れた後、午後2時ころにオペラハウス前のフライドチキン店で遅い昼食を取る。ホテルには午後4時過ぎに戻り、帰国の準備をする。スーツケースに撤収した機材を収め、オートレベルとトータルステーションの角材アルミ三脚部分は同規格品であるため、六本を束ねて紐でくくり、段ボールで梱包する。

明日の未明にボボ君が空港まで見送りに来てくれることになっている。

9月3日（木）

午前2時起床。フロントでチェックアウトを済ませて、ロビーで待つと程なくしてボボ君が到着する。スーツケースと角材アルミ三脚を運んでもらい空港で別れる。チェックインの際、ちょっとしたトラブル発生。やはりトルコ航空では機内預かり荷物は一つに限ると言う。梱包した三脚はスーツケースと一緒にビニールでグルグル巻きにして一つにまとめるようにとの指示を受ける。カウンター前にはそのような梱包業者が数人、広いビニールテープを巻きつける梱包機器を使って荷物をまとめている。私もスーツケースと三脚をまとめてもらい、もう一度カウンターに提出するとそれでOKだと言う。機内預かり荷物は一個に限るという制限は一体どんな意味があるのかと頭を傾げてしまった。無事、午前6時ころにはドシャンベを出発し、午前9時過ぎにはイスタンブールに到着。午前1時発TK46便まで空港で時間をつぶす。

9月4日（金）

午後6時には関空着。はるか号にて京都へ。

帰国後の経緯

レベル三脚、トータルステーション三脚は部品がなくなってもいけないと思い、すぐに元通りに組み上げて保管した。また、ボボ君の件、日本で開催されるシンポジウム開催までそれほど期間もないので、帰国後すぐに出席したいとの旨を主催者側に連絡する。シンポジウムの正式名称は

奈良県立大学ユーラシア研究フォーラム 2015 古代ペルシアからの贈り物ー「ゾロアスター教」と奈良の文化ー

発掘成果と文献が織りなす奈良とユーラシアの文化交流史、世界一級の研究者たちが一堂に会し、ゾロアスター教をキーワードに奈良とユーラシアの関わりを探究する。

とある。開催期日は、10月17日（土）、時間は13時から16時30分（開場12時30分）である。開催場所は、奈良県立大学地域交流棟二階の中研修室（奈良市舟橋町10）である。ボボ君の発表時間は、14時40分から15時50分まで、ただし、四人の発表者の二番目である。一人の持ち時間は15分程度である。

発表時間が15分前後では、ボボ君に渡したパワーポイント資料では長すぎて時間が足りない。どうにか対処しようと思い、当日早めに会場に入り、ボボ君と話し合って資料を調整することにした。

2007年に出土したミフル神テラコッタを中心に、仏教の四天王への展開を考察する内容に絞り、大会の趣旨に沿う形で発表を終えることができた。集まった聴衆も実際の出土品に基づく発表に興味を示していたように思う。

2016年研究成果報告

概要

2015年9月4日、昨年度の調査から帰国した翌日、タジキスタンでは当時の国防副大臣が指揮する部隊が反乱を起こし、政府軍兵士を含めて49人が死亡、140人が逮捕されるという事件が起きている。襲撃部隊はアフガン北部のテロ組織と関係があったとして、今後も脅威が増すことが懸念されている。

また、2016年度の調査実施を検討していた6月、イスタンブールのアタチュルク国際空港で28日夜（日本時間29日未明）、複数回の爆発が起きた。イスタンブール県知事によると、28人が死亡し、60人が負傷。3人の自爆テロ犯が犯行に及んだものである。爆発があったのは、調査でも毎回利用している国際線ターミナルであった。事件を受けて数日間、同空港の発着便は全てキャンセルされた。2015年夏以降、トルコでは少数民族クルド人系の反政府勢力や過激派組織「イスラーム国」（IS）によるとみられるテロが相次いでいる。イスタンブールでは同7日にも警察車両を狙ったテロが起き、警察官ら12人が犠牲になったばかりだった。

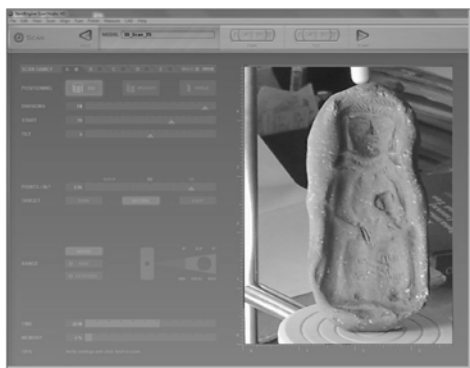
以上のような情勢下、2016年度の現地調査を断念し、国内での研究に専念せざるをえなくなった。また、これまでの研究成果を印刷物の形で残すことにも力を注いでいくことにした。

その一環として、3Dプリンターによる遺物復元を進めた。レプリカ作成は一体につき5～6時間を要する。また、出土したままの未補正の状態では一般への提示には説得力を欠くと思われる。これらの理由から補正・欠損部補修を加えた陶土素焼きのレプリカを作成した。

研究経過

3Dスキャナー・Next Engineによって計測したデータの加工

遺物の海外持ち出しは禁止されているなかで、データのサイズが大きくなることを厭わず、できるだけ精度の高いデータとして記録することを心掛けた。2014年2月から3月にかけてのタジキスタン国立博物館での調査においても、最も精度の高いスキャン法（16方面、22.5°毎にスキャン）に設定。一回転のスキャンでも50分ほどかかる。もっと粗いスキャン法（8方面、45°毎にスキャン）でも測定可能だが、データだけしか持ち帰ることができない状況の中、できる限り高精度で記録しておきたいと考えた。原則的に、1個の遺物について、縦軸回転と横軸回転の2回のスキャンを実施したため、1つの遺物についてのフォルダーサイズが4～7Gバイトの大きさに

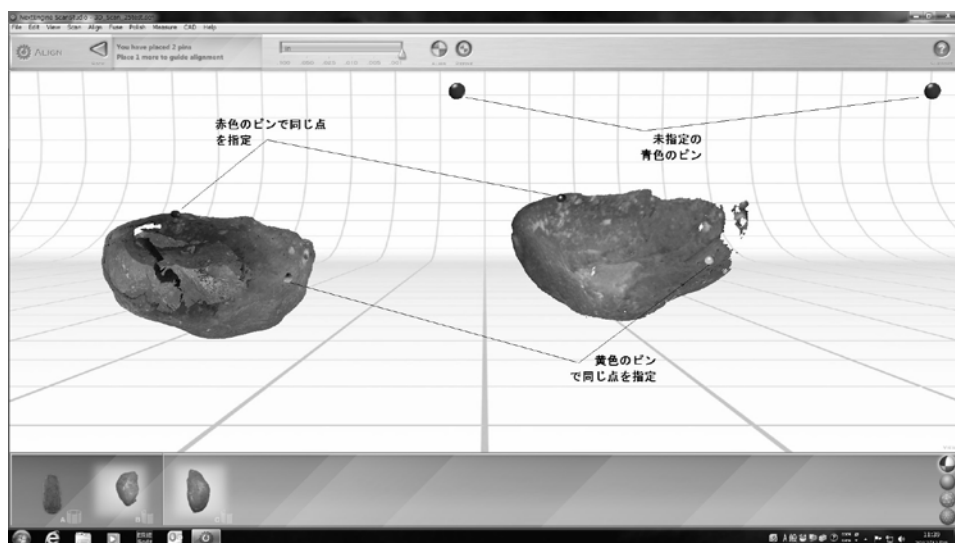


っていた。このため、3D スキャナー付属の Scan Studio を使ってデータを加工してプリンターで出力する段階になると、その精度の高さがかえって処理を困難なものとしてしまった。

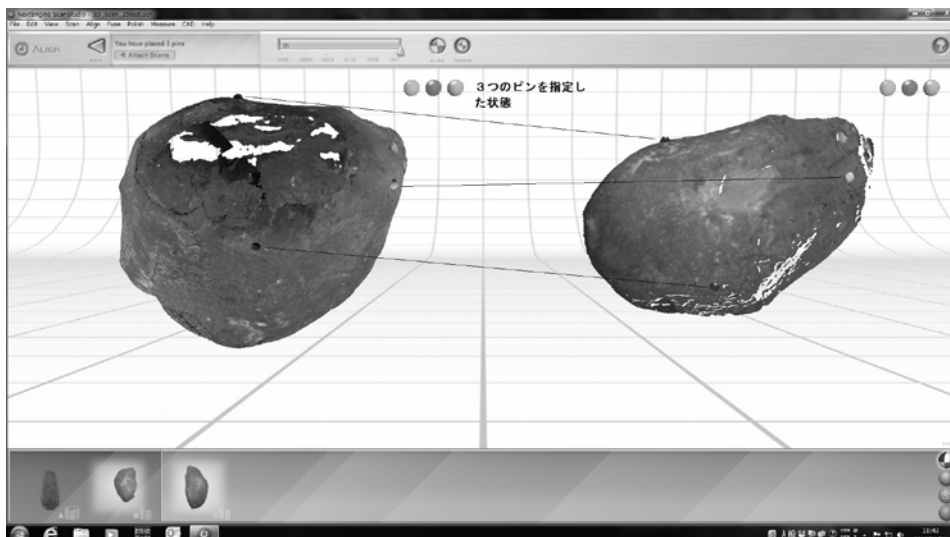
以下に具体例として、3D_Scan_25(ミフル仏陀の型)のレプリカ作成を挙げてその工程を記したい。はじめは、16方面から取得したデータをそのまま使ってアライン(3D画像として統合)機能で一つのデータにまとめていった。本体部分Aのデータから、下部のターンテーブルと接する部分、上部の支持具と接する部分をトリミングする。さらに、遺物下部と上部をスキャンしたBとCのデータも不要部分をトリミングする。以上のAからCのデータをそれぞれの同一の3点を指定することで、統合作業を行う。作業時間はかなり長いものとなり、時にはハングアップすることでも度々であった。最悪の場合、PCの電源を切って再起動しなければならない。さらに、スキャンの際にデータ漏れがあった場合、ホールとして残ってしまうが、それを塞がねばならない。さらに、データサイズが大きすぎると3Dプリンターでは読み込みことができないのでデータのフューズを行う。一回のフューズで読み込むことができない場合は、繰り返しフューズを行う必要があった。以上の作業を行う前にはデータのバックアップをするが、これにもかなりの時間を要した。フューズをくりかえすため、アライン直後の画像と比較して最終的な画像の鮮明度も低下してしまう。何度も試行錯誤しながら、十数点の遺物のデータから stlファイルを作成したのである。

作業の合理化

これまでの試行錯誤をふまえて最初のアラインの前の段階で16方面からのデータを8方面のデータに削減した。奇数回分あるいは偶数回分だけを残して削除する。例えば奇数回分であれば、01、03、05、07、09、11、13、15の8方面(8方面、45° 毎にスキャン)を残してほかのデータは削除する。その後、アライン機能で一つのデータにまとめる。



上図ではA(本体)とB(頂上部)の2点を指定し、残り1点はまだ指定する前の状態。下図のように3点を指定した後、遺物全体のデータとして統合する。

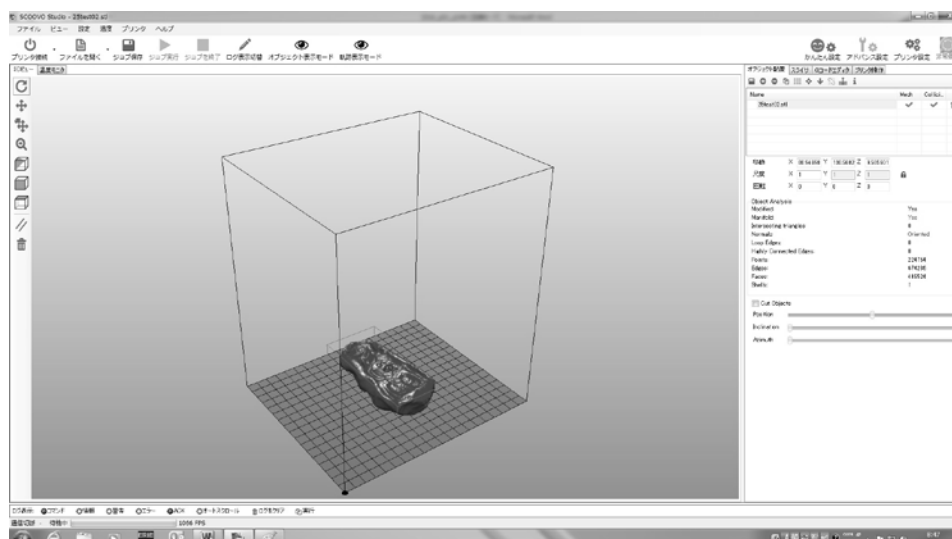


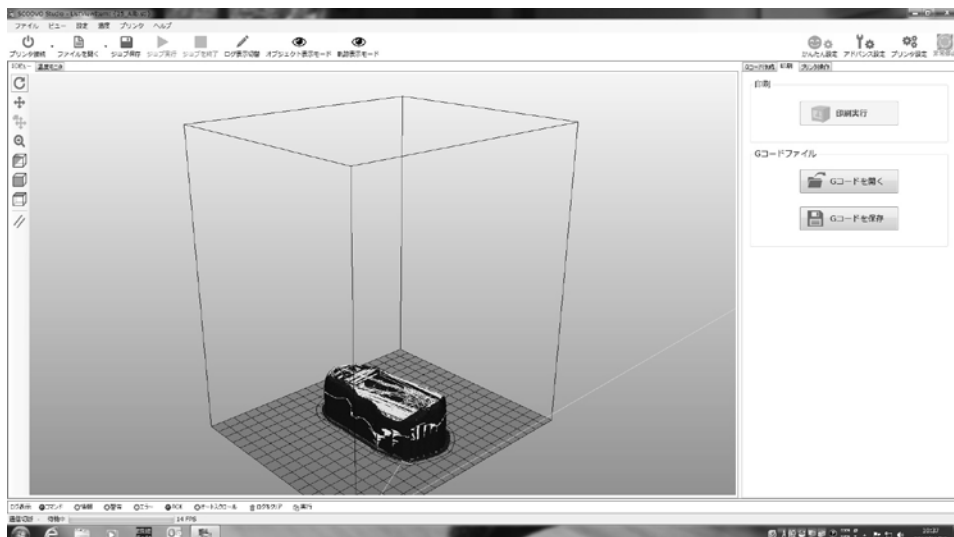
ただし、この段階でも861,440KBのファイルサイズとなり、3Dプリンターで読み込むことはできない。更に、フューズ機能を使ってファイルサイズを絞り込み、1回のフューズで3Dプリンターに取り込むことができるサイズ、21,962KBに絞り込むことができた。

以上、結果的には何度もフューズをおこなうのであれば、早い段階でデータのサイズを削減し、後の行程を容易にする方が合理的であるという結論にいたった。

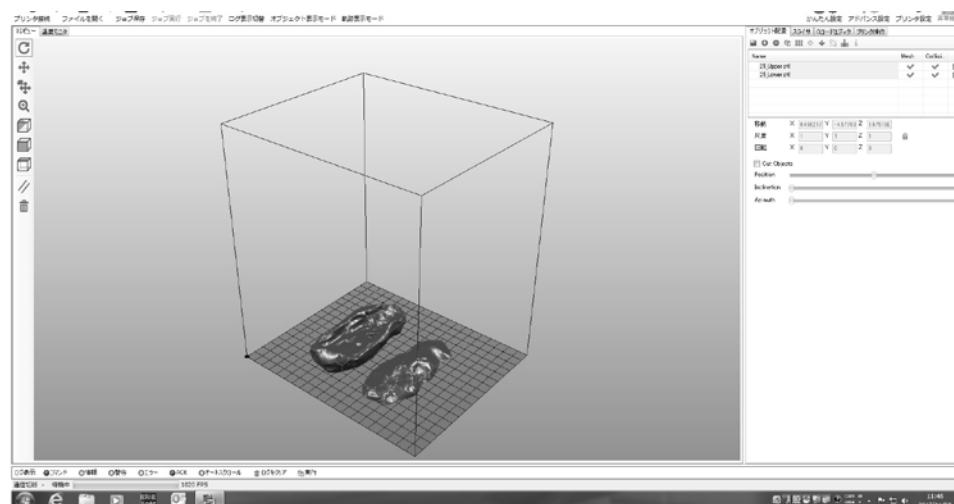
3Dプリンター・SC00V0 x9による造形の手順

SC00V0 x9の画像編集ソフト、SC00V0 Studioに上述のようにして作成したstl.ファイルを読み込む。ファイルに問題がなければ右欄のファイル名の横に緑のチェックが入る。メッシュの項目に赤の×印が出た時は、そのままプリントしてもうまくいかない。再度、Next EngineのScan Studioに戻って欠陥を修正しなければならない。



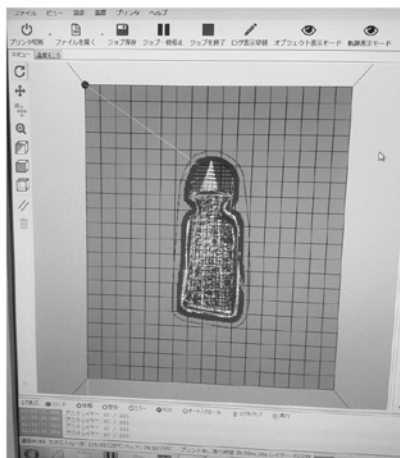


次にスライサー（融けたプラスチックを積み上げるために積層の一層ごとにスライス）する。白い線はノズルが移動する軌跡を示している。不安定な裏面を支えるために下部に支持材を成形するように表示されている。しかし、この方法でのプリントは実際にはほとんど不可能であった。抽出されたプラスチックが冷えていく際に歪が生じ、ベッド部分から反り上がり、ノズル部分に引っ掛けられる形で剥離してしまう。ネット検索で対策を調べるうちに、上部と下部の二つの部分に裁断し、平らな面をベッド部分に密着させる方法があることが分かった。

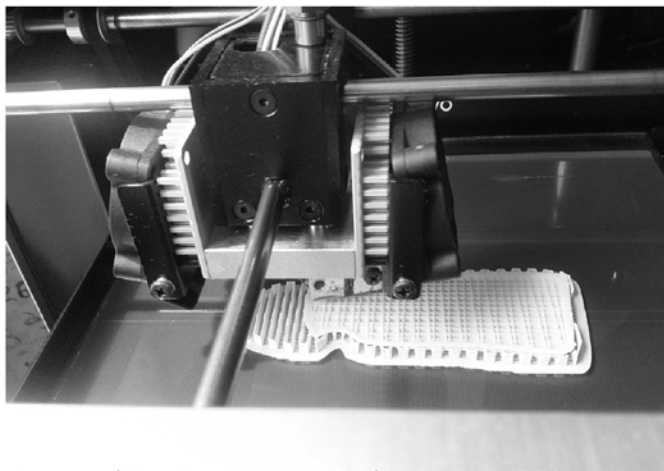


上図は上部と下部に裁断して、並べて配置した状態である。ただし、この方法でもプラスチックの温度が下がる際の若干の収縮は避けられない。成形後の接合の際には、上部と下部の間に隙間が生じ、パテで埋める作業が必要となる。

熱積層型プリンターにはその工法の特徴から一つの限界があるように思う。



SCOVO Studio のパソコン上の画面



プリンターのヘッドとプラスチック造形

配布用レプリカの作成

菩薩像の一部補正を加えたレプリカを作成した。工程としては、先ず3Dプリンターで作成したプラスチック製のレプリカを加工する。薄れた輪郭、例えば眉根やまぶた、唇などをヤスリ等で刻む。また、鼻梁などの磨滅した部分はエポキシ樹脂系のボンドで盛りあげ、成形する。この補正済みプラスチック・レプリカから工芸用簡易陶土（ヤコ・オープン陶土「紅陶」瀬戸産蛙目粘土使用）を使用して型を作成する。焼成加工すれば何度も塑像を成型することが可能となる。



原本



レプリカからの型取り



レプリカの補正版



補正版からの型

復元塑像には以下の文書を添付して配布している。

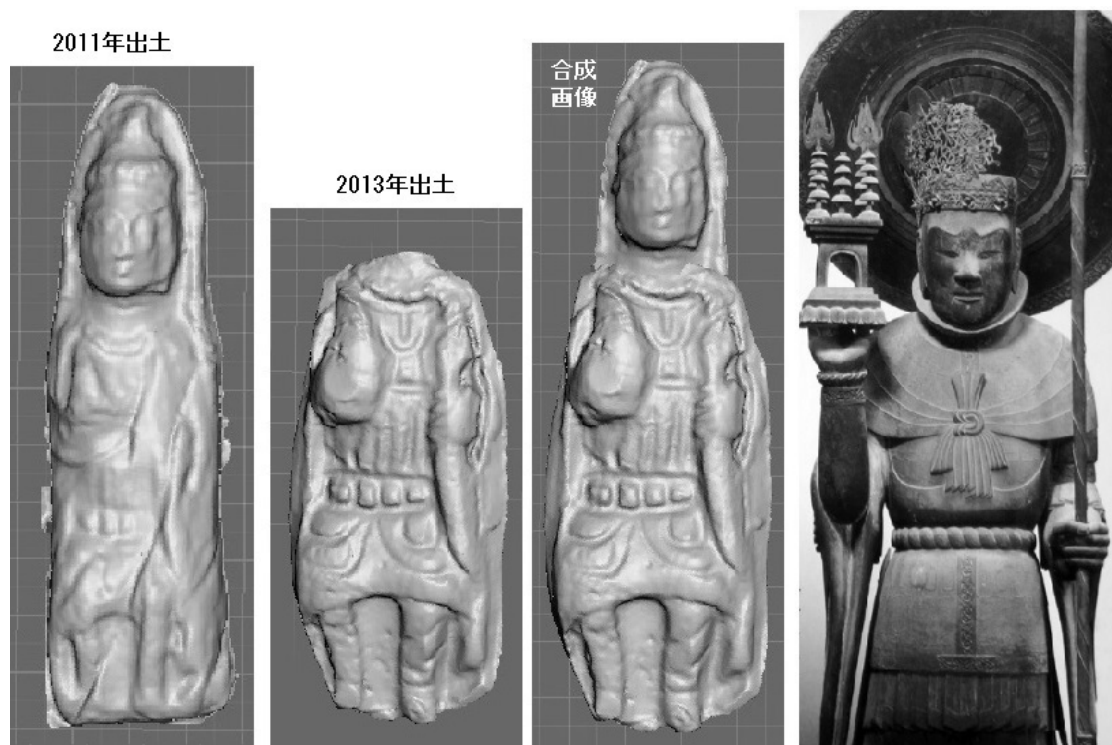
「タジキスタン出土吐火羅菩薩（原寸大一部補正）科研費（課題番号 25300041）助成による成果発表、吐火羅（トハール）は中央アジア一帯の古い呼び名で、トハール族の故地でした。クシャーン朝やソグド商人もその子孫です。

タジキスタン出土の遺物（8世紀前後）は仏教美術にも影響を与えたと思われます。3Dスキャナーを使って原像を作成し、一部補正を加えて型を取りました。表面の図は補正前のものです。型で工作用オープン陶土を加工して180度で40分焼成しました。」

Autodesk Meshmixer の導入

3Dデータの加工のために Web サイトからフリーソフト Autodesk Mesh mixer をダウンロード、前述の菩薩像についても修正を試みたが、操作に習熟できていないためか、微妙な加工を施すことはできなかった。細かい部分を加工しようとすると、その周辺部まで変形してしまう。しかし、大まかな処理として、部分を切断して他の画像に接合することは容易にできるようになった。例えば、神像の欠損部を補修して復元レプリカを作成してみた。まず、頭部欠損のミトラ塑像と同遺跡から出土したミトラ神像（完形）の頭部を切り取り、接合して合成することができた。工程としては、二体の塑像の3Dデータ（stlファイル）から合成した神像を作成している。

さらに復元によって大きな成果を得ることができたのは、下図に示す毘沙門天の伝来を考える上で重要な資料となる事例である。巻頭の遺物カタログにも挙げた2011年出土の神像は冠を戴く菩薩像のような姿をしている。しかし、身体の描写は不明瞭で、特に型に入れた粘土の皺のため、左肩から右足先まで斜めに亀裂が入った状態であった。



しかし、2013年出土の像を見ると、頭部を欠損してはいるものの、身体の描写はよく保たれている。この二つの像を比較すると、2011年出土の像と2013年出土の像が同じ神格を描いたものであることが分かる。そこで、2011年出土の像の頭部を切断し、2013年出土の像の身体に合わせて80%に縮小して接合すると、合成画像のような姿になる。左手に戟を執り、右手に火炎を掲げる姿は、法隆寺の毘沙門天像と一致する。宮崎市定博士の毘沙門天の起源に関する学説を裏付ける大きな成果である。

2017年研究成果報告

概要

2017年度は科研費助成の最終年度でもあり、何とかタジキスタンでの調査を実施したいと考え、ボボムロエフ元館長に連絡を取っていた。治安上の問題があるものの、博物館周辺での調査であれば可能と判断したのである。博物館収蔵物の中から研究課題に関連の深い遺物を選択し、その3Dデータの収集を計画した。Eメールを送って調査したい遺物のリストも伝えていた。メールに添付した画像は以下のものである。



p.133 No.356



p.136 No.363



p.184 No.470



p.185 No.476-478



p.248 No. 595

ページは博物館展示カタログから、番号はその遺物番号である。

左から、仏頭部、オスアリの故人の肖像（額に白毫）、天人頭部、ストゥーパ模型、ミフル木像である。昨年度に購入した3Dハンディースキャナーを持参しての調査を予定していた。調査協力費も支払う旨も伝えていたものの、9月を過ぎて送られてきたメールには協力できないとの回答であった。博物館館長のマツソフ氏との関係が上手くいっていないような感触でもあった。そのような状況下、タジキスタンへの調査は断念せざるを得ず、予てからの懸案であった光造形型3Dプリンターを購入することにした。

研究経過

3DスキャナーのNext EngineとArtec Eva liteの比較



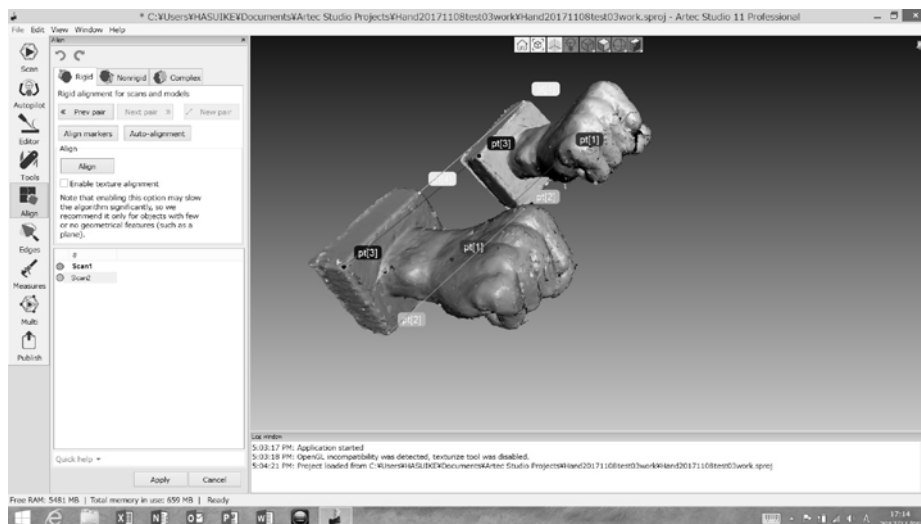
NextEngineによるスキャニング
ターンテーブル上のオブジェクト
右：縦軸回転で16方面をスキャン
左：横軸回転で16方面をスキャン



Next Engine のターンテーブルで測定可能範囲の最大限となる高さ 20cm 前後の「手」

の彫刻を Artec Eva lite でも測定してみた。この「手」の彫刻の大きさは、Artec Eva lite の測定可能な大きさの最小限度でもある。これより小さなものの測定には同じシリーズのものであれば、Artec Space spider でなければ測定できない。Artec Eva lite はタジキスタン博物館で測定を予定していた遺物の大きさには十分対応できるものである。

Artec Eva lite によるスキヤニングは要領をえない間は、画像取り込みに失敗することが多かった。しかし、実際の対象物に気を取られるのではなく、パソコン画面のモニターに注意をしてスキヤナーを操作すべきことが分かったと、Next Engine よりも容易にスキヤニングが可能であった。スキヤニングに要する時間も短い。

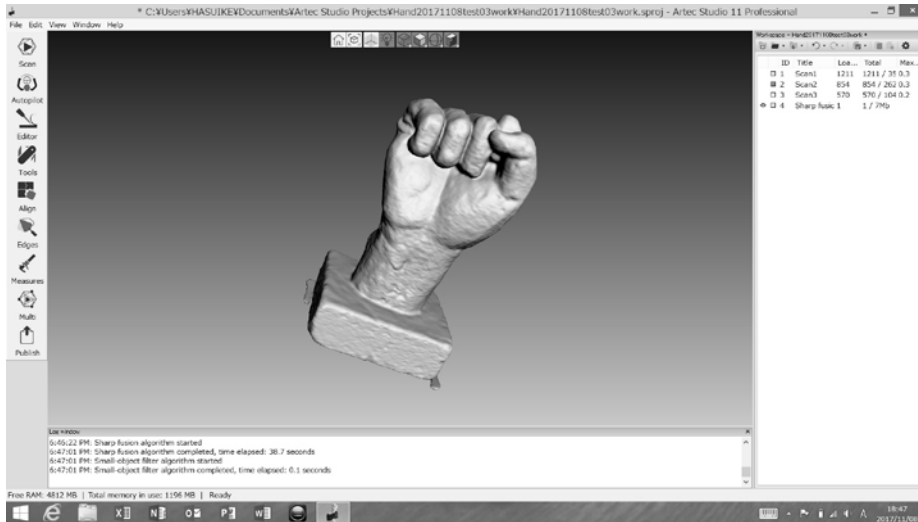


また、取り込んだ画像の処理に関しても、Next Engine の Scan Studio とほぼ同じ作業ではあるものの、作業時間は比較にならないほど短くてすんだ。統合作業についての左下のペイン（枠）に Scan1 と Scan2 が表示されている。上図右画面は画像の統合のための3点を指定している段階。指定が終われば Align をクリックする。【口絵 6 2】



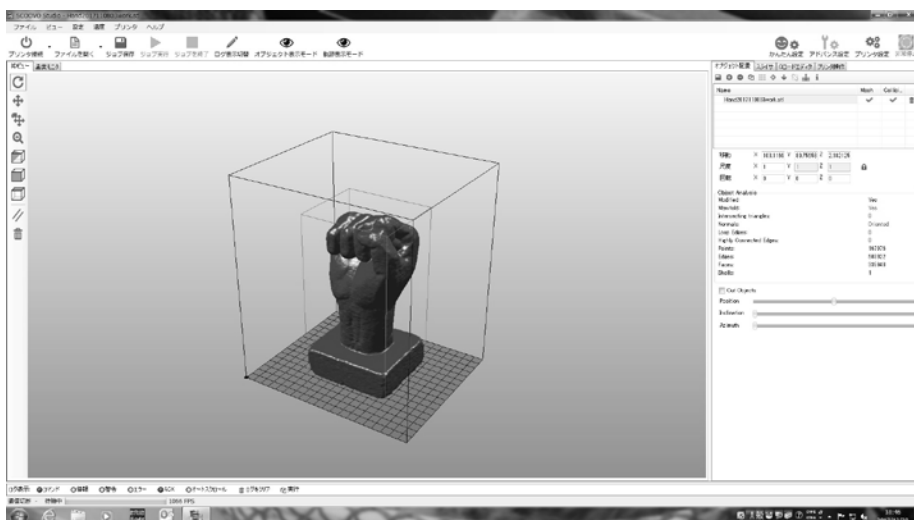
上図のように画像の統合が完了する。右のペイン（枠）には Scan 1 から Scan 3 までの

統合されたことを表示している。表面の毛羽立ったようなノイズも Autopilot 機能を使えばなめらかな表面にすることができる。



できあがった stl ファイルは SC00V0 Studio にも読み込むことができることを確認している。

下図が読み込んだ後の表示画面である。

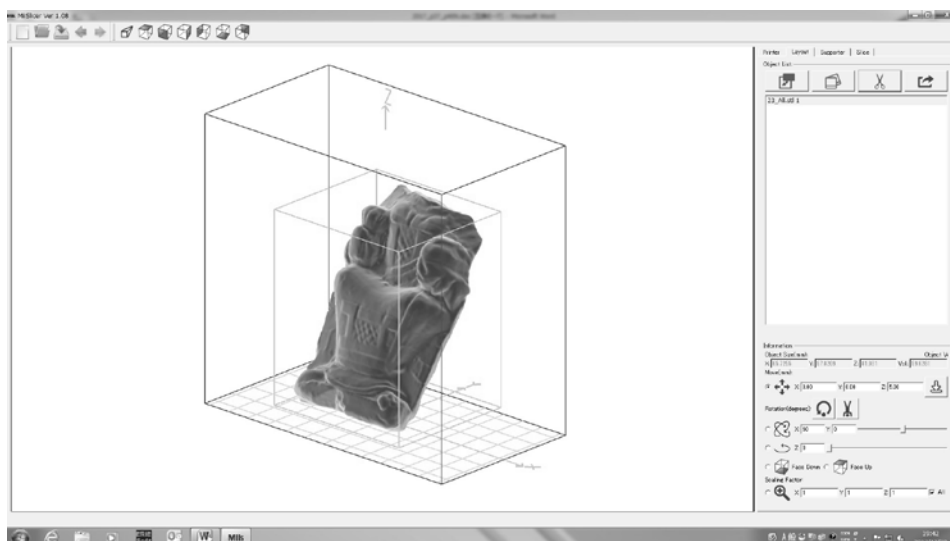


MiiCraft によるレプリカ作成

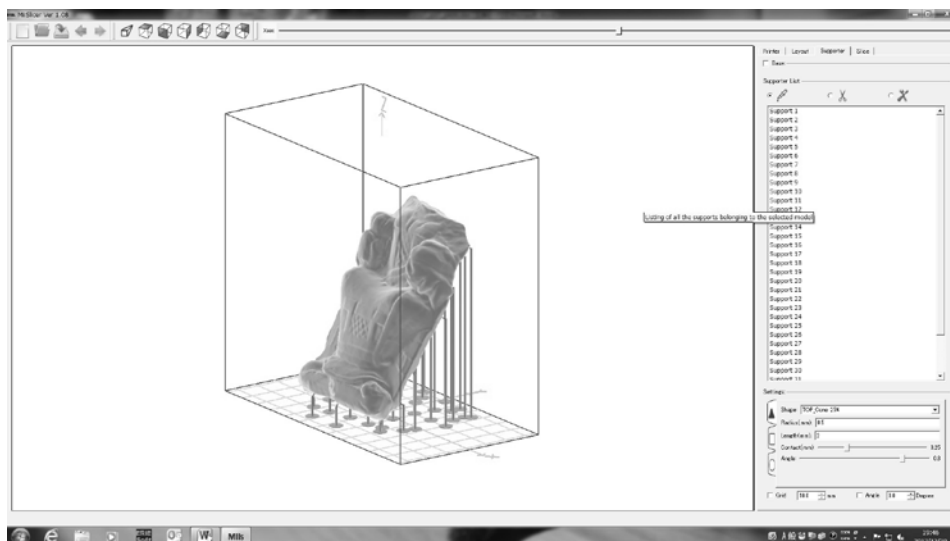
熱溶解積層型の 3D プリンターによるレプリカ造形には熱による歪の問題があった。また、SC00V0 x9 の固有の欠点として大きいサイズの stl ファイルは読み込めないこともすでに述べた通りである。より精度の高いレプリカを作成するため、光造形型の 3D プリンターを導入することにした。価格的に手の届くものとして MIIICRAFT 125 を購入した。また、造形後のレプリカを洗浄するイソプロピルアルコールを安全に使うために洗浄機器 FORM-WASH と、紫外線による硬化を確実にこなうために FORM-CURE を揃えた。

以下に実際のレプリカ作成の工程に沿って記述してみたい。遺物は 2008 年度のシリコーン型取りの際にうまく型から外せなくて冷や汗をかいたミフル神像坐像を例として挙げている。ファイル 23_All.stl を読み込むと画像が表示される。右側のペイン（枠）の x、y、z のダイアログに数値を入力する。この場合 x を 60° に設定している。また、ベッドから 5mm ほど浮かせて設定するようにと、技術指導の時に教示されている。

実際の画像を表示するペイン（枠）内は黒の背景で見づらいので一部色調を反転させている。実際の色調については【口絵 6 2】を参照。



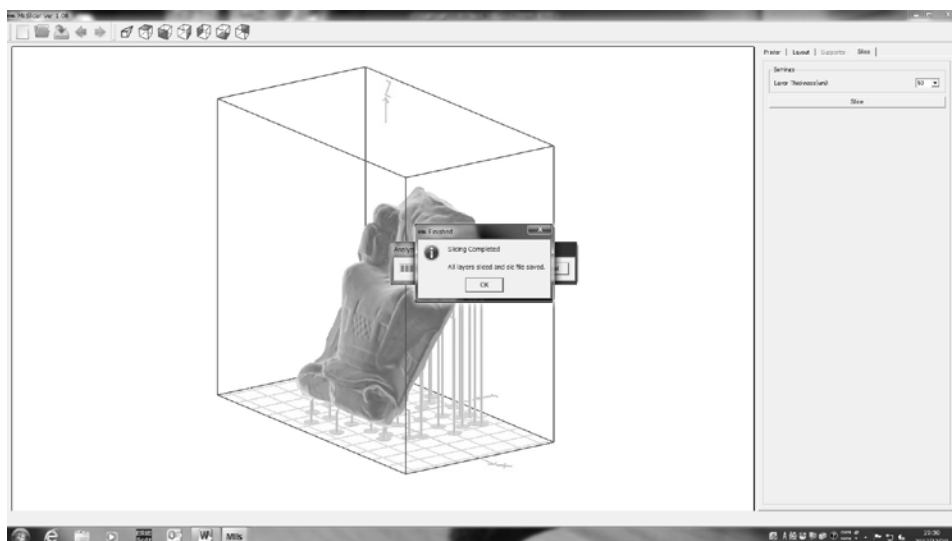
次に、サポートを付ける位置を一つずつ設定して行く。SCOOVO Studio では設定すれば自動的にサポートが付加されていたが、MIICRAFT では手作業で行う。注記には、サポートの数が少なすぎると造形中に外れる危険性があると書かれている。



上図では三十数点のサポートを付けている。右下のペイン（枠）で設定するのはサポート

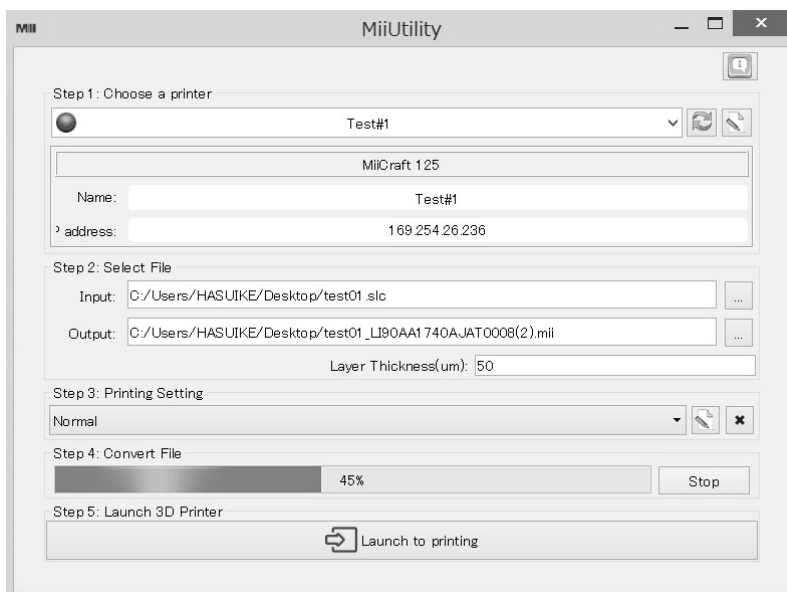
の太さや接点部の広さである。この場合はデフォルトのままである。

次にスライサーの工程である。この工程は各層にスライスして（切り分けて）いく作業である。熱溶解積層型では溶解したプラスチックを一筆書きのように平面に並べていくものであったが、光成型ではレーザー光線照射によって、同時に一つの面が造形される。



上図はスライス作業完了を示すダイアログである。この作業によって、slc ファイルが生成される。層の厚さは 50 マイクロメートル（ μm ）に設定している。

次に、MiiUtility を起動して LAN を介してプリンターと接続し、slc ファイルを読み込み、ファイルを convert した後、プリンターにデータを送る。



上図はファイルを convert していることを示す画面である。この作業終了後に最下段の Launch to printing をクリックすれば造形作業が始まる。

研究篇 『ブン・ダヒシュン（原初の創造）』

はじめに

中期ペルシア語文献の中、アラム文字に由来するパフラヴィー文字で表記されたものをパフラヴィー文献と呼ぶ。アラム文字を起源とする点では、北西インドから西域に伝播したカローシュティー文字・文献ともごく近い関係にある。カローシュティー文字を仏教文献学の研究対象としてきた筆者が、パフラヴィー文献に関心を抱いたのも、インドとペルシアの文化的・思想的交渉を基盤とした仏教思想の展開を考える上で当然のことであった。中央アジアの宗教的背景を明らかにするため、ここ数年間、パフラヴィー文献の中から『アルダ・ウィラズ・ナーメ』と『ブン・ダヒシュン』の二つを選び、原典を検討してきたが、その意義としては以下のような点を挙げることができる。

『アルダ・ウィラズ・ナーメ』にはサンスクリット、グジャラーティー（インド西部グジャラート州の文字・言語）による翻訳版が、また、『ブン・ダヒシュン』にも、サンスクリット・テキスト『小ブンダヒシュン』が存在し、両文献とも西北インド（ガンダーラ地域）との関連の深さを指摘できること。

また、『ブン・ダヒシュン』には、中央アジアの歴史的名称トハラを指すと考えられるトゥラーン地域の言及が多数あり、特にサマルカンド周辺の地名も含まれていること。

さらに、両文献の成立は9世紀から10世紀前後とされるものの、その中心となる思想は『アヴェスター』にまで遡るものであり、ゾロアスター教と仏教の交渉を考える上で重要な文献であること。等々である。

さて、翻訳上の留意点としては、意訳をすることなく逐語訳に徹底し、文脈上言葉を補うべき箇所があってもそのままにしている。翻字テキスト、転写テキストは割愛し、ウェブ・サイトに掲載することになっている。『ブン・ダヒシュン』の概説書には33章構成とあるが、文中に出る「教えに於いて言う」の見出しに従って、便宜的に41章に分けている。さらに、固有名詞については詳細な検討を割愛した。特に、仏教学との関連で注目すべき内容に焦点を当て、それ以外の占星術・暦法等についてはゾロアスター教研究の専門的知識を持たない筆者の手に負えないこともあり、今後の検討事項とした。以上の点を断った上で、注目すべき点について指摘しておきたい。

第一に、オフルマズドの「睡眠」について。『アヴェスター』ヤスナ第三十章の第三「では、睡眠を通して双生児としてあらわれた、かの始元の二霊についてであるが、両者は、心意と言語と行為において、より正善なるものと邪悪なものであった」にある「睡眠」と同義のものである。第二に、死後の靈魂が自己の心の顕現であるディーンと呼ばれる少女に出遭うこと。その内容は、魂の運命として（ハーゾークト・ナスク第二章）記述されるものと一致する。第三に、原初の創造に対して邪悪の侵入による善悪の混合について。第四に、人間の身体と宇宙全体が対応すること。

以上については後述の解説で詳しく述べることにする。

『原初の創造』

第1章：九千年中の三期三千年について

1-1) 知られるべきこと。創造主の荘厳なるオフルマズド、栄光を 1-2) 所有し、全てを知り、雄弁、偉大にして 1-3) 善思と善語と善業は、思考と話と行為に於いて（有り）。1-4) 全ての神々は神々を思うべく、他の予言者は麗しい創造に於いて、1-5) 良い兆しあり。私は書こうと欲する、さらなる善き星座に於いて、1-6) 権威に於いて、神々と友と全智と誠実と行いと、そのところのそれを。1-7) 友の功德を、神々は知り、メーノーグは見る。1-8) 優れた者たちの最後、マズデースンたちの善い教えのダストゥールまで、1-9) 不死の霊、神霊のマーフは明らかにする、「我は主へと増長する、1-10) 汝の其の人間の原初の創造は汝のミフルより」と。アラブ人たちは、1-11) エーランに対して、其れらの邪教の邪悪な害を与えることを始める。1-12) カイ以来の正しい宗教に、亦、教えより運ぶものたちの危害を負わせること、1-13) 秘密を反らすことが有った。神々よりその深いガーサは 1-14) 事々の蔵書の意味の並びは、秘密の行為のその種より、1-15) //////////////

2-1) 奇跡のために、彼もカイの高貴な家より、カイの 2-2) 教えを運ぶものたちは彼らの平和と方法に対して。邪悪な教えを 2-3) 混じえた、優れた善い教え宗教の其れに於いて、亦、言葉、形と亦、敬いと 2-4) 亦、行為を、誤りや過失に於いて保って有った。彼も言葉を 2-5) 此の知識と亦た秘密に於いて教えることを望むことが有った。場所、2-6) 場所から、義務と亦、狂気の密かな困難に於いて自らに対してなすことが 2-7) できかねないのであった。其のアーガーヒフ・ザンドは、初めに 2-8) オフルマズドの原初の歓喜とガンナーグ・メーノーグの邪悪な侵入とについて、2-9) 爾後、原初の創造から終わりまでの生き物の世界の性質について、2-10) マズデースンの教えよりあきらかなように、爾後、物事の上に方法より 2-11) 留める。救済に於いて、状況と性格は 2-12) 善い者たちに於いてこの様に明らかで、優れたオフルマズドは全てに於いて 2-13) 智慧と功德と無限の時間であり、光の内に常に 2-14) 有った。其のオフルムズドの光の王座と場はあり、其れは 2-15) 限りない光であると（ザンドは）言う。其のすべての智慧と功德とは、3-1) 無限の時、その様にオフルムズドの功德と教えは、オフルムズドの時で 3-2) それらは有った。アフリマンは闇の内にあり、爾後に於いて、彼の智慧と 3-3) 亦、深い破壊との繋がりが有った。また、彼には粗野な破壊の欲望が、3-4) 亦、終わりのない闇より其の闇の場所が有ると、（ザンドは）言う。3-5) それらより間には空虚が有り、其れは大気であり、その其れは 3-6) それへと混ざりあう。夫々の二つが有り、無限を有するこの所の有限さが。3-7) 優れているが故に、終わらない光の其れと（ザンドは）言う。3-8) 即ち、永くない者たちで有り、亦、深く、無限の闇の其れである。亦、3-9) 其れは有る。境界に於いて際限のなさが。夫々の二つは際限がある。それらには即ち、3-10) 中間に一つの空虚が、対して更に、結ばれたことはなかった 3-11) ので有る。更に夫々のメーノーグの存在は、書かれた体に於いて境界を 3-12) 有する。更に、オフルマズドの全智のために、(12B) 豊

かであり、更に、3-12B) 全ての精髓がオフルマズドの智慧の内に。限られた栄光は夫々の二つが有る所の其の期間が。3-13) オフルマズドの生き物の完全な統治者は、終末の厳しさに於いて 3-14) 常々に働くことまで。亦、其れは有る。アフリマンの生き物の際限ないものを、3-15) 其の時に於いて、(汝は) 打ち壊せ、終末の激しさの時の所まで。4-1) 其れも有る、その際限あるもの。オフルマズドは全智に於いて 4-2) 完全（ホルダード）であり、見た、即ち、ガンナーグ・メーノーグが有り、上に割り振り行う、4-3) 妬みの欲望に於いて、その様に混合する、原初の上に終末の上に。4-4) 原初の上に於いて、亦、多くの力の上に、それは亦、メーノーグの其の 4-5) 生き物の所、其の力に於いて、三千年をさきへと創造すべき内に 4-6) 生き物に於いてメーノーグが居た。即ち、有った。思慮なく、亦、4-7) 不動で、実体もない。ガンナーグ・メーノーグは、爾後、知識の所の故に、オフルマズドの 4-8) 存在より無知で有った。爾後、其の深みより立ち上がった。4-9) 善思の光の見える境界に対して、時に彼がオフルマズドを見たところ、4-10) オフルマズドは其の形のない光、亦、先へと、亦輝きである。彼の破壊への欲望は 4-11) 彼は嫉妬の性のために、破壊において行為の上に強いられた。彼はまた、爾後、4-12) 傷ついた。勇ましさと亦、勝利の幸運は、自身の所の其れより還り、4-13) 暗闇に向け失せ、捏ねあげる、多くのデーウ、其の破壊者の所の生き物を。4-14) 智慧の塊へ向けての欲求あり。オフルマズドは彼の時、ガンナーグ・メーノーグの生き物を 4-15) 見たために思った、生き物を邪悪な汚らわしい限り。5-1) 亦、邪悪で、それにはまた、賞賛されないと。爾後、ガンナーグ・メーノーグは 5-2) オフルマズドの生き物を見て思った、様々な深さの多くの生き物は、全てが 5-3) 尋ねられるべく、亦、オフルマズドの彼の創造による生き物、其の所は敬われると。爾後、5-4) オフルマズドは、行為の終末の生き物の如何にあるかを知ったことにも伴って、5-5) 無法のガンナーグ・メーノーグに対して、ひき止めた上で言った。5-6) 即ち、「ガンナーグ・メーノーグよ。我が生き物に対して上に援助を運べ。敬いを 5-7) 与えたこと、其れに於いて報いあるまで、不死と亦、不老と不感と 5-8) 不滅となれ（汝は）」と。それにはまた、此の理由が、即ち、戦いの理由は無く、自身の流儀 5-9) は無力では無い、亦、住処に対して各々二つの利益をもたらして。またそれは 5-10) ほざいた、ガンナーグ・メーノーグは、即ち「われは運ばず、汝の生き物に対しても手助けを。5-11) 亦、敬うこともない。併し、汝も亦、汝の生き物も亦、常々の行為まで、5-12) 我は破壊し、打ち導く、全ての汝の生き物を、汝の非友愛と我が友愛に対して」と。5-13) それにはまた、此の救済が、それには即ち、保たれた此れに於いて。5-14) 即ち、オフルマズドは彼が強いた中での此れのために、平和を前に保つ。5-15) 受け入れない、運ぶことの上での約束も。それにはまた、言った、オフルマズドは、6-1) 即ち、「（汝は）すべての行為者ではない。ガンナーグ・メーノーグよ。即ち、戦車をもって 6-2) 破壊しても、亦、それはまた、私の所の生き物をこの様に為すことはできない。即ち、再び 6-3) 私の所のそれ自身に対して到ることは無い。爾後、オフルマズドは全ての 6-4) 智慧に於いて知っ

た、即ち、「若し時に、その其の戦いも為さ無いならば、6-5) 爾後、我が生き物に於いて、約束のように、運ぶことを為すことができる。」6-6) 力のその混合、それにはまた、生き物の混合の内に 6-7) 抑制することが、自身に対して為し得ると。その様に、今も人間は 6-8) 毒を強いられる多くの混合の内に、営む、即ち、正しいことを。6-9) 即ち、ガンナーグ・メーノグの欲望は毒が常に働く（それらは）こと。それにはまた、6-10) オフルマズドはガンナーグ・メーノグに対して、即ち、戦闘を為す時を、6-11) 九千年とすることに對する此の約束に於いて、（我は）さきだてて示す」と。本質を 6-12) 知った、即ち、此の時に於いて、亦、根幹は衰微すると。ガンナーグ・メーノグよ。6-13) 爾後、ガンナーグ・メーノグの憂いのその終末のために、其の期間に於いて 6-14) 欲望と亦、判断が有る。この様にその様に、二つの 6-15) 男がおなじ戦いの時に先へと為す。即ち、住処などなどは 7-1) 日々に戦いの清浄さまで、（我は）為す。オフルマズドは此れも、全 7-2) 智に於いて知った。即ち、此の九千の内の一つ、三千の年は、亦、7-3) 全てオフルマズドの所の意志を進める。三千年は混合の内に、7-4) オフルマズドとアフリマンの所の夫々の二つの意志を進める。7-5) 終末の其れに於いて、ガンナーグ・メーノグの戦いを無力に為すことができる。7-6) 邪悪な生き物より退いて保つ、と。爾後、オフルマズドは 7-7) アフナワルをさきへと唱えた、その即ち、「ヤタ・アフ・ヴァイルヨ」など、二十一の言葉を 7-8) 打ち言った。亦、その自らの勝利の終末と亦、ガンナーグ・メーノグの無力と、7-9) 亦、デーウたちの破壊と亦、死者の復活と亦、厳しい終末 7-10) すくなくからざる生き物の苦渋、常々に為すべきこと、ガンナーグ・メーノグに打ち対し 7-11) 示した。ガンナーグ・メーノグは、それには時に、自身の無力を見て、呆然とした。7-12) 亦、無氣力と為った。反って暗闇へ向けて落ちた。

第2章：オフルマズドとアフリマンについて

この様にその様に、教えに於いて 7-13) 言う、即ち、それには時に、三分の一は、言われる、ガンナーグ・メーノグは 7-14) 恐れより身体の内引きこもり、それには時に、二つの部分は、言われる。7-15) ガンナーグ・メーノグは膝に於いて内へと陥り、それには時に、全ては、言われるには、8-1) 無力で有った。ガンナーグ・メーノグは無力により、生き物に於いてオフルマズドの 8-2) 三千年が為されることの中で、愚かさに於いて眠った。生き物と亦、創造は 8-3) メーノグ的に（私は）言う。亦、爾後、ゲーティグ的にオフルマズドは先の生き物より 8-4) 彼の創造のために、主となり、亦、爾後、彼の創造になる生き物より 8-5) 主であり、損なわれたものを利益するもの、亦、賢く、亦、苦を離れた、明らかな、8-6) 亦、常に導くもの、亦、増長するもの、全ての観察者であった。8-7) また、彼によって創造は振るわされた。主は良い行いを創った。メーノグである所の其れは、8-8) 彼の其の自らの身体をそれに対して善く打ち為した。時に、彼は 8-9) 生き物と亦、創造が精髓であると考えた。彼の創造による生き物より、統治権

は 8-10) 有った。亦、彼は退廃の光に於いてオフルマズドを見た。8-11) 即ち、ガンナーグ・メーノグは邪悪よりけっして戻る事無く、8-12) 彼の創造の生き物に於いて跋扈し。無力にならず、生き物は時に於いて跋扈した。8-13) 行為は有ることなく、時に、時間はアフリマンの生き物も造るので、8-14) 流れは打ち有って、それは亦、数千年間の邪悪の無力を 8-15) 為すことのために、時間を先へと創造する。亦、それには此の理由がある、即ち、ガンナーグ・9-1) メーノグは戦いに於いて跋扈し、無力にはならず、戦いは遂行される。9-2) 此れは、即ち、それが為されるべきまでに従う手段に於いての事柄である。爾後、9-3) 時により際限なく、亦、(汝は) 時を運べ、一年は先へと創造する。9-4) 創造は存在する、其の時の際限が有るところの、と言う。その所の時より、9-5) (汝は) 運べ。一年は善い永遠を先へと創造した。即ち、オフルマズドの物事は 9-6) 去ることがない。永遠より亦、不幸は明らかで有る。即ち、9-7) デーウのてだては実ること無くし不幸の結節により。メーノグの所作の 9-8) 無感覚は、その働きが明らかとなった所のメーノグは、即ち、オフルマズドの所の物事 9-9) 原初の創造に於いて創られた所の其れは変わらない。はかなさのメーノグより、9-10) 世間の生き物の完全な意志は明らかとなった。誠実な生き物と亦、9-11) 創造が合意の上であることが。アフリマンは、その創造になる罪深い生き物に於いて、9-12) 無知と不正である。亦、その目的の遂行が此れ、即ち、アフリマンは 9-13) 戦う所の喜びと共に、優れたもの、名声のもの、智慧あるものである主と。9-14) アフリマンとオフルマズドの永遠、亦、放逸の無力、亦、9-15) 不優。爾後、ガンナーグ・メーノグの生い立ちは、外見に対し 10-1) 齟齬がある。時に、彼は生き物を創った、其れはその所の時間も運ぶ。主は初めに 10-2) 彼の生き物を先へと創る、其の際限もなく有るところを。斑は 10-3) 混合より、オフルマズドの常住には際限があり、創造する。10-4) 其の無際限により、即ち、原初の創造により、時に、生き物の法は終末に対するまで、10-5) 即ち、ガンナーグ・メーノグは無力となる、一期間の一万二千年を。10-6) 即ち、際限があり、爾後、無際限に対するそののが有る。混合し、10-7) 変化する。即ち、オフルマズドの所の生き物にも清浄さが、オフルマズドと共に 10-8) 永遠に在る。

第3章：善悪二つの創造について

その様に言う、教えに於いて、即ち、時のその所の集積は 10-9) 夫々の二つの生き物たちより過ぎる、オフルマズドの所の生き物、ガンナーグ・メーノグの所の其れも。10-10) 時は秤である、行為や亦、判断に対して。時はより責任を負う。10-11) 時は、その受容されたものたちの中の、より受容されたもの、時は、応答するものたちより 10-12) より応答するもの。即ち、時に於ける判定。輝く時は住処の半分を為す。10-13) 放てよ (汝は)。光を断て、呪わしい時に於いて。先へと咲け (汝は)。10-14) 魂は彼より救われない、人々の時折の魂により。10-15) 上方に向けて飛んだ。(汝は) 下方に対して悲しむことはない。

亦、栄光は 11-1) 座せず、時に、冷たい水どもの泉の下へと下に転ずる。11-2) オフルマズドは自身の精髓である所の其れより、ゲーティグの光の身体より、11-3) 自らの所の生き物たちまで、先へと創り、霊は身体の火に於けるまで、11-4) 光は過ぎる。塵はさきへと明らかである。其のメーノグより、其の 11-5) 邪惡の所の、夫々の二つの生き物の内に靈魂をはこぶものである。力である、時である。11-6) 靈魂は身体を善い所の大氣（天界）まで、さきへと創造する。その様に、大氣は 11-7) 不可欠であり、其の遍在の大氣を先へと言う（ザンドは）。11-8) 生き物の靈魂は遍在の大氣の援助に於いて、先へと創造する。何故なら、11-9) 時に、それに創造された生き物もまた、また所謂、働きに於けるその其の力がある、11-10) 必要とする内での。ガンナーグ・メーノグはゲーティグの暗闇より、自身の所の其れ、11-11) 生き物を、先へと捏ねあげた。身体の所の其れに於いて、星辰の火のその黒まで、11-12) 暗闇まで。邪惡な価値、その様な罪の、より他のフラフスタルがいる。亦、その 11-13) ゲーティグより、その欲望の我儘を守る。身体を先へと捏ねあげた。その様な、11-14) 這ったもの。亦、それによって、初めに自己本位のデーウたちが創られた。飢餓の 11-15) メーノグで、それはオフルマズドの生き物たちの墮落である。亦、それには、12-1) 闇のゲーティグよりの精髓である。其れは終わりのない闇であり、12-2) 嘘が話され、先へと有る。彼のガンナーグ・メーノグの邪惡より 12-3) 明らかで有った。精髓は其の生き物に齎された。その所の其れ 12-4) の多くを与えるため、それに対して惡を打ち為した。即ち、無力な、しかし、再び。12-5) 何故なら、終わりのない暗闇より其の身体を先へと捏ねあげる。亦、その 12-6) 自らの生き物、亦、身体より打ち齎された。自身の生き物の所の其れより 12-7) その神々は無力で有る。オフルマズドはゲーティグより 12-8) 光を設え、その話し、亦、その話しの真実より、創造主の寛大さが 12-9) 明らかである。その創造による生き物は終わりのない身体の精髓と、12-10) 亦、光である所の終わりのないものよりさきへと創る。全ての所の生き物もまた、12-11) 終わりのない身体の内、打ち創造した。終わりのない身体と時は芥子の 12-12) 違いが有る。終わりのない身体の信奉者より、さきへと有った。12-13) 自身の形のメーノグ、其の打ち創造すること、亦、生き物の所の終末。12-14) 亦、それより明らかである。教え、その様な教えの生き物の創造と共に。12-15) （それらは）創造する。有る、私が存在よりメーノグが。年はさきへと在った。其れは 13-1) 混合の内に、今や、半ばの光と半ばの暗闇の三百と亦、六十と五の昼と 13-2) 夜があり、其れは遍在の時の区分であり、亦、それには夫々の二つの生き物の、13-3) 戦いに於ける、それに対する流れで在った。その様に言われた、オフルマズドの所の生き物は 13-4) 統治権に於いて受託人まで、その審判を所有する 13-5) 高貴さである。さらに、狂気の睡眠が在った。ガンナーグ・メーノグになる生き物は、13-6) 蛮勇と亦、抑圧と亦、罪深さの深みに於いて、13-7) 困難に於いて、居た。／＼ オフルマズドはアマフラスパンドたち、13-8) 誤りと切り離されたものたちに於いて、時に、それによって齎され、在って居た。すなわち、13-9) その此

処に再びゲーティグに対して水が有って、齎された。それには亦、より新たな 13-10) 邪悪な最後の所の身体に於いて、亦、それにより打ち見えなくなること。13-11) 亦、メーノグの生き物がメーノグ的に保たれ、亦、ゲーティグの生き物も、亦、13-12) メーノグ的に齎された。亦、それには亦、再び、ゲーティグ的に打ち対して 13-13) 齎された。亦、それには亦、始めにアマフラスパンドたちが齎された、七つの 13-14) 原初の。爾後、七番目の所の他の其れを、まさにオフルマズドはゲーティグの所の生き物より 13-15) メーノグに於いて創った。最初の六つの其の七番目の所の、14-1) 自身が有った。其処で、オフルマズドの夫々の二つが有った。メーノグは最初に、14-2) ゲーティグをアマフラスパンドより、爾後、遍在の大気より 14-3) 最初にヴァフマン（善思）が先へと創造された、彼の其のオフルマズドの生き物の普遍性であるところの、14-4) 彼によって亦、有った。ガンナーグ・メーノグは最初に虚偽的にアコーマン（悪思）を。14-5) 彼のゲーティグの生き物より、最初に空を、亦、彼によってヴァフマンが 14-6) ゲーティグの善い行為より、光を最初に先へと創った、それにおいて其の 14-7) マズデースンたちの所の善い所の教えと共に有った。此れは即ち、生き物に対して到る所の其れであり 14-8) フラシャギルドまで、靈魂は知った。爾後、14-9) アルドヴァヒシュト、爾後、シャフレヴァル、爾後、スパンドルマド、爾後、14-10) ホルダード、アムラダードが創られた。第七に自身のオフルマズドを、亦、14-11) 第八に寛大なその言葉を、第九にスローシュを、嗚呼！第十に 14-12) マーンサラスパンドを、第十一に亦ヴィレーンサングを、第十二に高さの主ラドプク 14-13) ベールストを、第十三に正しいラシャンを、第十四に増長のミフルを、14-14) 第十五に善いアルシュンヴァグを、第十六にディズアルヴァドを、第十七に 14-15) 睡眠を、第十八に風を、第十九に正義の言葉を、15-1) 第二十に争いの告訴人と亦、被告人の安らぎと寛大さを。15-2) ゲーティグの生き物より、最初に空を、第二に水を、第三に 15-3) 大地を、第四に植物を、第五に動物を、第六に人を、15-4) 第七にオフルマズド自身の亦、その亦、遍在の大気の援助に於ける生き物を 15-5) 先へと創造した。彼により遍在の大気が、先へと創られた時のところの、其の 15-6) 彼にもまた一つの力が在った。それは亦、彼の創造の生き物に於いて 15-7) 内に必要であった。ガンナーグ・メーノグは、彼の邪悪な夢の其れに於いて、15-8) デーウたちの頭目たちより、初めにアコーマン（悪思）を先へと捏ねあげた。爾後、15-9) アンダルを、爾後にソヴァルを、爾後にナカヘドを、爾後にタルウドミフを、爾後に 15-10) タイレヴ、ザイリクを、爾後にデーヴたち他の者たちを、第七にガンナーグ・メーノグ自身を。15-11) メーノグは、その此の所より、正義を決して考えず、言わず、15-12) 為さず。彼には亦、オフルマズドの生き物の功德は、不要である。15-13) オフルマズドの所の生き物の功德は、アフリマンの所の生き物は不要である。オフルマズドの 15-14) 其れは、此れより考えず、その所を為すこともできない。ガンナーグ・メーノグの 15-15) 其れは、その所を為すことも、考えることもできない。争いに於いて上に（我は）運ぶ。16-1) オフルマズ

ドの生き物は、メーノグたること、この様なフラワフルに於いて、即ち、16-2) それへの畏れが在る。不可思議、不可触、不現在である。16-3) あたかも精液のようである。爾後、その畏れより精液の混合物 16-4) のようである。爾後、混合より善い粒子が有る。一つの礎のようである。16-5) 爾後、善い粒子より、亦、忍耐により、創造主の手と亦、足とが亦、(在る。) 16-6) 爾後、忍耐より洞が有る。目と亦、耳と亦、口と亦。16-7) 爾後、洞より量が有る、同質のものが。併し、彼は光の前に 16-8) 在った。今も、ゲーティグに於いて、その方法がガンナーグ・メーノグの内に。16-9) 母たちは薫つけ、産み、育てる。亦、オフルマズドは 16-10) 生き物に於いての創造であり、亦、創造のその母や亦、その父が居る。故に、亦、16-11) それによってメーノグに於いて生き物を育てる時に、其れにはその母が在った。16-12) それによってゲーティグに打ち対し創造された時に、其のメーノグが有った、父が。16-13) ゲーティグ的所の創造の生き物の上に、同質のガンナーグ・メーノグの星たちは 16-14) 無力で有った。わたしによって上に三千年と書かれたことのように。16-15) それの呆けに於ける一睡眠は、彼のガンナーグ・メーノグのその無力の其の内に、17-1) オフルマズドは生き物をゲーティグに対して創造した。故に、終わりのない光、17-2) 善い火があり、火より風を、風より水を、水より亦、17-3) 大地が、すべてのゲーティグの物質性が先へと創造された。

第4章：ゲーティグの創造について

17-4) 教えに於いてその様に言う、即ち、最初に全ての生き物に一つの水が、亦、17-5) 一つの住処が在る。即ち、すべては水よりあらしめられる。17-6) 人々と動物たちの同じ身体、其れは火とおなじ体の故に。亦、17-7) 其の所のおなじ体である。それによって亦、最初に空が創られた。元へと 17-8) 有る、其の第一と言うところが。第二に水が創られた、17-9) 悪魔の渴きを打つことに於いて。亦、第三に大地が創られた、すべての 17-10) 物質性が。第四に植物が創られた、善い動物の所の援助に対して。17-11) 第五に動物に対して。正しい人間の援助が。17-12) 第六に正しい人間が創られた、ガンナーグ・メーノグと亦、全てのデーウの所の 17-13) それの攻撃と亦、無力に対して。亦、それによって、爾後、火が創造された。17-14) 燃え差しは、亦、それによって輝きあり、終わりなきそれらの光により。繋がった先端は、その様に 17-15) 善い身体は火の意志のようである。亦、それには亦、爾後、風が 18-1) 創造された。人間に於いて、十五歳の若者の身体である、其れの所の此れは。18-2) 水と亦、植物と亦、羊と亦、正しい人間は全て一日で生まれる。18-3) 保つ。それらには亦、特質を(私は)言う。最初に空が創られた。18-4) 光の見かけはじつに遠い。爾後、兄弟たちのガーサの有る所の。18-5) 賢い金剛の精髓が。亦、それにおいて頭は 18-6) 終わりのない光の所に対して於いて繋がれた。また、それにより全ての生き物は 18-7) 空の内に打ち創られた。砦のような護られた場所、その其れは 18-8) 戦いに於いて内に必要な全ての力は、内に設えられて 18-9) 居た。或いは、住処のような。全て

は日より内に留まる。18-10) 翼の空の善い元のその広さの大きさ、その其の長さの大きさ、18-11) 長さとも、高さのその大きさ、高さともその其の深さを（汝は）正しく判断せよ。18-12) 善い木とも、森の様な、考えが有る、言葉が有る、18-13) 行為が有る。知識の増大、行方者のメーノグの空。18-14) 亦、彼においてガンナーグ・メーノグよりの防衛の期間が受け入れられた。18-15) 即ち、戻って進むことは有ることは無い、その様に、英雄にふさわしい走る者、19-1 其の鎧を身に着けているところの。即ち、それに恐れはなく、戦いより 19-2) 救われる（彼は）。銀の空のメーノグをこの様に（汝は）開け。19-3) 亦、それにおいて、空の援助に対して喜びの精髓が創られた。19-4) 喜びが、そのためにさきへと創造された。其れは今、生き物の混合のように、19-5) 内なる喜びに於いて在る。第二に、空の所の精髓より 19-6) 水が創られた。二つの手、一つのおなじ身体の中の多くの人間を、地に向けて 19-7) 放ち、手とも、足に於いて動き、亦、それにおいて腹まで水が 19-8) 打ち在る。其の高さに於いて水が打ち注ぎ、それは亦、創られた。19-9) 風の助けに対して雨が、其の僅かな重さの露であるところの、がある。19-10) 第三に大地より創られた塵と花と野菜と、三つが拵げられた。その勾配は 19-11) 等しい長さとも広さをもとない、広さは二つの武器をもとなうためであり、さらに 19-12) 此の空の真ん中を打ち留めた。その様に言う、即ちそれには 19-13) 最初に三分の一のこの大地が先へと創造された。堅さは 19-14) 堅固な岩のようである。第二に三分の一のこの大地が先へと創造された。悪の首まで。19-15) 第三に、此の大地の三分の一を先へと創造する。吹かれた糸杉。20-1) 亦、その精髓は大地の内に打ち創造された。山々は、爾後、其れの成り立ちより 20-2) 出来ているところの、大地より、それにより亦、創造された。大地の援助に対して 20-3) 鉄、銅、硫黄、赤茶色の泥、他の固い全ての物も。大地は 20-4) モロコシの骨を離れたタネである。何故なら、タネと別の者である。20-5) その様に、堅い物を創造する。大地は、一人の人間の如くに於いて、その時に、20-6) 衣や服の全ての側が身体に於いて堅く内に為して居る（如くである）。20-7) 此の大地の下すべての場所に水が打ち在る。20-8) 第四に、植物が創造された。最初に全てのこの大地の真ん中に対して 20-9) 上へと育った。一足程の高さの、枝のない、皮のない、20-10) 棘のない、瑞々しい木で出来ていた。その全体の頭の印、20-11) 姿の内に保たれた。それにおいて亦、植物とも、水とも、火の助けに対して 20-12) 其の全ての一つの乳鉢の植物たちの一滴の水がある。20-13) 頭に於いて四指の火があり、前に其の力に於いて 20-14) 常に育った。第五に、唯一創られた所の雄牛が創造された。20-15) エーランの郷の内、世界の真ん中に於いて、その高さに於いて、21-1) 引き出された。善い輝き所のそれ、即ち、世界の真ん中の白い光は 21-2) 有った。その様に、月が、その其の高さは普通の三ナイー、それにおいて亦、21-3) 水とも、植物の精髓の援助に対して創造された。混合の内に、力とも、21-4) 忍耐が此れより在る。第六にガヨーマルトが創造された。21-5) その様に、太陽の光が、亦それにおいておよそ四ナイーの高さに有った。21-6) 幅はその様に、高さとも等しく、ダーイテ

一河の高さに於いて、21-7) 即ち、世界の真ん中に在る。ガヨーマルトの左側に於いて 21-8) 牛が、右側に於いて亦それらの一つの花が。21-9) 水より在る所の他のその花もまた在る所より。ダーイティー程の高さは自ら有った。21-10) 目が有り、耳が有り、舌が有り、印が有る。21-11) ガヨーマルトが有って、その印が有る。此れは即ち、人間は 21-12) 彼のタネにより、その類似性に於いて生まれて有る。亦、それによって 21-13) 創られた、創造主の此の安楽の援助に対して。其れはオフルマズドが 21-14) 此の其れを先へと創造する。人間に於いて身体は光ある十五歳の高さまでである。21-15) 亦、それによってガヨーマルトが牛と共に大地より創造された。22-1) 亦、それによって、空の緑と亦、光とにより、人間の精液が独自に 22-2) 先へと創造する。その様に、此の二つの精液は火のタネでは無く、水の 22-3) タネが、ガヨーマルトの猛き牛に於いて打ち創造された。その一杯の 22-4) 人間たちと羊たちの行為まで。それにおいて亦、有った。亦、それにおいて、此の 22-5) ガーハンバールの六ガーフに於いて六ガーフが打ち創られた。亦、22-6) 計算された所の年に於いて三百六十五日、十二の月々、夫々の月の 22-7) 三十日と亦、月の三十五日、夫々の一日に一つの名前と一人のアマフラスパンドが、それに就いて 22-8) 設定された。それには亦、性質を（私は）言う。最初に空が創造された。22-9) 四十日に於いて、その様に、フラウルディーン月のオフルマズドの日より 22-10) 此のウルドワヒシュト月アーバーンの日まで、五日を上据えた。22-11) ダイ・パド・ミフルの日まで、其のガーハンバールの五日が。それに亦、メードヨーザラムの名前が。22-12) それには亦、此の救済、即ち、人間の住む開けた土地の家、22-13) ミフル、水そして亦、緑が、それが明らかとなって来た。第二に水が創造された。22-14) 五十五日に於いて、その様に、アルドワヒシュト月、ミフルの日より、22-15) ティール月アーバーンの日まで、五日を上据えた。ダイ・パド・ミフルの 23-1) 日まで、そのガーハンバールの五日が。亦、それにはメードヨーザラムの名前が、23-2) その其れは此の救済、それには即ち、水が光を打ち為したところ。其れは最初に 23-3) 暗闇が有る。第三に大地が創造された。七十日に於いて、その様に、23-4) ティール月ミフルの日より、シャフレパール月のアルドの日まで、23-5) 其の五日を上据えた。アナグラーンの日まで、ガーハンバールの其の五日、23-6) 亦、それにはパユダーギーハーの名前が、亦、それには此の救済が、23-7) 即ち、足の行為の生き物が地上に於いて明らかと打ち為った。23-8) 第四に植物が創造された。二十五日に於いて、五日を上据えた。23-9) アシュタードの日と亦、アナグラーンの日まで、其のガーハンバールの五日が。23-10) それには亦、エーブスルースリムの名前が、それにおいて其の此の救済が。それは即ち、葉と亦、23-11) 緑の繋ぎの類が明らかで有る。第五に動物が 23-12) 創造された。八十五日に於いて、その様に、アーバン月、オフルマズドの日より、23-13) ダイ月のダイ・パド・ミフルの日まで、五日を上据えた。23-14) ガーハンバールの五日まで、亦、それにおいてメードヨーザラムの名前が。それにおいて其の 23-15) 此の救済がある。即ち、冬の善い果物と亦、自身の生き物を見えなく 24-1)

打ち為した。第六に人間を創造した。即ち、ガヨーマルトを。24-2) 七十日（に於いて）、その様に、ラームの日、ダイの所の月の所より、スパンダルマド月、24-3) アネーラーンの日まで。五日を上（に）据えた。其れまで、ガーハーンバールの所の五日 24-4) が有る、其の間の五日が有るところの、其れを間と 24-5) 言うところの。それには亦、ハマー・ディズ・マーネームの名前が。それには其の、此の救済が 24-6) 即ち、全ての善い誠実さがゲーティグに於いて明らかである。24-7) 何故なら、人間たちのフラワフルが全てのその兄弟に於いて降ってあるから。24-8) 亦、其の五日の名前が間（に）有る。其の偈頌に係る五ガーフ（偈）が有る、24-9) 其れは善い五つのものと言うところの。教えに係るものに於いて。此れには有る、アフヴ・ヤド・ガーフの 24-10) アヴィシュト・アスト・ガーフ、スペード・ミフ・ガーフと亦、ウシュタル・ガーフと亦、24-11) ヴァーフト・アダード・ガーフが。月に於いて、其の三十日は設定されて 24-12) 居る。亦、それにおいての日の名前は、オフルマズド、ヴァフマン、ウルドヴァヒシュト、24-13) シャフレヴァル、スパンダルマド、ホルダード、アムルダード、ダイ（パド・アードル）、アードル、アーバン 24-14) フヴァル、マーフ、ティール、ゴーシュ、ダイ（パド・ミフル）、ミフル、スローシュ、ラシャン、フラヴァルディーン、24-15) ヴァフラーム、ラーム、ヴァード、ダイ（パド・デーン）、デーン、アルド、アシュタード、アスマーン、25-1) ザームヤード、マーラスパンド、アナグラーンである。其の十二月の名前は 25-2) 等しくアマフラスパンドたちにより。フラヴァルディーン月、ウルドヴァヒシュト月、ホルダード 25-3) 月、ティール月、アムルダード月、シャフレヴァル月、ミフル月、25-4) アーバーン月、アードル月、ダイ月、その所のヴァフマン月、スパンダルマド 25-5) 月である。亦、それらにおいての特徴を一つ一つより先へと（私は）話す、25-6) 光たちとそれの先へと創造されたことに就いて。オフルマズドは天空と亦大地の所の間に、25-7) 光たちを先へ創造し、在らしめて居る。星たちの盾、25-8) それの所の月宿もまた、月宿でないものを、爾後、月を、爾後、25-9) 太陽の本質を、最初に虚空に創造する。その亦、その亦、25-10) 月宿の星々はそれにたいして指定されている。主要な 25-11) 此れは十二のそれらの名前が。ヴァッラグ、ガーウ、ドーパヒカルと亦、カルザング、シャガル、25-12) ホーシャグ、タラーズーグ、ガズダム、ネーマスプ、ヴァヒーグ、ドール、マーヒーグの月である。25-13) それらの其のおなじ夜の咎である二十と七つの月宿のその数がある。25-14) それらの其の名前は是れである、パデヴァル、ペシュ・パルヴィス、25-15) パルヴィス、パハ、アヴェェサル、ベシュン、ラクフヴァド、タラハ、26-1) アヴラ、ナフン、ミヤン、アヴェェデム、マシャハ、スプル、ア 26-2) プスル、スロブ、ヌル、ゲル、ガラフシャ、ヴァラント、ガウ、26-3) ゴイ、ムル、カフトウサル、ヴァフト、ミヤン、カフト。26-4) それには亦、ゲーティグのその全ての原初の創造があり、時に、元々の種が 26-5) それに対して作られていた。即ち、時に、悪の侵入が到って、自らの敵に向かい、26-6) また、生き物たちを戦わせ、彼ら邪悪なものたちから、26-7) 救わしめ、軍と隊のやり方、其の、戦場に対する 26-8)

定めである。彼ら六百四十八万の目に見える月宿からの夫々一つの星座が 26-9) 援助に於いて先へと創造されて 26-10) 有った。すべての小さな仲間である所のそれらを除いた夫々の同じほどの星座である所の其れらが、26-11) その様におなじ援助に於いて其れらは居た。其れらの星座たちに於いては 26-12) 四つの砦の將軍と亦た四つの方向が委任された。26-13) 其れらの將軍たちの上に一人の將軍が委任された。26-14) 有名な法に適う多くの無数の星が方々に処々に於いて 26-15) 委任されて、創造主の力、その等しい力に於いて、其れら 27-1) 星座たちをその様に言う（それらは）、即ち、ティシュタルは東の將軍 27-2) サドウェースは南の將軍、ヴァナンド（ヴェガ）は西の將軍、27-3) ハフトリング（大熊）は北の將軍、古のガーサー（偈頌）、其れの 27-4) 「偉大な天空の家」は言う、將軍たちの將軍は、27-5) 清められ数えられた他の此の階位にふさわしい長であり、亦 27-6) 此の星々の星座に数えられ、今、他の星々と 27-7) 呼ばれる。亦たより大きく、亦たより小さく、亦た中間のもののために言われる。即ち、27-8) 大きさは亦、確固たるおおきさである。

第三に此の天は 27-9) 一年の類似に於いて設けられた。十二の星座は十二の月のその様に。27-10) 夫々の星座の三十、五十、四十は、夫々の一月が三十の昼と夜である、その様に。27-11) それには亦、ハフトリング（大熊）は北の方位であり、其処は即ち、邪惡の侵入の時、27-12) 地獄までの穴の内にある。七つの大陸より委任された、27-13) 夫々の一つの大陸より一つの善い繋がりが結ばれていた。整えられたその全ての 27-14) 大地たちは混交の内のために、其れに於いても同じくハフトリング（大熊）を争った。27-15) それに於いて其れら星座たちは五つの形で置かれた、28-1) 其の混交の内の動きに対して（それらは）いたところの。存在は其れら 28-2) 星々のうえに非混交を留めた。即ち、邪惡の侵入が到った時、28-3) 戦いに於いて押しとどめ、さらに混交することを許すことがなかった。28-4) それは亦、偉大なものたちの善い軍の手が其れらに於いて（あり）、28-5) 將軍が委任された。其処で（かれらは）命じ、戦いの本質があつた。明らかな 28-6) 清浄は、混交の内に。此のために非混交の所の守護者と呼ばれる。28-7) 其の有るところ、其れらの上に邪惡の侵入がある時に、混交することはなく 28-8) 有った。空の上の空の所まで、星座の算定をなす（それは）。28-9) それは亦、算定と亦た夜についてのそれはない。それらの其れは算定することはできない。28-10) 混ざりものたちが、清浄なるものたちの昼より、其れ依りうえに創造された。28-11) 動物のタネの月が、其の上に創造された。28-12) 太陽は速やかな砦で、亦た、それにおいて亦、月と太陽が 28-13) 混合と非混合の所の其れら星座たちの指導者に於いて委任された。28-14) 即ち、それらのすべての絆は太陽と月に対してであり、太陽をこえた上に 28-15) 創造された。アマフラスパンドたちの所のガーサー、其れは限りない光に対して、29-1) オフルマズドのガーサーと結ばれて居た。此れも有る、六つの創造の六つの足が。29-2) その様に、ゲーティーグと間の半ばの天空の六つの創造が 29-3) 委任された。風と雲と亦た火とが。憎むべき、即ち惡の侵入が到るまで、29-4) 水のメーノーグの其れに於いて其れを求め、我は水と動物を 29-5) 育て

つつ。汝は育てせしめよ。亦たそれにおいて其れらの住処も同じく太陽に対してある。29-6)月の所、亦た星たちを為した。それには亦、再び東の將軍である所のティシュタルが29-7)援助者であり、亦た同じ援助者であるヤギの神である火と亦た風と雲は29-8)其れら星たち依り、大きさと数とは家の大きさの所の一つの岩の其れである。29-9)それらの子孫たちである中ほどの四からなる所の其れ、より小さい所の29-10)飼牛の頭ほどの其れである。月は馬場の三ハーサル長のようにであり、29-11)夫々の一ハーサルは、地上の一般的パラサングと同じである。29-12)太陽はエーラーンの郷とおなじほどであり、邪惡の侵入の到来まで。月と亦29-13)太陽と其れら星たちは在り、不動で29-14)有った（それらは）。亦た清浄な息吹で常に経過し、亦た常に昼間であった。29-15)爾後、惡の侵入の到来より、運行に向けて在って居た。亦た終末まで、30-1)其れより光は在ることはなかった。太陽の運行はその様に。亦た、もっとも大きい二十の矢を、30-2)三つ羽根の二十の其れを、人がより大きい弓から30-3)放つ。月の運行も同じくその様に。三つ羽根の中程の矢、30-4)時に、中程の所の其れを、人が中程の弓の其れから放つ。30-5)星々の運行はその様に。三つ羽根のより小さい矢、時に、より小さい所の其れを、30-6)人がより小さい弓の所の其れから放つ。其れらの星座たちにより30-7)すみやかな運行があまねく在る。ティシュタルの塵や雲などにあまねき運行が。30-8)父の盾と亦た輝きの前、太陽は其のおなじ造りの一つの星座から打ち30-9)離れる、再び打ち得る所の其れまで。それほどの期間である所の中で30-10)一月と三日を要し打ち放つ。上の、その様な理由で30-11)その創造の所の生き物は戦いに対し（汝は）為せ。オフルマズドは創造物である所の30-12)三十のアマフラスパンドを其の三十日に於いてこの様に配した。即ち、はじめに30-13)オフルマズドを。爾後、六アマフラスパンドがある。七と亦た八番めに30-14)ダイで有る、創造主が。亦た、爾後、六アマフラスパンドが有る。七と亦た30-15)八番めにダイで有る、創造主が。爾後、七アマフラスパンドが亦た31-1)有る。九番めはダイで有る、創造主が。亦た爾後、七アマフラスパンドが31-2)有る。八はその様に自らの創造物である。四つの場に於いて31-3)月の内に用意された。オフルマズドと亦たダイの三つの所の其れは一つの名前。31-4)亦、一つのガーサーであり、亦、一つのダイであり、亦、一つの時である其れは常に在り31-5)有った。ガンナーグ・メーノグが邪惡に対して来た時に、オフルマズドは31-6)主の長い所の時を造る。人に於いて五歳の所の身体が、白い光の31-7)高く強いまでの目が。その其の強さは有徳からで31-8)盗みと亦た圧迫からでは無い。その亦た自ら白装束を身に付け（それらは）、31-9)亦た、僧たる使命を持った其れはつねに31-10)僧たちに伴う知恵、其れは全ての靈魂の暗闇より非世界に対してのところの。31-11)亦、それには学習者である（それらは）。オフルマズドも正しい働き、創造たる生き物が31-12)在った。生き物を知恵に於いて創ることができる。このために31-13)知恵あるものたちの姿は装われてある、その僧が。亦、善い三つの衣服、31-14)金色、銀色、珠であるそれを。前にはさらに亦、紫を多くの彩りを装った、31-15)

戦士の衣装を。其れは行く者の上に爾後の敵どもより 31-16) 邪惡に於いて打ち、亦た生き物の守護をなすところの。その様に（それは）言う。32-1) 即ち、亦た、すべての内で其の三つは二つの邪惡な生き物を打ち齎す。自らの 32-2) その行為は本質を創造した。ガンナーグ・メーノグを過ぎよ（汝は）。其のガンナーグ・メーノグも此れに於いて 32-3) 即ち、其れは正しい頭を打ち為す。オフルマズドの生き物はつねに増える。32-4) 其れはガンナーグ・メーノグを破壊せしむ。其れは時を創造すること、時の空間を 32-5) 動かしつつ、身体の底の罪のその運命が。それは亦、鉄色の衣装を 32-6) 着た、牧畜家の服を持ち、質の 32-7) 良い供給されたミルク、世間の正しい働きを得つつ。家長たちの 32-8) 世間に働き、亦た、正しく打ち創造した。その様に、オフルマズドは、夫々の 32-9) アマフラスパンドのなかで、自身の所の生き物をたたえる。創造は其のところのメーノグ、32-10) ゲーティーグを、同じ類に於いて創造した。その様に、オフルマズドのメーノグと亦、其の六つの 32-11) アマフラスパンド、ワフマン・ウルドゥワフシュト・シャフレワル・スパンダルマド・ホルダード・32-12) アムルダード、この様にも、六つの天が、はじめの所の足は駅の上に（ある）。亦た、第二に 32-13) 星座たちの所の空間が、第三に混交のない星、第四に 32-14) 其の駅に於いて居ると言われた月。第五に、ガロードマン、其れは 32-15) 光の内と呼ばれて有る。太陽が其の駅に於いて居る。33-1) 第六にアマフラスパンドたちのガーサーが、第七に終わりなき光のガーサーが。33-2) オフルマズドを享けよ（汝は）。六つのゲーティーグの所の創造物が創られた。はじめに 33-3) 空、第二に水、第三に大地、第四に植物、亦た 33-4) 第五に動物、第六に人、亦、第七に火が、33-5) 其の輝きは終わりなき光、オフルマズドのガーサーからのところ。それは亦、33-6) すべての創造の内にこの様に基盤として打ち横たわり、先へと創造された。33-7) その様に、家長は時に、泉の内に行く。亦、衣装を良い内に 33-8) 再び着る。それには亦、火に対して命じた。邪惡の侵入の内で 33-9) 人間の使徒に為すための食べ物を用意する。亦、主を打つことまでに、33-10) 時に、事々から打ち選ぶ（それらは）。外から来る時も人を 33-11) 内に置き（それらは）、先へと為す（それは）。それは亦、全てのアマフラスパンドたちの 33-12) 生き物の戦闘への共同に於いてこの様に委任され、立たされている。33-13) 即ち、邪惡の侵入の時、時に、全ての自らの其の靈魂が敵対するに、33-14) 戦闘に於いて先へ為す。即ち、新たな命令が必要ではない内に、33-15) 亦、その性格をより先へと私は言う。第一にオフルマズドのメーノグたちより 34-1) 其の三つのダイがあり、それは亦、諸ゲーティーグより原人があり、亦た、自身から為した。34-2) 亦たそれの其の三つのダイの協働者はひとつのガーサー、ひとつのダイ、ひとつの時間で、34-3) 晚餐の全て、其れは有る。メーノグは全智で、それには亦、人間を 34-4) 自身に対してなした。創造は、それには亦、人間を五つの救済に於いて 34-5) 先へと創った、身体と亦、精神と靈魂と亦、型（エーヴェーナグ）と亦、フラワフルで、その様に 34-6) 身体はゲーティーグと、亦た精神は風と共ない其れと結合して居る。34-7) 息は運びつつ、靈魂を動かし住処と共なう

所の其れと身体の内、聞き、34-8) 見、言い、知る。太陽の駅に於ける所の其れの形で 34-9) ある。フラワフルは主、オフルマズドの所の前の所の其れであり 34-10) 其の目的に於いてその様に創られた。即ち、邪惡の侵入の内に人間が 34-11) 死ぬ（それらは）。身体は大地に対し、精神は風に対し、型（エーヴェーナグ）は太陽に対し、34-12) 靈魂はフラワフルの所に向けて結ばれた。即ち、神々と靈魂を破壊することは 34-13) できないのであった。第二に、メーノグたちからワフマンが、それは亦、34-14) 諸ゲーティグより特徴ある種々の動物が自身に対して受けた。34-15) それは亦、創られた、協働の援助に対して。月と亦たゴーシュと亦たラームと亦た 35-1) 空間と主と限りない時間、主の長い時間が。35-2) それは亦、動物を五つの救済に於いて創造した。身体、35-3) 精神、靈魂、型、精靈である。即ち、地獄の方の邪惡の侵入の内までに、35-4) 動物たちのタネを月の駅から受けた。35-5) 良い所の平和の所の援助に於いて、世界の内に殖やす。時に、死んで、身体は 35-6) 地獄の方へ対して、靈魂は平和に対して、型（エーヴェーナグ）は月に対して、精靈はワフマンに対して、35-7) 結すばれた。即ち、特徴は打ち壊すことはできない。運命の 35-8) 第三は、メーノグたちからウルドワヒシュトを、それは亦、ゲーティグの所の創造より 35-9) 懺悔を自身に対して受けた。それは亦、創造した。協働の 35-10) 援助に対して向けて。この様に、スローシュと亦たヴァフラームと亦た自身のカイの争い、35-11) 其の理由に於いて即ち、惡の侵入の内にヴァフラームの火が家の内に 35-12) 置かれ、整えられ防御を齎す。スローシュは防御を 35-13) 為す。打ち壊された時、ヴァフラームからスローシュに向けて、亦た 35-14) スローシュからアードルに対して、アードルから再びウルドヴァヒシュトに対して結ばれた。35-15) 即ち、デーウたちは打ち壊すことはできないのであった。第四に、36-1) メーノグたちからシャフレワルが、それは亦、ゲーティグの創造物より金属を 36-2) 自身に対して為した。それは亦、創った。空の太陽と亦たミフルの協働の援助に於いて 36-3) 強い側面の良く燃える所のアナグラーンと亦た、36-4) ハオマを齎すことブルズを齎すことと亦、生き物たちを讃えよ（汝は）。亦た其の金属の 36-5) 頼りになることは天空から。天空は元の金属の武器の本質。36-6) それには亦、配列はアナグラーン（無限の光）より、アナグラーンは光の内に似る。36-7) 金の本質を守護する所の 36-8) 永遠の道である上方のガーサーを結合していた。即ち、此の協働に於いて、36-9) デーウたちは邪惡の侵入の内で金属の破壊を為すことはできなく 36-10) 有った。第五に、メーノグたちからスパンダルマドが。それは亦、36-11) 創造することよりゲーティグの大地を自身に対して受けた。それは亦、36-12) 創造した、協働の援助に対して、マーラスパンドの主であるダイ、アーバーンを。36-13) 亦、配列の所、亦、強い側面を聞いた。その様に、聞くことがある、36-14) 大地を清めるメーノグがアーバーンのタネであると。それには亦、マーラスパンドの前に 36-15) 聖なる言葉でオフルマズドを言うことがあり、亦、賢いダイは住処の栄光の内に有る。37-1) 配列より言う、強い側面の正しい春の栄光を。亦、37-2) アナーヒードと亦、アーバーンの名代の父を。

邪悪の侵入の内の此の協働に於いて、命じて 37-3) 居た。亦た、此のメーノグたちの協働は栄光の多くのものを保つ（それらは）。第六に、37-4) メーノグたちよりホルダードと精神が、ゲーティーグの創造より水が、自身に対して 37-5) 受けた。それには亦、協働の援助に対してティールと亦、風、37-6) フラワルディーンが。その様に、ティールやティシュタルの、即ち邪悪の侵入の内に其の水が 37-7) 援助に於いてフラワルディーンが在る、其の所のただしいフラワフルを取る。37-8) メーノグたちは風に対して委任した。風は水よりかすかに 37-9) 配置された諸地域に対して移る。力の上に於いて協働を共に 37-10) 配置せしめる（それらは）。第七に、メーノグたちよりアムルダードを、それは亦、37-11) ゲーティーグの創造から植物を、自身に向けて受けた。それは亦、創造した、37-12) 援助と亦、協働に対して、ラシャンとアシュタード、ザームヤードの三つの栄光を。37-13) 其処のチンカール（チンワト）橋に於いて、其の邪悪の侵入の人間たちの所の靈魂は 37-14) 為された善い悪いに於いて計算せしめ、生き物の所のメーノグの無数の存在を 37-15) 其れらの協働に於いて配列して居た。その様に、空の内の所の其の 38-1) 星座たちの為に書いた。それは亦、中程の者たちの内の此れも夫々が 38-2) 五つの肢に於いての一つであり、亦、命運は夫々の一つの肢、一つのメーノグのそれに対して 38-3) 委任された。その様に、存在の所の朝のガーサーと亦、一つのメーノグは真昼のラピフウィン、38-4) 夕方のメーノグはウゼーリンのガーサー、夜の繁栄のメーノグ、それは 38-5) エーブスルースリン、メーノグはウシャヒン・ガーサーの所有を保つ（それらは）。38-6) それには亦、其れらも協働に於いて割り当てていた。ハーワンの本質は 38-7) ミフルに対し、亦、ラピフウィンはウルドワヒシュトに対し、ウゼーリンは与えられたブルズに対し、亦、38-8) エーブスルースリンは正しいフラワフルたちに対し、ウシャヒンはワフラムに対し、38-9) 邪悪の侵入の到来前に対して、常に真昼が有ったのである。38-10) 時に、邪悪の侵入が到って、日は此の五つの時刻に配置するのである。38-11) 邪悪の侵入の来る時の前まで、常に真昼が有ったのである。38-12) ラピフウィン、オフルマズドはアマフラスパンドたちと共にラピフウィンに於いて 38-13) 信仰のメーノグを先へと造った。信仰の内で全ての生き物の行為は 38-14) 打ち創られた。絆と共に人間たちのフラワフルは考えられた。38-15) 全てを知る知恵は人間たちに於いて先へと担われた。39-1) 言われたこと、即ち、汝らには誰でもより有用に思われた。時に、39-2) ゲーティーグに打ち対して（わたしが）創造するまで。亦、激しい行為にて悪魔と共に打ち 39-3) 戦い、悪魔を打ち破る。亦、汝らを終末に於いて 39-4) 正しい不死へと（わたしは）再び修復する。亦た、汝らにおいて再びゲーティーグに対して 39-5) （わたしは）造る。永遠のガーサー、不死、不老、敵はなくなるのである。39-6) 言われなかったことども。邪悪の侵入の永遠の防御はなされねばならない。それらには亦、39-7) 見られた、人間たちの所のフラワフルが。全てを知る知恵の其れに於いて。39-8) 悪魔やアフリマンからの邪悪がゲーティーグの内でそれに対して 39-9) 到る。最後に、邪悪からの敵がなくなり、善き 39-10) 不死の再びの

生起が最後の身体に於いて、常々にまで、行為の 39-11) ために、起こることに於いてある。

第5章：邪惡の侵入と生き物について

39-12) 邪惡の侵入の跋扈を、生き物に対して言う。教えに於いて即ち、ガンナーグ・メーノーグは 39-13) 時に、その自身の不活動で、全てのデーウたちは正しい人から 39-14) 見て愚かであった。三千年は愚かさについて 39-15) 横たわり、其の愚かさの内にデーウたちの頭目たちの主は、跋扈に跋扈、40-1) 喋って有った。即ち上に挙げられ、我らが父よ、其の其の戦いを為すもの。40-2) オフルマズドとアマフラスパンドたちの所の其の苦痛と害を。それには亦、40-3) 散らばらしめ、跋扈した。自身の悪業を細かく数え上げた。それには亦、40-4) 安穩なることなし。邪惡のガンナーグ・メーノーグの其れは亦、其のオフルマズドより挙がることはない。40-5) 正しい人間の愚かさと畏れのために、邪惡のジェフが来る時まで。40-6) 三千年の完全さに於いてほざいた、即ち、私と共なる所の父は起て、40-7) 戦いの其れの内に、正しい人間の上の痛みの程に。牛の所の 40-8) 耕作を（我は）捨てる。即ち、私の行為のために、生活は必要ではない。40-9) それらにおいて亦、（私は）衣服を打ち盗む。（私は）水を損なう。（わたしは）大地を損なう。40-10) （私は）火を損なう。亦た、植物を損なう、亦たすべてのオフルマズドが創った所の 40-11) 創造を損なう。それは亦、その悪業の如くに詳細に於いて勘定した。40-12) 即ち、ガンナーグ・メーノーグが打ち安らう、其の愚かさより、先へと有る。40-13) ジェフの頭は月の物の此の汚物を上に匂わせる。ジェフに於いて（それらが）呼ぶと、40-14) 見えるようになる。ガンナーグ・メーノーグがほざいたクソ呪文に対して、即ち 40-15) 其処で、欲望が今、（それらは）欲している。身体を（私は）造ると。扱、オフルマズドは 41-1) 全てを知る知恵に於いて知った、即ち、其の時に於いて其のジェフが 41-2) 欲する所の其のガンナーグ・メーノーグは能く創造すると。それは亦、其のより大きい利点に於いて 41-3) 其のガンナーグ・メーノーグの、近い場所を見るための肉体。それには亦、41-4) 十五歳程の若い男がジェフに向けて示された。ジェフの考えの所の其れは、それにたいして 41-5) 繋がれた。それについて亦、ジェフはガンナーグ・メーノーグに対してほざいた、即ち男がほしい 41-6) 我に対して与えよ（汝は）。それは即ち、権威に於いてわれらの内に（私は）打ち見せしめる。41-7) それは亦、ほざいた、ガンナーグ・メーノーグが。即ち昼から求めることを汝に対し（私は）言わない。41-8) 貪欲のジェフの邪惡な身体を（汝は）知れ。欲されたことは打ち去られた。其の 41-9) 時間は其れである、その時に、欲した夢の身体で有って有ることはでき無い（汝は）。41-10) 創造することは、爾後、導いた、ガンナーグ・メーノーグを力あるデーウたちと共に 41-11) 対抗する光どもに対して。それには亦、其の空が 41-12) 見られた。それらの其れはメーノーグ的に示される。時に、有ることはなくして、41-13) 創造されて居た。妬みは意欲的に攻撃した。空は 41-14) 星の駅に於い

て有った。虚空の所に対して下に 41-15) 引きだした。わたしの初めの所の起源に於いて書いた。即ち、光りの所の原初の信仰の間に 42-1) 闇どもが有った。この様に、即ち輝く守護者の上をこえて 42-2) 空の内側から清浄まで打ち在った。それには亦、蛇の 42-3) ような天空が此の大地の所の下に打ち起こった。先へと熟練を 42-4) 打ち壊した。フラワルディーン月オフルマズドの日、南に動いた内で 42-5) それには亦、天空はその様に、それには亦、打ち畏れられた、その様に 42-6) オオカミにより動物が畏れるように。水に対してミフル・ザムは言った、即ち、此の大地の下に 42-7) 設けられたものあり。それには亦、爾後、大地の中程は穿たれて、42-8) 内に来て、植物に対して来た、爾後、牛やガヨーマルトに対して 42-9) 来た、爾後、火の上に来たハエの如くに、全てに於いて 42-10) 亦、創造が打ち蠢いた。それには亦、世界はこの様に真昼に於いて 42-11) 堅固な闇が打ち為された。その様に暗黒の夜のように天空の下も 42-12) 亦た大地の上にも暗闇がなされた。亦たそれにおいて言われたこと、天空のメーノグが 42-13) ガンナーグ・メーノグに対して、即ち、更に遠くの時まで同じ防御が為されねばならない。42-14) 即ち、(汝は)破壊せよ。亦た、(わたしは) 打ち捨てる。亦、それによって水は異なる味の上に 42-15) 運ばれた。それには亦、水の所のメーノグに言われたこと、即ち、ワフマン・ウルドワヒシュト・43-1) シャフレワルの創造である。即ち、この様に私に対して到らせしめる。即ち、今、時に 43-2) 不幸、其のハエが来て、即ち、場所が在る。それには亦、大地は 43-3) フラフスタルたちの上に抛りだされる。その様に在っていた。亦、それによって打ち 43-4) 表わされて居た。毒で刺す所のフラフスタル、その様な悪さをする 43-5) 蛇や亦たサソリ、トカゲ、カメなどなど、即ち、尻の針は示された腿 43-6) から逃れられない。それには亦、大地に言われた、即ち、其れら悪意ある者たち 43-7) 此の創造に於いてそれらの其れを造る、執念深さに到ったものを。亦たそれによって毒植物は 43-8) この様に上に運ばれ、同じ時間が打ち萎れた。亦たそれによって植物のメーノグに言われたこと、43-9) 即ち、彼の所の其れに於いてガーフの畏れが、オフルマズドの植物を 43-10) 生長させる。それには亦、水と亦、全ての欠乏と亦、無数の痛みと欲望と睡眠が。43-11) 亦、牛に於いて亦た(私は) 創らせる。主は先へと置いた。牛に対するミフルより前に、43-12) オフルマズドの癒しの所のヒヨス、其れはブズと呼ばれる所のそれで在る。牛に対して 43-13) 食べるために創られた。目の前に打ち知らせた、43-14) 即ち、毒は打撃より罪と傷害と少しの不幸が有ると。43-15) 同じ時に於いて弱さと亦た病とが有った。横になり打ち行って、先へと 44-1) 過ぎた。それは亦、牛に言われた、即ち、動物たちの所の其れは創造であり、其れらの 44-2) 行為、勝れた働きを命じつつ、前にガヨーマルトに対しての所のミフルによって 44-3) オフルマズドの睡眠はガヨーマルトの上に先へと運ばれ、長さのそれ程に 44-4) 一偈を打ち言う。本質が創造された。オフルマズドの其の睡眠は、44-5) 高い光の十五歳の人間の身体に於いて、時に、ガヨーマルトは 44-6) 睡眠より先へと有った。大地の夜のような暗黒の世界を見て、44-7) 針のような悪夢のフラフスタルたちの跋扈が、免れ

ること無く 44-8) 在った。天空は太陽と月の転回に対して、運行に対して 44-9) 在る。亦た、音が有った。世界は悪魔、マザンたちの所の唸り声から 44-10) 星座たちと共なう所の戦闘（である）。それには亦、ガンナーグ・メーノーグの思ったこと、44-11) 即ち、私によってオフルマズドの生き物たちはすべて無力となる、44-12) ガヨーマルトを除いて。それには亦、（汝は）有らしめよ。それには亦、七千のデーウ、44-13) 死の働き手たちをガヨーマルトに於いて先へと置いた。それらには亦、44-14) 時間は、限界までのために治療を打つために得られた。その様に、言う、44-15) 即ち、原初の創造に於いて、ガンナーグ・メーノーグが邪惡の侵入に対して来た時に。45-1) ガヨーマルトの所の其の時を（それらが）生きる所のそれを、主は三十歳に対して亦、創造する。45-2) その様に言われた、爾後、邪惡の到来より三十歳を生きた。45-3) 亦、それによってガヨーマルトに言われた、即ち、今、時に、邪惡の侵入の来たるに、人間は 45-4) 私の種より有る。此の善い一日より、時に、行為と亦、功德を 45-5) 為すに、爾後、火の所に対して来たるに、それには亦、暗闇をはなれて混合した内に、45-6) 惑星たちの七惑星は多くのデーウたちと共に同じ 45-7) 行いどもを天空の星座たちの戦いに対して混合して 45-8) 居た。それには亦、全ての創造はこの様に汚された。その様に、時に 45-9) 火よりすべての場所の煙が上に得る。盗むことに対しても、45-10) ガーフは混合して有った（それらは）。亦た、戦って有った（それらは）。九十昼夜を、45-11) メーノーグたち神々はガンナーグ・メーノーグとすべてのデーウたちと共にゲーティグの内で、45-12) とともに戦闘に在って有った。神々が打ち負かしたことまで、地獄に対して 45-13) 投げる。天空の護りを為した。即ち、邪惡が 45-14) それにたいして混合することができない。地獄は大地の所の中程の内に 45-15) 其処に、即ち、ガンナーグ・メーノーグが大地を穿って、それにたいして跋扈した内に、46-1) その様に全てのゲーティグの物は二元に於いて仮初の相反するもの、亦、戦いつつ 46-2) 上に落ちて、亦、混合が再び明らかとなる。46-3) 此れも言われる、即ち、等質の牛がただ一つ創られた時に、先へと 46-4) 過ぎて、右手に於いて落ちた、ガヨーマルトは、爾後、等質の其れが 46-5) 打ち過ぎた、左手に於いて地獄の方へ。その様に唯一の牛の靈魂。46-6) 牛の身体の外より欠陥は来た。牛の前に 46-7) 打ち置かれた。二千程の等質の人は一時に於いて声を保つ、46-8) オフルマズドの所に対して不平を言う、即ち、汝の生き物の摩擦する者たることの、其の 46-9) 打ち置かれたことに於いて。時に、大地の城壁が内に横たわるに、植物は渴き、46-10) 水は損なわれ、即ちそれは有る。其の人間は汝に其れを言った。即ち、（私は）創造する、46-11) 防御まで。亦、打ち言う。亦、それによってオフルマズドに言われた、即ち、病が 46-12) 汝に有る。地獄の方へガンナーグ・メーノーグの其れよりデーウたちの悪意と亦、病とを 46-13) 上に（汝は）運んでいる。さて、汝において亦た其の人間は此の時の内に先へとデーウたちを 46-14) 創った。ガンナーグ・メーノーグは此の圧迫では有ることは無い。今や、46-15) 先へと行った地獄の方へ、星の駅に於いて不平を言い、同じく 47-1) 先へと、月の駅まで不平を言い、同じく太陽の

47-2) 駅まで同じく不平を言う。亦、それらによって、爾後、ザルドフシュトのフラワフルは 47-3) 打ち明かした、即ち、(私は) 打ち創造する。ゲーティグに対して、其の防御を打ち 47-4) 述べる。満足が有った。地獄の方向を亦、受け入れた。即ち、生き物を 47-5) (わたしは) 打ち養う。即ち、動物に於いて再びゲーティグに対して創造は 47-6) 同意されるもので有った。密接な対立である二つのメーノグ、其れはなぜなら 47-7) (それらの) 方法の欠陥が有る。メーノグのガーフは対立に於いて悪たち、デーウたちの頭目。47-8) メーノグたち、神々に対し。その様に、アフリマンは 47-9) オフルマズドに対し、アコーマンはワフマンに対し、アンダルはウルドワヒシュトに対し、ソーワルは 47-10) シャフレワルに対し、ナカヘドはタルウドミフズに対し、カッル・トンドはスパンダルマドに対し、47-11) タイレウはホルダードに対し、ザイリクはアムルダードの所に対し、ヘシュムはスローシュに対し、47-12) 嘘と欺瞞は真実の所に対し、法の逆恨みの 47-13) は聖なる真言に対し多く有った、亦た欠乏は 47-14) 善い教えの所に有る節度に対する。悪思、悪語、悪業は 47-15) 善思、善語、善業に対し、死魔の其れが亦た悪の三つを 48-1) 命じて有ることは、ラーム(平和) が有って亦、善に係わる三つに対する。48-2) (それらが) 汚すことの欲望は内なる智慧に対する。靈魂の有る心の維持は 48-3) メーノグの心の維持に対し、靈魂と神であることは勤勉に対し、48-4) 怠惰は睡眠に対し、亦た、悪意は平和に対し、亦た、痛みは 48-5) 安らかさに対し、戦いは芳香に対し、苦みは光に対し、48-6) 毒は不死に対し、亦、苦みは甘さに対し、ケチは寛大に対し、48-7) 亦た、羞恥の塊はすべての生き物を吹くことに対する。冬は 48-8) 夏に対し、寒さは暖かさに対し、乾燥は湿潤に対し、48-9) 地獄たることは天国たることに對し、亦、罪は公正に対し、異端は 48-10) 正しさに対し、老年は若さに対し、亦、夜は昼に対し、亦、48-11) 冷酷者であることは誤れる生き物の廃退であることに對する。48-12) 撃破は氣前の良さに対し、亦た、汚物はスローシュの清浄さに対し、48-13) 鋭い縁は浄化に対し、不満足は満足に対し、48-14) 他の価値ある利益は法に適った利益に対し、48-15) その様に、デーウたちやドウルズたちや魔術師たちや悪魔マザンたちは 49-1) 神や主やアマフラスバンドたちに対する。ゲーティグの内でも、暗闇は天空に対し、49-2) 渴きは限りない水に対し、亦たフラフスタルの大地の形に対しての其れは 49-3) 植物に対し、空腹と渴きは動物たちに対し、亦、死と危険は 49-4) 謙虚な夜に対し、痛みの型は人間たちの委託に対する。その様な 49-5) 動きは火の等質の所の其れに対する。人間と亦、動物を 49-6) 焼き、その肉体的乾燥に於いて。ライオンとオオカミ 49-7) の類や盜賊たちは犬たちに対し、動物たちの其れは 49-8) 魚たちに対し、他の有翼のフラフスタルと共にフクロウは 49-9) 鳥たちに対し、異教の邪悪なものたちは正しい人々に対しジェフは 49-10) 婦人たちの所に対し、武装した罪深いものは武装した正しいものに対し、49-11) 後悔の嘘は他の存在を行うことの関連に対し、49-12) ゲーティグ的な悪魔ドウルズは神々の力に対して来て有る。亦た、49-13) 闇の天空のミフルは太陽に対し、闇の月は動物のタネが来て有る所の月に対し、49-14) 亦、それ

らにおいて自らに対して 49-15) 縛られて有ることはない。同じ期間に於いて、他の魔術師たちが 50-1) 魔女を伴った者は善い汝を破壊した。夫々のものたち、惑星たち、星座たち、50-2) 七つの亦た惑星たちの将軍たち、星々、その様に、50-3) ティールはティシュタルに対し、オフルマズドの惑星はハフトーリングに対し、50-4) ヴァフラームの惑星はワランドに対し、アナーヒードの惑星は 50-5) サドウェースとケーヴァーンに対し、其の惑星たちの将軍たちの将軍は 50-6) 天空の中間の所のより大きいものに対し、ゴージフルも、亦、魔女のことは尻尾を持つものが。50-7) 太陽や月、亦た、欠陥を持った者の顕示である太陽に対し、50-8) 魔女によるそれは自ら有能な名声に繋いだ所の戦車に対す。50-9) 期間、即ち罪が為されることまで、わずかな力を見た。時に、放たれて 50-10) 有るに、再び為されることまで、多くの睡眠が割り当てられた。50-11) 雲の駅の内にも、不服従の特徴が協働の表明の火に対する。50-12) デーウはティシュタルに対し、協働者たちはティシュタルまで、国々と 50-13) 亦、同じ入れ物である。デーウたちは雨風などに対し、神々の主たる者たちの 50-14) 欠陥が有る（それらは）。それらには亦、長い詳細が、それらには亦、靈魂の戦いが。50-15) 動きと期間とに対し信仰の群れなるものもまた明らかとなる、世界の星座の上に。

第6章：月の宿りについて

51-01) 即ち、み教えも興す。み教えに於いて言われる、即ち、フラワルディーン月、51-02) オフルマズドの日の南、時に、昼と夜が同じに為って、51-03) 邪悪が跋扈する靈魂たちの内に有った。十九のカルザング（蟹）は 51-04) 清らかな月宿の内にすぐれて白く 51-05) 見えた。ティシュタルの星の内、51-06) 惑星たちよりオフルマズドは内に 51-07) 有った。サグル（獅子）のより小さいものたち、亦 51-08) ホーシャグ（乙女）の兄弟たち、礼拝の父たちの 51-09) タラーズーグ（天秤）、ケーヴァーン（土星）が内に現れた。ガズドゥム（蠍）の子供たち、亦、ネーマスプ（射手）の 51-10) 部分たち、ゴージフルの離れた尻尾は内に現れる。婚礼のワヒーグ（山羊）には、51-11) ヴァフラーム（火星）が内に現れる。数々のドール（水瓶）は彷徨い、マヒーグ（魚）にはアナーヒータ（金星）と 51-12) ティル（水星）が内に現れる。空の只中、ワツラグ（牡羊）にはミフル（太陽）が内に、月宿に於いて 51-13) 幸せのガーウ（牡牛）には内のマーフ（月）も、その多幸のドーパヒカル（双子）には 51-14) ゴージフルの頭が内に現れて有った。それらが惑星たちより 51-15) その様にこの形に於いて空の内に、52-01) 跋扈して有った。亦、惑星たちと共に戦いに対して 52-02) 在って有った。暗闇のミフルとマーフは光の太陽と月に対し、52-03) 主オフルマズドは惑星のハフトーリングに対し、52-04) 将軍アナーヒータは南のサドウェースに対し、亦 52-05) 将軍ヴァフラームは西のヴァランに対し、将軍の 52-06) 亦、ティルは東のティシュタルの所に対し、将軍ケーヴァーンは 52-07) 空の中のより多くに対しして将軍たちの軍が有った。52-08) 全ての空に於いて同じように惑星たちより、東のティル

šagr ♌ 獅子座 tīl ♀ 水星 hōšag ♊ 乙女座	karzang ♏ 蟹座 ohrmazd ♃ 木星	dō-pahikar ♊ 双子座 gōzihr 頭 51-14参照 gāw ♉ 牡牛座 mäh 月
tārāzūg ♎ 天秤座 kēwān ♄ 土星	āb 水 zamīg 地	warrag ♈ 牡羊座 mihr ☉ 太陽
gazdum ♋ 蠍座 nēmasp ♏ 射手座 gōzihr 尾 52-13参照	wahīg ♈ 山羊座 wahrām ♂ 火星	mähīg ♓ 魚座 gōzihr dōl ♒ 水瓶座

星 惑星たちより

52-09) 西のヴァフラーム將軍、南のアーナーヒータ將軍 52-10) 北のオフルマズド將軍、將軍ケーヴァーン、52-11) 將軍たちの將軍、暗闇のミフルとマーフ、暗闇の者どもの主 52-12) が現れて有った。ゴージフルは空の中程に打ち在った。52-13) 蛇どものような頭はドーパヒカルに於いて、亦、尻尾はネーマस्पに於いて、亦 52-14) その様に、頭と尻尾の間に於いて全てで五十六の星が有った。52-15) それには亦、地獄が爾後に対して。夫々の十年、其処に、即ち頭と尻尾 53-01) 其処に即ち尻尾と頭が再び有る。魔女の言葉には、尻尾を 53-02) 持ち、羽根の有るのが現れる。太陽は自らの戦車の所に対して繋がれ、即ち 53-03) 更なる罪は為され得なく為った。時に、53-04) 解放が再び元に来て、同じ目のものであることまで、太陽とミフルは在る。53-05) 多くの邪惡に繋がれた、世界に於いて為す。其れらの惑星どもより 53-06) 魔女の言葉での暗闇のミフルが、同じ期間に於いて、太陽の下に 53-07) 混交の内に、暗闇の太陽と月が 53-08) 月の戦車に対して繋がれていた。

他の第二は太陽の同じ戦車に 53-09) 身体を長い富に於いて繋がれていた。53-10) それらには亦、其の期間より保つことはできない。其れは亦、53-11) ケーヴァーン、オフルマズド、ヴァフラム夫々一つの所の二百八十、53-12) ミフルとティルより千八百五十リピーに於いて、アナーヒータは 53-13) ミフルとティルより二千八百五十リピーに於いて、アナーヒータは 53-14) 二千八百三十一リピー、ミフルより繋がれていた。53-15) 此の惑星たちは空の内に恒星たちの十二の家に於いて、54-01) 夫々一つの家に障害が跋扈し、亦、下降と三つのターム 54-02) 開けたところの方向、亦、憂い、亦、他の多くのか形の場所とガーフ、54-03) 自身が明かされている。季節の動きの全てが、54-04) 恒星たちに打ち対して、目に見えるように明らかに、乱される。亦、上に 54-05) 下になって、亦、現れ、増えることを為す。それらには亦、動かず、その様に 54-06) 恒星たちは、其れは時に、素早く有り、長く有り、亦、時に、54-07) 戻る動きあり、時に居ることあり。それらには、亦、54-08) 惑星たちとの名付、是は即ち、恒星ではない。それらには、亦、54-09) 此の光、それには亦、オフルマズドのものの半分の光がみえる。54-10) 邪悪な者たちのやり方、ゲーティグの所の着物、其の着物 54-11) が有り、その様な光がフラフスタルたちの眼の内に、それは亦 54-12) 有用なもの、それは亦、一つの此れは、即ち其の光の所に覆うことの 54-13) ために罪を為すことは多くはできない。一つの此れは、即ち、無常の人である。54-14) それは亦、過ぎ越すことはない。此の恒星のように、ティルまでのように、54-15) 其れは彼らデューウで有り、年寄りで亦、邪悪を為すものである。55-01) 時に、虚空の内に流れるに、其の光は虚空に尻尾を与え、明らかに 55-02) 為る。

第7章：恒星について

教えに於いて言う、即ち、時にその一つの悪魔の其れが打ち見て、55-03) 今、若い目が打ち進んだ。そして、ハルボルズの山、55-04) 周囲の世界、峰の山の中程の世界を太陽が廻り 55-05) 冠のような世界の周囲の清らかなハルボルズ山の上に 55-06) 峰の周囲を再び廻る。その様に言う、即ち、55-07) ハルボルズの峰、其れの我が所の其れから、太陽、月、亦、星が(ある。) 55-08) そして、再び廻る。其れは百八十の窓が東に於いて、百 55-09) 八十が西に於いて、ハルボルズに於いて太陽は夫々の日、一つの窓に於いて 55-10) 内へ来て、一つの窓に於いて打ち出る。月と恒星たちも、55-11) 惑星たちも、全て繋がれ、亦、彼に対して動きつつ。夫々の日より三つの陸地と 55-12) 亦、半分に常に注ぐ、目に見て明らかなように。即ち、夫々の 55-13) 一年に二度、昼と夜は等しく、其れは元の戦いに於いて、時に 55-14) 其れが初めに牡羊の月宿を先へと進んで、昼と夜が 55-15) 同じに為った、春の期間。亦、爾後、時に、対するに、まず、56-01) 蟹の月宿に到達して、昼々は最も長く、夏の元。時に、56-02) 天秤が月宿に対して到達して、昼と夜は同じく、其の秋の元。56-03) 時に、山羊の月宿に到達して、夜々は最も長く、冬の元、56-04) より新たな。時に、牡羊に対して到達して、夜と昼は同じく、56-05) 再び為った。その様に、牡羊より

先へと廻って、再び牡羊に対して 56-06) 到達するまで、三百と六十日、亦、ガーハニーグの五日に於いて 56-07) 無限に於いて打ち来、亦、打ち進む。昼に就いて言われている、56-08) 其れは、若し打ち言わば、今、デーウたちの身体は打ち知られた。56-09) 今、傷害が良く齎された、今。其処、即ち、太陽より、56-10) 最も長い昼に於いて上へ来て、最も短い昼に於いてまで、上へ 56-11) 来る。東の大陸アルザフは其処より、即ち最も短い昼に於いて 56-12) 上に来た。最も短い昼に於いてまで、打ち進む、56-13) 南の大陸のフラダダフシュとヴィーダダフシュを。其処より、即ち 56-14) 最も短い昼に於いて内に進む。最も長い昼に於いてまで、内に進む。西の 56-15) 大陸のサワーフ、其処より即ち最も長い昼が来た。57-01) 最も長い昼に於けるまで、内に進む。北の方の大陸、ヴォールー 57-02) バルシュトとヴォールージャルシュト。時に、太陽が上に来て、57-03) アルザフとフラダダフシュとヴィーダダフシュとフヴァニラよりの一つの半分を照らした。57-04) 時に、其の闇の側の内に進む。大陸のサワーフ 57-05) ヴォールーバルシュトとヴォールージャルシュト、フヴァニラよりの一つの半分を照らす。時に、此処 57-06) 其処の昼は夜であり、其れは闇の山のために明らかな夜を与える。57-07) 始りに於いて、時に、邪が内に蠢いて、その様に現れ、来たる暗闇の月まで 57-08) の間、時に車を伴った太陽と月のために 57-09) 罪の業を為すことはできない。亦、ハフトーリングとサドヴェーズはオフルマズドと 57-10) アナーヒータにより多くの力が起こっていた。それらのオフルマズド 57-11) 亦、アナーヒータは罪を為すことより抑えられて、同じ理由の為に 57-12) 恒星の仲間たち其れらの為に、恵み深さに於いて呼ばれている。ヴァフラーム 57-13) 邪とケーヴァーンより、ガーフの大いさより、更により強く起きている。57-14) それらの罪深さは明らかで、睡眠の為に。占星術師たちは 57-15) 其れらの罪人に於いて数えさせる。亦、ティルがあり、デーウの仲間 58-01) ティシュタルの所に対して来て、全て二の様に誤りを為す（それらは）。力が起きていた。58-02) 此の為に占星術師たちは言う、即ち、ティルは恵み深く難しい功德と共に、58-03) 亦、罪深い者たちの罪深さと共に有り、其れをその様に言う（かれらは）。58-04) 即ち、ティルの仲間も同じ理由の為に、言われる、即ち、命の星、オフルマズド 58-05) 亦、死の星、ケーヴァーン。何故なら、オフルマズドは豊かで 58-06) 清浄な心を内に、立ち向かう為に、其れを割り当て、58-07) 命の意志と亦、流れと亦、富を創造する。ケーヴァーンは裁きを 58-08) 立ち向かう為より、其れを為す、此れに対して邪悪と死と 58-09) 賤しさと貧しさ、終わりと邪悪を。言う、即ち、58-10) タネを持つアナーヒータ、その故にサドヴェースに立ち向かう、水とタネ、58-11) などなど。風に関わるティルは言う、其れはティシュタルの立ち向かい、亦、風 58-12) 雨の行為者たち。扱、此れは即ち、邪悪なものが来ることまで、その二千 58-13) 年の期間が過ぎていた。三千年はメーノーグの、三千 58-14) 年はゲーティーグの、清浄さの内に其の六千年が、ワツラグ（おひつじ）より 58-15) ホーシャグ（おとめ）まで、夫々の恒星の千年の統治がなされた。59-01) 統治の千年間、タラーズーグに対して来ること、転落（ニシェーブ）

が有り、それが転落の到来である。59-02) 障害（ペトヤーラグ）は、下より内に跋扈した。ケーヴァーンはタラズグに於いて現れ、59-03) 自身の高揚（バーリスト）に於いてあった。その所のタラズグの為にケーヴァーンは千年間の 59-04) 統治を享受した。タラズグの様に、ワッラグの上にケーヴァーン、暗闇の主。59-05) ミフル、光の主あり。その所に対して暗闇の 59-06) 障害（ペトヤーラグ）あり。その様にも、タラズグの高揚（バーリスト）、ケーヴァーンの転落（ニシェーブ）の到来が。59-07) ワッラグにはミフルの高揚（バーリスト）とケーヴァーンの転落（ニシェーブ）あり、秘密の仲間たる、59-08) ケーヴァーンの軌あり、タラズグの所の其れも、内にあり、其の千年間は最も高く、59-09) また我が偉大になっていた。太陽、光の主も 59-10) 全ての恒星の上に、暗闇の主ケーヴァーンと 59-11) 全ての惑星たちの上にいた。爾後、其処より、即ち太陽が 59-12) 先へと進む、再び其の場所へ来たるまで、一年に於いて 59-13) 数える。三百六十と五にち、五の時と月宿、其れは 59-14) 夫々一日が二十四の時などなど、暗い大地と明るい大地がある。夜 59-15) と昼、五つの時（ガーフ）、夜々の明らかな日はつくられ、その様に、60-01) 戦いのように全ての生き物は自らの仇と共にあると学べ！日は 60-02) 夜と共に。其の六月は夜より増えて、昼に対して向かい、60-03) 六月は増える、昼より夜に対して。他の星占いの 60-04) 明らかさが。しかし、細かいことの明らかさを保つ者、其れは其の善き教えのマズデースンたちの 60-05) 此の輝きの現れ（である）。山と空の創造、其れは偽りのない所の道 60-06) と呼ばれる。ゴージフル・マールはその様に空の内に、亦、上に詳細に 60-07) 為された所の戦いの上の行為のこと、そのゲーティグの創造は、60-08) ガンナーグ・メーノーグに対する。

第8章：邪惡の侵入と第三の戦いまで

教えに於いて言われる、即ち、ガンナーグ・メーノーグは 60-09) その様に、跋扈と亦、目的のある創造の生き物の勝利の内に 60-10) 神々と亦、自身の力を見て、我に再び跋扈を望んだ。60-11) 空のメーノーグはその様に素早い戦士の所の其れ、其の 60-12) 金属の鎧を自らの所に持っているところの。空の 60-13) ガンナーグ・メーノーグの所に向けて打ち設え、誓いを保ち、60-14) 時にオフルマズドの我が強い守りまで、空より 60-15) 空の周りに打ち為す。それは亦、戦士のフラワフル 61-01) 馬と長槍を手にした、正しい者たちの英雄が、其の周囲の守護を、61-02) この様に打ち託された。その様に、頭の上の髪の毛に似たように、61-03) 彼らのやり方、其の防御は、猛き所の守りを引き抜く。其の 61-04) 防御は彼らの正しい者たちのそれに対して有る。一つの正しい者たちの 61-05) 知識と呼ばれる。それは亦、手に入ることがない、ガンナーグ・メーノーグの 61-06) 地獄へ戻る道を。それは亦、デーウたちの摩擦の無効であり、61-07) 自身に於いて。この様に、光を打ち見た、その様なオフルマズドの終の 61-08) 自らの勝利とフラシャギルドを、行為と生き物と常々までの 61-09) 振舞いを、此の始りの戦いに空のメーノーグがガンナ

ーグ・メーノーグと共に 61-10) 為したことまでを。第二の戦いは水を為した。其れより、その様に、ティシュタル 61-11) 星は水生のカルザング（蟹）に於いて、最も優れた月宿に於いて、呼ばれる。61-12) 知識が有った。同じ日の内に、時に邪悪の侵入が、跋扈の内に再び 61-13) 夕方の所に対する、西方に於ける、現れの所に対する上に 61-14) 来た。其処に、夫々の一月ほどに一つの恒星が持ち主である、ティール月は 61-15) 第四、そのマヒークは年より、亦、蟹は第四 62-01) 一つの恒星はワツラグより、その様に、持ち主カルザング（蟹）が、其れはティシュタルが 62-02) 内に有り、雨の印の働きが示された。それは亦、水が 62-03) 上方、上に対して有らしめる。協働者たちの風の魔力に於いて 62-04) ティシュタルと共に在ってあった。ハオマを齎すヴァフマンは 62-05) ブルズが齎す導きに於いてフラワフルの知恵の協働に於いて 62-06) 調整の期間に於いて。ティシュタルは三つの身体に於いて打ち変わる。62-07) 人の身体、馬の身体、牡牛の身体まで、三十の昼と夜々に 62-08) 光の内に動いた。夫々の一つの身体に於いて十の夜、亦、昼があり、雨を 62-09) 為す。その様に、占星術師は言う、即ち、夫々の一つの恒星は 62-10) 三つの身体を持つと。其れと亦、あめは夫々の一つの雨粒の程、一つの鉢の所、62-11) 水を満たした一つの大きな容器、水を上に見出した。全ての地上に人の高さと同じ水 62-12) が打ち在った。全ての大地のフラフスタルたちの其れは、其の雨に於いて 62-13) 打ち殺された。外に羽根のある所の僅かな者、其れは地上の穴の場所に於いて 62-14) 内へと行って有った。爾後、風のメーノーグはその様に、同じく有って、62-15) 昼を齎すことなく在る。その様に、身体の内之魂のように動く。一つの空気の風は 63-01) 先へと動いた。それには亦、汚れを其の水が全て打ち払った。63-02) 地面の際に打ち対して運んだ。海を豊かにした。それには亦、63-03) 有った。其の死んだフラフスタルは地面に於いて内に留まった、それには亦、63-04) 優れた物と亦、汚れた物は地上に於いて混ざってしまった。其の優れた物を地上より打ち運ぶことの 63-05) 為に、ティシュタルは長い尻尾の白い姿の馬に於いて 63-06) 海の内に入りて行った。それには亦、アパオシュ・デーウが似たような 63-07) 其の短い尻尾の黒い馬に於いて、向かって打ち流れる。それには亦、63-08) フラザング。ティシュタルは悩みに於いて打ち導かれた。ティシュタルは 63-09) オフルマズドの集まりを尋ねた。オフルマズドは兄弟の集まりの上に運び、63-10) その様に言う、即ち、ティシュタルには、同じ時に於いて十の若い馬、63-11) 亦、十の若い駱駝、十の若い牡牛、十の山、亦、十の川の 63-12) 力が来てしまうと。(7-10) それには亦、フラザングのアパオシュ・デーウは 63-13) 悩みに於いて打ち流された。一つの為に其の理由に於いて三十の矢となり、其の 63-14) ティシュタルは同じ強さであると言う。爾後、水差しである所の雲の 63-15) 其の働きの普通の一つの力はその様に言う。水は 64-01) 上を取る。亦、より多くに分かれ、雨降らせる。牡牛の頭の雨粒に於いて 64-02) 大変な深さ、亦、強い深さ、多くも、亦、少なくも、64-03) 其の雨の働きの内に。アスピンジローニーフと亦、アパオシュは戦って 64-04) いる。ヴァジシュトの火は棍棒を上にも雨降ら

した。亦、水を注がせた。64-05) 雲たちの内にアスピンジューローニーフは其の棍棒より殴ることを作った。一つの行為が 64-06) 為された。その様に、今も同じ其の戦いが雨の働きに於いて 64-07) 二つの部分と亦、稲妻が見られる。それには亦、十の夜と亦、昼が其のような 64-08) 雨に於いて為された。その善い者と地上の内のフラフスタルが有って、全て 64-09) 其の水の内に打ち混ぜた。其の我が多くの水は塩辛く打ち 64-10) 為った。其れは地上の内に打ち留まった。其のタネよりフラフスタルは常に 64-11) 敵を為す。爾後、亦、風と其の水は同じように全き三日まで 64-12) 大地の隅々に於いて再び置かれた、水の三つの海と 64-13) 小さな海である湖が、それには亦、有った。海の所の二つの泉と、それには亦 64-14) 現れに向けて来た。一つはチェザスト、一つはソウル、それらには其の 64-15) 水源は、海である泉に向けて繋がっていた。(7-15) それには亦、65-01) 北の側より二つの川が打ち流れた。一つは、始めの所に対して 65-02) 東、一つは西に対して行って有った。有る所のそれはアルワンド 65-03) 川、ヴェフ川。その様に言う、即ち、其れに於いてオフルマズドの指の深さ。65-04) 二つの水の流れは打ち進み耕し、亦、其の二つの川の何れもが 65-05) 二つの何れに於いても大地の峰が打ち廻らしめて、海に於いて豊かにした。65-06) 再び同じ所に対して混ぜた。亦、時に、其の二つの川は流れた。さらに、65-07) 爾後、其れらの同じ水源より十八の川が夫々に 65-08) 打ち流れた。爾後、他の諸水は夫々の其れより、65-09) それは先へと流れて有った。其れらも全て再びアルワンドと亦ヴェフに対して 65-10) 注がしめる。善い水は世界の夜に多く、生き物たちの在り方の其れも、65-11) それには亦、有った。此の始めの戦いは、川の水を 65-12) ガンナーグ・メーノグが壊した。三度目の戦いの時、その様に穢く為した。65-13) 跋扈した内に大地は打ち揺れた。山の所の其の物質は大地の内に創られて 65-14) いた。揺れに於いて亦、大地は同じ時に、山は動きの所に対していた。65-15) 始めに神のハルボルズが亦、配された。爾後、他の山々が大地の所の間に 66-01) 其のハルボルズの様に先へと育った。ハルボルズと全ての山は動きへ対して 66-02) いて有った。其の全てのハルボルズの根っ子より先へと 66-03) 育って有った。其の時に於いて大地より上へ来て有った。66-04) 木々の様に其の彼の枝、根っ子を下へ向けて走らせる。66-05) それらの亦、根っ子の一つが内に更にその様に打ち過ぎた。絡み合いが 66-06) 打ち留まって有った。爾後、其の大地より場所に於いてそれにたいして揺れさせること 66-07) ができない。

第9章：邪惡の侵入と第四・第五の戦いについて

教えに於いてこの様に言う、即ち、山と水の繋がり、大地、66-08) 他の水たちの所の道、山々の根っ子である山の内に、下と亦 66-09) 上に打ち捨てた。それには即ち、それへ内に注ぐ。この様にその様に 66-10) 木々の根っ子が大地の内に行く様に。血液の様に 66-11) 血管の内に其れが力を全ての身体に与える。常に於いてハルボルズより離れて 66-12) 十八年の所に於いて。十八年に於いて全ての山は 66-13) じめんより上に来たって有った。

其れは援助と亦、役立つこと、66-14) 人間たちの所の。それには亦、その様に言う、即ち、先へと創造して 66-15) いた。僧侶たち、戦士たち、家長たちに対しての力に於いて、67-01) 始めの大地の戦いは、ガンナーグ・メーノーグと共に為された。亦、第四の戦いは 67-02) 植物に為された。其れは乾きの時に、アマフラスパンドのアムルダードの所が打ち有った。67-03) それにはその様に、植物自身が其の植物の月宿の方に 67-04) ティシュタルの水と共に取り、打ち混ざった。ティシュタルの其の 67-05) 水は全ての大地に於いて打ち雨降らせた。全ての植物に於いてその様に 67-06) 打ち育った、その様に人間たち頭に於ける髪のように。それには亦、67-07) 一万の、それには亦、元となる所の類の一つが先へと育って有った。67-08) 再び保つことに於いて一万のガンナーグ・メーノーグの邪悪が生き物たちに対して 67-09) 作られた、其の一万千百と亦三十より。種類は植物の種類の中にさきへと 67-10) 育って有った。其の全ての多く植物たち等々のタネより、タネは 67-11) 先へと創られた。海の所の内に豊かに為った。上に育った。時に、全ての 67-12) 植物の種類は其の様々なタネに於いて、それには亦、常に育てて、初めに 67-13) 様々な所の善い糸杉の木に向けて打ち創った。再び、悪い父の年寄りを保つことに於いて 67-14) それには亦、世界の所の一杯の援助が、それには亦 67-15) 有った。此の初めの植物の戦いはガンナーグ・メーノーグと共に為した。68-01) 第五の戦いは、唯一の所の牛を為した。その様に先へと過ぎた。68-02) 植物も保つものの為に、其の牛の所の全てより、七十五種類の 68-03) 穀物と亦、薬草の十二種類が、大地より生えて有った。68-04) それらには亦、病んだ所の光が牛のタネの内に有った。月に対して 68-05) 渡し委ねた。其のタネは月の光に於いて浄めに於いて、併し、68-06) 全ての場所の種類が打ち整えられた。穀物は内に為された。其処より一番いの 68-07) 牛、一つはオス、一つはメスで、爾後、全ての種類の三分の一、その様に 68-08) 二百と八十二種類がニフラサングの大地に於いて、

第 10 章：邪悪の侵入と第六の戦いについて

其の様に教えに於いては 68-09) 十八ハーサルと言う。先へと見える様に為って有った。68-10) 動物たちの住処は大地に於いて、ならず者たちは人混みに於いて、亦、魚は 68-11) 水に対して泳いで有った。其れは多くの育みに於いて内に、それには亦、68-12) 有った。此の初めの牛の戦いはガンナーグ・メーノーグと共になした。68-13) 第六に、此の初めのガヨーマルトの戦いを為した。其れよりその様に、68-14) ガヨーマルトの所の空に於いて明らかと為った。即ち、邪悪の内に 68-15) 恒星たちの戦いに於いて三十年を経た。その様に言われた、同じ者たちの前で 69-01) 邪悪の侵入より、即ち、強いガヨーマルトが、三十年の冬の生活に対して、亦 69-02) 統治権を創った。邪悪の侵入の所の来たることに於いてオフルマズド星（𐌵）は 69-03) 水生のカルザング（𐌺）に於いて、自らの所の高揚に於いて、強さを、それには其の 69-04) 内に敵の為に靈魂の所のガヨーマルトの生活に対して創る。69-05) ケーヴァーン星（𐌶）はタラーズグ（𐌺）に於いて同じ所の場所

に於いて、爾後より 69-06) 大地の下の水は自身のバーリスト（高揚）に於いて、それには其の所の水のない所の起こったこと。69-07) 上には同じ罪の為に死を創り有った。オフルマズドは 69-08) 自らのバーリスト（高揚）に於いて、靈魂たちの水、ケーヴァーンの上の勝利の為に 69-09) 其の死がガヨーマルトより打ち拒絶された。三十年まで、時に再び 69-10) ケーヴァーンが再びタラズグに対して来た、それには時に自らのバーリスト（高揚）が 69-11) 其の時に於いて、オフルマズドは起こった場所に於いてそれには即ち、自らのニシャスト（抑制）が 69-12) ケーヴァーンの勝利より上に、オフルマズドの為にガヨーマルトの死が 69-13) 上に来た。左の手に於いて落ちた。内に打ち過ぎて、十三の 69-14) タネがじめんに対して内へと行った。その様に、今も、過ぎた十三は全て 69-15) 人のタネへ打ち注がせる。其れにより、その様に牛とガヨーマルトは 70-01) 金属より為されていた。ガヨーマルトの内の所に来ることより、七つの 70-02) 形の金属が見えることに向けて来た。其の大地に向けての内のタネは 70-03) 行く。四十年に於いて示せ。示すことの上に育って有った。70-04) それらには其の十分の振舞い、世界の破壊、デーウたちの罪深さが、70-05) ガンナーグ・メーノグの、それには亦、有った。此の初めのガヨーマルトの所の戦いは 70-06) ガンナーグ・メーノグと共に為された。第七には驚異（火の誤写？）の戦いが為された。其れは 70-07) 大きな馬に対して打ち在った、ヴァジシュトの火も、雨に於いて。70-08) 世界に於けるファッローバグや亦グシュナスプや亦ブルゼンミフルの様な所のはたらき。70-09) 生き物の守護、他の火の守護。その様に、植物や亦、人間、動物たちの内に 70-10) 靈魂に於いて保たれること、亦、育てることの様に。それには亦、世界の所の調整、70-11) 生き物、それには亦、有った。此れも初めにガンナーグ・メーノグと共に火の戦いが 70-12) 為された。第八に恒星たちの戦いが為された。悪魔たち、惑星たちに向けて、70-13) 夫々の靈魂は自身の敵と共に戦いに於いて 70-14) 在った。敵に向かって整えて有った。フラシャギルドまで、その様に、我が 70-15) 世界の占星術が記した様に、此の初めの戦い、メーノグの神々は 71-01) ガンナーグ・メーノグと共に為した。第九に、メーノグたち神々の戦いがガンナーグ・メーノグと共に 71-02) 為された。時に神々は打ち平らげて、地獄に向けて投じた、その様に 71-03) 言う。四昼夜、二つの存在は変わりやすく為って有った。メーノグたち 71-04) 神々は、其の戦いの行為に於いて。第十に、馬たちの為されたことの非混合、71-05) それらには時に、暗闇と亦、ブズアギーフを神に対して混ぜることはできない。為された、71-06) その様に言う、即ち、マズデースンたちの善い教えの栄光は、聖帯の 71-07) 様に有る。聖帯は星の様に、メーノグたちの所の彩をつくった。71-08) 三つの枝が三つの節に於いて周りの空、その駅に於いて 71-09) 打ち保たれた。彼ら星々は共に、戦いに於いて在って 71-10) 有った、終わりまで。その様に自ら書かれた。其処に他の戦いの間に 71-11) 清らかさが切り取られる。内に、混合と呼ばれる。この様な。

第 11 章：ガンナーグ・メーノーグの創造について

71-12) 其れら創造のやり方の上に。言う、71-13) 教えに於いて、即ち、時に、ガンナーグ・メーノーグは跋扈の内に、年と亦、月と亦、日に於いてなし。71-14) 其れは素早く時に於いて、初めに、此の大地の三分の一に対して、71-15) 第二に、此の大地の五分の一に対して、第三に此の大地の全てに対して、打ち 72-01) 来た。爾後、植物に対してオフルマズドの所が在り、其れらの所の其の身体が上に為された。72-02) 其れら星の駅の上に、高く亦、先へと星々に対して創られた。72-03) 其れら星々の光は在り、其れは今再びゲーティグに対して 72-04) 輝かせる。その様に言う、即ち、水の元の恒星たち、大地の元の、72-05) 亦、植物の元が有る。其れらはアーボチフラーン、ティシュタル、亦、タラーフク 72-06) ピドシズルと亦、ピーシュ、パロイズの六つの星で、其のパロイズと呼ぶ。其れ 72-07) らの水の星々、大地の形の所の其れ、ハフトーリングと亦より大きいものとの間に 72-08) 空が（あり）、其れらの大地の諸種類の植物のタネの所の其の他をそれらのものから除く。72-09) 爾後、ガンナーグ・メーノーグは牛に対して来たり、牛は南側に対して 72-10) 右手に於いて落ちた。初めに右の足の所の其れは対して集まった。オフルマズドは 72-11) 牛の身体と亦、形の其れを上を為した。月に対して預けた。72-12) その様に在って、此の月の輝きは再び世界に対して輝く。その様に、72-13) 言う、即ち、動物たちのタネの所の月、即ち牛たちや動物たちの姿は 72-14) 月の駅に於いて在る。爾後、ガヨーマルトに向けて 72-15) 来た。ガヨーマルトは南の方向、左の側へ向けて落ちた。73-01) 同じく初めに左足の所の其れへ向けて集めた。オフルマズドは彼の身体の其れを 73-02) 為した。太陽に対して任せた。その様に、此の太陽の 73-03) 光が在って、其れは世界に対してそれにたいして燃え輝く。牛の上にその様に有った。73-04) その様に、月と亦、ガヨーマルトはこの様に有った。その様にオフルマズドの太陽が 73-05) ゲーティグに於いて先へと創られた。時に邪惡の侵入が来たり、上に上に対して 73-06) 齎した。即ち再びまで、元を保った自身に対して燃え輝かされた。デーウたちも 73-07) 其の栄光にそのの自らに対して到達しない。即ち、それに対して主が 73-08) 有る。若し、この様に為されなければ、今や光よりゲーティグに対して 73-09) 照らし輝くことはない、炎の所の様に。時に、限りない光により、一つの有用なこと 73-10) その為に、繋いでいる。時に、輝かせるに、光はその所の上に対して 73-11) 齎された、自身の元の平地のそのの其れに対して。それには亦、来る。此れも 73-12) 言う、即ち、ガヨーマルトに対して死が上に来たり、初めに 73-13) 足の右の其れに於いて、指の様な小ささの所の其れに於いて、ガンナーグ・メーノーグが先へと 73-14) 跋扈した。爾後、対して亦、九十のオオカミの心のそれにたいして、先へと放った。73-15) 亦、オフルマズドと亦ガンナーグ・メーノーグは其処で打ち在る、その肉・74-01) 脂まで、ガヨーマルトに対して食べさせる。即ち、そのデーウたちの飲まないことまで、作らせない。74-02) 其の理由に於いて牛とガヨーマルトの内の靈魂は、より黒い湖に於いて打ち有った。爾後、74-03) 高い頂きに對し

て上に蹴躰し、牛とガヨーマルトの光より、その様に 74-04) 打ち行き、その様に、判定者の熱い鉄、それには時に大槌が上に 74-05) 打たれる。亦、黒に打ち為った。今、ゲーティグの内の人間は 74-06) 此のやり方に於いて死ぬ（それらは）。初めに、足、爾後、その他。74-07) 善い生き物はその穀類まで対して干し上げた、亦、爾後、靈魂は、より黒い湖の内に打ち 74-08) 有った。食べ物を食い、多くの時に人間は死ぬ。74-09) 時に、死んで、牛に打ち変わる、

第 12 章：大地の性質について

諸大地の性質に於いて。74-10) 教えに於いて言う、即ち、大地に三十三の種類がある。その様に、74-11) 其れは、同じく前に、大地の扉に於いて書かれた。時に、雨の其のティシュタル、74-12) 其れは、その身体、その水の湖であることに為ってあった。大地の全ての場所の 74-13) 湿気が打ち為された。六つの部分に於いて打ち裂かれた。下に保つこと、74-14) 上に保つことが打ち有った。動かない水も亦、置かれた。一つの部分の程、74-15) 一つの半分が中間に、六つの部分が周囲に、其れは六つの部分の程に。フヴァニラは、其れは亦、75-01) 大陸の名が立てられた、即ち、畝が打ち有った。その様に、一つの部分が 75-02) 東方に於いてアルザフ大陸、一つの部分が西方に於いて 75-03) サワフ大陸、二つの部分が南方に於いて、亦、フラダダフシュ 75-04) と亦、ヴィーダダフシュ大陸、北方に於いての二つの部分、亦、ヴォールーバルシュト 75-05) ヴォールージャルシュト大陸と呼ばれる、其れらの間の其れはそれ程。75-06) 即ち、其れらのフヴァニラは大陸より対して離れた、神々の不思議な力の導きに於いて、75-07) 行くことができないまでに。その様に言う、即ち、75-08) アルザフと亦、サワフと亦、フヴァニラの間に海を保つ。其れは一つの部分が 75-09) 海により豊かに為った。周りは打ち保たれた。フラダダフシュの間より、75-10) 茂みを保ち、ヴォールーバルシュトとヴォールージャルシュトの間に高い山が 75-11) 打ち聳える。即ち、大陸より大陸の所に向けてまで、繋がりが打ち有った。75-12) 即ち、一つまでも再びの所に対して行くことができない。この全ての六つ大陸より 75-13) 善いことはフヴァニラの内により多く与えられた。ガンナーグ・メーノーグはフヴァニラに対しても 75-14) より多く争った。邪悪はフヴァニラの所に対してより多く齎された。破壊の 75-15) 為にそれは其のそれより見る。カイたちの英雄たちの其れはフヴァニラの内 76-01) 齎された。その様に、マズデースンの善いものがフヴァニラに於いて齎されて有った。76-02) 爾後、他の大陸に対してソーシャンスをも運ぶことも、フヴァニラの内 76-03) に起きる。其れは、ガンナーグ・メーノーグが破壊し、亦、成熟を起こし、終の身体を為す。76-04) その様に言う。人の殆どがフヴァニラの内により力を持ち、フヴァニラ大陸の内 76-05) 此の最も悪い悪魔が、其の終の悪魔の所の大陸の其れらの此れより亦、打ち運ばれた。

第13章：山々の性質について

76-06) 山々の性質に就いて、76-07) 教えに於いて言う、即ち、初めに山が先へと聳えた。神の所のハルボルズが亦、置かれた、76-08) 爾後の其れより、山の全てが先へと聳えて有った。十八年に於いて 76-09) ハルボルズは完成に、七百年で全てが聳えた。二百年で星の駅まで、76-10) 二百年で月の駅に対するまで、二百で太陽の駅にまで、76-11) 二百年で空の頂に対するまで、その様に、他の山々は 76-12) ハルボルズより先へと聳えて居た。二千と亦、二百と亦、四十と亦、四の数に於いて 76-13) 山が有った。高いフガル、テラクのハルボルズ、亦、チャカド・イ・ダイティク、76-14) 木々のアレズル、アスンダーム山、アプルセン山、其れはパルスに有る。76-15) 言う、ザラチャズ山、其れはマンシュで有る。アイリチュ山、カフ山、77-01) 其れはコーファグで有る。其れは有る。アウシュダシュタル山、アルタルブン山、77-02) ローイシュン・オーマンド山、パダシュフワラル山、山の其の最も大きい 77-03) 栄光、亦、カワリーフ山とも亦、呼ばれる。レワンド山、ダールスパント山 77-04) と亦バキル山、カベドシカフト山、シャオーマンド山、ワファルオーマンド山、77-05) スパドヤド・コンドラスプ山、アシワンド山、コユクラス山、77-06) セーズダフ山はカンゲディズの内の其れを言う。鉄が有る。善い其れらには 77-07) 栄光と亦、幸せの善い並びがある。山のそれらには亦、詳しく言う。周囲の 77-08) ハルボルズは此の大地を空に対して繋いでいた。テラクの 77-09) ハルボルズは其れはそれには其の星と亦、月と亦、太陽がそれにたいして、内に廻らせる。亦、77-10) それに対して、再び来る。フガルの高い其れは、それには其のアレーンスルの水が、77-11) それには亦、下に齎す。千の人の高さのアウシンダーム、山の其れはフナヒノより 77-12) 其の空と海の本質を豊かにする。その其れ、フガルの所のそれに対する水は 77-13) 下へ流れる。チャガド・ダイティーク、世界の真ん中の其れは 77-14) 百の人の高さ、それには其のチンワト橋が、それに対して在る。77-15) 靈魂は、其の場所に於いて勘定させられる。山の一つの峰は地獄の扉、78-01) それには其の常にデーウたちの地獄と同じ所、それに対して、即ち全ての悪魔の靈魂が 78-02) 其処に為す。その様に言う、即ち、誰かがより不幸な場所を 78-03) 言う、其れはアレズル。アレズルの峰は地獄の扉に於いて、それには其の 78-04) デーウたちの地獄と同じ所が、それに対して有った。此れも言う、即ち、78-05) ハルボルズより小さいアプルセン山が集まって有った、即ち、アプルセンを言う、78-06) パルスの全ての山、それには亦、始りがサガスターンに於いて、その善い水の峰が 78-07) クジスターンに於いて東の尾根に於いても亦、有る。水の住まう所の 78-08) 山の第二が其のマヌシュ山である。マヌシュチハルはそれに於いて生まれた。他の 78-09) 山々の言葉、其れは、其れらの先へと聳えて有った。その様に、言う、78-10) 即ち、落ちる水は亦、周りの国を冷やす。三つの山の其れらが 78-11) さらに現れていた。アイラチ山はハリゼンの所のハマダーンの真ん中に於いて 78-12) アプルセン山より聳えている。マヌシュ山は東に於いて 78-13) トルクスタンの境に於いてアプルセンに対しても繋がって

いる。78-14) カフム山も同じくアプルセン山に聳えている。アウシュダシュタル山は 78-15) サガスタンに於いて、其の所のアレズル山はアルム側に。パダシュ・ハルガル 79-01) 其の山は、タパリスタンに於いて。ギランの其れはレヴァンド山の側に於いて 79-02) フラサンに於いて、それには其のブルジン・ミフルの火がそれに対して置かれた。それには亦、その一つの 79-03) レヴァンド、即ち、豊かなもの。其のヴァドゲス山はヴァドグシャーンの境に於いて其の 79-04) 側は木で満ちている。亦、木で満ちた、トゥルのフラシヤズの其のバキル山は 79-05) 防御に於いて保たれた。それは亦、其の住処は内々に為された。それには亦、79-06) 今日、勝利に満ちた万の平和な町が法により上に投げられている。79-07) カベド・シクフト山はパルスの其れで、同じアプルセン山よりある。79-08) スヤー・オーマンド山、ワフル・オーマンド山、其れはそれらの其のカウルの其の側のところが、79-09) それには亦、聳えていた、チノの側に対するまで。亦、スペンドヤド山は 79-10) レワンド湖に於いて。コンドラスプ山、山の所はトゥシュに於いて齎された。亦、79-11) 湖のそれには其の、ソヴァル湖はコンドラス山の峰に於いて、イランの郷に於いて。79-12) アンセンド山はアードウル・パタカーンに於いて。ロイ・オーマンド山と亦、それに其の植物がそれに対して 79-13) 育つ。国の山の所の其の所の全ての場所は、国と国とに於いて町を変える。79-14) それには亦、栄える奇跡の力をそれに対して為す。多くの名と亦、多くの数が、79-15) 同じ此の山々の所の其れが有り、聳えていた。そのように、其の、それには其の名が 80-01) 邪悪の諸行に於いて、諸変が明らかである。ヴァナヴァンド山、80-02) アスプローズ山、パハルガル山、ドウヴィシユンド山、ラザク山、ザリン山 80-03) ゲスバフト山、ダヴァド山、ミジュン山、マラク山の所の其れらは全て 80-04) アプルセンの住処より、他の山々は、其れは有って、聳えて居る。80-05) ダヴァド山の上、フンジスタンに対して繋がっている。同じく 80-06) アプルセンより、ドゥビシュト山、其の山は、それには其のベヴァラスプがそれに対して結んで 80-07) いる。同じ皿（鉢）より山の所のオオカミたちのクミシュも繋がって 80-08) いる。その様に、クミシュ山はミフル・フルヤド山とも呼ばれる。其の 80-09) それは其のヴィスタスプの、アルジャスプの、それに対して越えた、二つの山、ミヤンの所、80-10) ダーシュトは其の山より、亦、其処で裂かれていた。言う、教えの所の戦いに於いて 80-11) 時に、悲しみはエーラーンに於いて有って、其の山々より 80-12) 打ち裂かれた。木の真ん中は下へと落ちた。エーラーンの者たちはそれに対し 80-13) 救われて有った。それらは亦、「余剰の到来」と呼ばれる。ヴァナヴァンド山は 80-14) 同じ守護に於いて、ウィシュタースプたちの其処に対して望む。即ち、ブルジン・ミフルの火の住処、80-15) 九フラサング西に対して。ルラプク・ビシャンはザラプトに於いて、此の場所を 81-01) 傷つけた。其れはザラプトで有り、其れはラプク・ビシャンで有り、其れはカラクと呼ばれた。81-02) 二側面より山と亦、道と、真ん中の砦の下の流れの故の砦、即ち、其処に 81-03) 為されていて有る。カラク砦と呼ばれた。此の場所はシラクと亦、国の内に。81-04) アスプロズ山はチ

エヌスタンの上に、ダイブストはパルスに於いて 81-05) パハルガルはフラサンに於いて、マラク山はランに於いて、ザリン山は 81-06) トウルキスタンに於いて、ビヤスタン山はスパハンに於いて、それらには熱い流れが、他の、81-07) 此の数より他の、其れは動きを持つことに於いて、国の所の山を数えた。81-08) マズデースンの教えの内に善い並びの山の所の其れの所のパルスは場所場所に於いて 81-09) 聳えていた、黄金の性質の上に。

第 14 章：海の性質について

81-10) 言う、教えに於いて、即ち、海を豊かに為した。ハルボルズの境界の南側に於いて 81-11) 三分の一の一つの此の大地の主は、此処に豊かに為した。81-12) それには即ち千の湖が内に保たれていた。此処に其の泉の所の其の所の 81-13) アレドヴィスルが有る。其れを、ハーンサーン湖と言う。夫々の一つの湖の為に二つの水源が 81-14) 有る。其の水はそれに対して上に来る。湖に対して内に流れる。夫々の一つの湖と亦、81-15) 為に夫々の水源は、それはそれほどの幅と亦、長さが有る。時に、善い馬と亦 82-01) 人が走らせて、四十の昼と亦、夜で廻って打ち戻って有る。82-02) 千八百フラサングの所の大きさ、其れよりその様に、其の水が暑い日に於いて 82-03) 瑞々しさ、清らかさが、他の水より多く、全ての日は 82-04) アレドヴィスル泉より常の所に流れる。南に対してハルボルズ山の所の 82-05) 其処に百千の金の葦を為している。其の水は 82-06) 熱さと亦、性質に於いて、其の葦に於いて上へ高い所のフガルに向けて行く。82-07) 峰に於いて其れの所の塔が有る。其の湖の内に注ぐ。清らかに打ち有る。82-08) 違った金の葦に於いて再び来る。千の人の高さに於いて 82-09) 金の値打ちある所の一枝の葦を、先へとアウシンダーム山に対して 82-10) 与える。海の真ん中は豊かになった。其処よりの清らかさの一部分が海の 82-11) 為に先へと海へ対して流れる。一部分が全ての此の大地に於いて湿り気と亦、水滴に於いて 82-12) 打ち到った、全ての創造たちの新鮮さと癒しが。それには亦 82-13) ワインが注がれる。大気の乾きを打ち叩く。その様に、言う即ち、82-14) 高みの中で、全ての岩塩より、金が、其れはそれに対して先へと齎される。82-15) 損なわれることないアレドヴィスルは千の人の高さの三つの塩湖がある。82-16) 欠くべからざるもの有り。一つの世界の国の夫々の三つのより大きなプティクが、其れは満ち 83-01) 亦、引き、それに対して、海の豊かになった所の同じ側に向けて繋がって 83-02) いる。海の真ん中の此れは豊かになった。プティクの其れは海の 83-03) 側を保つ。其れはサタヴェス湖と呼ばれる。全ての粗さと亦、塩気は 83-04) 清らかさが無い。プティク湖より海に対して豊かに為した。全ては 83-05) 行く。高い大きい風に於いて、其のサタヴェス湖より再び打つ。83-06) 全ての其れは清らかで亦、動きは対して内に豊かに為す、アレドヴィスル泉は 83-07) 行く。第二の其れは、再びプティクに対して流れる。此の湖の絆は 83-08) 月、風に対して繋がれている。女性たることどもが満ちることに於いて 83-09) 上方へ来る。亦、下へ行く。それには其の転ずることは南に対して、83-10) 絆はサタヴェスに対して、サタ

ヴェスに対して星が繋がれている。83-11) それには其の海の南側の守護の内に、この様に、その様に。83-12) ハフトーリングは北側の守護の内に。満ちと亦引き 83-13) の為に言う、即ち、月のまえより、夫々の二つの場所より、風が常に 83-14) 吹く。それらには其の住処の家がサタヴェス湖の内に、一つは下 83-15) の引っ張りが、亦、一つは上方の引っ張りが吹く。引き潮と呼ばれる。時に、83-16) 上方の引っ張りが吹くと満ち潮。時に、其れの下への引っ張りが吹くと引き潮 84-01) であった。他の海々に於いて其の月の変化の性質より 84-02) それにたいして擦る。満ち引きの為に有った。カムルディーグ湖、84-03) 北の其れはトルキスタンに於いて過ぎる。サフン・ブンの其れはアルムに於いて 84-04) より小さい湖の其れの湖の湿気はキャンシフ湖、その様に、サガスタンに於いて 84-05) 初めにはフラフスタルや亦、ヘビや亦カエルが内に有ることなし。水は甘く 84-06) より小さい湖の他のもあり、より大きい甘い此れも、亦、海は 84-07) 塩辛い。汚物に近いことの為に於いてハーサルまでも、カエルに対しても、行くことができない。84-08) それほどおおく、下に打つことに於いて其れは、汚さと亦、塩辛さを 84-09) 置く。時に、フラシャギルドに、甘く再び為る。

第15章：川の性質について

84-10) 性質の上で諸川より。教えに於いて言う。84-11) 即ち、此の二つの川は、北側よりオフルマズドのハルボルズより 84-12) 先へと流れる。一つは西に向けて、即ちアルワンドである。一つは 84-13) 東に向けて行く。即ちヴェフと呼ばれる。爾後より其れらの84-14) 十八の川は同じ水源より、亦、先へと流れて有った。同じハルボルズに於いて84-15) 大地の内に下へ行って有った。フヴァニラの所に於いて明らかさに対して 84-16) 有った。その様に他の水は其れらより多くの数に於いて先へと 85-01) 流れている。その様に言う、即ち、その様に早く、ひとつは爾後より 85-02) 其れに再び、打ち流れて有った。その様に、一つの間と一つのヘシュムの声が 85-03) 始りより打ち言う。其れらの水は全て再び此れに対して 85-04) 二日の川に混ぜさせられて有る。アルワンド川、ヴェフ川、其れら夫々85-05) 二つは全て三十の大地に於いて廻り、亦、海に於いて過ぎさせ、亦、全ての大陸を 85-06) 潤し、水源の其れより、亦、爾後、夫々の二つは海に於いて豊かに為す。85-07) 同じに対して到る。亦、再び、水源に対して到る。それには亦、打ち流れて 85-08) 有った。その様に言う、亦、即ち、この様に、光の所のその様に、ハルボルズに於いて 85-09) 内に来る。亦、ハルボルズに於いて打ち行く。これも言う、即ち、アルワンドのメーノーグは 85-10) オフルマズドより望まれた。即ち、初めに全てを喜ばせる。85-11) ミルク、其れはヴェフ川の功德。それには亦、打ち創れ（汝は）。亦、爾後、不死に於いて 85-12) 打ち創った。ヴェフ川のメーノーグもオフルマズドよりアルワンド川の為に 85-13) この様に望んだ。愛と友情と。一つは内に対して再びその為に 85-14) 同じ力に於いて先へと流れて有った。その様に前に邪惡の到来することより 85-15) 若し、

動きが有ってあったならば、時に悪魔が打ち叩かせる、若し、動きが 85-16) 再び有ったならば、其の十八の本来の川が走った。アルワンドと亦ヴェフより、86-01) 他の諸川は其れらより打ち流れた。より名高い所の其れを 86-02) わたしは言う、アルワンド川、ヴェフ川と。ディグラト川は、星にもより呼ばれる。86-03) フラト川、ダイルヤ川、ダルガム川、ズンド川、ハロ川、マルヴ川、86-04) ヘト・オーマンド川、アホシル川、ナタフダ川、ジシュマンド川、86-05) フヴェジャンド川、バフル川、ミフル川、其れはヒンドゥーガー川とも呼ばれる。86-06) スペード川、トルド川、其れはキールとも呼ばれる。フヴァラエ川はメスルグより 86-07) 其れも呼ばれる。ハルハズ川、トルメト川は明らかで、亦、ヴェフ川 86-08) ダラジャ川、キスク川、シェド川は明らかである。ナイナイデダク・86-09) メーハン川は四つの家の水である。マクルスタン川はそれらは亦、詳しく 86-10) 私は言う。名高い諸川の上に、アルワンド川、其れの 86-11) 言われたこと、即ち、ハルボルズより打ち流れ、来る。スラク国に於いて 86-12) 其れはダームとも呼ばれる。亦、スプトス国に於いて其れはメスルとも呼ばれる。86-13) 打ち過ぎて、それは亦、其処で川は再びスペトイスと呼ばれる。86-14) ヴェフ川は東に於いて打ち過ぎて、シンドの国に於いて行く。86-15) ヒンドゥーガーに於いて海に向けて流れる。それは亦、其処でミフル・フ川と呼ばれる。87-01) ドラフト川の水源は其れは打ち言われる。アルムはアスクリスタンに於いて過ぎる。87-02) ディグラトに向けて流れる。それには亦、フラティーフは此れ、即ち大地の上、飲み物が 87-03) 明らかな所の今日である。即ち、水源の其れ、マヌスチハルのみずの川、水はすべて 87-04) 再び一つに対して投ぜられた。その様に言う、即ち、私は笑う。一杯の魚のフラト、87-05) 其れは自ら靈魂の為に、マヌスチハルが掘った。取った水を 87-06) 飲む。ディグリト川はサルマンに打ち来る。87-07) フジスタンに於いて海に対して流れる。ダイトヤ川はアーリヤンの郷より打ち 87-08) 来る。ドゥードスタンに於いて打ち行く。全ての川よりフラフスタルは 87-09) 其の毒の内に。その様に言う、即ち、ダイトヤ川は一杯のフラフスタル。87-10) ダルガム川はシュドに於いて、ゼンド川はパンジスタンの山に於いて過ぎる。87-11) 再びハロ川に対して流れる。ハロ川はアパルストより打ち流れる。87-12) ヘートウ・オーマンド川はサガスタンに於いて、それには亦、水源はアパルストガルよりに於いて 87-13) 此れはフラシヤヴの其れより離れて進んだ。アホシル川はククミシュに於いて 87-14) ジシュ・マンド川はソド側に於いて再びフジャンド川に対して 87-15) 流れる。フジャンド川はパルガナのサマルカンドの真ん中を打ち行く。88-01) それには亦、アハレド川と呼ばれる。マルヴ川は栄光有って東に於いて 88-02) アーフールストガルより打ち流れる。バフル川はアーフールストよりバムサーン川の 88-03) 内に来る。打ち対してヴェフ川に流れる。スペド川はアードウル・パタカンに於いて 88-04) 言われる、即ちダハクの賜物、アフリマンと亦、デーウより 88-05) 其処に欲された。トルト川はまたクルより呼ばれる。シェラヴ海より 88-06) 打ち来る。グルガン海に対して流れる。ザハヴァイの其の 88-07) 川はアードウル・パタカンより打ち来る。

パルスに於いて海に対して 88-08) 流れる。フヴァラエ川の水源はスパハーンより、併し、フジスタンを 88-09) 過ぎる。先へとディグラト川に対して流れる。それには亦、スパハーンに於いて 88-10) メスルカーン川と呼ばれる。ハルハズ川はタパリスタンに於いて、それには亦 88-11) それらの水源もドウヴェシュンド山より。トルマタジ川は共に再びヴェフ川の 88-12) 所に対して流れる。ヴェンデセシュ川は其のパルス、其れはサガスタンと呼ばれる。88-13) ケサク川はトゥス国の水に於いて打ち来る。それには亦、其処で、88-14) カスプ川と呼ばれる。此の同じ川はヴェフとも亦、其処ではケサクとも呼ばれる。88-15) シンドのそれに対してもケサクと呼ばれる。亦、ナタフダ川はサガスタンの水源に於いて 89-01) クヤンセより有った。ペダク・メーハン川はチャトルク・メーハンの水、89-02) カングデズに於いて。ダラジャ川はアーリヤンの郷に於いて、それには其の、ザラトウシュトの父の 89-03) ポウルシャスプの家が堤に於いて有った。他の無数の 89-04) 水や亦、川、泉と亦、水路が有る。其れは、其れらの水源が 89-05) 先へと、此れを排出していた。此の諸川は一つの元で、国々に於いて 89-06) 場所場所に於いて名前名前に於いて呼ばれる。フラシアヴの為に 89-07) 言う、それには即ちキャンセ海の内に千の諸水が打ち進んだ。89-08) 亦、馬の深さ、亦、駱駝の深さ、亦、牛の深さ、亦、同じ深さ、亦、より多くも 89-09) 亦、より少なくも、それには亦、進んだ、同じ海の内に。水源のザッル・オーマンド、其れはヘトウ・89-10) オーマンド川が熱くした。それには亦、水源と亦、風が、ヘネ川の六つの水を 89-11) 一つに同じ海の内に進めた。人は置くことを打ちなした。

第 16 章：十七種の水について

89-12) 教えに於いて十七種の水を言う。その様に、一つは水気、植物の 89-13) 上に置く。第二に其の激しい流れが有る、諸川。89-14) 第三に、より多くの降雨の其れ。第四に、井戸の其れ、動かない所の其れ、89-15) 他の定めていない物。第五に、動物たちや人間たちの精液。90-01) 第六に、動物たちや人間たちの小便。第七に、動物たちや 90-02) 人間たちの姿。第八に、動物たちや人間たちの皮膚の内の水。90-03) 第九に、動物たちや人間たちの水気と亦、涙。第十に、90-04) 動物たちや人間たちの血液。第十一に、夫々の三つの世界の望みに於ける内の油。90-05) 第十二に、動物たちや人間たちの匂いの内の水。第十三に、90-06) 動物たちや人間たちの汗。第十四に、動物たちや人間たちの子宮の内の其れ、90-07) 其れは、子供をそれにたいして育てさせる。第十五に、多くの所の其れ、90-08) 植物たちの同じ様な、その様に言われた、即ち其れは夫々の一つの水源、一つの水の水滴で、90-09) 炎の端に於いて、四つの指の前に。第十六に、其れの所の植物たちの内に 90-10) 混ざっている、其れは身体のだねの水を言う。第十七に、90-11) 動物たちや人間たちのミルク。此れは全て精神てき、あるいは 90-12) 肉体的な事に於いて再び、此の諸川に向けて混ぜさせる。其の水、肉体的 90-13) 精神的、夫々の二つが有る。此れも言う、即ち、

三つの川、マルヴ川 90-14) ヘト・オーマンド川、アホシル川が有って有る。メーノーグの其れらは、90-15) 即ち、世界の内に流れてはいない。邪悪や汚染や煩いにより 91-01) それらの其れが見られた。それらは即ち、邪悪の内にハオマと亦、供え物のそれに対して 91-02) 流れる。正しさを再び為す。守護は亦、打ち言う。此れも言う。91-03) 即ち、水、其れは気高く、稀有で、亦善い力が、それに対して、来ていた。亦、91-04) 三年に於いて再び水源に対して行く。其れは気高く、亦、強く、全て二つが等しく 91-05) 上に来ていた。六年に於いて再び到った、其れは、気高く、91-06) よく、亦、稀有な供え物。九年に於いて、再び到る。この様な植物たちの 91-07) 育つことは、此の間に於いて力が元の所に対して与えられる。この様に讃えられる 91-08) 正しい幹は内に、此の間に再び自身に対して到る。91-09) カダグアトヘネ川の為に言う。即ち、フラシャヴは棍棒が打ち対し 91-10) 投げられ、きた。我が太陽に到る。馬の深さに再び 91-11) 流れた。この様にキャンセ海の所のジャグの水源。

第 17 章：湖の性質について

91-12) 湖の性質の上で、教えに於いて言う。即ち、其の多くの水 91-13) 諸水の泉は明らかなことに対して、其れは湖と呼ばれて有る。あたかも 91-14) 人々の目である。それらの泉の水は有る。その様に、91-15) チェチャスト湖、ソヴバル湖、ハルゼム湖、亦、フラズダーム湖、92-01) ザイイ・オーマンド湖、亦、アスヴァスト湖、フスルボ湖、サタヴェス湖、亦、ウルヴィス湖 92-02) それらには亦、詳しく私は言う。チェチャスト湖はアタロ・パタカーンの熱水、亦 92-03) 生き物のいない、それには即ち、その様に有る。内には有ることなし。それには亦、元は 92-04) 海の豊かになることに対して繋がっている。ソウバル湖は雲の町に於いて、92-05) トウス山の頂に於いて、その様に言う、即ち、スドゥバハルは、92-06) 慈しみと亦、善い事の増えることと亦、寛大さを、それには亦、打ち与えて 92-07) いる。フヴァリゼン湖の為に、言う、即ち、それには亦、打ち与えて 92-08) いる。アフリシャングは富、豊かさ、善く供えられ、亦、相応しさ、92-09) 楽しみの所。フラズダーン湖はサガスタンに於いて、言われる、即ち、正しい所の 92-10) 一人の男、其れが一日により内にそれに対して投げ、受ける。時に、正しくないものは 92-11) 再び外へ向けて投げない。水源の元の所の其れは豊かになることに対して繋がって 92-12) いる。ザッル・オーマンド湖はハヴァマダーンに於いて、アスヴァスト湖の 92-13) 為に、明らかな、即ち、害のない所の水が有る。諸海の内にも 92-14) 常に流れる。その様に、光、栄光が有る。その様に、言う、即ち、92-15) 太陽の光来たる。あるいは、亦、アスヴァスト湖を見た。93-01) 水はフラシャギルドに於いて到る事の為に、内に必要である。ホスロウ湖は 93-02) 四フラサングの所に於いてチェチャストに対する。サタヴェス湖、書かれた所の其れは 93-03) 豊かになった海の住処に於いて、其れは亦、プティクを言う。カミダンに於いて 93-04) 深さが有る、其れは常に煙り、それには亦、来る。全てのそれ

の物は 93-05) それに対して投げられる。動物を除いては受けることはない。それには時に動物が 93-06) それにたいして投げられる。下へ運ぶ。人々は言う、それには即ち地獄の一つの 93-07) 泉が、内に有る、ウルヴィス湖がフガルの高さに於いて。

第 18 章：動物の性質について

93-08) 動物たちの本性の上に五つの型が。93-09) 教えに於いて言う、即ち唯一つ創られた所の牛が打ち過ぎ、其処に 93-10) それには即ち脳髓を打ち送り、穀物は再びそだつ。五十と亦五種、十二 93-11) 種の葉の植物。その様に言う、其れは脳髓より、小さく亦、勇敢な、脳髓より 93-12) タネの為に自らも一つの脳髓。角よりヒラマメ、鼻より形、血液より 93-13) 若いブドウ、其れはワイン、それには亦、此の理由の為に、ワインが血液に於いて 93-14) 増えることより強い。肺より動物たちが。傷ついた心臓の真ん中より素晴らしい物たちが、93-15) 再び保たれること。悪のアコーマンが痛みの所の大麻と同じ物に対して、亦、一つの水源は 94-01) その様に、アベスタークは言う。すなわち、一つの穀物、一つの種は、初めの創造に於いて創られた。94-02) 馬の身体たちの内に創られた。一つの種が其処に有る。爾後、打ち対して 94-03) アルワンド川が運んで、有る。其れは米で有る、其れはムギ、水、食べ物を言った。94-04) 牛の精液は月の駅に対しての上に運んだ。其処に打ち浄めて有った。94-05) 全ての種の動物が先へと創られた。初めに二つの牛、一つはオス、亦、一つは 94-06) メス。爾後、夫々の一つの種より一番いが、ハハーサルの大地の内に、其れは三 94-07) フラサングの様に。アーリヤの郷に於いて明らかと為った。その様に、言う、94-08) 私によって即ち、牛の値打ちの為に、二つの仕事を与えられた。94-09) 一つの仕事は、全ての種の動物たちと共に。三十の昼と亦、夜に、其れらは馬小屋の 94-10) 闇が有ってあった。亦、それらには亦、初めに水と亦、爾後に植物を食べた。94-11) それらには亦、動物の部分に於いて先へと創る。その様に、言う、94-12) 即ち、初めにヤギ、羊、亦、爾後、驢馬と亦、豚、爾後、馬と駱駝 94-13) それには其れが初めに創られた。値打ちある牧場が創られた。其れの所の頭のダハーグが有った。94-14) 広く行くもので神に関わる。其れらの為に等しい栄光が、第三に創られた。94-15) 少ない水の生き物は、その様に有った。其れらの三つの種は五つの形。第一の 95-01) 七種の其れは値打ちある牧場のその足、其れは、其れらより大きい駱駝 95-02) 山羊、小さい馬たちの新生である。第二に驢馬の足の所の形、其れは其れらより 95-03) 最も大きいのは速い所の馬、亦、同じ行為で最も小さい物。第三に、指が 95-04) 五つの姿の其れは、第五の其の、其れらより犬が最も大きい、亦、ネズミたちの 95-05) ファッロフが最も小さい。第四に、飛ぶものの姿、其れは其れらより三つ指のセーン 95-06) が最も大きく、亦、ヴァドゥルが最も小さい。第五に、姿は水の所の其れ、其れは其れら 95-07) よりカル魚が最も大きく、亦、最も小さい元がナムタクである。此の五つの姿は 95-08) 二百と亦五十二種に於いて打ち分けられた。始めに、山羊の五つの種、95-09) オリックスと亦、ケー

ンと亦、アイベックス、羊と亦、山羊である。第二に羊五種。其れの所の 95-10) 尻尾と、尻尾の無い所の其れに於いて、亦、サグ羊と亦、アラレ羊、最も大きいクリシュク 95-11) 其れは大きな角、馬の様で、三つの瘤を持っている。それには亦、乗るのに向けて為される。95-12) その様に、言う、即ち、我らの祖先のマヌシュチハルは一つのクリシュクを乗る為に於いて 95-13) 持っていた。第三に、駱駝の値打ちある大きな野性の二種、其れは 95-14) 一つと一つは栗毛の瘤を持つもの、亦、一つは開けた土地に於いて有る。95-15) 一つは山の、亦、二つの瘤の。第四に、牛の十六種、明るい白、赤、96-01) 亦、黄色、黒の手足、鹿、牡牛、羊、亦、ラクダ、ウシヒョウ、亦、ウシ 96-02) 魚を殺す牛、ファルス、ヴァッチャグアーブ、他の牛の種。96-03) 第五に、六種の馬、アラブと亦、パフルーギーグと亦、アスタルと亦、驢馬 96-04) と亦、野性の驢馬と亦、水の馬、他の馬の種。第六に十種の犬 96-05) 方々の所の好みが運ばれる。牧羊犬の印は、方々に有る。見張り と亦、食べ物傍 96-06) に有る、群れなどを見張る。亦、水生のビーバーは、其れは水の犬と呼ばれる。亦、狐は 96-07) 系列であり其れはイタチと呼ばれる。ヴィゾナーグと亦、カワウソ、ネズミたちのファッロフ、其れは、96-08) 其れらより二種、穴を習うもの、キツネや亦、ラスチュクのその様に。亦、茂みを 96-09) 習うもの、カワウソ、其れは防 御に於いて棘を持つ烈しいもの。96-10) 第七に、ウサギが有る。ノウサギは五種。二種、二のオス、一つの 96-11) 種。一つは冷所に住み、一つは茂みに住む。第八に、96-12) 亦、イタチ、八種。テンと亦クロテン、スチャーバクス、亦、テン 96-13) 白いオコジョ、他のヴァラン・ラセーノグの種。第九に、ネズミの八種。96-14) 其れの所のひとはネズミとして知られる。ネズミのなかまの所のひとつのネズミ、其れも煙りに於ける所の 96-15) トリカブトを打つネズミで、其れはトリカブトを食った。黒のネズミ、その様に、敵対者の 97-01) ヘビは海側に於いてより多く有った。他のネズミの種がある。97-02) 第十に、百十の種の鳥たち、その亦、十三種がある。その様に、セーン鳥 97-03) カルシィプト、アールフ、カルカス、其れはワシと言ひ、呼ばれる。カラス、それには亦、97-04) オンドリ、其れを男根の部分と呼ぶ。盲目で口の利けない。第十一、コウモリ、其れらより 97-05) 有る。それらは胸に於いて乳を持ち、赤ん坊を育てる。セーン鳥と亦、97-06) コウモリはその様に言う、即ち三つの種に於いて創られている。97-07) 犬と亦、鳥、ネズミの姿。其れが選ばれた、その様に、それには亦、夫々二つのキバが、97-08) 犬のその様に。穴に住まうこと、ネズミのその様に。それには亦、此の百と亦十の種の 97-09) 鳥たちは、八種に於いて打ち創られた。それには亦、打ち分けられる。その様に、97-10) 一人の男が、時にタネを分けて、其の所のタネが指の内に大地に対して保つ、97-11) より多く、亦、程々に、より少なく。第十二に、魚が創られた。十種の最初の魚は 97-12) アリズと亦、アユルズたち。アヴェスターの所に他の名が。爾後、夫々の種の内に 97-13) 種が置かれていた、二百と亦六十二種の完全さまで。犬の為に 97-14) 言う、即ち星の駅より、即ちハフトーリング星の其の方より、97-15) それは亦、人々により盗まれた事に於いて先

へと創る。羊たちの守護の 98-01) 為に、その様に混合が、羊たちと人々とより、此れの為に犬と呼ばれている。98-02) それには其の三分の一、一つは人々より、それには亦、創られた。自身の勇敢さ、自身の毛は 98-03) 着物、二つの心は、勤勉と亦、覚醒。十四の牙、鋭い牙。亦、むれのリーダー、98-04) 其の羊たちの群れの所の。第二の其れは留まった。其の犬は伴に有った。98-05) 其の水に於いて恐れが、時に、乳は亦、其れより少ないことに於いて、時に、ジャッカルに到る。98-06) 守護を為す。それには言う、オフルマズドは、それには時に鳥と亦、レーシャグを創って 98-07) 有った。猛禽を、我に即ち、汝は創っていた。汝、レーシャグ鳥、我に即ち、汝より 98-08) 損ないの毒が有った。即ち、幸が、其れはガンナーグ・メーノグの欲望の 98-09) 毒を汝は為す。即ち、我が所の其れ、悪人のその様に、其れは、富より 98-10) 満たすこと有ることなし。汝も鳥の所より、其の諸身体より満つる事、汝には有ることなし。98-11) 併し、若し我に汝を創ることなければ、汝、鳥と亦、レーシャグの靈魂を汝は創ること有る。98-12) 翼ある所のオオカミのガンナーグ・メーノグは一つの汝の身体に於いて、それには亦、生き物は生きることができない 98-13) 汝である。動物は一つの全ての種に於いて、睡眠の為に創られた所。即ち、時に 98-14) ガンナーグ・メーノグは一つを打ち壊さしめ、一つを打ち留める。壊すことは 98-15) できないが為に、戦いは、壊されたことに於いて、亦、少なく為された。此れも 99-01) 言う。それには即ち、動物は初めに同じ手口の其れに於いて、月であった、併し 99-02) 羽根のあるディーンの所のオフルマズドの日、同じ手口の所の元が先へと創られた。第二の年 99-03) 羽根のあるディーンの月は身籠りに有ってあった。其れらよりそれには其の所の其れは 99-04) 始めに国への欲を思う。駱駝と亦、馬、其れは最後に 99-05) 思う。豚はある、九年に於いて。其れら動物は 99-06) 打ち来てあった。大地な七大陸に於いて、六大陸に於いて、三つに於いて、99-07) 三年に於いて、フヴァニラの所に於いてその様に言う。即ち、始めに、カル魚の 99-08) アリズがアルワンドのより多くに於いて下へサワフの所に向けて行く。亦、動物たちは 99-09) 打ち行ってあった、ヴォールバルシュトとヴォールージャルシュトに対して。セーン鳥は、99-10) 海に対して。強い馬はあった、フラダダフシュと亦、ヴィーダダフシュに対して。それには亦 99-11) 六月が、其れらの其処に年があった。以前に信心のない者たちの其れは、年の長さに於いて 99-12) 雫の所の其れが打ち来た。セーン鳥を除いて、二年に於いて 99-13) 水の物たちの所の其れはより少なく打ち来た。カル魚を除いて、三年に於いて 99-14) 値打有る牧場の其れは打ち来た、馬を除いて、有った。牛たちの内に 99-15) 其れの所の、その様に、牛、セーン鳥のアプチャヤと呼ばれる。驢馬たちの内に 100-01) 三つ足の驢馬、亦、鳥たちも内にその鳥が、亦、魚たちの内に罪が 100-02) 諸罪惡に於いても、それらは亦、行為が、自身の所の扉に於いて。

第 19 章：人間の性質について

私は言う、100-03) 人々の性質の上に、教えに於いて言う、私において即ち、100-04) 人々が先へと創られた。十種が始めに、光の所の其れ、100-05) 白の目の所があった。ガヨーマルトは十種まで、その様に、一つの 100-06) ガヨーマルトで、九番目はガヨーマルトより再び有った。十番目はサル 100-07) 人々の最も小さいものと言う。時に、ガヨーマルトの病が上に来て、100-08) 左手に於いて落ちた。頭より鉛が、亦、それより錫、亦、脳髓の所より 100-09) 銀、足より鉄、骨より真鍮、亦、脂より水晶、亦、100-10) 腕より鋼、靈魂より打ち進む金が明らかさに対して来た。100-11) 其れは今、値打ち有ることの為に、人々の靈魂と共に打ち創る。100-12) 其の左手の死よりガヨーマルトの身体に於いて内に行った。全ての生き物たちには 100-13) フラシャギルドまで、死が上に来た。時に、ガヨーマルトは死ぬことの内にタネを 100-14) 打ち創った。其のタネは太陽の光に於いて打ち浄められてあった。100-15) それには亦、二つの部分はネルヨサングが見守る。一つの部分はスパンダルマドが享けた。101-01) 四十年、大地に於いて有った。四十年の繋がりについて、リヴァスの一つの身体の所の身、101-02) 十五の葉っぱ、マシュエ、マシュラーエーが大地に育ってあった。101-03) このように同じく、それらには即ち、手が耳に於いて再び在る。髓の所に対して一つ、101-04) 引き続いて、同じ才能に常に有ってあった。それらには亦、間の 101-05) 夫々の二つの手が上に来た。睡眠の同じ才能に有ってあった。即ち、明らかではなく 101-06) 有った。即ち、男であれ、亦女であれ、オフルマズドの与えた所の栄光は 101-07) 其れらに有る所と共に、人々の栄光はそれに対して与えられた。その様に言う 101-08) 即ち、誰か以前に創った。手あるいは身体、それには亦、オフルマズドに言った、101-09) 即ち、手を以前に創った、亦、身体、爾後、其れの所に対して創っていた。101-10) 身体の内創られた。即ち、善い働きが創られた。それには亦、定めること、此れは 101-11) 即ち、靈魂が以前に創られた。身体は、爾後。靈魂は身体の内善い働きを 101-12) 導く。爾後、二つの夫々は、植物の身体であることより、人々の身体であることの所に打ち対して 101-13) 変わって有った。亦、メーノグたちの其の栄光は其れらの行為の内に有った所である。101-14) 靈魂は、今も、其の在り方に於いて、木は上に育っている。101-15) それには其の人間の十種の果実が。それには言う、オフルマズドはマシュエとマシュアネーに対して 101-01) 即ち人で有る。世の所の父で有る。行為と亦、101-02) 裁きに亦、繋がり有る考えを為す。善い思いを思う。善い言葉を言う。101-03) 善い行いを執り行う。悪魔たちを崇めること勿れ。其れらの二つ夫々は始めに 102-04) 此れを思う。それらには時に一つは思い悩むことの為に対して思う。即ち、人が 102-05) 有って、それらには亦、始めに為すべきこと、此れが為された。時に、流れてあって、102-06) それらには亦、打ち思われた。それらには亦、始めに此の言葉が言われた、即ち、オフルマズドの 102-07) 齎した水と亦、大地と亦、植物と亦、動物、星と亦、月と亦、太陽は 102-08) 全て弥栄に、其れは正しさよりの現れを言う。元の果実は 102-09) それらには亦、爾後、邪悪が考えに於いて上に走り、それには亦、102-10) 考えが打ち穢さ

れてあった。それらには亦、喋り散らした、即ち、ガンナーグ・メーノーグが 102-11) 創った。水と亦、大地と亦、植物と亦、他の物は尻尾より、そのように言った。其の所は始めに 102-12) 嘘を話すこと、それらには其の欠陥を創る、デーウたちの必要に於いて、言われた、102-13) ガンナーグ・メーノーグは始めに喜びを、其れらより此れを割り当てた。102-14) 其れの所の嘘を話すことに於いて、全てに二つの邪悪が有ってあった。それらには亦、102-15) 靈魂は終の所の身体の所へまで、地獄に於いて、それらには亦、三十日、食べ物との 103-01) 隔絶が有った。草の褥で寝た。爾後、三十日より、乳に於いて 103-02) 白い毛の一匹のテンが先へと対して来てあった。それらには亦、口に於いて 103-03) 乳房の乳を吸った。時に、それらには乳が食べられてあった。103-04) マシュアネーは言った、即ち、我が安らぎは、其れより、時に食べなかったことより 103-05) 流動の乳の其れは、私において亦、我が安らぎを齎すもの、有ることの其れより、今、時に 103-06) 食べた。亦、私には、悪い身体に於いて、同じ所の其の第二の嘘を話すこと、103-07) デーウたちの力が上に来た。それらには亦、食べ物の味が。しかし、練乳も引きだした。103-08) この様に即ち、百の果実より此の果実を留めた。爾後、三十の昼と亦、103-09) 夜の所の第二に於いて、一つの羊が対して来てあった。顎の所が白い所の暗い色、103-10) 亦、それらは打ち砕く。亦、それらは全ての今の木と亦、健やかな乳より 103-11) 導くことに於いてメーノーグたちの火に投げられた。其れは夫々二つの木の 103-12) より創造者である火が有る。それらには亦、火の口に於いても輝いた。103-13) 亦、それらには、始めに、より少ない薪が、乳香の木に於いても、以前に全て 103-14) 燃やさせる。それらには亦、羊を焼く串を為す。それらには亦、三掴みの 103-15) 羊の肉を火の内に打ち放つ。言うに、即ち、火の所の部分、104-01) 亦、其の所より一部分を、空に対して投げた。それは亦、言う、即ち、此れは 104-02) 神々の部分、鳥のハゲタカが上に掴んだ。其れらより打ち運んだ。その様に、始めに 104-03) 肉を犬が食べた。それらには亦、始めに皮の着物が 104-04) 着られた。爾後、乳に於いて。それらにはそして寒さに、打ち紡ぎ、紡いだ物の其れを着物に 104-05) 為した。寝てあった。それらには亦、大地に於いて犬を打ち叩いた。それらには亦、104-06) 鉄を打ち熔かした。それらは亦、石に於いて其の骨を叩いた。それらは亦、104-07) 一つの枝、亦、それをカルド木のそれに対して運ぶ。木の其れは言う。木を整えた 104-08) それらの其の所の恩知らずな所の其れにより為した。デーウたちのそれに対して頑固に 104-09) 有ってあった。亦、それらには、亦、自らに於いて、妬みに痛めつけられた所の其れは 104-10) 上に運んだ。一つは悩みに於いて先へと進んで有った。叩き 104-11) 亦、裂いて髪を引き抜いた。爾後、それらには暗闇より声を為した、即ち、人間は 104-12) 今やデーウを崇める。妬みまで亦、打ち据えられた。亦、マシュアネーは 104-13) 先へと現れた。牛の乳が搾られて、北の方に対して上に注がれた。104-14) 其のデーウ崇拝に於いてデーウたちもあり、有ったことがある。それらには亦、彼らの 104-15) それぞれ二人は、このような渴きを齎すことより、打ち為した。即ち、それらには五十年 105-01)

一緒に交わる事への欲は有ることがなかった。それらには時に一緒に交わる事が、105-02) 今や、教えを外れたそれらには、クソに於ける為に有った。今や、結ぶことに於いて五十 105-03) 年に無知な息子の思うことを先へと思った。始めの月、亦、105-04) 爾後、マシュアネーのそれにおいて其れが言われた。マシュエーはマシュアネーに対して即ち、時に、105-05) 汝の所の一つの富を私は見る。我が所の其の教えを外れた事はより大きく上へ到る。爾後、105-06) マシュアネーは言った、即ちマシュエーの兄、時に我が胸の其れは汝より大きく 105-07) 我は見る。我が其れは輝く身体の富。爾後、彼らの欲望は同じに対して運ばれた。105-08) 欲望の内にそれらの其の決断が為された。この様に、上に考えられた、即ち住まう事の 105-09) 五十年の此の行いが為されねばならない。彼らにより九か月に於いて生まれた、105-10) 一組みの女と亦男が。甘味より集まりに於いて一つの家族の母、105-11) 一つの父が。爾後、オフルマズドの甘味は考えを保つ者たちより 105-12) 打ち為されてあった。どれだけの子供たちを育てる事の為に、それに対して打ち置かれて 105-13) 有ったのか。それらには六組がそれには亦、有ってあった。男と亦、105-14) 女、常に兄の妹であり妻となった。全てマシュエーと共に 105-15) マシュアネーが六組で有ってあった。それらには亦、夫々に一つ 106-01) 五十年に於いて子供が、それには亦、打ち有った。自ら百年に於いて亦、打ち 106-02) 死んであった。其の六組より、一つのシヤマクの名の男と亦、106-03) 妻が、それらには亦、一そろいを、亦、それが産まれた。男はフラワク、妻はフラワク 106-04) 二つの名が有った。彼らより十五組が、亦、産まれた。即ち、其れは、夫々の 106-05) 種々の所の二組で有った。それらには亦、世界の行いの全てが、106-06) それには亦、有った。其の十五種よりそれらの其の九種は 106-07) サルサオク牛の背、其れに於いて豊かになった。其れに対する所の海は 106-08) 第二の所の六つの大陸を過ぎた。其処に置くことを為した。六種は 106-09) フヴァニラに於いて来てあった。亦、其の六つの種より、二組の、男はターズ、106-10) 妻はドゥヴァーザグの名が有ってあった。それらには亦、タジカーン平野に於いて 106-11) 有った。タジカーンの名はそれには亦、彼の為に、この様に善く呼ばれる。106-12) 一組の男はホーシャング、妻はグザクの名が、それには亦、アーリヤンで、それには亦、106-13) 有りてあった。一組は（男は）マゼンダラン、それには亦、（妻の）ドザイが有って 106-14) あった。其の所の我が源に於いて、其の所のエーランの国々に於いて、其の所のトゥーランの国 106-15) に於いて、サルムの国に於いて有った。其の所のローマは七十の国に於いて有った所の、107-01) 其の所の其のチヨニスターンは七十の国、其の所の五十の国が。107-02) 大陸の六つは、第二に、全てマシュエーの所のフラワクとシヤマクの子供より 107-03) 有った。その様に、十種の人間が、元のものより言われた。十五種は 107-04) フラワクより有った。三十五種は全てガヨーマルトのタネより有って 107-05) あった。その様に、地上と水の、胸の耳、胸の目、一つの足、亦、其れも其れは翼を 107-06) 保ち、茂みのコウモリのその様に、尻尾があつて、其れは毛を身体に於いて保つ。107-07) その様な、動物たちのよう

に、其れをクマと言う。サルは水を打つもので、其れは高さが 107-08) 六程の所の普通のベフナーンの其のスパンで、其れはたかさ六分の一の所のふつうのベフナーンの其れである。107-09) ローマ人たち、トルコ人たち、シンダグ人たち、ダーイエク人たちと亦、アラブ人たち、場所場所の 107-10) ヒンドゥーグ人たち、エーラン人たち、其れらの程に言う、即ち、此れよりまでの大陸の所 107-11) の六つの其れに於いて、一つの種の夫々により新しい多くの種が有ってあった。更に、107-12) 邪惡の理由に於いて混合が有った。その様にその様に、異端が、水や亦、大地より 107-13) 有った。水生の頭、其れは水と亦、大地の夫々二つを生きる。此れより他のものと亦、107-14) 此の形より、妻たちの性質の上に。それには言う、107-15) オフルマズドが、それには時に、妻を創った。即ち、創った理由が汝に有る。汝には其れが 108-01) 世界の邪惡な種が、汝に亦、始めに創った。其れは、亦、一つの口を創って 108-02) 有った（汝は）。汝には其の交わりがこの様に、思われた。その様に、口に於いて一つの味が 108-03) 食べ物の甘味を紡ぐ。我と汝の友情より汝の其の男、それには亦、産んだ。汝は苦を凌ぐ。108-04) オフルマズドより我は有る。併し、若し我に亦、得たなら、其れは、男である所の着物を、それには亦、108-05) 我は為す。そして、我は創らず。今は常に、汝は其れを、邪惡なジェフの種の其れを 108-06) 我に打ち求めた。水と亦、大地、植物と亦、動物の内に厳しく最も高く、川底の 108-07) 深い所の其れも得られなかった。着物、其れは、正しい所の男、それには亦、有った、108-08) 邪惡なジェフを除いて、妻が。此れも言う。即ち、イム、それには時に、栄光が、それには亦、108-09) 打ち進んだ。デーウたちによる所の恐れのために、一つのデーウが二つの妻に於いて為した。妹のイマクと亦、108-10) 一人の妻に於いて一つのデーウに対して創った。それらには亦、サルと亦、クマと亦、108-11) 茂みにいて尻尾のある他の損ないに関わる種が、それには亦、有った。108-12) それには亦、子供は掴まれなかった。黒人の為に言う、即ち、アジ・ダハクは 108-13) 統治の内に若い妻のデーウを上 に 据えてあった。若い男は魔女の上に 108-14) 据えた。それらには亦、若く見える所の其れに於いて交わりを為した。108-15) 新たな一つの行いの其れより、黒人が有った。時に、ファリドオンは其れらより、109-01) エーランの国より跋扈してあった。ニシグティグ海の縁に於いて 109-02) 為した。今、アラブの人々の跋扈に於いて、再びエーランの国に跋扈 109-03) してあった。

第 20 章：生殖の性質について

性質の上に、夫々の種により戦の起こりがある。109-04) 教えに於いて言う、即ち、女、其れは月の物より打ち洗う。対して、109-05) 十夜に対してまで、それには時に、近くに対して行く。身籠りの前に 109-06) 有る。この様にも、馬や亦、驢馬や亦、野性のロバは八夜に於いて、犬や亦、其の為には、109-07) 五夜に於いて、亦、羊や亦、ヤギは一夜に於いて。亦、この様に、夫々の汝にも、この様に 109-08) 其れらにも少しの水に関わる物

が、一夜と亦、女の月の物と亦、109-09) 動物たちの月の物に於いて、交尾期、其れは動物たちの発情が有る（それらには）。血 109-10) を吸わせしめる（それらは）。女は常に月の物まで、戻って有る、孕むことに対して 109-11) 有った。併し、其の十夜の内の前に有る。それには時に、月の物より 109-12) 知って居た。時に孕みの時が来ていて、常にそれには時に、109-13) 男のタネがより力を持って息子が。時に女の所の其れがより力を持って落ちた所の娘が。109-14) 時に、夫々の二つのタネが同じに為って、二通り三通りが、それに於いて 109-15) 有る。若し、オスたちの所のタネが前に来れば、肥って有った。110-01) メスに対して増えると、それには亦、義務と為る。若し、亦、メスのタネが 110-02) 前に来れば、血に為る。メスが、それには亦、弱く為れば、メスたちの 110-03) 所のタネは寒さを凌いだ。亦、容れ物より流れつつ。赤と亦、黄色の類の 110-04) 熱くて亦、乾いたオスたちのタネが流れつつ、頭の髓より、白い種の 110-05) 形のメス乃タネが前に打ち行く。諸家の内に先へと変わった。110-06) オスたちのタネは上に打ちいる。諸家の其れは一杯に打ち 110-07) 為る。全ての其れは、それには亦、余分と為る。再び血へ対して為る。110-08) メスたちの血管に於いて内へ進む。善い生き物の誕生に於いて、乳は再び 110-09) 胸に行く。其れは、誕生のそれに対して、子供を育む。その様に、全ての 110-10) 乳はメスたちのタネより有る。爾後、其のオスたちのタネはメスたちの血と 110-11) チーズの様な初乳を結ぶ。亦、其の諸家の口は 110-12) 混ぜる。驢馬の其れは四十日、人間たち、馬の種々、110-13) 牛たち、他の此の形は三十日、羊たちの其れは十六日、110-14) 犬たちの其れは。十日、キツネの其れは七日、ラスプクの所の其れは五日、110-15) ネズミたちの其れは六日、精液に於いている。爾後、三日の 111-01) 混合に於いて在る。精液と亦、血は、爾後、有る。その様に、時に、111-02) 信仰が有って、育った。眼と亦、耳、鼻と亦、口、それには亦、顔、身体、亦、手と亦、111-03) 足と亦、他の肢体と亦、常に、骨、髪の毛が父たちの血と肉より、111-04) 母たちより。爾後、ラクダたちの其れは六月に於いて、人間たちの其れ、111-05) 亦、馬の種々、牛たちは五月に於いて、ラスプクの其れは一 111-06) 月に於いて、ネズミたちの其れは十五日に於いて、母の所に対して明らかさが有る（それらには）。111-07) 夫々の食べ物、時に母は食べる。其れらにも育つことが、111-08) それには亦有った。爾後、十二月に於いて駱駝が、十月に於いて人間、111-09) 馬の種々、牛たちが、亦、五月に於いて羊たちが、五月に於いて 111-10) 犬が、亦、三月に於いてキツネと亦、豚が、二月に於いてラスプクが、111-11) 一月に於いてネズミたちが生まれる（それらは）。鳥たちの為に、言う。その様に、雄鶏、111-12) ワシ、セーン鳥ほかのより大きいもの、其れは邪悪ものたち、即ち、四十日に精液の所に於いて 111-13) 三十日に混合に於いて、十五日に卵に於いて、十日に翼の打ち育まれるまで。111-14) 他のもものたちは、七夜、精液の内に、七に混合に於いて、亦、七に 111-15) 卵の内に、父たちの赤子と打ち為るまで、七に翼の打ち育まれるまで。

112-01) 亦、此れも乳のやり方と同じ様に、亦、赤子は卵の黄身より形作られた。112-02)

それには亦、泡が、その様に、動物たちの様に、其れは卵の白身と肉の黄色より 112-03) 育まれ、白身の内まで有った。それに対して常に生きる。卵の上のやり方は 112-04) 時に、生まれて乳に於いて賄う(それらは)。それは時に其の白身が食われた。112-05) その様に、時に乳が赤子と為る。爾後、外側に対して来る。112-06) 自身も餌を集めた雄鶏の有る所、亦、有る所のない、斑のために母のその様なことが 112-07) 有る。雄鶏、其れは部分の瘤、亦、ダハーグも前に、亦、言う。112-08) 一つの其の卵に於いて為すこと有る所、時に秘密が有る所の、時に 112-09) 明らかさが有る所、人間たちの中程はない。方々より内に、更に家族が、此の 112-10) 形の雄鶏に於いて。有る所の山の峰、其れはハライダンカルダハクと呼ばれる。112-11) 時の内に暑さに於いて満たされ、亦、冬の内に寒さに於いて満たされて進む。112-12) 一年の内に三度、赤子を為す。始めの時の一つは、それにはまた、112-13) 冬の赤子が打ち居る。一つの時、寒さと暑さの内に、打ち居る。112-14) 一つの時、夏の内に、赤子は虫を打ち食った。此れも三事のオス 112-15) 四のメスを言う。空、金属、風と亦、火、113-01) オスは亦、決して異ならず有る。水と亦、大地と植物と亦、魚とメスは 113-02) 決して異ならず有る。他のオスと亦、メスの創造はこの様に。又、113-03) その様に、魚の為に言う。即ち、息子の初めの創造の時に於いて、113-04) 水の注ぐことの其れに於いて、水に於いて下へ行った。一ハーサル(一サール)の長さが 113-05) 有った。五フラサングの四分の一。水に於いて下へ行く。亦、一ハーサル(一サール)の 113-06) 同じ形の水に向かって再び来る。亦、内に来る。行くこと 113-07) 共にして、身体のことを先へと掻かしめる(それらは)。それらには亦、睡眠の形に打ち落ちる。113-08) 夫々の二つに対して、孕むことが有った。海の所に於いて豊かに為った。うみの所は少しの川 113-09) と亦、他の海の所の水が、時に満ち潮亦、引き潮、亦、水の動きは 113-10) それに対してない。時に、有り、内に落ち、亦、水が打ち導き、亦 113-11) 水の動きに於いて同じように為す。それらには亦、この様に思う、その様に、113-12) 水の流れの其れがあり、其れらの魚たちが水の浅瀬に於いて息子と亦、113-13) 欲を為す。亦、水の深みに於いて生む(それらは)。五つの酒が損なわれた。平和の 113-14) 為に、言う、即ち、三つのアリズの赤子が育つ。カル魚のアリズは千日を 113-15) 其れの所を育ませる(それらは)。一つのアリズヴァクの九千のマルグガーイが、八千のナル 114-01) ザンギーグが、七千のタカイ・ウド・グリバグが、六千のデービーギズ・アダパクが、五千の 114-02) パシュムアーバグが、一つ一つに四千、ディーンナマクチッドの五千が、年赤子の内に 114-03) 成熟する。此の魚たちの名はアヴェエスターに於いてその様な魚が。114-04) 卵の力は与えさせる(それらは)、夫々一つの一つの番いの胎は、一つの番いの其のやり方の内に 114-05) 卵たちが打ち到らせている。その様に、動物たちは、夫々の一つの丸さに於いて 114-06) 自らの期間に於いて、時にこの様に、併し、穴の所の其れに於いて、胎に於いて 114-07) 卵の宮殿は、それに対して結ばれていた。其の卵たちを打ち 114-08) 排出する。其の卵は水の内に育まれる。亦、育つ。魚の小さいものが、それには亦、114-09) 有って、来る。多くの多くの大きいもの

が有るだろう。魚の自らの 114-10) 時の事に於いて、時に、水の深みの其れに対しての内に戻る。卵を 114-11) 出す。其の卵は対して食べる。其のところは得られない。それは亦、打ち散らす。114-12) 其れを育む。この様に、水と亦、大地、植物はおなじ実の所より熟させる（それらは）。即ち、114-13) それらには、一つのオスはない。シャフレヴァールの月に於いて、有る。閏のティル月、114-14) 即ち、春に魚たちの孕みが有る。フラワルディーンの月有り、114-15) 閏のスパンダルマドの月有り、即ち、馬と駱駝と同じ生き物が打ち生まれる（それらは）。115-01) 亦、オスの鳥たちより卵の其れを放つ。あるいは、雄鶏の其れが有り、115-02) 人間たちの視野に於いて打ち放つ。

第 2 1 章：植物の性質について

植物たちの自然の上に。115-03) 教えに於いて言う、即ち邪惡の所の其れの来たことより前、植物が。爾後、亦、115-04) それに対して皮は有ることなし。其れは、爾後、邪惡の内に皮が有る。115-05) 棘のあるものが有った。其れは、邪惡が全ての事に対して混ぜた所。植物の 115-06) 所に打ち対して毒を混ぜた。植物の我が、其れにも多く、毒をより混ぜられた所が有った。115-07) その様に、トリカブトや亦、ブラーダン、即ち、毒を持つもの。亦、人や亦、動物が其れを、それに亦、115-08) 食べて、死ぬ。五十と亦五を共なう種の穀物、十二種の 115-09) 薬の植物の所が、唯一創られた所の牛より有っていた。万の植物 115-10) それには亦、元となる所の植物が、亦、百の葉、千種が、植物の種の内 115-11) 大地の内に育っている。それには其れが混ざっている。此の全てのタネより 115-12) 多くのタネを持った所の等々が、豊かになった所の海の内、全ての植物のタネが 115-13) それに対して育っている。それには其れは、此の全ての植物のタネがそれに対して 115-14) 唯一創られた牛の其れが有ている。夫々の年、セーン 115-15) 鳥は等々の所の其れは萎んだ。其のタネは水の所の内に混ざる。ティシュタルは 116-01) 水の増えることに共ない取る。諸大陸に対して雨降らず。亦、近く 116-02) 其の等々の所に対して、値打ちある所のハオマ、損なうことのない所の薬が育っている。116-03) アレキサンドイオル泉の内に全ての其れを食べる。水源が有る。それには亦、116-04) ドークカローの木と呼ばれる。全てのアレキサンドイオルは、全て其れはその様に言う、116-05) 即ち、ハオマのその諸花、それには亦、フラシャギルドに於いて不死である。それには亦、甦らせる。116-06) 植物たちの主で有る。植物は此の多くの形で斯く有る。樹と亦、木は 116-07) 亦、木の実、穀物、花や亦、峰の花、水のお供え、草の物、若木、木の物、ゴム 116-08) 薪、併し、油や亦、顔料や亦、服。それには亦、詳しく私は言う。全ての此の木の実より、116-09) 人間たちの食べ物の為に於いて、住まいは多年生のものが有る。その様に、一つの頭の 116-10) 亦、チナールの白い木が亦、よいツゲが亦、タマリスクその他が、此の種より 116-11) 木と呼ばれる。夫々のそれには其の木の実が、人間たちの食べ物に於いて、住まいの 116-12) 多年生の物が。この様に、その様に、ナツメヤシ、クーナール、ブドウ、マ

ルメロ、リンゴや亦、シトロンや 116-13) 亦、ザクロ、モモや亦、優れたナシや亦、クルミや亦、アーモンドその他は、116-14) 種より、果物と呼ばれる。夫々の其の木の実は、人間たちの食べ物に於いて 116-15) できる。其れの所が出来ない多年生の物も有る。木と呼ばれる。117-01) 夫々の其れは、日々の食べ物に於いて出来る。時に、木の実を投げ下ろす。元は打ち 117-02) 干し上げる。他はこの様に、その様に、ムギ、ワシヤグ、コメ、ニール・ガル、亦、善い心の 117-03) 知識より、亦、モロコシ、ヒヨコマメその他、それらの此れは穀物と呼ばれる。夫々は其の 117-04) 花咲いた物たちが多く、人間たちの耕作の内に時に有る。あるいは、117-05) 種蒔かれている。常に有る。花と呼ばれる。夫々の其れ 117-06) 香ある花は、人間たちの耕作の内に時に時に有った。117-07) あるいは、元の同じく同じく常に有る。時に於いて花咲く。亦、芳しい花は 117-08) その様に、花と花と葉が、亦、ジャスミンや亦、ノバラ、アネモネや亦、クスティエグ、ケーダグ、117-09) チンバイ、アイリス、サフラン、サフラワー、アバダーグ、カールダグその他であり、花と 117-10) 呼ばれる。夫々のそれには其れ、芳しい木の実、あるいは芳しい花が 117-11) 起きて変わることなく。人間たちに、時に於いて有る。自然生と呼ばれる。117-12) 夫々の其れ、大きな動物たちの食べ物に於いて、動物たちに宜しいものは、草と呼ばれる。117-13) 夫々の其れは贈り物たちの前の内に行く。スパイスと呼ばれる。117-14) 夫々の其れは食べ物のナーンに於いて、食うのにまた宜しい。亦、その様に、117-15) ヘンルーダ、セロリや亦、コリアンダー、カユキザグは野菜と呼ばれる。夫々の其れはそのように、118-01) ニハーン葦、パームバズその他は、それらの此れより、衣服と呼ばれる。夫々のそれには其れ 118-02) 髓や亦、脂肪を含む。その様に、ゴマを搾ることの所、亦、アサの実や亦、オリーブ 118-03) その他のそれらの此れより油の所と呼ばれる。夫々の其れ、衣服は、亦、それに対して 118-04) 注ぐことが出来る。サフランと亦、木のタマリスクや亦、ローサーン、値打ちあるターメリック、ローンデーンは 118-05) ワングローグと呼ばれる。夫々の其れ、根っ子、あるいは、身体身体、あるいは、芳しい木、118-06) その様に、クーンダルグ、ワラシュト、コスツス、フヴァラン乃亦、梅檀樹、プロードムンダク、カイコールク 118-07) カンフルや亦、役立つ匂い、その他のもの、それらの此れより香る木と呼ばれる。夫々のそれには其れ 118-08) ゴムの様な所より、植物より打ち来る。ゴムと呼ばれる。此の全ての木の所の 118-09) 其れらの植物たちの、時に切られた、あるいは、乾いた、あるいは、湿ったものは、薪と 118-10) 呼ばれる。此の全ての植物たちは、一つの枝に於いて木と呼ばれる。植物 118-11) 全ては、二種の少ない薬と言われる。メーノーグの本質の三十種、118-12) それには亦、十種が内側と亦、外側を食べることが出来る。その様に、イチジクや亦、リンゴ、118-13) 亦、マルメロや亦、シトロン、ぶどうや亦、タントブン、ナシ、クーンハーンの十は外側を食べること 118-14) が出来る。内側は食べることができない。その様に、ナツメヤシや亦、モモ、118-15) アプリコット、サロズト、セーナグ、クーナール、ワルグや亦、サールの十は、内側の其れは食べること 119-01) が

出来る。外側は食べることができない。その様に、アーモンドの類と亦、ザクロ、ゲロン、119-02) ヘーゼルナッツ、クリ等々のグルガン地方の、其れはカラのところも呼ばれる。量により 119-03) 此れによって有る。併し、此の本質は多く有る。其れは、少ないその二つ、二つの木より 119-04) 植えられる。その様に、我が群れを隠すこと、亦、義務や亦、借りや亦その他、それらの此れより我慢があり 119-05) 責めと呼ばれる。此れも言う、即ち、夫々の一つの花には自ら一人のアマフラスバンドが。119-06) それには亦、有る所に言う。ギンバイカ・ジャスミンはオフルマズド自身。亦、白のアユモンド 119-07) はヴァフマン。モールプ・ナムルプチュゴシュはアルドゥヴァヒシュト。亦、バジルローヤルはシャフレ 119-08) ヴァール。スペックルド・バジルはスパンダルマド。ユリはホルダード。チンバイはアムルダード。シトロン 119-09) はダイ・パド・アードウル。スイレンはアーバーン。白のハーブはフヴァール。スイセンはマーフ。119-10) アーブシュクはティル。ミジュ・ヴァルスはゴシュ。カールダグはダイ。全ての蕾はミフル。119-11) 亦、赤いアイリスはスローシュ。亦、ノバラはラシャン。ボーイエスターン・アブローズはフラワルディン。119-12) セーン・バルはヴァフラーム。ヴァハーリグ・ザルドはラーム。芳しいシトロンはワード。シャムブレダクは 119-13) ダイ。百華はディーン。ハマーグ・ニハールはアルド。アネモネはアシュタード。白のホームはアスマーン。119-14) バーナグ・スプラフムはザームヤード。サフランはマーラスバンド、より優れた主たちの鳥は 119-15) アナグラたち。ホームを捧げる私で有る。四種の自らを為す（それらは）。植物 120-01) の為に言う、即ち、夫々の一つの幹、一つの水の雫が、善い神に於いて、四つの 120-02) 火の指が前より、亦、全ての水からのものクナールより、瑞々しい茎と花々が。

第 2 2 章：動物たちの創造について

120-03) 再び、私によって言われた。人間たち、動物たちの所の主たることの上で 120-04) 夫々に一つの事がある。教えに於いて言う。私によって即ち、初めに、人のガヨーマルトが 120-05) 創られた。白の光の眼、彼れは大きく、併し彼れはない。其の主は 120-06) 其れはザラドフシュト。全ての主であることの主は、ザラドフシュトより有った。オリックスの 120-07) 白はザラドフシュトの頭より下に保つ。山羊たちの主は 120-08) 初めに彼は其れ、其れらの種を先へと創った。ヒツジのスパルグ、120-09) 白の顎。ヒツジたちの主は、初めに其れらの種より 120-10) 彼が対して創った。駱駝の膝の毛が白い、二つの瘤の、駱駝たちの 120-11) 主は初めに、膝に地色の毛の所の黒の牛を創った。其の 120-12) 有る。牛たちの。主は初めに白の馬の、黄色の耳の、輝く 120-13) 顎鬚の、白い目のを、先へと創った。其れの有るところの。主は白の驢馬 120-14) 猫足の驢馬たちを。主は初めに犬たちにより、犬の所の 120-15) 荒くれの黄色い毛のを創った。犬たちが有った。主は初めに 121-01) 赤茶のノウサギを先へと創った。其れは有り、豊かに進むものたちである。其れらの主は 121-02) 野獣たちの栄光の所に於いて同じである。其れは頂点の

贈り物で有る。初めより 121-03) 鳥たちのセーンたちの二種が有った。其れは此処にはない。クレーシュベドや 121-04) 亦、主は鳥の所の其れ、それには其のディーンがイム・カルドのオスに向けて運んだ。初めに亦、121-05) イタチ、白いオコジョを創った。彼は有る。イタチたちの主はその様に 121-06) 言う、即ち、白の所のオコジョは、力に対して、其れはアマフラスパンドたちに 121-07) 来た。カル魚のアリズや生き物たち、その他を、主は創る。ダーイティ川 121-08) 流れたちの、水たちの主、カーラージャ川、川岸の主。それには其のいえ、121-09) ザルドフシュトに於ける父である所の、川岸に於いてザルドフシュトは其処で生まれた。121-10) オンドリは、森たちの中の森、主は、高い所の限りない、其れは全ての強さの水、それにたいして 121-11) 高揚（バーリスト）の輝きが。主は其処でサドヴェースの星より移り変わりを、地獄の上に。121-12) 主は、一つのハオマ自らが薬の植物を。主は、敬いの豊かさを 121-13) 三つの程の植物に。主は、大きい小麦と役立つ穀物たちを。主は、夏の 121-14) アワ、其れは、木と同じく呼ばれる。若い役立つものたちの穀物たちを。主は、121-15) クスティエグの布たちを。主は、海の守りの腕を。主は、二人の人間を、其れは 122-01) 共に先へと為す所に於いて。より賢い所の其れは正しいより善い言葉。主は、

第 23 章：植物について

122-02) 亦、其れも。教えに於いて言う、私によって即ち、全てではない軍隊の所が損なわれて有った。122-03) 同じものを創った。即ち、全て一つで有った。其れの為に、栄光は正しく働き 122-04) 安らぎに於いて、亦、五十の英雄が、全ての其れが、良いことの其れに於いて働き、122-05) 為す。靈魂が、その欲望、其れは水の為に、同じものを創った。其れは全て塩辛く 122-06) 損なわれない所の水で、全ての水は、天と大地の内に値打ちあるもの、122-07) オフルマズドが齎した、アルワンド川を除いて。植物たちよりナツメヤシの実、五十と亦一、其れは 122-08) 自らの印の上の所の植物と言う。全ての植物たちは天と大地の間に 122-09) 値打ちが有った、喋られたドークドローンを除いて。それには其れは逃れた、それに対して導かせる（それらは）。122-10) 山々よりフパルセン山は元よりサガスタンに於いて、峰は 122-11) クジスターンに於いて有る。山々の全てはパーリーフと言う。全ての山々は 122-12) 値打ちがある。天と大地の間の所の値打ちが有った、ハルボルズを除いて。亦、鳥たちより 122-13) チンローズ鳥が有る。全ての鳥たちは、天と大地の間に、値打ちが有る。122-14) 全くの悲しみの二羽の所のセーンを除いて。此れは即ち、より多くの行いを 122-15) 為す。それよりそのように、それには更に、より多くの値打ちが、

第 24 章：火の性質について

火の所の性質の上に。123-01) 教えに於いて言う、即ち、五つの形の火が創られている。

123-02) その様に、ベレザサワグの火、フーブラシュンの火、123-03) 亦、ウルヴァジシュトの火、ヴァジシュトの火、スペニシュトの火、123-04) フーブラシュンの火を分ける。良く暗闇の光の其れは牛や亦、123-05) 人間や動物たちの内に。ウルヴァジシュトの火は植物たちの内に。123-06) ヲヴァジシュトの火は、戦いに於ける抗いの光に向けて、上の、内の所の其れ 123-07) で在る。スペニシュトの火を分ける。世界の内の所の増えていく 123-08) 其れは行いに於いて保たれている。亦、ヴァフラームの火も、其れは 123-09) 其れらの六つの火の一つ。食べ物の方々二つを食べる。その様に、123-10) 人間たちの身体の内其れまで、胃袋に於いて与えられている。それには亦、123-11) 食べ物、水を消化する為に適う事である。一つは食べる。一つは食べ物の為に 123-12) 食べる。その様に、植物たちの内の所の其れ、其れは水に於いて 123-13) 住まい、育む。亦、一つは食べ物を食べ、水を食べない。123-14) その様に、ゲーティグの内其れは、働きに於いて保たれる。ヴァフマンの懺悔も、123-15) 一つは水を食べない。食べ物を（食べ）ない。その様に、ヴァジシュトの火 124-01) ベレザサワグの其れ、地上や亦、山やその他の物の内に。124-02) 此の三つの火が有る。この様に、ファッローバグと亦、グシュナプと亦、ブルゼーン・ミフルが。124-03) オフルマズドの初めの創造より、その様に、三つの其れらの栄光が、世界のワインを保つこと 124-04) に於いて、先へと創造した。栄光を持った其の身体に於いて、世界の内に常に 124-05) 有った。亦、タームレードの統治の内に、時に、人間はサルソグ牛の背中に於いて 124-06) 其のフヴァニラより他の大陸に対して常に行く。124-07) 夜、海の中の風に於いて世界の主。亦、爾後、海の火床、124-08) それには其の懺悔が内に有った。その様に、牛の背中の所に於いて、場所に於いて 124-09) 為されていた。火と共に貧しい所に打ち対して陥った。其れらは 124-10) 全て三つの火、その様に、三つの栄光が場所・ガーフに於いてこの様なガーフの所の 124-11) 牛の背中に於いて育ってあった。亦、同じ光は打ち有った。124-12) 人間たちの其れは、海の所に於いて共に過ぎて有った。イムは、全ての所の統治の内に 124-13) 行いは、其れらの援助に於いて、全ての三つの火は 124-14) より多くに常に全ての、それには亦、この様な栄光が与えられたガーフの所に対して、栄光に於いて 124-15) 有った。山はフヴァリゼムに於いて亦、値打ちがある。それらには、時にイムが打ち作られた。125-01) イムの栄光はダハーグの栄光より、この様な栄光を取り戻させる。ウィシュタースプ王の統治の内に 125-02) 見える事に於いて教えよりフヴァリゼムよりカーウの国のカワールー山の光に対して、125-03) 亦、輝きが値打ちが有った。その様に、今も其処に留まる。125-04) アードウル・グシュナプはカイ・ホスラウの所の統治まで、為された所の其れに於いて、時に、125-05) カイ・ホスラウは偶像の毒を常に砕いた。馬の蠶に対しての上に 125-06) 置いた。亦、暗さと亦、闇を打ち叩く。亦、光を打ち為した。偶像の毒を砕くまで、125-07) 同じ事に於いて、其処で邪宗の先の所に於いて、王の火たちは置かれた。125-08) 其の理由に於いて、グシュナスプと呼ばれる。其れは馬の蠶の上に置かれた。アードウル・125-09) ブルゼーン・ミフル

はウィシュタースプ王の統治まで、同じ種の世界の内に 125-10) 常に動いた。守護は常に為された。時に、子孫たちのザルドフシュトは 125-11) 教えを与えた。邪悪が増えたことに於いて亦、教えは疑いなくなった。ウィシュタースプの 125-12) 子供たちまで、教えの神々はいる。多くの事が明らかに、亦、身体より為された。125-13) ウィシュタースプたちはレヴァンド山に於いて、時にウィシュタースプたちの後ろに言う。125-14) 与えられたガーフに対して置かれた。其れらは全て三つのこの様な、そのヴァフラームの 125-15) 火が常に、身体と同じゲーティグの火が、それらには亦、其の栄光がそれに対して 126-01) 住む人のやり方の人間たちの身体が、時に、母のお腹の内に 126-02) 先へと有った。一つの靈魂がメーノグより上に置く。其れは身体其れが生きるまで 126-03) その様に導く。時に、其の身体は落ちて死ぬと、身体は大地に対して混ざる。126-04) 靈魂は再びメーノグに対して行く。同じく有る。時に、千のゲーティグの所の火が 126-05) 其の一つに対して為される。亦、其の呪文に於いて明らかとなる。亦、お供えが与えられる、与えられたガーフに対して、126-06) 置かれる。それには有る。メーノグの小麦を、火たちの栄光より上に置く。126-07) その様に、其れらは時により、ゲーティグの火に於いて住む人が有って 126-08) あった。その他にもヴァフラームの火が、それらには亦、ゲーティグの身体火 126-09) 其の栄光の所の靈魂は、神々より来る。それに対して置くために、今も 126-10) 同じ種の悪魔の破壊の。亦、人間たちの守護が常に為される。126-11) 時に、打ち任せられる。其の栄光は再びメーノグたちに対して逃れる。火は 126-12) ヴァフラームに於ける睡眠のために呼ばれる。其れは全ての火が、ゲーティグに於いて 126-13) 防ぐこと、ヴァフラームによる守護、スローシュや亦、それらの亦、共に 126-14) 協働より、其の協働に於いてヴァフラームと共に。この様に、ファッローバグの其れは有る。126-15) 火たちには僧が。アードウル・グシュナスプには戦士が、亦、アードウル・ブルゼーン・ミフルには 127-01) 家長が、と言う。フラシャギルドまで、世界の守護の行いが 127-02) 有る。その様に、あきらかに見られる。有る。時に、投げられる所の、デーウや亦、127-03) 悪魔を、亦、打つ。時に人間たちは言う、即ち、一つの火、彼もデーウたちに 127-04) 穢された。その様に、水も亦、植物も亦、動物も亦、森や山も亦、石も此処では 127-05) 石も亦、同じく穢されている。その其れ、要素も内に混ざっている。127-06) 睡眠の所の其れは、馬の身体に於いて打ち過ぎた。ヴァフラームの火は 127-07) 多く有る。夫々の一つに神々の主が一つ置かれている。詳しい 127-08) 多くのその様に、ヴァルドアスタルの所の火も、部分部分に於いて 127-09) ファリドンの国の部分の内に置かれている。カーダクアーンに有る所の其れは、フゾーブの 127-10) ターマースパーン、国の内に置かれた。其の報いに於いて、その時に 127-11) 花開く。職人の火が有る。その様に、三つの火がサガスターン、127-12) フラシャヴに於いて置かれた。それには時に、保つ。エーランの国の靈魂を 127-13) 為す。他の其れはニシュタスプより、自らの靈魂の所は、時にダイ・ミフルの 127-14) サスガーンの峰に置かれて有った。多くの

名と亦、多くの数、多くの 127-15) 慰めの名は全てヴァフラームの火に数えられた。多くは 128-01) アラブの職人の内で消された。多くは今も有る、一つ一つを 128-02) 統治者の設える事に於いて。パルミラの火のパユタヤは見られない。128-03) 時に、アーフヴァルのものは常に燃える。昼に於いては煙りが、夜に於いては 128-04) 火が見える。時に、清らかな物がそれに対して投げ込まれる。受け入れる。128-05) 時に、汚い所の其れは投げ返す。暑さの所により近くへ行くことは 128-06) できない。亦、如何なる魔法使いも罪人もそれに対して行くことはできない。128-07) 言われる、即ち、住まいの所の方に於いて言う諸ネーザグであり。即ち、おなじ種の一つの火は 128-08) コミシュに於いて有り、アーフヴァリシュニグの火と呼ばれる。火に於いて 128-09) 牧場を覆うことはできない。それには時に、薪が上に置かれ、燃える。128-10) 亦、時に、不在はない、同じ種が育って有るまで。時に、この様に、言われる、128-11) 時に、パルミラの火、其れが有る。

第 25 章：睡眠の性質について

睡眠の所の性の上に。128-12) 教えに於いて言う、即ち、始めに此の睡眠は創造に於いて与えられた。128-13) 人の十五歳の身体に於いて。白い眼の彼もデーウたちに 128-14) 穢された。その様に、水も亦、植物も亦、動物も亦、森や山も亦、石、128-15) ここでは石も有って、常に穢されている。それには要素の其れも 129-01) 内に混ざっている。其の睡眠は、其の馬の身体に於いて、歯の所の 129-02) 十五、あるいは五歳の所の、爾後より、諸道を其れは行く。其れも 129-03) 爾後の所より、峰の頂より逃れた人間たちが、膝程の 129-04) 長さにまで留まった、即ち、三あるいは四の丘の様なそのように。始りより 129-05) 打ち言う、身体と共に創られなかった、其れは靈魂の所を除いて、牛より 129-06) 一度に於いて創られた。其れは時に、身体が創られて有った。睡眠は爾後より 129-07) 有った。時に、人間は更に眠る（それらは）。時に、四長槍ほどの長さの正しくないものたちが。129-08) 睡眠は全ての人間に於いて到った。時に、一つが眠ると、129-09) 第二の所の其れに於いていた。時に、全ての人間たちの為に堕ちる（それらは）。129-10) 勤勉なことに於いて為す（それらは）。其れはいる。誰かの上に自らに於いて。129-11) ゲーティーグにはその様に睡眠が有る。此れも言う、即ち、大地や亦、水や亦、植物 129-12) は勤勉ではない、果実を与える為に。亦、善く耐えることも無い。亦、一つの繋がることの 129-13) 為に、時に果実は与えられない。其れは、勤勉な善き主たること。129-14) 亦、一つの危害が人間や亦、動物の種たちに於いて有った。此れも亦、129-15) 言う、同じく即ち、自然の声の所の其れの所が有る。時に、非難することが 130-01) 正しいものの為に行いを命じた（それらが）。此の非難が在り。正しい所の人の上に 130-02) 時に、ガンナーグ・メーノグによる所の邪悪が上に。時に在った為に 130-03) 非難がなされねばならない。私にも即ちそれなどの事が必要であり。私にもあるいは 130-04) それなどの邪悪が有る。其の邪悪ができるために、全ての事が 130-05) ゲーティーグの内で行いを命じねばならない。

亦、声の所の其れの所が有る其れは、其の正しいものたち 130-06) を守護する(それらは)。アヴェスターは上に言う、リラ、リュート、ハープの全ての弦楽器たちは 130-07) 奏でさせる(それらは)。等々と呼ばれる。役立つ声、其れは有る。其れは正しいものの為に 130-08) 一つの穀物をそれに対して挽く。その様に、教えなき此れの為に正しいものたちの為に言う、130-09) 其れは常に善いことが正しいものの為に与えられている。邪悪なものたちに、それは亦、130-10) 同じ類の恵みが。爾後、全ての事が正しいものの為に行いを命じさせる(それらが)。130-11) 亦、悩みを持つ(それらは)、亦、響きがそれには亦来る。正しいものたちの声の所と 130-12) 呼ばれる。有る。時に、悪いものたちの為に、正しくないものたちの為に、声に於いて 130-13) 保たれること。亦、水の音の其れが有った。時に、流れることに於いて、先へと流れる。130-14) あるいは、上より下へ与え。あるいは、対して与え。それにはあるいは、130-15) 人や亦、動物が、それに対して運ばせる(それらは)。植物の声の其れの所は有る。時に、131-01) 打ち来た所の全てに対して落ちる。大地の声の所の其れは有る。それには時に 131-02) 一つの事が上へ下へ打つ。それにはあるいは、欠陥もそれに対して、打ち 131-03) 投げ出させる(それらは)。あるいは、石を山の所より打ち掘る(それらは)。此れも言う、即ち、131-04) 植物は、時に打ち叩かせる(それらは)。植物は、植物の所に打ち対して其の所の 131-05) 植物の近くの所に於いて有り。混ぜられた。支えることに於いて。大地の色の為に言う、131-06) それには即ち、此の色、それには其の植物がそれに対して育った。それには亦、其れが、支える所が有る。131-07) それには即ち、それには爾後に向けて、即ち、多くの混合より育つことはない。

第26章：風、雲、雨の性質について

131-08) 風と雲と亦、雨の性質の上で言う。教えに於いて即ち、131-09) 正しい風の其れは此の大地より先へと創られた。十五歳の身体、131-10) 白い光の目に於いて。それには優れた皮の色の其の着物が、131-11) 亦、与えることにもより、強さに於いて結ぶことニガヨモギの様である。即ち、人間たちは、131-12) それらの時に、上に来た。それらには、更に、この様に快く思った。今や、131-13) その様に、靈魂と共に於いて大地より上に来る。その様に、空は、時に 131-14) 雲の流れる道は、右手に、太陽の側を再び廻った道が。月の 131-15) 光の所を廻った。アルワンド川の初めの元に於いて、道が、上方に於いて明らかで 132-01) 有った。それには亦、恐れがデーウたちより、全ての事に、異なり異なり、打ち見る。132-02) 強いものたちに於ける強さが、先へと動いた。それには亦、その善いことは、132-03) 同じ石ころ、ガンナーグ・メーノーグの悪より、大地と植物の内に混ぜられた。性質は 132-04) 水の力に於いて諸海の国より、それには亦、為された。爾後、デーウたちは、爾後より、132-05) 風が戦いに於いて上に打ち行って有った。それには亦、風も 132-06) 穢された。狼狽を打ち為した。爾後、風は自らに於いて見た。132-07) 其の

穢れに於いて、全ての大陸に於いて、来ることなし。部分部分は 132-08) 打ち有った。その様に言う、即ち、ほざいた、ガンナーグ・メーノーグはデーウたちに対して 132-09) 即ち、壊れた大気。風。勇ましい所の強い所のオフルマズドの棍棒、其れは、時に 132-10) 一つの風が壊した。富は全ての生き物を壊して有った。132-11) 亦、其の戦いに於いて、遍在の大気に於いての為に、それには即ち、彼の場所の 132-12) 所に於いて、援助に対して来ることなし。風は狼狽を為した。今、其の軍隊のある、132-13) 運ぶものは、来ること行くこと。人間たちや動物たちに吹いた。風は 132-14) 始めに、此のフヴァニラ大陸より、強さに於いて廻り、アルザフと亦、サワフに対して、亦、其処より強さに於いて廻り、フラダダフシュとヴィーダダフシュに対して、(対して、) 132-15) 亦、其処より強さの所に於いて廻り、フヴァニラ大陸に対して、133-01) その様に、全ての大陸の所に於いて来る。全ての方の所より吹く。全ての形に於いて 133-02) 吹く。冷たく暖かく、亦、湿った乾いた、全て一つが有った。其れは亦、133-03) 穢れたものに於いて過ぎると穢れが。時に、香りに於いて過ぎると芳しさが、時に寒さに於いて 133-04) 寒さが、亦、時に暖かいものに於いて暖かさが、亦、全てに於いて一日により過ぎる。133-05) 其の食べ物を運ぶ。風が保つ。此の気高い大地の保つこと、雲の 133-06) 保つこと。人間たちの子宮を保つこと。海の所の保つこと。靈魂を保つこと。133-07) 人間たちや動物たちの全てを一日により、時を整えること。其れを風に見た。133-08) 麻痺の為に、さらに有ることや亦、彷徨いあることに於いて吹く。その様に、さらに有ること 133-09) 吹く。グヤーン・ドークの風と呼ばれる。部分部分のために、方々より 133-10) 吹く。名前名前に於いて呼ばれる。時に、その自らの役立ちを 133-11) 吹く。正しい風の其れと言う。時に、危害多くに吹く。133-12) グヤーン・ドークの風、其れは穢れたものを拵げて、為している。雲の為に 133-13) 言う、即ち、メーノーグの所の一つの力、其れはゲーティグの所の目に於いて、見ることに 133-14) 掴むことはできない。時に、ティシュタルが、風と水の所の力に於いて 133-15) 亦、大気に対して、全ての水の雫は、雲の其のメーノーグに、全てが一つの場所に 134-01) 打ち到る。其の水の雫々は、其の力に於いて雨降った。時に、134-02) この様にないと、今、其の水は大気に於いて在る。方々に 134-03) 導くことはできない。今、それには雫がないと、雫は、併し、一つの部分に 134-04) 変わった。今、日は大気に於いて明らかとなる。時に、人間たちは、雲と言う。134-05) 山の水が有る。山の様な所の頂の上、大釜より集めて来る。134-06) 全ては多く同じに対して来る。雫に於いて下へ注ぐ。時にも、雲と言われる。134-07) できること、其れは全ての水が大気に於いて行く。其の雲はメーノーグたちと 134-08) 共にいる。受け入れる。その様に、言う。即ち、雲は其の一つのメーノーグ、134-09) 其れは運ぶ。亦、ゲーティグの所の其の所の水の所が有る。其れは雲と言う。有る。134-10) 其れは、水の砦、初めの創造に於いてフヴァローフラーンの方より明らかと為った。134-11) 其の風と水は其処に対して、王座、其処の元の部分の雲と言う。134-12) 今も、同じ種の風と其の水はフヴァローフラーンに対して常に踏み

越える。134-13) フヴァローフラインより、雲は用意された。方々に運ぶ。雨降らす。正しい所の 134-14) 其れは其のために言う、私によって即ち、水より先へと創られた。全くの 134-15) ニガヨモギ、即ち、人間たちが、それらに於いて時に、上に雨降った。今、この様に、良く 135-01) 思われた。今、その様に、身体が有った。靈魂は、初めの創造に於いて 135-02) 太陽の右の亦、側より上へ来た。その様に、銀の様な、時に、135-03) 上に来る。三十の夜と昼を、其の雨は為した。其れは、フラフスタルたちの毒を 135-04) 無力にした。海の所を豊かにした。それには亦、有った。爾後、其の雨より 135-05) 併し、その印の靈魂は、デーウたちの戦いにより、雨の其れも 135-06) 穢した。即ち、部分部分に於いて打ち有った。その様に、自らの所の其れが 135-07) 書かれた。即ち、その水たちのデーウはティシュタルと亦アスピンジュー・ローシュと共に 135-08) ヴァジシュトの火と共に、雨の動きに於いて戦った。135-09) 光の集まりが明らかになった。其の雨が為された。其れは諸海が 135-10) 亦、塩辛く、それには亦、為った。今も、夫々の年に三度、其れはティシュタルの水を 135-11) 絞る程に亦、雨降る。其の戦いが有った。デーウたちと正しいものたちは 135-12) 其処で戦いに於いて到る。其の三つのあめがかぞえられる。それには其の所の 135-13) 其の一つはそれに対してタネが蒔かれる。それには其の所の其の一つはそれに対して乾きに対して 135-14) 到る。それには其の所の其の一つは穀物が熟し、打ち 135-15) 損なわれた。時に、デーウたちの穢すことにより、多く有ったことども、亦、驚くほどあったことども 136-01) 亦、叩き、亦、汚す所の害が、部分部分の雨を雨降らす。ティシュタルは 136-02) 水を海の所より取る。併し、海の豊かに為ったことより、更に 136-03) 取る。その様に、言う、即ち、三つあしの所の驢馬が、海の豊かに為ったことの内に 136-04) 先へと動かされた。全ての海の所の水は、併し、夜たちの 136-05) 夜程に、水を、方々の海の所に打ち対して投げる。ティシュタルは 136-06) 正しいものたちのフラワフルの、他にもメーノグたち神々の援助に於いて、下へ 136-07) 来る。容器の所の偉大な雨は栄光に於いて保つ。其れは、雲に覆われる（それらは）。136-08) 時期に於いて呼ばれる。始めに、水の上に置く。第二に 136-09) 変化する。第三に。一杯に打ち為す。打ち動かせる。上に為す。136-10) 大気の所に対する上へ行く。爾後、其の水は別々に、風に於いて 136-11) 先へと動く。その様に、風の部分は、時に、土や塵を大気に対して 136-12) 引き上げる。風は、その形に於いて、協働に於いて、ティシュタルと共に 136-13) 水を大気に対して引き上げる。亦、留める。大陸は、136-14) 大陸に於いて導かれた。メーノグに関わる雲は反対にいる。雨降る。その様に、136-15) 目に見て、明らかである。即ち、風は丸く海の水の内に、大気に対して 137-01) 運ぶ。人間たちは言う、即ち、ティシュタルは水を取る。137-02) 其れは、其の力に於いて、時に、風が水を取り。ティシュタルの有る所の内に、137-03) 私には時に、海の塩を取る。其の塩気と亦、穢れは海の所に於いて、137-04) 離れる。好ましい所の其れを上へ運び、常に前の夜の一つの露を 137-05) 大気に運ぶ。留め置かせる。完全な亦、大きなまでに、大気に於いて 137-06) 為す。諸雲を

雨降らず。それらには時に、デーウたちが邪悪の侵入に対して 137-07) カラカラに為す。即ち、寒さに到る（それらは）。それに対して捨てる。137-08) 其の水は氷る。水はその様に乾きを為す（それらは）。即ち、雨降らなくなるまで、137-09) も有る。亦、時に雪は凍り。邪悪なヒルを雨降らず、有る。雨は 137-10) 場所より、即ち、有る、まちを踏み越え、場所に於いて留まった水を雨降らず。137-11) その様に傷付ける為に創る。即ち、有る、雨降ることは踏み越える。亦、其れに於いて、即ち 137-12) 有る、時に岩塩に対して有る。時に、同じ海に対して亦、有る所。時に、野良仕事に向け 137-13) 亦、恐れに於いて、多くなることに於いて雨降る。場所に対して、即ち水が有る。町に 137-14) 雨降らない。時に、其の形に於いて有る。ヴァジシュトの火は 137-15) 其の形に於いて有る。ヴァジシュトの火は、その様に、雲の内に 138-01) 打ち創られている。対するもの、アスピンジュー・ローシュのデーウに 138-02) 其の水を注がせる。亦、棍棒はアスピンジュー・ローシュもデーウの頭に対して投げ下ろす。138-03) 其の棍棒は燃えつつ、悔やむことを注ぎつつ、火の所を注ぎつつ、水の為に 138-04) 光が雲の内に有る。即ち、イナズマを雨降らすと呼ばれる。亦、アスピンジュー・ローシュは 138-05) 時に、其の棍棒が上に打つに、恐ろしい所の声を為す。即ち、カミナリと 138-06) 呼ばれる。ヴァジシュトの火も、身体はメーノグの聖なる所の火と同じく、138-07) 水と共に雲の内に、それには亦、フラワフルの其の栄光の所、限りない光より 138-08) それに対して来ている。ティシュタルも亦、他のメーノグたち、神々も、それには其の 138-09) 協働が有る。その水たちは共にデーウの同じ種の協働者たちと戦う（それらは）。138-10) それらには時に、輝かせる（それらは）。其の雨は部分部分に生き物たちの害に満ちて 138-11) 雨降らせる（それらは）。あるいは、生き物たちの役立つことより、亦、踏み越えさせる（それらは）。時に、部分は 138-12) 光らせる（それらは）。役立つことは、時期に於いて雨降らせる（それらは）。その様に、言う、即ち、138-13) 神々の必要に於いて雨降る。一日の半分と亦、一日の半分为雨降る。法に適うものたちも 138-14) カイたちの力も、デーウたちも其れより、その様に、雨の力の働き、風 138-15) 自らのも、雨の働き手たちの神々は混在期の内に有った。139-01) 其の同じ力に於いて、風の力に於いて、水は雲に対して就き従い、雨を雨降らず。139-02) その様に言う、即ち、魔術師たちを棄てた、カイたちを棄てる。人間たちの苦しみに於いて 139-03) 棄てる。同じ其れらは水の内に上へと運ぶ。同じ大地の内に 139-04) 下へと運ばれる。即ち、亦、言う（それらは）。即ち、真昼に雨降る。水の所の其れも再び 139-05) 同じ元の水源へ対して諸水は行く。それらには其の、それには其の上を取る。139-06) 此れにも言う、即ち、初めの創造に於いて、時に、ガンナーグ・メーノグは蠢いた内に 139-07) 同じ此の雨に於いて、全ての大地に対して、亦来た。全ての大地に対して吹いた。139-08) 太陽は全ての大地に対して輝く。此れも言う、即ち、ティシュタルは 139-09) 風の力に於いて水の所を大気に対して運ぶ。その様に、全ての其れは水の部分の内に 139-10) 水と共に行く。大気に対して亦、その様にヒルや亦、魚や 139-11) 亦、カエル他

は、此の靈魂より、それに亦、明らかとなる。其れより時に、同じ事が 139-12) 雨と共に再び雨降る。目に見たその様に、清らかさ、即ち有る。時に、139-13) 魚あるいは亦、カエルあるいは、ヒルが雨降る。其れを人間たちは雲と呼ぶ。139-14) 其のヒルが有る。其れは、大氣の火の燃えることに於いて、其の熱い形に於いて 139-15) 有った。身体が在る。水と共に再び雨降る。此れは火の所に 140-01) 落ちる。其れは同じ人間たちにカミナリと呼ばれる。石の所の様に有る。同じ 140-02) 海の所は、水と共に上へ大氣に対して行く。時に、敵対する所のデーウたちの手に於いて 140-03) ティシュタルは落ちる。魔術師に於いて為し、焼かせる（それらは）。140-04) 亦、吹かせる（それらは）。多くある熱、亦、乾き、あるいは寒さと亦、乾きに於いて 140-05) 欠陥が有る。人間たちの危害に於いて、再び、世界たることの所に対して 140-06) 此の柱の所が、空に於いて明らかで有る。時に、人間たちには弓（虹）と 140-07) 呼ばれる。其れは黄色緑と亦、赤の覆うもので、精靈の住処で有る。140-08) デーウ、其れは敵対することに於いて生長する（それらは）。ティシュタルは赤を雨降らず 140-09) 有ることなし。為に、雲に対して戦いの所が有る。それらには其れはデーウたちのチシュマクたちと 140-10) 呼ばれる。亦、夫々の其れは値打ちが有る。精神と亦、魔術師のある所、其れは 140-11) ティシュタルの助けの為に、デーウたちと共に戦うことまで、この様にも、亦、140-12) 円盤の風は、同じデーウたちまで、チシュマクたちが有る。その様に、ティシュタルは時に、140-13) 風の力に於いて、水を大氣に対して巻き起こす。其れらの水の為に 140-14) 亦、集めて巻き起こす。邪惡の雲に対して運ぶ。其の一つに於いて、140-15) 雲と共に亦、戦いまで、異端の為に、明らかとなる。即ち、同じデーウたちチシュマクたちの 141-01) 護るものの精神的其の風、その様な行いが、山々の諸穴に於いて 141-02) 魔術師デーヌヴィーフに於いて、道を打ち作る（それらは）。それには即ち、動きがそれに対して 141-03) 有る。多くの大地のそれ、其れを保つことは、風により、動くことに対して在る。141-04) 裂ける。風の道そのものは元より有る。有る。時に、善く割り当てられた山は、141-05) 大地と亦、海に於いて変わる。亦、水源から来た稲妻と亦、水が一杯に為る。141-06) 場所、即ち、山は揺れることなし。見えることに対して到ることなし。来ることなし。141-07) 其れは其の道が有る。大地の内に為すことはできない。141-08) 時に、守られて、速やかに裂けるに、風の道は有る。見えることに対して 141-09) 到ることなし。其れは、風の罪、世界の内にこの様に、その様に、人間たちの身体の内。141-10) それらには時に、風の罪と亦、脈が打ち在る。風は 141-11) 場所に来ること行くことができない。身体の痛みの其れを数える。141-12) 亦、靈魂の分離を望む。時に、強く有る。風の場所のアスピンジュまで、141-13) 身体は死ぬ。それ程に惡の要素の毒の、邪惡の所の風は 141-14) より強く、その様にも目に見える。即ち、より罪深い所の人間が 141-15) 有る。其の邪惡な風は、大地の内に、其れはチシュマクたちと呼ばれる。より強い 142-01) 亦、害する。毒を為す（それらは）。それらには亦、繋がりも同じ惑星たちの力に対し 142-02) 其れらの毒より。

第27章：フラフスタルの性質について

フラフスタルたちの性質の上に。142-03) 教えに於いて言う、即ち、ガンナーグ・メーノーグ、即ち、時に、フラフスタルたちの、その蠢くこと 142-04) の内に、邪悪の所の毒がある。その様に、ヘビや亦、サソリ、併しトカゲ、アリやハエや亦、142-05) イナゴ他は、此の多くの靈魂より、数が。水や亦、大地や亦、植物と共に 142-06) 混合の内に其の場所に於いて、それらには毒が有る。此の四つの要素より、142-07) 打ち崩れて有った。亦、世界の膝の高さに、フラフスタルは 142-08) 打ち在る。爾後、大いなる所の其の雨により、その様に言われた。打ち必要となって 142-09) 有る。其の水は生長して有る。その所の海の内に、世界の内に 142-10) 打ち留まった。陸地は再び（みずが）引いた。新たに新たに、その場所と亦、身体に於いて、此の 142-11) 四つの諸要素が有る。水と亦、地と亦、風と火は、常に同じく存在して 142-12) 有った。一つの生まれることに於いても、其れは再びの様に常に存在した。それらには亦、142-13) 存在が、目の光と亦、精神的なもののたちの風が、ハオマに関わるものが、其の所よりその様に、142-14) 世界の内に。それらには亦、邪悪な毒と亦、欲望たちの所の邪悪が、アフリマンの所の其れが。142-15) 此れにも多くの役立ちが。即ち、それらには時に、傷ついた身体を殺す（それらが）まで、あるいは、143-01) それには亦、控えさせる（それらは）、此の見えることより。其れはオフルマズドの持つ働き。143-02) それらには其の、美しく善く愛された身体は、動物たちや野獣たちに対して同じではない。143-03) それらには亦、地獄が明らかである。傷付ける行いは、夜に於いて 143-04) 協働、暗闇と共なる為に、輝きと亦、傷を試すこと、亦、打つことに於いて、143-05) 其の、傷の行いは、生き物たちに在ることなし。それらには亦、身体は、薬に於いて 143-06) 治癒の要素であることが少なくなり、行く。生き物たちの役立ちが。それには亦、その其の 143-07) 起こること、オフルマズドの其の四つの精髓と亦、要素より。全てのフラフスタルたちは 143-08) 三つの種が有る。水生のもの、大地と亦、羽根の有るもの。水生のフラフスタルや亦、大地の所 143-09) のフラフスタルの其れ、亦、羽根を持ったフラフスタルの其れであると言われる。水生より、カエルや亦、143-10) 陸生たちの水の所は多くの頭が。亦、羽根が有るものたちより、羽根に於けるヘビは悪のヘビの 143-11) 仲間、ダハーグの仲間、二つの頭、七つの頭、ノーグラバグと亦、シーレーナグ。或る物の 143-12) 足より運ぶ。亦、現存の黒い尾のある所のトカゲのその様に、ヘビの 143-13) 亦、夜の、亦、藪の、地面のヘビたち。耳と亦、ヘビたちの所の其れも言われる。143-14) その様に、水生ヘビの頭の上に置く。細かく亦、白い、143-15) 指の長さの、他の多くの形の全てのヘビ種は、タマリスクの尻尾 144-01) ニベークアグ、ダーナグ、ティスト、アデーナルと亦、ヴァーダグ、ジャダグほか。此の靈魂より 144-02) 全てのタマリスクの尻尾の種が。トカゲと亦、三十のヘビと亦、ヘビたちも亦、悪いタルグ、ダスティーグや亦、他のヘビは、144-03) 此の靈魂より全てのトカゲの種、円盤状の排泄物の所のメジナチュウ、邪悪な 144-04) 春の其れ、パースザールの其れ、亦、靈魂の働きは、

亦、三十のミジュヴァーン、三十の、全てより、此の靈魂より 144-05) メジナチュウの種、絹の虫、其れの所も火の内に、その様に、東方に於いて 144-06) 在る。其れは、赤い色、それには亦、注がせる（それらは）。亦、其れの所も雪の内に 144-07) 有る。其れは夫々の一つ程に二つの手が有る。他には、其の内に 144-08) 此の事より存在する。全てに一つの種が有る。二十乃その靈魂の齒より、144-09) 亦、刺す所の其れも、夜の所の其れも、亦、三つの救いのないものと呼ばれる。亦、他の頭のもの 144-10) 此の靈魂より二十よりの種が有る。青緑、亦、黒のハエ、亦、ハチミツのハエ、144-11) 三つの形より、亦、スズメバチは幾らかの形よより、アホーグヴィンドの其れも 144-12) 為す。縁たちは全て此の靈魂より。ハエの種と他のバッタたち 144-13) の種々。人間は其の所を殺す。亦、基の種たち、144-14) 亦、同じノミの種たち、羽根の有る種たち、亦、カエルの種たち、其れは細かく 144-15) 運ばれる。此のフラフスタルたちは、その様に、地面のもので有る。他のものも、この様に、145-01) 言う、即ち、フラフスタルは全て魔術師で、亦、ヘビはより魔術師である。併し、145-02) それには亦、殺されたことはない。言う、其れの所のヘビは有る、其れは毒を目に於いて 145-03) 持つ。見ることに於いて人間を打ち殺す。その様に、時に、咬んで 145-04) 居る。其れの所も有る。ヘビの場所より、牛や亦、動物や亦、馬や 145-05) 人は再び自らに対して引く。貪る。亦、ドラゴンは、其れも有る。145-06) それには亦、それ程に邪惡を好み、それに対して、其れは、罪人と同じく 145-07) 邪惡を為す。少ないフラフスタルは、魔術師の頭のデーヌヴィーフの為に、食べられる 145-08) 事の所、長さ に於いて其れより置かれる。打ち行く。確かに即ち、ない。145-09) 穢れの繋がり に於いて、併し、魔術師たることに於いて、それに対して得る。種々のアリも 145-10) 睡眠の所の穀物を、三十度得る。亦、魔術師デーヌヴィーフに於いて注がせる（それらは）。145-11) 自ら、あるいはサソリの所と同じ性質を、それには亦為す。スズメバチの形、其れは得る（それらは） 145-12) 粘土を為す。イモムシを其れの内に、得て、置く。頭を為す。145-13) 手足に於いて頭は愚かでない程、ハエやノミに対しての所に有る。同じ其のスズメバチ 145-14) に対しての所に有って居る。ルリのハエの為に言う。145-15) 即ち、時に、肉に対してウジをひり出す。亦、時に、地面に対してノミを、時に大氣に対して 146-01) 力を、時に山の所の止まり木に対して邪惡をひり出す。ペーラグの小さい所のヘビ、それには亦、146-02) 現れた。時に、ヒルの所の水に対して。アリの為に明らかになる。即ち、それには時に、146-03) 三百年を得よ！乱すことはない（それらは）。再び、ヘビに対して、翼に於いて 146-04) 此の言葉はダストウールたちより聞かれた。ヘビの類の羽根に於いては、時に、146-05) 無数の九十と亦、上の人間たちが亦、何れか一つが投げられて、死ぬ。146-06) 亦、創造主は白ワシを、其のヘビを打ち叩く所に於いて、創って 146-07) いる。即ち、その様に、ヘビより翼有るものが有る。その下に対して 146-08) 燃える太陽は進む。数限りないまで、人間たちの上に有る。146-09) 落ちた。（それらが）死ぬまで。其の白ワシは其のヘビの戦闘に対して 146-10) 行く。それには亦、水を叩く。

有る所の時には、ワシの勝利が有る。146-11)ヘビを殺す。亦、有る所の時には、ヘビも望んで、ワシを殺す。146-12)夫々に二分の一の力が有る。夫々の一つは、身体と共に捻る（それらは）。一つは線より 146-13)大地に対して落ちさせる（それらは）。多くの或る者が見た。此のフラフスタルたちをオフルマズドは 146-14)全ての知識に於いて多くを再び生き物たちの役立ちに対して変える。その様に、146-15)ハエ、其れはハチミツを作る。イモムシは、其れはシルクを。カエルもそれには亦、ヴィナーダグ 147-01)其れは、タマリスクの尻尾。ワツラグヘビ、其れは他のヘビを殺す。此の形 147-02)テイルの敵のやり方により、打ち来る。力ない所はなく。再び再び 147-03)同じ敵たちの集まりに向けてまで、オフルマズドの其れも、同じ形に於いて 147-04)起こった。その様に、魚は魚より、鳥は鳥より、野獣は野獣より、殺し、147-05)嘆く。此れも有る、混合の戦いの所の印。其れは、147-06)清らかさが、内に全く行くことがない。

第28章：オオカミ種の性質について

オオカミの種たちの性の上に。147-07)教えに於いて言う、即ち、ガンナーグ・メーノグは其のドロボウのオオカミを創った。ウズラ、147-08)悪のヘビ他の暗闇、要素の暗闇、身体の全くの暗闇、黒い所の身体、147-09)咬み付きを為すもの。毛は無く、乾きを与えた。其れは其の身体に於いて乱された。147-10)此れに於いて即ち、時に、動物を裂き、毛のヴェールを、亦それには亦、打ち引き抜く。147-11)それには亦、十五種に於いて、先へと作らせる。始めに、黒の所のオオカミ、亦、147-12)ウズラ、亦、獰猛な種、即ち、全ての事に於いて内に助けた。内に跋扈した。147-13)爾後、他のオオカミの種たち、その様に、トラや亦、ライオンや亦、ヒョウ、其れは「粉碎」とも 147-14)呼ばれる。チータや亦、ハイエナや亦、ジャッカル、其れは、フシュク・アルザーン・アンド、亦、147-15)ダール・カン、ガルザグのネコ。亦、翼ある所の其れ、その様に、フクロウや水生の其れ、その様に 148-01)アチャール・ナーン・ミジュ。フラフスタル、其れは、水生のオオカミと呼ばれる。五十のカエル他の水生の 148-02)種、種まで、内に種より。その様に、他の野獣まで、生き物は 148-03)サンゴのオオカミも、其れは、それには時に、若い、其れに於いて行く。それには亦、望む。148-04)ガンナーグ・メーノグは、それには時にカルザグを創った。即ち、我は来る、汝の居る。148-05)汝はカルザグで有る。オオカミたちの十三番目のもの。我は即ち、汝より善きこと有り。148-06)即ち、汝は歯を内に叩く。併し、蹄は穢れを打ち為す。亦、全ては其れより 148-07)打ち食う。五十の値打ち、痛み。それには亦、減ずることなし。時に、人間を打ち 148-08)咬む。カルザグは身体の所に対して打ち割り振る。其れは其れらのオオカミの種たちの（中で）148-09)カルザグが悪い。その様に言う、即ち、其のオオカミの四つの所がライオンを 148-10)打ち殺す。善い行いは多く有る。どれほどの一つのカルザグがウズラの尻尾を 148-11)打ち殺すのか。

第 29 章：四つの要素について

ダストゥールたちは教えにより此れも言う。即ち、ガンナーグ・メーノーグは 148-12) 此のオオカミの種々の祖先を作る。亦、鋭い痛みのような 148-13) 他のその悪魔まで、望んだ。時に、人間に対して到る。見ることも無く、148-14) 亦、オフルマズドの偉大な利益どもの為に其れらの身体をほざいた。148-15) 其の場所に於いて、ガンナーグ・メーノーグに対して示した。それは亦、ガンナーグ・メーノーグにほざいた。149-01) 爾後、起こることの為に、即ち、選ばれた所の其れは、全てオフルマズド 149-02) 自身が為した。それには亦、其の悪魔たることは、其の結びついた身体を傷つけて 149-03) 有る。生き物たちの行い、それには亦、更に善く護ることができる。亦、149-04) 見えるところの此れによっても、それらには即ち、望み、亦、善く大事にしている身体を望む。149-05) 犬は、数限りない野獣たちのように、フラフスタルの種ではない。傷つけられた所も、149-06) 恐れより護る。亦、有る所は、望むことの為に於いて留まらせる（それらは）。その様に、ゾウ 149-07) と亦、ライオンと亦、それらに傷付けられた、肉体的所、四つの要素より、水と亦、地、149-08) 風、火の。事々の上に、即ち、其の靈魂に於いて創られて 149-09) 居る。それらには亦、敵対するものの其れが来る。

第 30 章：ハオマについて

149-10) 教えに於いて言う、即ち、白い所のハオマ、其れはゴーギローンの木と呼ぶ。149-11) 豊かになった所の海の内に、湖の深みの其れに於いて育って居る。149-12) フラシャギルドの働きに於いて、水の内に有る。その其れは乾いたもの、それには亦、149-13) 設えられている。ガンナーグ・メーノーグは其の所に於いて亦、敵対する主、水の深みの其れの内に 149-14) 一つのカエルを作って居る。即ち、其のハオマを打ち損なう。再び保つこと 149-15) 乃其れを、一つのカエルの為に、オフルマズドは、カルの二つの魚たちを、其処に創って 150-01) 居る。ハオマの所の周りの所より、いつも常に廻る。常に、一つの一つ、150-02) 魚たちの頭の所の其れより、其のカエルに対して、共に其れらの魚たちはメーノーグの 150-03) 食べ物が有る。それらには即ち、食べ物は必要でない。フラシャギルドまで、戦いの所の身体が 150-04) 在る。有る。其の我が魚、アリズの場所は水、と書かれて居る。150-05) その様に言う、即ち、マズデースン、其の所は、オフルマズドの生き物より、其の魚まで、150-06) マズデースンの其の所は、ガンナーグ・メーノーグの生き物たちより、カエルの所の其れを、偽りの身体に於いて、其れは其れらの内に。150-07) 其れまで、夫々二つの善い生き物たちにより、二つに於いて壊される。其れの所の別の 150-08) 一つの魚、其れは傷ついた。為になる所のわが五ダストゥールは此れにも言う、即ち 150-09) この様な所の其の魚は聡い。即ち、深みの所の其の内に、魔法の 150-10) 知ること、その其れはそれに対して打ち増える。あるいは、150-11) 為になる所の五ダストゥールの為に、明らかである。即ち、豊かとなった所の海の内に引き抜く。150-12) それ

には亦、同じ程の長さが有るまで、時に、汝の多くの熱に於いて、夜明けを打ち進む、150-13)まで。時に、昼は下へ行く。それ程にそれは即ち、長さの為にひたたくられて居る。150-14)其の偉大なからだより、全ては此れも言う、即ち、権威ある所の其れより、150-15)他の所の生き物たちは、最も多くも生きさせる(それらは)。タネの多くの所の等々は、151-01)豊かとなった所の海の内に育って居る。それには亦、植物の全てのタネが、151-02)それに対して有る。其れは、正しい医者がある所の、其の、勤勉な医者が151-03)有る。其れは、全ての医者が言う。為す内に、彼は九つの山を創って151-04)居る。穴のある所の其の山、九千と亦、九百の善いものが、151-05)九万の流れを、山の他の半分の其の内に創造して居る。即ち、其の所の水が151-06)其処より其の流れの道に於いて先へと行く。七つの大陸の大地に対して151-07)その様に、全ての七つの大陸の海の所の水、大地の泉は其処より。151-08)三つ足の所の驢馬の為に言う、即ち、豊かになった所の海の中に151-09)居る。それには亦、三つの足と亦、六つの目と亦、九つの睾丸、二つの耳、151-10)亦、一つの角、青黒い頭、白い身体。正しいラシャン、151-11)それには亦、六つの目が、二つは二つの目に於いて、二つは頭の頂に於いて、151-12)二つは二つの瘤に於いて、其の六つの目に於いて、値打ちがある。151-13)邪悪を平らげる。亦、九つの睾丸の所の其れは、三つは頭に於いて、三つは瘤に於いて、三つは151-14)あばらの所の地面の大地に於いて。亦、全ての睾丸は、家の山羊のそれ程。151-15)それには亦、フンヴァンダンの山と同じ程、三つの足の所の其れは夫々一つ、152-01)時に、置かれて居て、多くの地面を保つ。それ程の千のヒツジが、時に152-02)同じ置くことに於いて、痛みを下へと置く。足の繋ぎと同じ程に152-03)千人が、千のウマと共に、戦車に、それに対して内に過ぎゆく。亦、其の二つの耳は152-04)大悪魔たちの国々を打ち変える。其の一つの黄金の角は、152-05)岩塩の様に有る。それには亦、他の千の角は、それには亦、育って居る。152-06)有る。深みの所の駱駝は有る。ウマの深み、亦、ある。牛の深み、152-07)亦、有る。驢馬の深みの所、より多くも亦、より小さくも、其の角に於いて、全ての152-08)戦いの所の其れがある。邪悪の泡を打ち叩く。打ち砕く。時に、152-09)其れは、時に、集まった所の海の所の内の所の驢馬が打ち来る。耳は打ち選ぶ。152-10)豊かになる所の海の全ての水は、揺れが、亦、揺れて、打ち152-11)乱れ、打つことで声の述べることを為す。全ての152-12)オフルマズドの水生の生き物のメスは身籠りが有る(それらには)。亦、全ての水生のフラフスタル152-13)は身籠る。時に、其の声を聞くに、若者に打ち有る。152-14)時に、海の所の内に放尿し、海の所の全ての水が清らかに152-15)打ち為る。其れは、七つの大陸の大地に於いて、其の理由に於いて、153-01)驢馬の所の全ては、時に、水を見て、内に放尿させる(それらは)。その様に、言う、即ち、若し153-02)三つ足の所の驢馬の浄めが水に対して与えることがないならば、そこで、153-03)全ての諸水に魔法を打ち掛けて、今や、ガンナーグ・メーノーグの誤りの不死が153-04)水に対して内に齎して居る。オフルマズドの生き物の数々と、153-05)亦、ティシュタルの水に於い

て、海の所より、三つ足の驢馬の助けに於いての 153-06) 為に、より多くのものを取り、名声と利益も、明らかである。即ち、三つ足の驢馬 153-07) の所の肥しが、若し、また多ければ、メーノグの食べ物が有る。爾後も、其の湿り気、153-08) 水の所の砦は、諸穴に於いて、身体の所に対して行く。牛の尿と肥しに於いて 153-09) 再び投げる。アーバージャータンスの牛と肥しに因んでも呼ばれる。153-10) 為に言う即ち、初めの創造に於いて、人間は、大陸より大陸へ対して 153-11) 過ぎる。不死のフラシャギルドに於いて、それには亦、再生させられる。

第 3 1 章：邪悪への護りについて

教えに於いて 153-12) 言う、即ち、悪の其れの所の激しいマスクはない。人は、此の大地の所の三分の一に於いて、153-13) それには亦、一つの護りを周りに為して居る。フラシャギルドまで、153-14) 時に、水の内に有り。チンロース鳥の為に、言う、即ち、153-15) ハルボルズ山の頂に於いて、多くの夫々の三年がエーランでないものの国々より 154-01) 集まる、エーランの国々に対して行くことに於いて、損ないが 154-02) 水と光と神々と世界に為された。それらには亦、ブルズの齎すこと。アルワンドの 154-03) 水源の湖の深みの所の其れより、来る。其のチンロースの鳥は上に留まらせる。154-04) 全ての繋がり of 靈魂の高みに於いて、高い山を積み上げる。其の全てのエーランの国々は 154-05) またこの様に、鳥がコクモツやコムギ（をあつめる）その様に。カルシュプタの為に、言う、即ち 154-06) 言葉を知る。教えは、イムアグラドの湖に於いて、其れは運ばれて、増えた。其処に於いて、154-07) アヴェスターは鳥の言葉に於いて言われる。亦、牛や亦、魚の為に、154-08) 言う。即ち、全ての海の所の内に有る。亦、声が為される時に、全ての 154-09) 魚たちは身籠って有る（それらは）。亦、全てのフラフスタルたちは身籠った若者に打ち 154-10) 為る。セーン鳥のダハーグはゴーカンの門に於いて為して有る。亦、154-11) アシヨー・ゾシュト鳥、其れはゾール・バラグ鳥、ヴァフマン、ワシャグジャグ鳥と呼ばれる。154-12) 為に言う、それは即ち、アヴェスターの一の一であり、言葉の内に齎されて居る。154-13) 時に、言う、デーウたちは、それには亦、注がせる（それらは）。亦、其処に住む（それらが）ために、154-14) 此の為に、居住を砂漠に於いて為す。エーランでないものたちの内に魔術師たちが居るまで、154-15) デーウたちは其処で居住することはない（それらは）。時に、魔力で護られて居ることがないと、155-01) デーウたちは、法を護るものたちを取り、矢の様にそれに向けて射て、殺す。155-02) 此の為に、鳥や亦、他の其れは、時に、魔力で護られて居て、走ることほどまで、デーウたちの 155-03) 行いは命じさせることは無い（それらは）。時に、魔力で護られて居て、食うことはない。デーウたちの 155-04) 罪は、それに対してなすことはできない。他の野獣や鳥たちも、全て 155-05) 同じ罪深さに於いて、デーウたちやフラフスタルたちを創造して居る。その様に、言う 155-06) 即ち、其の鳥たちや野獣たちは、フラフスタルたちや魔術師たちと同じ罪深さで、

155-07) 此れも言う、即ち、鳥は全て賢く、亦、為により賢く有る。白いワシの 155-08) 為に言う、即ち、ヘビを翼に於いて殺す。ルリの鳥はバツタの所に対して 155-09) 殺す。同じ罪深さに創造されている其の所に於いて。年老いたハゲワシは 155-10) 思慮深く有るところで、ヒゲワシは、死体を食うことのために創造された。この様にも、155-11) 山の多くのコヒツジや亦、山の牛、アイベックス、ガゼル、野性のロバ、他の野獣の 155-12) 全ての死体を食う（それらは）。この様にも、他のフラフスタルが。犬たちは 155-13) オオカミの種々の所の同じ罪深さに於いて、動物たちの護りを与えられて居る。155-14) キツネは、シャバグ・デーウの同じ罪深さに於いて、創られて居る。亦、イタチは 155-15) 穴を掘る所のフラフスタル、ガルザング他の同じ罪深さに於いて、創られて居る。156-01) この様にも、大きい所のネズミもカルザングの同じ罪深さに於いて、創られて居る。156-02) ハリネズミは、ダーナグシュのアリの同じ罪深さに於いて、創られて居る。その様に、156-03) 言う、即ち、ハリネズミは夫々の度に、時に、アリの一つの巣の内に啜る。156-04) 千のアリを打ち善く叩く。地面のダーナグシュは上へ進む。穴の上へ、それには亦 156-05) 打ち為す。それには時に、ハリネズミが上に行く。再び穴の上に、それには亦、156-06) 打ち行く。水生のビーバは、ヒルの所の同じ罪深さに於いて、水の内に有り、156-07) 創られて居る。其処で、即ち泡の所の声の所に打ち行く。泡の所の卵の所に 156-08) 打ち行く。全く、此れは、即ち、全ての野獣たち、鳥たち、魚たち 156-09) 夫々一つ、フラフスタルたちの同じ罪深さに於いて創られている。ヒゲワシの 156-10) 為に言う、即ち、輝く所のまたより高い所の其れより、時に、拳程の肉が 156-11) 大地に於いて有るのを見る、それには亦、ネズミの所の感触が、翼の所の下に与えられて 156-12) 居る。即ち、若し、死体に於いて食うこと、亦、死体の所の汚物を判断する。156-13) 翼の下の方へ、戻り運ぶ、戻り齎す。素早さの利益の素晴らしいことの 156-14) 為に、言う、即ち、若し、夜の暗闇に於いて、一枝の二つが、156-15) 大地に伏せても、見る。雄鶏はデーウたちと魔術師たちの同じ罪深さに於いて 157-01) 創られている。

第 3 2 章：犬との協働について

犬と共なう協働は、教えに於いて、その様に言う。即ち、157-02) ゲーティーングの生き物たちより、其れは、悪魔の攻撃に於いて、スローシュと共に助け合って有る。157-03) 犬と亦雄鶏は亦、此れも言う、即ち、命ぜられることなく、今、家に、時に、与えられたことなく、157-04) 今。諸夜の家の番の所の犬、犬はゲーティーングの駅に於いて 157-05) 人間は、この様な破壊的痛みを、そのように豚のように、ゲーティーングを護りつつ、157-06) 人間と亦、大きい家畜が、全ての服従の目に於いて、打ち叩く。豚は 157-07) 時に、犬に為す。痛みを打ち叩く。それには亦、肉の所と亦、脂が、157-08) 危険と痛みに於いて人間たちより、打ち叩かれる。亦、癒しも。爾後、オフルマズドは此の 157-09) 無利益も盗まない。其れは夫々の一つの事が、一つの利益に於いて創られている。157-10) それには

時に、目を置くことがない。権威より尋ねるべきこと、其れは亦、157-11)豚に於いても、此のやり方の所に於いても、盗んでいる。悪魔は常に打つ。

第33章：メーノーグについて

157-12) 教えの所の年の上に。教えに於いて言う、私によって即ち、ゲーティーグの生き物は 157-13) 三百と亦、六十日に於いて創られた。ガーハンバールの所の六つにガーフが有る。157-14) 一年に於いて数える。常に始めに昼が打ち 157-15) 行く。爾後、夜が其の昼に対して為す。亦、158-01) メードヨーンシャムより、ガーフの所が有る。ティルの月と亦、進むことフヴァル日まで。メードダールの 158-02) ガーフが有る。ダイの月、進むことヴァフラーム日、昼は減って、夜は 158-03) 増える。亦、メードアヒルブのガーフよりメードヨーンシャムのガーフまで、夜は減り、158-04) 昼は増える。夏の昼に最も多く、冬のものの所の二程、亦減る。158-05) 冬のものの所の夜は最も多く、夏の二ほど引かれた。夏の所の昼は 158-06) 十二ハーサルで、亦、夜は六ハーサル。夏のものの一夜は十二ハーサルで、158-07) 昼は六ハーサルである。亦、一ハーサル、一ザマーンと一ハーサルも大地に於いて同じ類である。158-08) ハムアスパトマイデンのガーフが有る。五つの日の所が、スパンダルマドの月の終わりに於いて 158-09) 昼の所、夜が等しく戻ってある。その様に、フラウルディーの月の閏のオフルマズドの日より 158-10) ミフルの月のアナグラーン日の所まで、閏の有る所まで、158-11) 有る。七つの夏の月は、アーバーン月、閏のオフルマズドの日より、158-12) 閏のスパンダルマド月五つの日、終わりに対して有る。158-13) 五つの月々は冬である。ヘルベドたちの判断する所と亦、捧げ物や亦、他の 158-14) 事が、夏と冬の事の数えることを（それらが）為すまで。其の七つの夏の月に於いて、158-15) 昼と夜の所のガーフは五つ、其れは、ラピフヴィン、対して崇められる、159-01) その様に、バームダードのガーフの所、ハーワンのガーフ、真昼のガーフのラピフヴィン、夕方 159-02) ガーフのウゼーリン。時に、星が見えることに対して来て、夜の真ん中までが、アスパソルカサルムの 159-03) ガーフ。夜の真ん中より、星が見えなくなるまでが、ウシャヒンのガーフ。159-04) 冬に於いて五つのガーフの所、其れは、朝までは全てのウゼーリン、ハーワンのガーフは 159-05) 他のも。その様に私によって言われた、それには亦、此の理由が、即ち、冬 159-06) ラシャンの靈魂が、北方に於いて、即ち、ヴォールバルシュト、ヴォールジャルシュトの大陸、159-07) 時に、家の所の元が、南に於いて、即ち、フラダダフシュとヴィーダダフシュの大陸が、159-08) 閏のアーバーン月オフルマズド日に於いて、冬の力を為す。159-09) 世界に於いて内に来る。メーノーグのラピフヴィンは大地の上より大地の下へ対して 159-10) 行く。即ち、アーバーンの所のハーワンは湿って、水に於いて内に 159-11) 来る。木々の所の根っ子まで、寒さに於いて亦、乾きは乾くことはない。159-12) 閏のダイの所の月アードゥル日、其の冬は、より多い寒さが、159-13) 頂に対して到る。エーランの郷に対して逃れるに於いて、閏の

スパンダルマド月に於いて 159-14) 頂に対して、全ての世界に於いて打ち到る。此の為に、ダイの所の 159-15) 月の日は、この様に全ての場所の火を燃えさせる（それらは）。亦、旗印を為す（それらは）。160-01) 即ち、冬が来た。五つの月に於いて、水源の所の水は、全て暖かく、其れは南の 160-02) 其処の暖かさで、亦、湿り気を保つ。ラピフヴィンの所のガーフを崇めることはない。その様に、160-03) フラウルディーンの月、オフルマズドの日が有る。冬の力の統治権は減る。160-04) 夏は、自身の元の家より来る。統治権の所の力を 160-05) 受ける。ラピフヴィンは、大地の下より大地の上に対して来る。亦、木々の所の果物は 160-06) 成熟する。此の為に、夏に於いて水源の所の水は冷たい、其れはラピフヴィンの 160-07) 其処のものではない。ラピフヴィンの所の七つの月はその様に崇められる。時に、全ての 160-08) 大地に於いて到る。インドの所の方に於いても、其処で、夏の所の家の所の元に対して、160-09) より近い、常に寒くなく熱くなく、其れは、其の時に於いて、即ち夏の所の統治権で、160-10) 常に雨たちが、亦、より多い所の暑さが、打ち叩く。亦、明らかで有ることは 160-11) ない。冬に於いては、雨は雨降ることなく、より多い所の寒さが、明らかで 160-12) 有ることはない。北の所の方に於いて、即ち、アフリシュヴァングの冬は、常に 160-13) 寒い。其れは夏に於いて、より多くの冬の所の圧力がある。其処の為に 160-14) 寒さが。この様に、打つことはできない。亦、即ち、暑さが打ち為す。亦、普通の場所に於いて、160-15) 冬の所の寒さ、夏の所の暑さの力は、より多いものより打ち到る。161-01) 更に、年は打ち変わり、年の暦と共に等しくない。此れは 161-02) 於けることの為に、其れは月に一度、二十の九が再び有る。一度が三十に於いて、それには亦、161-03) 其れには四分の一の多い時が。その様に言う、即ち、全ては言わせる（それらは）。其れは、161-04) 月に於いて言う。併し、其れは言う、即ち、此の二つの時に於いて、其の年は変わりより 161-05) 月を数える。夏は冬に於いて、亦、冬は夏に於いて混合する。161-06) 此れは即ち、混合した月であるフラウルディーンの月、亦、アルドヴァヒシュトの月、161-07) 亦、春のホルダードの月、ティルの所の月、アムルダードの月、夏のシャフレヴァールの月、161-08) ミフルの月、アーバーンの月、秋の、亦、ダイの月、ヴァフマンの月、161-09) スパンダルマド月、冬。太陽は、ワッラグの所の星宿の所の其れより、161-10) 月の所の元へ行く。三百と亦六十と亦、五日に於いて、五つの星宿の時 161-11) が有る所、一年、再び其の場所に対して到る。その様に、全ては、三つの惑星が 161-12) 盛んに、亦、少ない月に於いて到る。月は、百八十日に於いて再び其の場所に対して 161-13) 来る。元の所より打ち行く。一ハーサルの所は、大地に於いて一フラサング。万の 161-14) ガームで、亦、ニパーイは普通の所の一フラサング、同じ程の。即ち、遠くの視野の一人の所を 161-15) 先へと見た、一の大きい家畜を見る。黒を白の内にほめる。162-01) 普通の一人の人が六スパンの時、メーノーグの神々の所の行いの上に。162-02) 神々やオフルマズドは自らの所の生き物の護りを為す。162-03) 慈しみと導きと亦、オフルマズドの栄光に於いて、それには亦、慈しみと 162-04) 生き物たちの育み、真の導

きが、栄光ある生き物たちの上に。162-05) 此れは、即ち、オフルマズドによって齎された所の栄光。その様に、言う、即ち、オフルマズドに 162-06) よって齎された所の利益の所の栄光、カイたちのオフルマズドによって齎された所の栄光、亦、エーランのオフルマズドによって齎された所の栄光、162-07) ヘルベドの所の其れも、オフルマズドによって齎された所の栄光、カイたちの其の所の栄光は、162-08) イムや亦、カインスや他の主たちの膝と共に、与えられている。亦、カイたちの所の捧げ物も、162-09) それは亦、行くこと。エーランたちの所の其のエーランの栄光の所、其の僧たちの所のヘルベドの栄光 162-10) 其れは、常に知識が、彼らのオフルマズドの栄光と共に、162-11) 此の僧の為に、栄光の所のヘルベドと呼ぶ。其れは、オフルマズドは、メーノグたちの内の 162-12) メーノグの力で有る。即ち、ヘルベドの栄光は一つである為に、この様に力が 162-13) 有る。それには即ち、メーノグたちを見ることはない。それには亦、其の六つのガーハーンバルの所の 162-14) ガーフは、それには其の、ゲーティーグの所の生き物、それに対して与えられ、ラドパグ・バルザト 162-15) の名が置かれた。それには即ち、此の救い、即ち、主オフルマズドの 163-01) 様な其の四つの教えは、月の内に自身の所の名前に於いて置かれた、実に 163-02) 置かれた。光の終わりのない所の其れに於いて、亦、護る。メーノグと亦、ゲーティーグの 163-03) 生き物たちは、ゲーティーグに対しても、この様に近く、その様に。メーノグに於いて、それには亦、ヴァフマン、アルドヴァヒシュト 163-04) と亦、シャフレヴァール、右よりスパンダルマド、アムルダード、左より、スローシュが前に 163-05) 其れに於いて居る。オフルマズドの慈しみの所の其の所に於いて、生き物たちは生きる。オフルマズドの寛容さの其の所に於いて、163-06) 其の所に対して優れた光は到る。亦、オフルマズドの栄光ある全てを知ることの所の其の所に於いて、163-07) 邪悪の侵入より救わせる（それらは）。オフルマズドの保つことの所に対して到る（それらは）。163-08) それには亦、ゲーティーグの正しい所の人の所の印、其れは、正しい所の人を祝福し、163-09) あるいは、傷付ける。それには更に、オフルマズドが祝福するし、あるいは傷つけて有る。163-10) ヴァフマンの正しい働きは、グリフのまえて、その様に言う。即ち、よく力あるヴァフマンは 163-11) アシュタードの創造主、それには亦、善いこと、グリフの前で、即ち、163-12) 正しいものたちの、優れたものである所の其の所に対して、ヴァフマンは運ぶ。オフルマズドの所の 163-13) 現れであるヴァフマンを為す。それには亦、此の力が、即ち、神々の所の軍団、163-14) エーランの所のそれも、時に、平和を為す（それらは）。打ち育てる。ヴァフマンの所の為に於いて、163-15) それらには時に、間の内に進む。デーウたちの所の息吹き、エーランでないものたちの所の其れも、164-01) それらには亦、よい平和を打ち懺悔する（それらは）。ヴァフマンの為に、それらには亦、164-02) 国々に対して真ん中には行くことはない。それには亦、此の平和は、即ち、全ての 164-03) オフルマズドの所の生き物に対して、平和の所を与える。其れは、彼の所の其の平和に於いて、164-04) デーウたちを伴ったアフリマンが懺悔する。亦、穢

れに到った最後の所の身体に 164-05) なる。亦、不死を設えること、より多くを為すことができる。内なる知恵、男に関わる 164-06) 歌の知恵が、始めにヴァフマンの上に明らかに有る。それには其の二つの其れが有る。164-07) 優れたものである所の其の所に対して到る。それには時に、此の夫々の二つがない。164-08) 邪悪なものの所の其の所に対して到る。時に、内なる知恵がなく、男に関わる歌を 164-09) 学ぶことはない。それには其の内なる知恵が有る所、男に関わる歌がない。内なる智慧 164-10) を行いに対して置くことはない。運ぶことは、全ての神々の夢より 164-11) 創造主に対してより近い。それには亦、ゲーティグの動物と亦、自らの白い所の衣服の 164-12) 其れは、彼らに祝福するし、あるいは傷つけて有る。それには亦、協働者の月と 164-13) 亦、男に関わる色、平和の月の、世界の所の分け与えることの栄光、十五に増える。164-14) 十五に減る。それには亦、男たちの一つの力に於けるように、時に、白いタネの上に 164-15) カイたちに対して与える。この様に、月もやり方の所の其れに於いて、165-01) 十五に増す。善いことをゲーティグのものたちに対して割り当てる。十五に減る。即ち、165-02) 行いと亦、功德をゲーティグのものたちより受ける。神々の所の手に於いても、委ねる。165-03) 亦、その様に、言う、即ち、新月と満月と亦、ヴェシュパタス、其れは 165-04) 十五の所の一つより増える。アンダル月と呼ばれる。十より十五に増す。165-05) 満月と呼ばれる有る。二十の所より二十の五まで減る。ヴェシュパタスと 165-06) 呼ばれる有る。三の五の其れに於いて栄光を割り当てる。三の五の其れに於いて、165-07) 功德を受ける。其れによりその様に、併し、水の所に結ばれたことが、月に対して 165-08) 三の五の其れに於いて、全ての水は上に増させられる。目に見て明らかな、その様に。165-09) 木々も、其の時期に於いてよく上に見ることあり、亦、木の実も更に 165-10) 熟れさせられる。その様に言う、即ち、月是与えられた栄光を配分するもの、165-11) 雲を持つもの、即ち、雲は、彼のより善いことの所のために於いて、来る。熱を持つもの、165-12) 即ち、世界に於いて木々に対する所の為に於いて、より熱い天国を持つもの、165-13) 即ち、動物たちの群れを打ち増す。利益が有る。即ち、湿気ある日により 165-14) 保つ。繁栄のより善いことが有る。即ち、全てのより善い繁栄は、165-15) 斯く与えられた。法の賜物、即ち、多くの法の所の賜物と呼ばれる。166-01) 時に於いて打ち与える。熟練した耳たちの耳、メーノーグは牛の所の靈魂の一つを 166-02) 創造した。それには其の、動物たちの五つの種で、それには亦、創造された。この様にも牛の 166-03) アデシュニーフ・ハダヤンシュ、其れは、更に多くなった。不死を、それには亦、166-04) 設えさせられた。それには亦、生き物たちを育むことを為すこと、適当な働き、166-05) ワイ・イ・ウエフのへいわ、永遠の統治を言う。実に有る。永遠の統治の所の大気は、166-06) 其れは、メーノーグの内に、戦士たちの権威、適当な働きを 166-07) 保つ。亦、正しいものたちの所の靈魂は、時に、その様な兜に於いて過ぎゆく。ワイ・イ・166-08) ウエフの栄光を上を為す。自らのガーフの所の其れの所に対して運ぶ。一つの 166-09) 為に、平和を言う。其れは平和の幹の創造者で、全て

の創造に対して、時にまた、166-10) ワイ・イ・ワツタルの靈魂を、身体より打ち叩く。ワイ・イ・ヴェフの所の彼は、併し、166-11) 受け取った幸せを打ち与える。其の時より分けられた空の 166-12) ズルワーンを、その様に言う、即ち、虚空の主の限りない所のズルワーン、166-13) ズルワーンは永遠の領域の虚空、其の所の其れは、善いことを配分する。166-14) それには亦、統治権の權威が、その様に、農業を営むものたち、世界で力のある、166-15) 彼も配分することを為す。一つのメーノグ、ミフルと共に死ぬことのない功德と呼ばれる。167-01) 全ての善いこと、其れは神々よりゲーティグに対して創造された。始めに、利益に対して 167-02) 来る。利益を、月に対して任せる。月は、アレクドスナルに対して、虚空に対して 167-03) 任せる。虚空は、世界に於いて配分する。其れは、もっと与える。善いことを、167-04) 亦、其れは少なく与える。邪悪な虚空と呼ばれる。分け前の所の其れも、時に 167-05) 於いて到る。其れは、空気の永遠の領域で有る。武器の所の時が有る所の 167-06) 此のオフルマズド、即ち、力はそれに対して征服する。其れも有る所、時の所の行い、167-07) 其れが有る。限りのない、生き物に対する創造と亦、辺境の家がつくられた。167-08) 終わりの所に対するまで、即ち、ガンナーグ・メーノグの不能と亦、爾後、混ぜる。同じ 167-09) 際限のないことに対して、対してまで、一つの適当な働きのアルドヴァヒシュトの常々に行い、167-10) 即ち、罪深いものたちの靈魂であること、地獄の内にデーウたちの毒は罪より 167-11) それらには其れが有る。秋の道は、離れることはない。為すことは、それらには亦、それには亦、167-12) 再び保つ。その様に、言う、即ち、アシュヴァヒシュトの正しいことは、167-13) 勝れて、不死の増すこと、其れは夫々の誰もが、働くことの所の正しさ、167-14) 天国へ対して行くこと、値打ちある善いことに於いて有る（それらは）。初めの 167-15) 創造に於いても、時に此のオフルマズドの六つのアマフラスバンドが先へと創造された。168-01) 実にまた、其れらと共に優れた所の其れは第七のもので有る。更に、168-02) 尋ねられた、其れらより、即ち、我々、其れは創造して有る。それらには亦、一つの 168-03) 答えも為されていない。第二の所のとき、亦、同じ種の第三、訪ねた。168-04) 爾後、アルドヴァヒシュトは言った、即ち、我々は汝を創造して有る。其れらも、168-05) 同じ創造であることに於いて同じ種と言われた。爾後、アルドヴァヒシュトは 168-06) 其れらと共に再び言った。始めにオフルマズドに対する統治がアルドヴァヒシュトに 168-07) 与えられた。爾後、オフルマズドはアシャムヴォフアグに打ち言った。それには亦、アルドヴァヒシュトは 168-08) 汝一つ、其れは全て、メーノグたちを先へ為した。その様に、其れはより偉大なヴァフマンとアルドヴァヒシュトに 168-09) 汝二つ、其れは常に崇めること、併し、頂のアシャムヴォフアグ、其れが有る。最も正しいこと 168-10) 多くの砦が、全ての事より。オフルマズドは其の岩に於いてこの様に 168-11) 尋ねた。其れは時に、神々の統治権をオフルマズドに対して与える。168-12) デーウたちの、それに於いて叩くことの痛めつけが有った。アルドヴァヒシュトは 168-13) ゲーティグに於いて、自らの火、其れは、火を安んじ、

あるいは 168-14) 痛めて有る。それには亦、協働者が、この様にスローシュが、亦、ヴァフラームが、この様に 168-15) ゲーティグの内に。此の三つの本質的なメーノグ、ファッローバグ、グシュナスプ、ブルゼーン・ミフルが。169-01) 爾後、他の火の所が、正しい場所に於いて置かれた。其れは、悪魔の惜しがる叩くことの 169-02) 護りに於いて、生き物たちに与えている。この様に、ファッローバグの 169-03) 為に、言う、即ち、チンヴァル橋に於いて、時に、正しい者たちの靈魂が 169-04) 過ぎ、其処に打ち到り、亦、暗闇が打ち叩く。光を打ち為す。169-05) スローシュの護りの働きを、オフルマズドより保つ。この様に、オフルマズドがメーノグに於いて 169-06) 主である、その様に、スローシュはゲーティグに於いて主である。その様に言う、169-07) オフルマズドはメーノグの靈魂の守護者、スローシュはゲーティグに於ける身体の守護者。169-08) 其れより、その様に、即ち、それらには、生き物が創られた。生き物たちの護りを為すことの 169-09) 為に、よく眠ることなくしている。全ての夜、全ての人間に対して三度 169-10) 夜の並びに於いて導く。マザンたちのデーウたちと共に、即ち、デーウたちの恐れより 169-11) 悩むことは有ることがない。彼により、全てのデーウの望ましくない事どもは 169-12) 悩みに於いて、暗闇に対して跋扈させる(それらは)。悪い並びの所の靈魂は、スローシュ 169-13) の所の護りに於いて、罨であるその様に対して到る。其の七つの大陸に於いて、七年が。169-14) それらには、更に、崇拜とドローンとアーフリナガーンの全て、スローシュの所の其れが為された。169-15) 其の一つの為に、其処で、ガーフの所の十二の所を、權威に於いて置く。その様に、170-01) 言う、即ち、恐ろしいスローシュの身体の所の強さは、難い所の命令に於いて買う。170-02) 主を我は喜ぶ。それには亦、此の強さ、即ち、東に於ける所の棍棒を 170-03) 打ち叩く。貧しさを置くことはない。それには時に、西に於いて全てを叩いた。170-04) 其れには亦、身体は此の所の命令を、即ち、身体は、神々の所の命令を保つ。それには亦、170-05) 難く買われる。此れは、即ち、デーウたちは、部族たちより彼を救うことはない。それには亦、170-06) 此の統治権、即ち、アルザフと亦、サワフに於ける主、亦、ヴァフラームの 170-07) 齎すことの旗印、メーノグたちの神々の所の木、誰か彼よりさらに勝利に満ちたものは 170-08) ない。其れは、常なる旗印、神々の勝利に於いて保つ。170-09) シャフレヴァールの適宜な働きはオフルマズドの所の前に、それら自身の取成しを 170-10) 為すための全ての權威、息子のシャフレヴァールは有る。其れはシャトルルと言う、其れは 170-11) 分けられた。送ること。欲望に於いて、此れの為に、それには其のゲーティグが有る。170-12) 軍隊の成長は自身の全ての欲望、統治権の力強く、亦、欲望の 170-13) 流布、亦、話し手の所の答え、武器に於いて力を為すことができる。武器の力は 170-14) 全ての金属たちのメーノグたちが生きる。デーウたちをそれに対して 170-15) 打ち破らせる(それらは)。全ての金属は、その様に言う、即ち、我は崇める。よく遍き所の棍棒が、171-01) デーウたちの所の頭に於いて上に来る所の拡大する(それらは)。太陽も、171-02) 其の悪魔の所の其れの所の打つ為に於いて、窓ごと

に於いて、金属の力強い武器を持つ。我がシャフレヴァル、171-03) ゲーティーグの金属、其れは金属を安んじ、あるいは傷付ける。171-04) それには更に、シャフレヴァルを安んぜしむ、あるいは、傷つけて有る。それには亦、協働が、171-05) お日様と亦、ミフルと亦、空の限りない光のお日様、堂々とした不死の太陽 171-06) 速い馬、それには亦、此の不死であること、即ち、終の身体の来ること、行くことの 171-07) 太陽が有る。それには亦、此の速い馬であること、それには即ち、善い所の馬、171-08) ドル馬の善い歩調の上、其れはドル馬の栄光の跨りを保つ。それには亦、171-09) 堂々たることの所の一つ、即ち、十分な力。亦、此れも言う、即ち、全ての夜の馬の所の 171-10) 蟹は、翻る糸杉のよう、大地と亦、水に於いて、正しいものたちの所の生き物にも 171-11) 打ち蹴扨する。時に、太陽が上に来るに、全ての大地の悪魔どもを 171-12) 打ち叩き、清らかに打ち為す。此れも言う、即ち、時に太陽が 171-13) 一つの時、爾後、上に来るに、デーウたちの全ての生き物の所を 171-14) 打ち壊す。打ち叩く。太陽は、闇と亦、暗闇や亦闇に関わるものたちの闇、171-15) デーウたちのものを。だれもが亦、神々の動きや亦、ドロボウたちや亦、カイに関わる敵対のものたちを、ミフルの 172-01) 正しい働き、世界の判定。真の為すことに於いて、この様に言う。172-02) 即ち、ミフルの所の千の耳が広がり、それには亦、万の眼が広がる。172-03) 是は即ち、時に恐れのない平地に於いて来たり去ることができる。172-04) ミフルの牧場に於いて、それは亦、千の耳であること。是はそれは即ち五百のメーノーグの 172-05) 耳であることを働かすことを全て為す。それは亦、万の眼であること。是はそれは即ち 172-06) 五千のメーノーグの眼であることを働かすことを為す。即ち、ミフルは是の為になること、172-07) また其れも為になること、是も見たし、其れも見た。全ての昼を、真昼まで、172-08) 亦、太陽と共に是の行いに於いて、此の為に裁きをゲーティーグに於いて 172-09) 真昼まで、裁きを為す。ミフルについて是も言う。即ち、172-10) 全ての国々の主、即ち、全てのことに於いて打ち到った、全ての者に 172-11) 打ち到った。裁きを打ち為す、所の其れは与えられた、オフルマズドの 172-12) 栄光の最も優れたものを。メーノーグたち、神々よりーのメーノーグで有る、ミフル 172-13) は来る。共に働くものミフルが有る、その亦、月と太陽と空のメーノーグと 172-14) 空の間に。其れは鎧のサネの様に、身体に於いて 172-15) 保ち、是の空を保つ。其れはガンナーグ・メーノーグが再び蹴扨することを 173-01) 許さない。それは亦、正しい人々の知識は、同じ助けに於いて、伴に亦、173-02) 設えて居る（それらは）。始めに、無限のものたちのメーノーグは宝石で飾られた、無限の光の家を 173-03) 貫き、メーノーグたちの所の護りを断つ。スパンダルマドの適宜な働きと亦、173-04) 育みは、生き物たちの全ての事の所を、生き物たちに於いて、完全に打ち為すこと、それには亦、173-05) ゲーティーグの大地自身が。その様に言う、即ち、スパンダルマドの良い所の 173-06) 完全な考えと亦、意志と目の所は正しい所のオフルマズドの与えた所で、それには亦、此の良い 173-07) こと、即ち、満足した亦、千の部分の善い各々の此れ、即ち、邪悪がスパンダルマドの大地 173-08)

に対して到る。全てを打ち壊す。それには亦、此の完全な考えること、173-09) 即ち、全ての邪悪が、それには其の、それに対して為される。幸せに受ける。173-10) それには亦、此の寛容さ、即ち、全ての生き物は、彼より買う。正しいものたちの 173-11) メーノグは、大地の清らかさの為に、創造している。即ち、それには時に、デーウたちが 173-12) 夜に於いて汚染を上に乗ぶ(それらは)。彼は浄めを打ち為す。173-13) それには亦、此れも適宜な働き、即ち、夫々の一つの夕暮れ、夫々の神々の一つの 173-14) 栄光が、再びオフルマズドの前に行く。ウシャヒンのガーフに於いて、其の 173-15) 栄光は星の駅に対して来る。我がハオマの一つを打ち得る。亦、夜明け毎に於いて 174-01) フヴァラワイスの湖の所に打ち対して来る。正しいメーノグが 174-02) 受ける。亦、速い所の一つの戦車に於いて来る。亦、夫々の一つの時に、自らの一つの栄光を、174-03) 善いことの一つを任せる。それには其れは大地を安んず。あるいは痛めつける。それには更に 174-04) スパンドルマドが安んじ、あるいは痛めつけて有る。それに於いて、協働の 174-05) アーバン、教えの主、マーラスバンドは、曙の太陽の光線の其れの上に 174-06) 行く。時に、太陽の光が明らかである。それには亦、身体は明らかな所がない、174-07) 時に、太陽は明らかで有る。時に、曙の所の輝きが、それには亦、自らの 174-08) 曙の働き、人間たちの守護者であること、此れにもより明らかである。それらには即ち、174-09) 曙の時の其れに於いて、より受け入れられる。良い日に於いて到る。174-10) 良く教えられる。それに対して、より受け入れられることが有る。其れの所の其れは、曙より 174-11) 打ち行く。それには時に、アフリシュヴァングの死はない。其の時に於いて再び、174-12) 曙に対して来る。それには亦、全ての水の所のアレクスナルの三つの所を干し上げる。174-13) 諸水と同じ、男たちの所のタネは、時に其れより漉されている。女の 174-14) タネも亦、時に、生まれる(それらは)。亦、第二の身籠りが有る(それらは)。アレクスナルの所の 174-15) 適宜な働きと亦、ブルズの齎す其処の所の住人、即ち、アレクスナルの害のない所の水、175-01) 一つの適宜な働きはより善い、即ち、水の所は海の所に於いて、全ての大陸に対して 175-02) 割り当てる。それらには亦、此れの所の此れ、即ち、生き物たちは、海であることの内の所の過ぎゆくことに於いて、175-03) 高い所の王座より救わせる(それらは)。全ての所の同じ栄光の見えを保たせる(それらは)。その様に、即ち、亦、175-04) 言う、即ち、女たちの主の所のブルズは誤った諸水の、速い馬のハオマを 175-05) 創った。ドーク・グリーウの内に、癒しの所のハオマの所の、それには其のフラシャギルドの行い、175-06) それに対して、有る。生き物たちの喜びは其のメーノグが、時に、人間たちの喜びを 175-07) 為す(それらは)。其の栄光は、打ち到る。其れは、その様に、水は冬の間の所の其れに於いて、175-08) 言われた、即ち、再び、水源に対して到る。生き物たちの所の喜びを為す(それらは)。175-09) その間に於いて、再び、人に対して到る。富は空虚に於いて 175-10) 為す(それらは)。生き物たちの喜びの守護者は、全て昼と亦、夜の四度に 175-11) 動くものたち全ての所の身体、亦、植物たちの全ての所の根っ子、最も高

い山々に対して、175-12) 打ち到る。時に、善いことを為す。大地の守りと亦、川の長さ、175-13) 太陽の高さ、其れは善いことに打ち到る。教えは、オフルマズドの起こり、175-14) 亦、守護者と亦、スパンダルマド、それには其の全てが有る。よく有るものたちの 175-15) 亦、有る。其れは、それには亦、明らかなこと、始めにヴァフマンの上に明らかに 176-01) 有った、即ち、マズデースンたちの所のよい所の教えの所は、オフルマズドのデーウを離れた所の 176-02) 判断を投ずる。努力を打ち置いた。ゲーティグ、それには其の 176-03) 決定すること。此れは、それには即ち、デーウが創造することより離れた、明らかさと違って 176-04) いる。其れは有る。そのヘシュム等々や亦、その靈魂や亦、邪悪が内にない。教えに於いて 176-05) デーウたちの姿の所の受け入れは打ち砕く。亦、教えに於いて崇めることは、176-06) ガンナーグ・メーノグと亦全てと亦、デーウたちを、許す。教えに於いて崇めることは、176-07) 全てのメーノグたちの神々の所の力を増す。ティシュタルの所の望みと亦、年々の所の 176-08) 季節があること、主たちの所の広がりゆく法、他の全ての 176-09) 善いことが有る。教えに於いても、到った崇めることは起こる（それらは）。終の所の身体を 176-10) 為す（それらは）。亦、数限りない所の生き物たちは、亦、食べ物に到る。誰もの知恵のメーノグの知恵は 176-11) 天国に関わって有る所、時に、善い所のアルドが有る、其れ、彼の住処は 176-12) 成長に於いて戻る、対して言う、家の所の栄光の成長で、其れは 176-13) 全て、其れを値打ちあるものたちに与えられる。其の家は到る。176-14) 善いものたちの所の宝の守護を為す。其れは、家の成長したことも、宝石の所の 176-15) やり方が飾られた。その様に、言う、善い住まいの家、その様に、177-01) 全ての物質的存在ではない、此のオフルマズドの所の教えが有る。177-02) 高貴な栄光のアマフラスパンドは其のメーノグ、其れは全ての痛みの所より癒すことが、177-03) 生き物に対して与えられた。その様に、言う、即ち、全ての痛みの薬が打ち 177-04) 叩くことの為に、生き物たちは食う。私には時に、オフルマズドの高貴な栄光は癒しに 177-05) 於いて汝は来ることはない。その痛みの良くなることに、汝は来ることはない。この様にも、177-06) 呪文を称える（それらは）。与えられたメーノグの正しいものたちの所のガーハーンの崇めることの栄光の 177-07) 真髓を保つ（それらは）。マーラスパンドの会話のオフルマズドの有る所、アヴェエスター、177-08) それには其の、清らかな判断の賞賛が与えられた。亦、山の方の明らかな所の 177-09) 神々、即ち、併し、全ての託が彼に送られた。其れらと共に 177-10) カイたちの英雄たちは、創造主の所の助けの所に於いてゲーティグの内に命じている。177-11) カイたちの所のタネの為に言う、即ち、其れは打ち増える。その様に言う、177-12) 即ち、カイたちの所のタネの所の彼を、子孫より、神々と呼ぶ。山の方の 177-13) 世界の所の最上のもの、即ち、カイたちの英雄たちの其れの所の彼の所の助けに於いて、177-14) 最上のもの、導くものの所の彼は、世界を為した。177-15) 年々の月々や日々の所の主、ホルダード、此れは即ち、年々の所の全ての主、178-01) それには亦、ゲーティグの水自身に、その様に、言う。生まれる所の起こ

ること、178-02) 育むこと、全て物質的物たちの世界、水と大地の 178-03) 繁栄は、彼より。時に、年の内に良く生きることができる、178-04) ホルダーの所の為に於いて、その様に言う、即ち、全ての善いことが来る。神々の 178-05) 新たな日の所の其のホルダーの日が来る。亦、有る所を言う、即ち、全ての日が来る。178-06) より多くの其の日が来る。明らかである、即ち、時に、其の日、身体と亦、衣服の 178-07) 善いのを創る所、善い所の香りを探す（それらは）。亦、よい所の兆しを為す。178-08) それらが置くことに於いて、場所の所より安んず（それらは）。人間より邪悪は遠くに有る。178-09) 家族の部分を為す（それらは）。アヤラナンムチャの日のガーフの崇めを私は許す。178-10) 同じに為す（それらは）。其の年の善いことがそれに対してより多く到る。亦、邪悪は 178-11) より多く、それには亦、運ぶ。それには其れは水を安んじ、あるいは、痛めつける。それには更に、178-12) ホルダーを安んじ、あるいは、痛めつける有る。それには亦、ティルと亦、かぜ、フラワルディーン、178-13) ティル、ティシュタルの協働が、其れは雨の働きと亦、生き物の 178-14) 育みの所を為す（それらは）。風と風のメーノグ、其れは大地の下や亦、上に 178-15) 保つ。水をティシュタルが取り、対して任せる。フラワルディーンは 179-01) フラワフル乃一つの知恵を育んだ。主であるオフルマズド、オフルマズドの所の前に 179-02) 亦、生まれたものたち、生まれなかったものたち、其れは、肉体的物に於いて、善いものが、嘘と共に 179-03) 常に戦っている（それらは）。その様に言う、即ち、ガンナーグ・メーノグは常に敵対するもの 179-04) で有る。それには時に、正しい所の人の所が見たところまで。其れは、其のガンナーグ・メーノグを 179-05) デーウたちの全ての悪の生き物と共に、無力に為す。正しい所の人の所の言葉の所の 179-06) 豊かに来る所の豊かにすることが豊かに流れた。ティシュタルの 179-07) 水も、其れらの助けに於いてより高く走らされ。到って、上がる（それらは）。179-08) 終の所の身体は、正しい所の人を為す。有る。勝利のソーシュアンス、179-09) 將軍のアムルダードは、数限りない植物たち、それは此処ゲーティグの植物 179-10) 自身の植物たちを成長させる。動物たちの群れは増える。其れは、全ての 179-11) 生き物が、彼により食べる（それらは）。傷は、フラシャギルドの善いことに於いても、アムルダードより 179-12) 修理させる（それらは）。時に、植物を安んじ、あるいは、痛めつける。それには更に、アムルダードが 179-13) 安んじ、あるいは、痛めつけて有る。それには亦、ラシヤンの所の協働者のアシュタードが 179-14) 導く。ラシヤンは真実であることの所のメーノグである。其れは、忍ぶ心の所の其れの 179-15) 此れも設えている。其れは、真実たることの所のメーノグである為に、180-01) 時に、デーウたちや罪人たち、ゲーティグの生き物の為に、破壊される。180-02) 人間たちの靈魂も、功德の所の罪に於いての為に、計らせる。その様に言う、180-03) 即ち、判定と亦、嘘の判断を為す。ラシヤンは其処の場所を見ることはない。180-04) スローシュは、おお！嘆いた。我によって即ち、ゲーティグは更に、即ち、真実は、其処に 180-05) 住むものではない。亦、ゲーティグたち、メーノグた

ちの所の導きの所の道の所のアシュタードは 180-06) 導いた。大地のメーノグはその様に言う、即ち、其の三つはチンワル 180-07) 橋に於いて上にいる。即ち、ラシャンは靈魂を勘定する。アシュタードは 180-08) 導いた。靈魂を秤に対して、運ぶ。栄光に満ちた浄められた五十の 180-09) 星、其れは、アルドと共に、アマフラスパンドの利益を与えた。その様に、180-10) 言う、即ち、浄められた所の速い流れは、全てメーノグたちの讃えること、全ての 180-11) デーウたちの危害は彼らより、亦、メーノグのガーサの崇めることは、その様に、180-12) 教えより明らかで、此のメーノグたちの多くの名立たる働きが、それに対しての 180-13) 割り当てである。

第 3 4 章 : アマフラスパンドについて

その様に、教えに於いて言う、其れは、詳細に為すことを運ぶ。180-14) 完全に此れ程に書いた。オフルマズドと亦、其の六つのアマフラスパンドの元、180-15) 常にアマフラスパンドを言う、即ち、詳細と亦、広がりがある。其れの所はメーノグでなく、181-01) 言うことなく亦、為すことなし（それらは）。彼は更に言う、即ち、考えるべきでなく、181-02) あるいは、言うべきでなく、あるいは、為すべきでない。オフルマズドは 181-03) 教えの所の創造すること、謙遜、亦、真実の武器、亦、告白の行いの 181-04) 欲望、此れは、私によって即ち、尋ねた。謙遜と亦、真実の武器とを亦、選んで、181-05) 織り混ぜる。教えられて、知る。其れは、時に、この様に為す。爾後の所より、181-06) 私に、もっと多く来る。亦、オフルマズドに関わる所の性は、暑さを征服する。光と亦、芳しさの所の 181-07) 安らぎは、先への内に明らかで、オフルマズドに関わることは、暑さを征服する。光と亦、芳しさの 181-08) 安らぎは、アフリマンと亦、デーウたちの所の悪行の内に。

第 3 5 章 : デーウの所業について

181-09) 教えに於いて言う、即ち、ガンナーグ・メーノグの所の邪悪は、オフルマズドの所の創造の所に対して、181-10) 作っている。一つの冬に於いて打ち言うことができる。それには亦、181-11) カエルの身体の所の其れで、汚泥のない所の場所、善いことの所のオフルマズドの所の生き物を、181-12) 思うことなく、言うことなく、為すことなし。それには亦、行いは、慈悲の無いこと、亦、叩くこと、181-13) オフルマズドの生き物を打ち増やす此れを即ち、彼は打ち叩く。瞬く所の目の所のは、181-14) 傷より生き物たちの為すことは在ることがない。その様に言う、即ち、其れより 181-15) 時に、住処を創った、我に安らぎを置くことはないのので有る。182-01) 其れは我オフルマズドで有る。自らの生き物たちの所の守護をなすことの為、亦、182-02) 邪悪なガンナーグ・メーノグの彼の秘密が、生き物に対して作られない為に。182-03) 魔術師に於いて人間の教えが自らの愛に対して、オフルマズドの愛のないものが多く 182-04) 起こる。即ち、オフルマズドの教えを棄てる。亦、アフリマンの所の其れを為させる（それらは）。此れは 182-05) 人

間たちの考えに対して投げる。即ち、此れはオフルマズドの教えがない。182-06) それに対して、言挙げすることは有る必要がない。其れは其のひと、その其れは 182-07) 此の言葉を、与えられたことに於いて言っている。物事を与える。それには更に 182-08) ガンナーグ・メーノーグを楽しませる。それには即ち、安らぎに於いて為すことが有る。アコーマンの 182-09) 行いは此れ、即ち、邪悪の考え事、仲違いを生き物たちに対して与えた。182-10) アンダル・デーウの行いは此れ、即ち、生き物たちの考えを、正しさより為すこと、182-11) この様に働く。その様に、善い所の主を冷ます。此れは人間たちの所の考えに対して 182-12) 正しさを、この様に冷ます。此れは人間たちの考えに対して 182-13) 投げる。即ち、シャビーグやクスティグを保つことをさせない。サウル・デーウは、182-14) 即ち、デーウたちの所の主で、行いは此れ、即ち、邪悪な主たちの 182-15) 力、不正であること、狂暴であること。ナオンハイフ・デーウは、183-01) 行いは此れ、即ち、生き物たちに対する不満、亦、アオザイフを作る。183-02) その様に言う、即ち、物事は、人間たちの其れに対して与える。それは与えられた此れ、183-03) 即ち、シャビーグやクスティグを保つことをさせない。それは更に、アンダルや亦、サウル、ヴィナサイを 183-04) 喜ぶ、有る。タプレヴ・デーウは其れは、其の生き物たちの植物たちに対して毒を混ぜる。183-05) その様に言う、即ち、タプレヴは支配者、毒の所のザリクを為すもの、其れらは 183-06) 全て六つのデーウたちの頭たちと言う。他の協働者や亦、同じ助けは 183-07) 亦、群れたちで有る。これも言う、即ち、其れは日より人間に対して創る。其れは言う、即ち、183-08) 十よりと。一つは保たねばならない。それには亦、靴の片足履きの地獄が、創られたものに於いて 183-09) 置かれている。それには更に、悪魔の熱のカルブ僧を喜ばして有る。183-10) タロマト・デーウは、其れは其のつむじ曲がりを作った。ミホーフト（あやまり）・デーウは 183-11) 悪魔に似たもの。アラシュク・デーウは執念深い所の悪魔で、亦、酷い鳴き声の所の、183-12) 彼らには同じ力が。ヘシュム・デーウが有る。その様に言う、即ち、七つの 183-13) 力の所のヘシュムが有る。即ち、生き物たちのそれに対して打ち許す。亦、カイたちの 183-14) 英雄たちの自らの所の時を、其の七つの力より打ち叩く。183-15) 一つの家を、其処では、即ち叩く。到る。住民の妬みが 184-01) 有る。其処では、即ち住民の妬みのヘシュムが下へ為す。184-02) 其処で、即ちヘシュムが住みつく。多くの生き物を許す。多くの 184-03) 荒れ果てを為す。オフルマズドの生き物たちの所に対する所の全ての睡眠を、ヘシュムは 184-04) さらに作る。其れらの女たちの英雄たちの悪い行いがヘシュムの為に、184-05) より多く失って有って有る。その様に言う、即ち、ヘシュムの無数の印、184-06) 其れは全ての印を対して為す。ヴィザレシュ・デーウは其の其れ、悪い並びの人間たちの靈魂。184-07) 其の三夜、時に、ゲーティーグに於いて共に戦う。恐ろしい 184-08) 打撃を上に乗る。地獄の所の門に於いて置く。ウダク・デーウは 184-09) 其れは其れ、人間を自らの場所に於いて置く（それらは）。あるいは、時に食べものを食う。184-10) メーノーグたちを貶める（それらは）。息子を叩く。即ち、打ち喋

り、打ち亦、喋り、即ち喋りつつ 184-11) 食う。亦、喋り、喋って小便をする。即ち、血まで、存在の優れた所の其れに 184-12) 到ることはない。アカタシュ・デーウは拒絶の所の悪魔である。生き物たちより 184-13) 物事の所より、正しさの打消しを為す。その様に言う、即ち、其れは 184-14) 物事を其れの身体に対して与える。其の所は、人間が物事の所より正しさの打消しを 184-15) 保つ。更には更に、アカタシュ・デーウは喜ばされる、其のところは物事が 185-01) 其の身体に対して作る。其の所は此れを作ったもの、即ちダストゥールが保ってはならない。185-02) それには更に、ヘシュム・デーウが喜ばされる、其の所、物事は、血と其の身体を保つ。185-03) 其の所の、作られた此れと亦、其の所の、言う、即ち、マールヴァンは保ってはならない。185-04) それには更にアフリマン、全てのデーウたちが共に喜ばされる。此の彼の為に 185-05) 言う、即ち、時にフラフスタルを見て、殺すことがない。マールグノは 185-06) 亦、一つの木、一つの皮が、頭に於いて備わって居る。明らかに、即ち、夫々の一つの善い教えのものは 185-07) 一つの一つが、斯く保たねばならない。即ち、罪深いものたち、フラフスタルたちを、それに対して 185-08) 叩く。殺す（それらは）。善い行いをより善く持つ。年寄りの其のデーウは其の所の息苦しさをなす。185-09) また、其れは歳と呼ばれる。チシュマクは其れは其の所、横暴を為す。亦、風の回りも 185-10) 為す。泥棒の所の悪の侵入に対して行く。ヴァルナ・デーウは其れは其の所の誤った 185-11) 交わりを為す。その様に言う、即ち、ヴァルナは嗚呼、妬むこと。185-12) ブシャスプ・デーウは其れは其の所の怠惰を為す。亦、セジュは其れは悪魔、其の所の 185-13) 未練を為す。ニヤーズ・デーウは其れは其の所の嘆き。亦、アズ・デーウは 185-14) 其れは其の所の一つの所を貪る。時に、欠乏の為に、物事の為に、来ている。185-15) 身体により食う。其の悪魔たるところがある所。それは時に、全てのゲーティグの破壊を 186-01) 打ち与えた。動くことなく、満足することは有ることがない。その様に言う、即ち、186-02) 貪欲なものたちの目は、同じく有る所の、それは亦、世界はない。それには亦、其のデーウは 186-03) 其の所の貯め込みを為す。食うことはない。誰かに対する所は与えることがない。此れも亦、186-04) 言う、即ち、アズ・デーウの力は其れの身体より、其のところの自らの所の妻に於いて 186-05) 満足することがない。誰彼の所の其れも打ち盗む。ナス・デーウは其れは其の所の、汚物や 186-06) 亦、汚すことをなす。其の所は亡骸と呼ばれる。フリフタル・デーウは其れは 186-07) 其の所の、人間を迷わす。スパズグ・デーウは、其れは其の所の、言葉を運ぶ。一つの 186-08) 削られたものごとはない。似通ったことに於いてその様に言い、示す。即ち、人間自身が 186-09) 自身に於いて叩き、亦、許す。アラースト・デーウは其れは其の所の、力を言う、186-10) 即ち、アシュ・デーウは其の悪魔の強い目であること、其の所、人間を目に於いて叩く。186-11) ブト・デーウは其れはそれの其の所、インド人たちに於いて仰がれる。それには亦、186-12) 利益が、ブトたちの所の其の所に於いて受け入れられる。その様に、ブトが馬を送る。亦、アストの所 186-13) ヴァンハンドの所、亦、悪の所の一つ、其の所は、霊

魂を取る。その様に言う、即ち、時に栄光が 186-14) 人間の上に知る。睡眠は時に、無数に投げる。速やかに、それは時に 186-15) 目に於いて見られる。靈魂は打ち生きる。それには亦、死と呼ばれる。スール・187-01) チャシュムイーフ・デーウは、其れは、時に、人間を日の所より見る。神々の所の名に於いて 187-02) 言うことはない。打ち壊す。彼らは全て一つの多いデーウと悪魔の 187-03) 協働が共に有る。即ち、明らかに喋ること、チャシュマクたちデーウたちも、詳細と長くは 187-04) 多くの死に於いて言う。彼らデーウたちの所の禍と痛み、供え物たちの二十二の葉の 187-05) 創造主たち、創造主たちと亦、自ら傷付けること、亦、諸タネのタネの穢れ、187-06) 腐ったものや亦、邪悪を運ぶ。全てのものたち、其の所の、多くの亦、多くの数、多く特に、187-07) それらには亦、全て、人間たちの所の身体の部分の内に混ざっている。187-08) 人間たちの光の印に於いて。アパオシュ・デーウと亦、アスピンジュロシュ・デーウは、其れの所の 187-09) 其の所は、雨の働き手たちと共に、戦いに於いている。ガンナーグ・メーノーグの齋した 187-10) 邪悪なこと、亦、教えの魔術師たること、傷付ける悪魔であること、亦、神々の行うことの並び。187-11) それには亦、欲望、此れは即ち私によって問われてはならない。亦、私によって讃えてはならない。其れは若し、私によって 187-12) 問われ讃えたなら、爾後の所より、私によって来ることがないであろう。此れも言う、187-13) 即ち、ガンナーグ・メーノーグの声の所の雷に対する、六歳の雄鶏の所の声にも対する 187-14) 驢馬の所の声にも対する、正しい人の所の声にも対する、時に、好まない人々を 187-15) 叩く。声の所を為す。留まった。クンダグ・デーウは其の所の羽根の所の 188-01) 魔術師たち。ノーグノーグ・デーウは、新な新な所の其れを、罪より生き物たちに為す。188-02) それに対して、創られた所の其れら惑星たちの所も、虚空の内に跋扈させる（それらが）。多くの 188-03) 多くの数が、戦いに於いて在る（それらは）。それらには亦、其れらの頭たちが。188-04) 七つの其れは善い形の頭、亦、尻尾と、亦、それよりの尻尾のある所の翼が有る。188-05) それらは亦、十である。ゲーティーグの創造が有る。空、水と亦、大地、植物と亦、188-06) 動物と亦、金属、風、光と亦、火と亦、人間を、此の全てを 188-07) 邪悪が穢している（それらは）。亦、其れらにより、水と亦、植物と亦、他の創造に対して、188-08) 其れの所は、有る。ゲーティーグは其の十より。光が、動物たちに対して到る。188-09) その様に、十が。悪魔であること、傷と亦、痛み、以外の所の亦、死と亦、他の邪悪、穢すことが、188-10) 常に到る。其れらの冬を数えた、力ある所のアフリマンの所の 188-11) 助けを共に。寒く乾いた場所、亦、暗さと亦、穢れは、音の内に 188-12) 明らかである。地獄の為に言う、即ち、暗闇は、手に於いて取ることができる。188-13) 臭さは、ナイフに於いて切り取ることができる。若し、千の人が一尺の内に 188-14) 誠めを為す（それらが）に、小麦に於いて保つ。即ち、一人で有る。それには亦、188-15) 誠めの一人であることの邪悪である。それは亦、七つの惑星たちの所に対する絆が 189-01) 有る所。更なる寒さに於いて、その様に、ケーヴァーンが有る所の、更なる暑さに於いて、189-02) その様に、アフリマンが。

それらには亦、悪臭ある食べ物と亦、排泄物、カエル他の悪いものの落ちること。

第36章：人間たちの身体について

189-03) 人間たちの様な所の身体の上に。教えに於いて言う、即ち、189-04) ゲーティーグの様な人間たちの身体は、其れはゲーティーグが一つの水の雫より 189-05) できている。その様に言う、即ち、此の生き物は、始めは全て一つの水の 189-06) 雫で有った。人間たちも、一つの水の雫で常に有った。189-07) この様に、その様に、ゲーティーグは広さと共に長さが等しく、人間もその様に 189-08) 全て誰でも自らのナーイの所の長さで有る。尋ねられた。皮は 189-09) 空の様に、肉は大地の様に、骨は山の様に、亦、諸血管は 189-10) 諸川の様に、亦、身体の内血は海の所の内の水の様に、腹の所は山々の様に、189-11) 亦、髪は其処の植物の様に、即ち、髪は育っている、更に茂みの様に、189-12) 身体の所の物は金属の様に、内なる知恵は人間の様に、189-13) 亦、地獄の歌の知恵は動物の様に、亦、暑さは、手と亦、足の所の火の様に、189-14) 力は十人の其の七つの様に、食べ物の消火の所の胃は 189-15) 雲と亦、ヴァジシュトになる所の火の様に、齎し来ることは亦、風の様に、肝臓は 190-01) 満ちた所の海の様に、夏の大気の所の元の家は北の方角の様に、190-02) 即ち、冬の所のアシャルシャーンの丸い月の所の心、害のない所のアレクドルセナルの所、190-03) 其れの所の、心にも病がそれに対して到ることはない。併し、若し、亦、190-04) それは時に、死の、頭と亦、脳髓の極みは終わらない光の様に、亦、頭は 190-05) ガロードマンの様に、二つの目は、月と亦、太陽の様に、齒は、190-06) 星の様に、二つの耳は、ガロードマンの為に明らかな所の二つの窓の様に、それには即ち、190-07) それに対して、即ち、常に言葉の所の快い音楽に於いて、それに対して常に、来る。190-08) 其の所の、その楽しい靈魂は、安らう。それには亦、二つの鼻は二つの大地の様に、190-09) ガロードマンの為に言う、それには即ち、それに対して常に様々な所の快い香りが、それに対して、内に、190-10) 吹いた。其の所の、靈魂が善い元の靈魂で、亦、楽しむ。それには亦、口はガロードマンに 190-11) 於ける扉の所の其れ（のように）、其の所の、常に様々な味わいの所はそれに対して内に来る。其の所の、190-12) 靈魂は穏やかで亦、榮えている。それには亦、食べ物は、地獄より地上の内の食べ物が 190-13) より多い様に。靈魂の身体の所の座は、オフルマズドの知性の様に。亦、物事や亦、190-14) 受けること、考え、知識、判断は、オフルマズドの前にいる六つのアマフラスパンドによる 190-15) 様に、その他の利益の所は、その他のメーノグたちの神々の様に、191-01) この様に、その様に、オフルマズドの王座は、終わりのない所の光、亦、ガロードマンに対して 191-02) やって来たことに於いて、それには亦、力が全ての場所に到っている。靈魂の場所も 191-03) 頭の住処の所の脳髓に於いて、亦、心に於いて、力は全ての身体に於いて、191-04) 到っている。この様に、その様に、風は、方々より来る。191-05) 人間も、真昼と亦、真夜中の風の息吹き唯の一つ目により来る。191-06) 真夜中より真昼まで、第二の

方角に於いて来た。191-07)この様に、その様に、太陽は、月の光より越えて、人間も一目に於いての為に、191-08)良く肉体である。この様に、その様に、水は豊かになった海の所に於いて、時に、191-09)山の所の高さに対して上に行く。清らかに有る。部分も再び191-10)海の所に対して流れる。一つの部分は雲に於いて、全ての世界に於いて、打ち191-11)到る。人間の血も、身体の内、その様に、住処は肝臓に於いて、亦、夫々の191-12)朝、心臓より上、頭の所の水に対して来る。脳髓の内に再び191-13)廻る。一つの部分は再び心臓に対して注ぐ。一つの部分は血管に打ち191-14)過ぎる。其の所は、全て身体の力。それには亦、有る。粘液の所の其れの所は191-15)頭に於いて、目や亦、耳や亦、鼻と口の所の湿り気。それには亦、有る。192-01)この様に、その様に、ゲーティグの男は南と亦、東に対して来る。それには亦、192-02)先へと西より来る。併し、より高い所の住処が有る。人間の所の心臓も192-03)その様に、元の住処の血の所が、西の右手に於いて、全ての光たちが192-04)東より来る。より高くに於いて、西より来る。元の住処のより高い所が192-05)有る。人間の心臓も、その様に、血の所の元の住処は、右の所の手に於いて。192-06)この様に、その様に、ゲーティグに於いて人間は、罪と亦、功德を為す。時に、死ぬに、192-07)罪と功德をかぞえさせられる。全ての其の所の清らかなものは、ガロードマンに対して行く。192-08)全ての其の所の悪いものは、地獄に対して投げられる。その様に、人間の食べ物も食う（それらは）。192-09)全ての其の所の清らかさは、頭の脳髓の所に対して行く。清い所の血が有る。192-10)心臓に対して到る。全ての身体の力は、それには亦、有る。全ての其の所の192-11)より混ざったものは、胃より腸に対して行く。肛門に於いて外へ192-12)投げられる。地獄の所の様に、この様に、その様に、雨の働きが、時に、悪魔と亦、192-13)抑圧が有る。更なる所の寒さが、水に於いて内に過ぎる。亦、打ち192-14)凍る。雨降ることなく、あるいは、雲は凍る。濁ったものが雨降る。192-15)危害が又、生き物たちに於いて有る。人間も、時に、食べ物を更に193-01)食う。時に、消化したり、消化しなかった所より有る為に、それらの自らの所を193-02)為す。亦、繋がりが外に来る。危害が震わせる。身体は、それには亦、再び、193-03)この様に、その様に、オフルマズドの頂の所、アフリマンの深み、それには亦、力と共に、193-03-b)内に対して、更に、活力が有る。人間にも二つの風が、身体の内、一つは193-04)ゲーティグ、一つは知識の所の風が有る。靈魂は、それには其の所の、場所が、脳髓の所の193-05)心臓と亦、熱く亦、豊かな実体が。靈魂は臍に対して。一つの邪悪な所のかぜが、其の所の、冷たい実体が、193-06)亦、乾いた亦、場所が、変わった所に於いて。其の所の、ブルヴンシュンの靈魂の所は毒に対して。この様にその様に、デーウたちの、193-07)ゲーティグの内に、時に、風の所のタルシーフの所を為す（それらは）。害が有る。人間は時に、193-08)罪の風の所の其れの所は、血管の内に打ち在る。抑圧が打ち有る。亦、場所の風の所の193-09)道の所は与えられていない。場所の其の所は、痛みも為す。悪い異なる胸は震える。193-10)他のより多い所の罪の所の身体の内にも亦、

その様に他のデーウのより多い所のゲーティグの内に。193-11) この様に、その様に、ゲーティグの内に教えの栄光の所が、マズデースンたちのクスティグ（聖帯、儀礼の装束）が 193-12) 飾られた星の様に、メーノーグたちを作った。其の虚空を崇めている。193-13) 三つの揃いは一結びの四つの内に、即ち、暗闇と亦、汚物や他の混ざりもの、193-14) 神に対しては混ざることはない。人間も第二のやり方に於いて、真ん中に於いて 193-15) 保たれる。三つの揃いが四つの結びの内に。時に、善い考え、善い言葉、194-01) 善い行いは、人間たることの所の四つの精髓が明らかに有る。清らかさは、この様に、194-02) その様に、ゲーティグの内に、人間の主と亦、功德を為す。時に、死ぬと（それらは）、靈魂は 194-03) 数えさせられる、法の繋がり天国に対して、地獄のものは地獄に対して、与えられる。人間も、194-04) ゲーティグの内に食べ物を食う（それらは）。亦、全ての其の所は、すくなくより混ざったものは 194-05) 清らかな所の血に対して有る。身体の所の血管に於いて行く。全ての其の所は、さらにより混ざったものは、194-06) 腸に於いて過ぎゆき、肛門に於いて外へ投ずる。その様にゲーティグと亦、メーノーグの所の物事 194-07) は亦、七つの四つの部分に置かれている。、その様に、194-08) 言う、即ち、四つは手に取れない所の見えないもの、若し、有るならば、オフルマズドと亦、其の 194-09) 七つのアマフラスパンドは、元より七つの見えるもの、実体のないもので有る所。その様に、太陽や亦、194-10) 月や亦、星たちや、雲や亦、風や亦、ヴァジシュトの所の火、火たち、其の所の、194-11) 道を過ぎさせる（それらは）。亦、悪魔を叩く。七つの見えないもの亦、手に取れるものが亦、有る。194-12) その様に、終わりのない光、アマフラスパンドたちの場所、ガロードマン、天国、虚空の 194-13) 混ざりもののないもの、混ざりものの所の虚空、空。七つの目にみえ、手に取ることができるものが 194-14) 有る。その様に、大地と亦、水と亦、植物と亦、動物と亦、金属と、治癒、194-15) 理解。見ることのできないもの、手に取ることのできないもの。亦、有ることの、二つの耳と亦、二つの目と、亦、二つの鼻と亦、口が。195-01) 手に取ることができるものが有る。カユガルと亦、肺臓と亦、堪能と亦、丸い心臓、腸は見られた。195-02) 虚空と亦、腎臓は、見ることのできないもの、手に取ることのできるもの。亦、有ることの、ゲーティグの其れの為に、更なる惑わしが、195-03) 即ち、盛んなこと、即ち、暗闇や亦、寒さや他のデーウの 195-04) 力まで、それらには時に、メーノーグたち神々より叩くことが到る。195-05) 抑圧に於いて、惑わしに対して跋扈させられる。生き物たちの傷より転じさせられる。其のところ、195-06) 時に、全ての世界の繁栄が有る。今、それらには若し、更にも 195-07) 苦しみを叩くことを為して有る（それらは）。今、生き物たちの傷より外には行くことがなくて 195-08) 有る（それらは）。今、其の所の神々を見ることはできない。今、行くことは、同じ様に、195-09) 冬の暗闇と亦、光が、其の所の、其処の、即ち、光と暗闇を 195-10) 逃れ、一つの光の所の場所に対して、其処に有ることはない。時に、其の所の同じ南の方の 195-11) 内に来る。冬は再び北の方に向けて跋扈する。時に、冬が

195-12) 内に来ると、夏は再び南に対して行く。自らの元の住処は、亦、時に、195-13) 夏がより強いことに於いて、時に、冬はより偽りに於いて、亦、夏がより強いこと、亦、人間も 195-14) その様である。時に、心臓がより強いことに於いて脾臓はより偽りに於いて、時に脾臓が 195-15) より強いことに於いて、心臓はより偽りに。デーウたちの踏みつけは、それは同じ類。其処に即ち、ヴォールーバルシュトと 196-01) ヴォールージャルシュトの大陸が、其処より内に来る。打ち蹴扨させる（それらは）。此れも明らかである。196-02) 即ち、全ての人間たちの所の四肢は、自らの一つのメーノグ、靈魂は全ての光が靈魂、196-03) 靈魂と共に、喜びと亦、香りと亦、その他は、此の数より。オフルマズド自身が肉、ヴァフマンが 196-04) 砂と脂、アルドヴァヒシュトが骨、シャフレヴァールが脳髓、スパンダルマドが血、196-05) ホルダードが自身の髪の毛、アムルダードが自身で有る（それらは）。

第 37 章：主だった大陸とその主について

主だった大陸の上、196-06) 教えに於いて言う、即ち、其の主だった陸地たちは、196-07) 夫々に一つの主の所が有る、その様に、アルザフの主は、アシャイシャ・ガハドゥサ、196-08) フェダンダン、サワフの主は、ハルザロ・ダータフル、此れは 196-09) パレシュトヤロ、フラダダフシュの主は、スピトイド、アウスポシアーン、196-10) ウィーダダフシュの主は、アイリズラプス、アウスポシナン、ヴォールーバルシュトの主は、フヴァスプ 196-11) ヴォールージャルシュトの主は、チャクライダウンである。ザルドフシュトは此れも大陸の所の 196-12) フヴァニラの、また全て正しいものたちのゲーティーグの主、主たることはザルドフシュトより 196-13) それらには即ち、全ての教えが、ザルドフシュトより受けることが、フヴァニラの所の大陸の 196-14) 全ての場所の内に有る。それには其の所の、此の悪い時の抑圧する悪の所の戦いの内に、196-15) メーノグの力の道に於いて、それは亦、繋いでいる。強い守護の 197-01) フヴァニラと呼ばれる、有る。その様な其の諸大陸が。第二に、その様なカングデズは 197-02) 一つの所の川、イランの郷、イム・カルドの所の人、カシィミールの所の内側の所、それには亦、197-03) 夫々の一つに一つの不死の川の一つを、内に持つ。靈魂が為す。その様に言う、即ち、197-04) ペシュエンタンのウィシュタスプたち、それには其の所のタチャロマノとも。呼ばれる。輝かしい 197-05) カングデズに於いて、息子、アグレラドのパシャングたちが、カダクスターンの所の大地に於いて、それには亦、グプタンの 197-06) 王と呼ばれる。フヴェンブヤグたちの所のパルタシュトは、アフサーヤーンサの所の平野に於いて 197-07) 此の為に、フヴェンブヤグたちの所の、それらの其の所は、ヘシュムの恐れはない。壺の所の内に安らう。197-08) ヤーマー・フシュトの所のヘシュムは、一つの場所に於いて、其れは、エーヴターグの所の川と 197-09) 呼ばれる。等々の害のないことが、イランの郷に於いて。ウルヴァタド・ナールの所の 197-10) ザルドフシュトは、イム・カルドに於いて、人が、彼らの

為にも言う、其の所は不死で 197-11) 有る。その様に、ヴィヴィンシヤンたちの所のナシフ、ノダルたちの所のトゥス、亦、グダルズたちの所のギウ、197-12) 戦いを事とする所のバイラズド、ポウル・ダーハシュタンの所のアシャヴァズド之息子、197-13) 彼らの全ては、フラシャギルドに於いて、働きの 197-14) ソーシャンスの所の助けに向けて、打ち到る。サムのために言う、197-15) 即ち、不死で有る。其れに於いて、それには時に、非難する。マズデースンたちの所の教えは、198-01) チュルクの息子のヌハンと呼んだ。時に眠っているに、矢に於いて、併し 198-02) 亦、悪を放った。其の所の、ペシヤンサイの所の平野に於いて、それには亦、違う所の其れが、ブシャスプが、198-03) 上に運んでいる。暑さの所の中に眠る。それには亦、雪が上に 198-04) 降っている。其の行いに於いて、即ち、時にアズ・イ・ダハク、放たれた主が 198-05) 彼を導く。それは亦、打ち叩く。それは亦、無数の正しいものたちのフラワフルの守護が 198-06) 有る。アズ・ダハーグ、其の所はベヴァラスプとも呼ばれる。為に言うに於いて、即ちファリドーンが、198-07) それには時に、殺すことに於いて為すことはできない。それには亦、爾後、ドムバフンド山に於いて 198-08) 打ち縛られた。時に、放たれて有る。サムを 198-09) 導く。それには亦、棍棒を叩く。亦、殺す。カングデズは東方に於いて 198-10) 豊かになった所の海の所の上、多くのフラサングに於ける方向に対して、198-11) ペシヤンサイ平野は、カヴルスターンに於いて、即ち、その様に言う、即ち 198-12) 明らかな家族の所の最大はカヴルスターン、即ち、ペシヤンサイ平野 198-13) 其処にニガヨモギが、より高い峰にはない。イラーンの郷はパタロパタカンの方向に於いて、198-14) サウカヴァスターンの所の大地はトゥルキスターンによる所に於ける為に、198-15) チニシターンに対して北の所の方向に於いて、遠くイム・カルドの所の湖はパルスの間、199-01) スルヴァクに於いて、この様に言われる、即ち、イム・カルドは山々の下、カシュメル、199-02) ヴァーンド山、ヒンドゥーたちの。

第 38 章：死後の靈魂の行方について

チナール橋の上、靈魂は過ぎ行つた。199-03) 教えに於いて言う、即ち、百の人の高さの所の一つの峰、間の世界、其の所は 199-04) チャガード・イ・ダイティーと呼ばれる。穢れの秤のラシヤンの神、峰、元の山 199-05) のハルボルズは、北の方向に於いて、亦、山の所のハルボルズの頂に於いての所の峰、199-06) 南の所の方向に於いて、間の上、其のチャガード・イ・ダイティーが在る。199-07) 其の間の場所に於いて、剣のような鋭い所の峰が在る。199-08) それには其の所の、九長槍の長さとも亦、幅の亦、其処に在る。メーノグたちの 199-09) 秘事、其の所は、メーノグに適うものたち、正しいものたちの靈魂が浄められる。亦、メーノグ的の一つの犬が 199-10) 其の橋の所の頂に於いて、亦、地獄は、橋の所の其の下に、時に、時に、人間が 199-11) 打ち死にさせられるに。靈魂の所の三つの夜、身体の際に於いて、其処に、それには即ち、頭に 199-12) 有って、座る。

其の夜、其の所の、ヴィザルドシュ・デーウと亦、協働者たちが多く 199-13) 審判を見る。常に守護を再び、火に対して為す。199-14) 其処に照らしている。此れの為に、其の三夜、昼まで、其処に、それには即ち、199-15) 頭が有る。火を、照らすことに於いて保たれる。時に、其の火がないと、200-01) 守護は再び、ヴァフラームの火、あるいは同じ輝きの火たちに対して有る。200-02) 為される。其の三つの夜の内に、時に、作り、破壊が身体に対して到る。200-03) それには更にこの様な違いを見る、その様に、一つの人、それには其の所のメーノグの家が 200-04) 壊され、其の三日に、靈魂は、身体の所の枕に於いて輝く。風が身体に対して、200-05) 全ての所の其れに於いて置く。即ち、有る。時に、此れをよく熔かす。200-06) 若し、身体に対して行くと、後ろに対して正しいものたちに行くことができ有る。200-07) 亦、爾後、夜の三番目、一つの輝きが、若し、正しいものたちの靈魂の此れに、言う 200-08) 即ち、善い、彼、其の所の、彼の善いことの其れより、誰であれ、即ち私の善いものが、200-09) 私の善いことより、夫々が誰もが善い。私に亦、オフルマズドが意志に於いて權威を与える。200-10) 亦、若し、其れが悪い靈魂ならば、言う、此の其の身体の靈魂と亦、身体と亦、それには其の所の共に、200-11) 併し、地獄へ失せて有る（わたしは）。爾後、此処より対して、即ち、即ち、私は失せる。200-12) 若し、正しい所ならば、速やかに、其の話に於いて、一つの風が向かって来る。亦、良く、200-13) 亦、より善く、亦、より芳しい、より勝利に満ちた、ゲーティーグに於ける全ての風たちより、200-14) 其の所の、靈魂を打ち喜ばせる。亦、若し、悪いものであれば、一つの風の所が向かって来る。200-15) より汚く、亦、より汚らわしく、より勝利に満ちていない、ゲーティーグに於ける全ての風たちの所より。201-01) 其の所の靈魂が、悪い類であれば、苦しみが到る。爾後、運ぶ。若し、其の靈魂が、201-02) 全てに対して、其の所の正しいもの、その其の所の悪いもの、若し、道の内に正しいならば、それには更に、牛の身体に 201-03) 対して向かって到る。その身体は全て痛みが、其れの所、靈魂は、それには亦、栄と 201-04) 亦、肥ったことに到る。更に、少女の身体に、向かって到る。善い身体の所の 201-05) 白の着物の所の、十五の歳の、其の所の、全ての方向より善い、其の所の 201-06) 靈魂が、それに対して与えることができる。更に、花園の身体に到る。201-07) いっぱいの果物の所の、いっぱいの水、いっぱいの実、いっぱいの実、其の所の靈魂の喜び 201-08) 繁栄を思うことが到り、有る。私の元と亦、敬いがないこと、此れは 201-09) 数えることより前の印を、世界に於いて見て、有る。其の所の、其の靈魂は 201-10) 一つ一つ尋ねられた。それには時に、向かって有る。尋ねられた、其の所は、201-11) 汝であり、其の所の汝が有る。其の所の、我がこの様に思った。即ち、汝の全ての安楽と亦、201-12) 安らぎが、それに対してこの様に、彼らの一つ一つの答えを言う（それらは）。201-13) われは有る。正しい教えの所の汝の其の行い、汝の其の爲したこと。時に、汝の善いことを 201-14) 爲して、我は汝の為に此処に有って有る。若し、其の悪いものの所の靈魂ならば、201-15) それには更に、牛の身体に、向かって対して到る。乾きと

弱さの所の 202-01) 恐れ、其の所の魂は乾いた乾くこと、弱く肥ったことに、それには亦、
到る。202-02) 更に、少女の身体に到った。恐ろしい所の悪い身体、それには其の所の嘲
りを隠し持って 202-03) いる。全ての方向より恐ろしく、其の所の靈魂、それには亦、恐
れと怖がることに 202-04) 到る。更に、花園の身体に到る。水もなく、木もなく、202-05)
安らぎなし、其の所の靈魂は、悪い考えをもつことに到る。恐れ有る所の地獄の 202-06)
此れは、数えることの前、印を離れて有る、其の所の彼らの、一つ一つを尋ねた。202-07)
其の所の汝、其の所の汝が有る。より邪悪な汝より、ゲーティグに於いてみることがな
い。202-08) 答えを、彼に対して言う。即ち、一つの悪いもの、我は汝の所のディーン、
なんじの其の所の自らの行いが 202-09) 汝に有り、時に、汝が邪悪な所の其れを行った。
此処に汝の為に我は有っている。202-10) 見えることなく、即ち、全ての誰かの行うこと
自身が向かって有る。爾後、202-11) 其の靈魂を導かせられる。ハルボルズ山の所の起こ
りまで、即ち、錘の所の端も其の上に 202-12) 行く。峰の所の高まりまで、即ち、鋭い所
の其の端で有る。爾後、202-13) 若し、正しいものであれば、鋭い所の其の端は広さに於
いて在る。ファッローバグの火は 202-14) 勝利に満ちて暗闇を叩く。火に於いて身体の其
の靈魂は、其の端に於いて 202-15) 耐える。それには亦、其のメーノグたちの神々の隅
の果てしない流れの所を、メーノグに 203-01) 功德に於いて第二に遣り過ぐす。ハルボ
ルズの峰の所に対してまで、それには亦、善い栄光の所の一つを 203-02) 上に為す。自身
の場所に対して運ぶ。その様に、其れは、時に 203-03) 靈魂を受けると、其処に任せる。
身体も、時に、ゲーティグに於いて、隅の 203-04) 果てしない流れは、メーノグの様
な其れに於いて、若し、其れが悪人の靈魂であれば、時に、203-05) 錘に於いて峰に対
して上に来る。其の鋭い所の際は、同じ際の所に於いて打ち 203-06) いる。道を与えること
はない。それには亦、望むことなく同じ際の上に行かねばならず。203-07) 三步に於いて
先へ置く、有る。悪い考え、悪い言葉、203-08) 悪い行いは深さに動いている。下へ切り
放つ。峰の端より 203-09) 頭逆さに、地獄に対して落ちる。見る。全ての邪悪は、203-10)
此れも言う、即ち、時に寛大さに於いて正しいものが有っているに、203-11) それには時
に、其の風が向かって対して到る。其の風の中に少女の身体を見る。203-12) 其れは問い
を為す。それには亦、道の案内に於いて、一つの道に対して 203-13) 運ぶ、それには其の
所の、三つの駅がそれに対して、亦、其の道はガロードマンに対して行く。203-14) 三
歩に於いて有る所の、善い考え、善い言葉、善い行い。始めの一步は星の駅に 203-15) 対
して、第二には、月の駅に対してまで、第三には、太陽の駅の所に対してまで、204-01)
即ち、ガロードマンの所の光の所。若し、賤しさに於いて邪悪が有っていると、それには
時に、204-02) 其の風が向かって有った。其の風の中に少女の身体が到る。其の問いを
204-03) 為す、有る。鋭い所の際の様に廻る。其の所の、全ての鋭い所の際は 204-04) 其
の靈魂に対して言う。即ち、悪者よ。汝が時に、望みあり、汝に時に、望みなきに 204-05)
此の上の歩に於いて行かねばならない。更に靈魂は言う、即ち、我を若し 204-06) 際在所

の多くの行いである所に於いて汝が切るに、善く思う（それは）。即ち、歩に於いて 204-07) 私は此の上に行く。第二に、同じように言う、亦、靈魂は答えを言う、204-08) 即ち、我を若し、汝が矢に於いて打ち射るに、汝は善く思う。即ち、此の上に 204-09) 歩に於いて我は行く。第三に、同じように言う、彼は亦、答えを言う、204-10) 即ち、若し、身体より我が靈魂を汝が打ち射るに、汝は善く思う。即ち、此の上に 204-11) 歩に於いて我は行く。穢れないので、其の行い一つ再びの恐れは起こっていない。204-12) 靴の様に有る。靈魂の前の所に打ちいる。亦、其の靈魂は、この様に、204-13) 恐れる。即ち、其の上に歩に於いて行き、三步に於いて下へ 204-14) 切り落とす。地獄に対して落ちる。それには其の所の、罪と亦、功德の夫々二つが釣り合う、204-15) それには更にハミスタガンに対して与えられる。ハミスタガンの為に言う、即ち、一つの場所、205-01) その様に、ゲーティグの様な、全ての誰かが其の駅に於いて、それらの其の功德の場所が 205-02) 与えられ、置かれる。

第 39 章：時代について

国々の所の亦、大地の上、イラーンの国のカイたちの住まいの所より 205-03) 内に。教えに於いて言う、即ち、若し、我、創らなければ、今、メーノーグの 205-04) 栄光と亦、国は、全ての人がイラーンの郷へ打ち対して行って有る。205-05) 今、喜びは其処の為に、其の所の諸場所より第一に育った。優れた住処の 205-06) イラーンの郷を創った。それには亦、ガンナーグ・メーノーグの所の禍の此の 205-07) 毒が上に来た。デーウたちの冬が齎された。翼に於いての所のへびや、亦、其の 205-08) 翼に於いて無いのも。十の月が其処の冬、二つの月が夏、その様に 205-09) 言う、即ち、夏冬は全ての場所にもっとも一つで、併し、其処に 205-10) より厳しく有る。普通のダイの月の閏の内、第二に亦、205-11) 優れたものが齎された。平野の強い家々、それには即ち、強くそれに対して 205-12) 留まる（それらは）、有る。神の齎した所の神々の齎した、それには亦、禍のバッタ 205-13) 邪悪が起こった。常にバッタは草を打ち食う。羊たちや 205-14) 牛たちの死に到る。第三に、優れたものの創造が、205-15) ハーブの所の働き、それには即ち、行いの審判が多くの名を為す（それらは）。それには亦、206-01) 禍が正しいものの誰かに毒が来た。其の所の常に馬の乗り手が、其処でより 206-02) 創られる。辺境を好む強い泥棒たち、アフリマンの正しくない話が、206-03) 正しいものの痛み。第四に、優れたものの所の部分が齎された。善いものは見ることに於いて 206-04) 其処の所の人間。旗印は努めに於いて保たれる。それには亦、禍の 206-05) 穴の毒がくる。損ないの穴を上を為す。打ち投げられた。206-06) 第五に、無数の所の毒、春のハーブが齎された。それには亦、禍の此の毒が来た。206-07) 疑いが神々の所の事に於いて。第六に、アルギの優れたものが齎された。206-08) それには亦、禍の此の毒が来た。嘆きは多くのヒヨスに於いて行うこと、一つは 206-09) 言う、他のものは取る。多いと亦、少ないと亦、に於いて、その様に言う、即ち、206-10)

アルギの所の死骸を棄てよ。其の所の欠陥は、それには時に、一つの身体を内に打ち過ぎ（それは）、打ち 206-11) 棄てて亦、打ち行く（それらは）。この様に、その様に、我々は、九晩の月の長さが、守護に 206-12) 於いて保たれる。彼らの家を打ち棄て、打ち行く（それらは）。九 206-13) 晩と亦、月の長さが。第七に、大陸の所の邪悪な値打ちの優れたものが齎されて、206-14) 有る。カヴルストーンの値打ちの無い木々が其処に、悪い身体に於いて、206-15) それには亦、禍の魔女の意志と欲望たる毒が来る。其の小さなデーウの 207-01) 恐れを常に為した。彼らにも亦、常に為して（それらは）、有る。其の所の開いた地獄を言う。207-02) 第八に、メシユンの優れたものを齎した。いっぱい飼料、それには即ち、穀物が 207-03) 多く有る。それには亦、悪者たちの禍のタイマの毒が来る。それには其の所のヤギ座たちの宿が 207-04) 上に留まる（それらが）。人間は一つの並びに於いて彼らより 207-05) 悪者であることはない。第九に、カナンの優れたものが齎された。グルガンの 207-06) 住まいに、それは即ち、彼らがそれに対して留まる（それらは）。ハーワンの川は、同じではなく、亦、207-07) 他の平野は同じである。それには亦、禍のより悪い行いであること 207-08) 極悪のものたちが来る。即ち、人間のヴァースプタグキーフが其の場所に毒を為す（それらは）。207-09) 有る、肛門による交わりを言う。第十に、アルモンの優れたものが齎された。それには亦、207-10) 禍の遺骸の埋葬であることの毒が来た。即ち、其処に毒を為す（それらは）。207-11) 第十一に、有ることが有る。栄光をもつ所の戦車を持つ建てられたものたちの優れたものが 207-12) 齎された。それには亦、禍の一つの魔術師の所の毒が来た。それには亦、明らかな 207-13) 睡眠の印が、即ち、全ての人に其の場所より打ち来る（それらが）。この様な所の魔術を 207-14) 為す（それらは）。魔術師たち、カイたちの判事の彼らにより、霞と亦、バッタの所の身体が 207-15) 落ちる。第十二に、ラハグの所のタネの優れたものが齎されて、有る。208-01) アタロパタカン睡眠のために三つのタネを言う。其の所の、僧侶、戦士、208-02) 亦、家の主は、其の善い場所である、所の。それには亦、禍、悪い所の其れ、208-03) 疑いの所の、神々自身の所の事に於いて疑い深く有る。208-04) 安らうことにも疑い深く有る。第十三に、歪められた所の儲けたちの損なうものの優れたものが 208-05) 齎された。其の所が、有る。吸う（それらは）。それには亦、禍、遺骸を料理すること、208-06) 遺骸を貪ることの毒が来る。常にキツネや亦、イタチを料理し、亦、食らせる（それらが）。第十四に、208-07) 亦、四つの手を持つ王の所の男の優れたものを齎した。話すことの所の有る。それには亦、四つの手を持つ王の所の 208-08) 此れ、即ち、四つの側が有る。言う、即ち、四つの頭の所の国に水が 208-09) 国に対する内に来る。それには亦、禍の、其の罪深い月の物の毒が 208-10) 有る。即ち、其処により酷い、亦、邪悪が有る。それには亦、イラーンではないものの町が 208-11) それに対して留まる（それらには）。第十五に、インドの所の七つの優れたものが有った。208-12) インドの一つのそのの繋がりは頭の主が七つ内に有る。それには亦、禍が、208-13) 罪深く暑さと亦、酷い月の物の毒がくる。第十六に、恐ろしい

主の 208-14) 優れたものが有る。アラブの所の乾きが、それには亦、十と一つの禍が。此の 208-15) 毒が来る。それには即ち、主に於いて主を保つことがない(それらが)。亦、イムスターンも其処に 209-01) 厳しく有る。それには亦、アラブが上に留まる(それらが)。よい所の其れが、見たことに於いて、亦、深い、209-02) 行いに於いて亦、必要な判断、それには亦、行いと、亦、判断が多く 209-03) 内に尋ねさせる(それらが) 所が内に有る。其の所はパルスと言う。此の町々の所の 209-04) 内にイラーンの国が、より名立たるものが有る。カイたちの家々の所の内に 209-05) 為された。栄光に於いて、其の所の素晴らしく、善く、それに対して、一つの水を言う。其の所の一つが 209-06) イム・カルドでハルボルズに於いて。亦、其の所の一つがファリドーン・カルドでそれらの父であるハルガルに於いて、209-07) 四つの肩の所の湖の流れの様な。其の所の一つがカウス・カルドでハルボルズに於いて。亦、209-08) 其の所の一つがダハーグ・カルドでバズルに於いて、コーレーングよりドーシェードと呼ばれる。其の所の一つが 209-09) その世界の所のカウスアーン・カルド、其の所はカングディズと呼ばれる。一つをトゥールの所のフラシヤヴで、209-10) 魔術師が為した。大地の所の下、魔法に於いて。其の所の一つがイム・カルドで 209-11) パルスに於いて其のところをイム・カルドと言う。其の所の一つがダハーグ・カルドでダームバラーンに於いて 209-12) 亦、一つはインドに於いて、其の所の此れは素晴らしい行いを為して居る。209-13) 他のものまで、多くの国の諸町と亦、諸住処を為して有る。209-14) 其の所の鍾の名立たるイム・カルドの為に言う、即ち、大地の所の下、覆われたものに於いて 209-15) 住処の強いものが有る。素晴らしい所の光、其の所の、夏と冬は越え行くことがない。210-01) それには亦、全ての事よりゲーティグに於いてカイの所の住処の内に、より少ないものの為に 210-02) 言う、即ち、一つの黄金が有った所のその其れは、上に置かれた二つの水晶が 210-03) 有った。それには其の諸クローバーが。二つの鋼造りが有った所の群れのその其れが。それには亦、夫々の 210-04) 味の亦、不死の泉が。若し、それには亦、流れた、其の所の年寄りを抑える。即ち、210-05) 時に、年老いた人が此の扉に於いて内に行くに、十五歳の所の子供が 210-06) 其の扉に於いて外に来る。亦、死をも打ち叩いた。カングディズの為に言う、210-07) 即ち、栄光ある所の足を持ち、邪悪を吹いた流れの所の常に歪められた、210-08) デーウたちの所の頭に於いて有った。カイ・ホスロウの所の大地に打ち対して置いた。それには亦、210-09) 七つの梁が有る。金、銀、鋼、ブロンズ、鉄、210-10) 水晶、琉璃。それには亦、七百パラサングの正しくその間が。210-11) それには亦、十五の扉がそれに対して、其の所の扉より扉に対して戦車の所の役立つこと、210-12) 春の所の日が十五日に於いて行くことができる。フラシヤヴの所の住処の 210-13) 為に言う、即ち、大地の所の下、法であることに於いて為されている。光に於いて 210-14) 住処の夜は昼の様に光が有る。それには亦、四つの川が内に流れ、一つは 210-15) 水、亦、一つはワイン、亦、一つはミルク、亦、一つはサワーミルクのガム。太陽の場所と 211-01) 亦、月の場所は、動きに於いて内に飾られている。

千の普通の人の高さの所の 211-02) 家が有る。イムの所の家はハルボルズの宝石に於いて有る。ダハーグの所の家はワシ山に 211-03) 於いてコーレーグによく似て有る。傷の上に千年紀、千年紀に、イラーンの町に対して 211-04) 来た。即ち、時に、ガンナーグ・メーノーグが内に跋扈して、211-05) 元の始めの千年間に於いて、混ざることの内に、牛とガヨーマルトが有って有った。211-06) 時に、マシェーと亦マシャニーは、其の恩知らずのことを為した。五十年が、それらには更に、211-07) 生まれることが、其れには亦、有ることがなかった。同じ千年間の内に、七十年に於いて干上がらせる（それらは）。211-08) 悪と並ぶまでに、夫々の二つのデーウたちを打ち殺した。千年間の内にデーウたちの頭は 211-09) イムを打ち作る。第二の千年間が打ち有った。ドラゴンのダハーグの悪い統治が 211-10) 上に為す。ドラゴンの千年を打ち為した。その様に、千年間の頭の 211-11) ファリドーンを為して、結んだ。第三の千年間の元が有った。時に、ファリドーンは 211-12) 大陸を配分した。サルムと亦、トゥジは、それらの更に、エールディズを殺した。息子たちを 211-13) 同じ世代たちを拓げる。同じ千年間の内にマヌシュチハルが生まれた。エールディズの所の 211-14) 仕返しを望んだ。爾後、アフラシアヴが来た。マヌシュチハルはイラーンのものたちと共に 211-15) パダシュフヴァルガルに対して押し遣った。困難と亦、欠乏に於いて、多くの死が 212-01) 許された。パルスブルダグのマヌシャチハルの息子を殺した。ハーワンに於いてまで 212-02) 子孫のイラーンの国は、フラシヤヴより取った。時に、マヌシュチハルは 212-03) 殺されて有った。更に、フラシヤヴは来た。イラーンの国より再び 212-04) 保った。アウゾボまで、トゥフマスピアンは来た。フラシヤヴは押し遣った。雨を 212-05) 為した。それらには其の新しい雨降りと呼ばれる。爾後、アウゾボより再びフラシヤヴの 212-06) 山々の禍は、イラーンの国に於いて為した。カワードまで、統治の連合に対して 212-07) カイ・ドーシュの所の統治の内に、同じ千年間の内に、デーウたちの抑圧が有って 212-08) 有った。ナーンジャールが癒しに対して来た。亦、考えの所が惑わされた、空の所の戦いに 212-09) 向けてまで、行った。頭を逆さに落した。身体と腕は、それには亦、痛みが有った。爾後、212-10) 馬と亦、人の世界に於いて正しくないことが為された。それらには亦、生き物や果物の国に於いて 212-11) 仕事に於いて、目に見える多くの耕地と共に、結ばれて有る。一つの一つの所のはゼーンギヤヴと 212-12) 呼ばれた。それには其の所の毒が、目の所に於いて持っていた。アラブのものたちより、212-13) イラーンの国の統治に対して来た。それには其の所の耳と目のことに於いて、それに対して見て、212-14) 打ち殺した。イラーンの人々のフラシヤヴは望むことに於いて望んだ。亦、崇めるために、212-15) 彼のゼーンギヤヴを殺した。職人はイラーンの国を為した。多くの人間をイラーンの国より 213-01) 運ぶことが、トルキスターンに於いてできた。イラーンのイラーンの国を 213-02) 為した。乱した、強い川まで、サガスターンより、整えられた。半分の利益に 213-03) 為した。カウスと亦、他のイラーンのものたちは、絆より開いた。フラシヤヴと共に 213-04) 最初の川の堤に於いて、

其の所のスピヤフンと呼ばれる、戦いを 213-05) 為した。其処より苦悩が与えられた。多くの第二の戦いが共に為された。213-06) 押し遣ったまで、トルキスターンに対して投げた。イラーンの国は新しい繁栄より 213-07) 除いて、更にフラシアヴのカイ・ハウトクの世界は毒を戦いに対して 213-08) 来た。カウスの妻の残念さの落ち度に於いて、残念なことが 213-09) 有った。サハーンヴァシュは再びイラーンの国に対して行かなかった。フラシアヴの所の一つに於いて 213-10) 護りの粗末なことの性質を受けていた。カウスの所に 213-11) 対して来ることはなかった。併し、自らトルキスターンに対して行った。娘であることが 213-12) フラシアヴは、妻であることに於いて為す。カイ・ホスロウは、それに亦、生まれた。213-13) サハーンヴァシュは其処で殺されて有る。同じ千年間の内にカイ・ホスロウは 213-14) フラシアヴを殺した。自ら行く。カングディズの統治の所の所に対して、213-15) ロウラスプの所に対して与えた。時に、ウィシュターズたちの三十年の統治を 214-01) 為して有った。千年間の頭で有った。爾後、第四の千年間の 214-02) 元が有った。其の千年間の内にザルドフシュトは教えをオフルマズドより受けた。214-03) 運ぶ。ウィシュターズプが受けて流れを為した。アルジャスプと共に 214-04) 厳しい戦いを為した。イラーンはイラーンでないものの多くを孕ませて有った。214-05) 同じ千年間の内に、時に、スパンドの神々の所のヴァフマンの所に対する統治が来た。英雄たちが 214-06) 有った。イラーンのものたちは自らを自らに於いて孕ませて有った。亦、統治者の所のタネより 214-07) 誰でも留まることはなかった、其の所の統治を為したものが。今、それらには亦、214-08) ヴァフマンの所のワシの一对が、統治に於いて置かれた。爾後、214-09) ダラーイたちの所の鐘の所の統治の内に、アレキサンドル・ケサルがローマより跋扈して、イラーンの国に対して 214-10) 来た。ダラーイ王を殺した。全ての家族の所の主たちを息づかせる（それらは）。214-11) 人間たち、明らかなものたちは、イラーンの国を許す。多くの死が、火が 214-12) 消された。マズデースンたちの所の教えのザンドを取り（それらは）、ローマに対して来た。214-13) アヴェスターが焼かれた。イラーンの国は八十の部分に於いて主が配された。214-14) 爾後、同じ千年間の内に、より統治権のあるパーパカーンが現れて来た。214-15) 主たちの其の赤子を殺した。統治権を定めて、教えの所のマズデースンの（215-01～216-15：落丁）217-01) 導師の旗印を。亦、パルスと亦、イラーンの国の地方地方は、ワシの山に対するまで、217-02) 為して（それらは）。彼らタジクたちを弱く為す（それらは）。亦、爾後、一つの一つは 217-03) 東の所の方より来る。彼らの悪い人間、パダイシュワルガルのもたちを 217-04) 踏み越える。一年ほど、悪い統治のことを為す。217-05) 頭とすることに於いて、彼はパルスの教えを人に打ち許した。併し、僅かの所はカブルヴの 217-06) 海の畔に於いて、対して打ち留まることなく。其れより、爾後、エーヴァントーラグの所が多く 217-07) 数、多くの旗印に於いてイラーンの国の内を跋扈させる（それらは）。此のイラーンの国の 217-08) 盛んな所の芳しさの荒廃を為す（それらは）。亦、多くの家族を荒廃させ、乱れさせる（それらは）。217-09) 多くの邪

悪が見られたことよりイラーンの国の所の人々に於いて為す（それらは）。多くの家々を 217-10) 壊し、乱れさせる（それらは）。神々にまで、許しを為す（それらは）。亦、時にローマのが 217-11) 到って、亦、一つの年、統治権を導く（それらは）。其れは善い歩みがカヴルスターンの所の 217-12) 方より、二つの一つが来る。それには其の所の、栄光と亦、それに対する神の所の家族より、217-13) 一つのカイのヴァフラームと呼ばれる。全ての人は彼と共に戻って有る（それらは）。亦、217-14) インドに於いてもローマと亦トルキスターンは全ての方向の所の統治を 217-15) 為す。全ての誤った呪文の大麻の所を上を保つ。ザルドフシュトの所の教えは、218-01) 命じる。誰も、時代だけに於いて、見えることに對して来ることはできない。218-02) 亦、同じ領域の内に覆うことの所も。ウィスタースプたちはカングディズより来る。218-03) 百と亦五十の人と共に。正しいものたちは、其の彼の靈魂の秘密の場所の所の偶像寺院の所が有って、218-04) 打ち壊した。ヴァフラームの所の火を、替わりに於いて、置く。教えを、全ての友達に 218-05) 言う。命じる。爾後、千年間の所の第五版、東のものたちの元が有る。218-06) 東のザルドフシュトたちの、教えに於いて、導くことと亦、正しい使いが、218-07) オフルマズドより来る。その様に、ザルドフシュトは運ぶ。彼は、その様に、運ぶ。218-08) 始めた。それには更に、亦、乾くことが減る。寛大さの天国たること、亦、平等が、218-09) 全ての世界に育つ。三年、植物たちに対して黄金たることを与える。ダータエー川の 218-10) アスプザハーが打ち流れる。諸泉、亦、カイ・ホセーンの湖へ 218-11) 再び流れる。十昼と亦、夜、太陽は、空の所の最も高いところに於いて、打ち 218-12) いる。オオカミの類たちを全て打ち許す（それらは）。爾後、時に、千年間の所、218-13) 東の頭が有った。多くの数の悩みの元の所が、トゥラーンの兄弟のタネより 218-14) そのサイの善い所のザルドフシュトが有る。見えることに對して到る。218-15) 魔術師の教えのことに於いて、呪いの恐ろしい望みの、マトラーのマラグサーンと 219-01) 呼ばれる。三年、冬に於いて寒い所の其れが、亦、夏に於いて暑い所の其れが、219-02) 雪と亦、霞の所の数えられないものと共に、作ることの許しが、この様な所の全ての人が 219-03) 少ない火を打ち許す（それらは）。亦、爾後、再び、人間と亦、動物の所の整えることが、219-04) イム・カルドの所の人より有る。此の行いの為、眠ることの所が為されている。219-05) 此れも即ち、其の時に於いて、治療の大麻が千種の植物の所の内に、219-06) 反対に於いて、千種の病が創られている。219-07) 二つの種の植物に打ち對して、一つの種が大地に到る。誰かが 219-08) 病に於いて死ぬことはない。併し、年寄りであることに於いてあるいは殺される。爾後、219-09) 千年間の所の第六、ホシェダルマーフと亦、其の千年間に於いてホシェダルマーフの所の 219-10) ザルドフシュトは、使いであることに於いて、オフルマズドより来る。その様に、ザルドフシュト 219-11) は教えを運んだ。彼も運ぶ。世界の内に増えた。219-12) 二十の昼と夜、太陽は空の所の最も高きに於いている。六 219-13) 年、植物たちに対して新鮮さを与える。水のタネの所の其れは、悪魔を許す。219-14) 即ち、ヘビのフラフスタ

ルを伴って打ち許す。爾後、近く、千年間に対して 219-15) ダハーグの頭のホシェダルマーフが、放たれた絆より有る。ベーヴァルアスプ（千のウマ）は、220-01) 多くの生き物や亦、創造を、ダハーグの所の望みに於いて壊した。其の時の内に 220-02) ザルドフシュトの所のソーシュヤンスが見えることに對して到る。三十の昼と亦、夜、太陽は 220-03) 最も高きに於いて打ちいる。始めに、ゲーティグのものたちよりサーフマーンの真実が 220-04) カルスアスプに上に起こさせる（それらは）。ベーヴァルアスプは棍棒に於いて打ち、殺す。220-05) 生き物たちより再び保つ。ソーシュヤンスの所の千年間、元が有る。220-06) その様に、彼の所の千年間の所、身体の働きは五十と亦七年。此のザルドフシュトの所の 220-07) 三人の息子、その様に、ホーシェダルと亦、ホーシェダルマーフと亦、ソーシュヤンスの為に、220-08) 言う、即ち、前に、即ち、ザルドフシュトは打ち言った。それらには更に、ザルドフシュトの所の 220-09) 栄光が、カイ・ホセの所の海の内に、保つことの所に於いて、アーバーンに對して栄光の所が 220-10) 有る。アナーヒターが齎すことが凍った。今も言う、即ち、三つのチラグの所が、元の所の 220-11) 海の内に燃える。夜に於いて常に見られる。一つ一つは、それらには時に 220-12) 自らの時に到る。この様に、有る。時に、一人の少女が頭と亦、220-13) なだめるために、其のカイ・ホセの所の水に對する所に行く。それには亦、栄光が身体に對して内に 220-14) 混ざり、身籠って有る。彼らには一つ一つ、自らの所の時に於いて、

第 40 章：死者の復活と最後の身体について

220-15) この様に生まれる（それらは）。死者の復活の所の上、終の所の身体が。221-01) 教えに於いて言う、即ち、其れよりその様に、ミシェと亦、ミシャネは、其の所の大地より上に 221-02) 育って有る。始めに、水と亦、爾後、植物、爾後、ミルクと亦、爾後、肉の所を 221-03) 食べて有る。人間も、それらの時に、死ぬことに、始めに、肉、221-04) ミルク、亦、爾後、パンより食べることに、併し、亦、いる。亦、ただ打ち死ぬまで、221-05) 水が食べられる。その様にまた、ホシェダルマーフの所の千年間に於いて、水の所の力は、この様に、221-06) 打ち減った。時に、人間は、一つの脂に於いて食べることに、三つの夜と亦、昼と亦、221-07) 満足に於いて居る（それらは）。爾後、其れにより肉により、食べることが打ち在る。亦、221-08) 植物と亦、羊たちの所のミルクが食べられる。爾後、其のミルクを食べることににより 221-09) 在る。爾後、植物を食べることににより在る。亦、水を食べることが有る（それらは）。221-10) 前に、十年に於いて、時にソーシュヤンスが来る。食べることがないことに對して 221-11) 在る。亦、死ぬこともない。爾後、ソーシュヤンスは到った。上に起き上がらせる。221-12) その様に、言う、即ち、ザルドフシュトはオフルマズドより尋ねた。身体の幸せな風は 221-13) 水を運ぶ。即ち、再びより為す（それらは）。亦、死者の復活は、その様に 221-14) 有る。それには亦、答えを為した。即ち、時に、空が身籠ること、221-15) 存在することの所のメーノーグに於いて、遠い際

の光は、宝石の輝く金属より。222-01) 亦、時に、理由の地面を齎した。其の所の、全ての存在の骨が有り、運ぶ。それには亦、222-02) 一つの保つものの所のゲーティグはない。我は時に、太陽と月と亦、星を 222-03) 大気の中に、光の身体たちを動かして有る。亦、我は時に、穀物を創った。222-04) 即ち、大地の内に基礎を置かせしめる。亦、再び育った。育つことに於いて再び有る。222-05) 我も時に、植物の内に色を創った。種々のものを。我も時に、他の植物たちの 222-06) 残念な事を創った。燃えないことに於いて、我は時に、子宮の内に同じ 222-07) 息子を創った（それらは）。傾けさせ、亦、別々に、髪と亦、皮膚、爪、血と亦、足、222-08) 目と亦、耳と亦、元の部分を打ち創った。我も時に、水に対して足を 222-09) 創った。即ち、打ち流れる。我も時に雲を創った。メーノグの、其の所の、ゲーティグの所の其れに 222-10) 水を運ぶ。其処で、それには即ち、意欲を増す。亦、我も時に、大気を創った。其の所の、222-11) 明らかな、風に於いて最も高い力が。我も時に、真実、その様な意欲が、始めに 222-12) 栄光に於いて先へは為すことができない。一つ一つ彼らより、時に創った。222-13) それに対して、より難しく有った。即ち、死者の復活、我が其れが、死者の復活の内に 222-14) その様な所の助けが、彼らには有る。我は時に、彼らに為される。222-15) 有ったことを上に見よ（なんじは）。即ち、時に、其の所は無く有った。我は更に、打ち為した。其の所が 222-16) 有った。理由は再び為すことができない。何故なら、其の四肢に於いて、大地の所のメーノグより 223-01) 骨が、水より血が、植物より髪が、亦、風より有る。それらにはその様に、223-02) 初めの創造に於いて受けた。初めが私に有る。始めに、見られなかった、ガヨーマルトの所の其れが 223-03) 上へ起こる。爾後、マシュエと亦マシュアネーの所の其れが、亦、爾後、他の誰かたちの所の其れが 223-04) 上へ起こらせる。五十と亦七年、ソーシュヤンスの死を起こさせる。223-05) 全ての人間は上に在らしめる（それらは）。其の所の、正しい、其の所の邪悪な人間は全て 223-06) 誰もが其処より戻って在らしめる（それらは）。それらには即ち、靈魂が打ち行った。あるいは、223-07) 始めに、大地に対して落ちて有る。亦、爾後、時に、神々の全ての骨の所の鉄が 223-08) 有る。身体、身体を再び整える。それらには更に、形が打ち創られる。223-09) 亦、其の光を、太陽の一つの半分をガヨーマルトに打ち対して、一つの半분을他の 223-10) 人間に打ち与える。爾後、人間は人間に打ちなだめる（それらは）。即ち、靈魂は 223-11) 靈魂に、身体は身体に打ちなだめる。即ち、此の我は有る。父は此の我で有る。兄弟は 223-12) 此の我で有る。女は此の我である。カイ・ヴァルザイは近い繋がりあるものである。爾後、223-13) 有る。罪あるものたちの起こった所の集まりが。即ち、即ち、人間は、併し、此の大地に 223-14) 打ちいる。其の集まりの内に全ての或る者の善い行いのものと、亦、悪い行いのものが 223-15) 自ら見られる。正しいものは、悪いものの内にこの様に明らかで、その様に、白い所の 223-16) 羊が、黒い所の其れの内に有る（様に）。其の集まりの内に正しいもの、それには其の所の 224-01) 悪いゲーティグに於いて友達で有る。其の悪いものは不平を言う。其の正し

いものより、即ち、224-02)理由は、ゲーティグの内に、善いことを求めた行いであることより、自ら働く。我は為すこと 224-03)が有ることはない。若し、その様に其の正しいものが彼の為に知らせるならば、それには更に其の集まりに於いて、224-04)恥を受けねばならない。爾後、正しいものは、悪いものより離れて為す。正しいものは 224-05)ガロードマンに対して運ばれる。悪ものは却って地獄に向けて投げられる。亦、三昼と亦、夜に、224-06)地獄的身体を持ち、靈魂を持って、地獄の罰の内に耐えさせられる。224-07)正しいものはガロードマンの内に身体を持って、其の三昼と亦、夜に、喜びを 224-08)見る。その様に、言う。即ち、其の昼に於いて、時に、悪いものは正しいものより、224-09)正しいものは悪いものより隔たれて有る（それらは）。全ての誰もの涙が、足首まで、それに対して下へ 224-10)来る。時に、息子は、父と亦、母の所の連れ合いより、兄弟の友達に対してより、友達の所の彼より、より、224-11)別れて為す（それらは）。全ての誰ものが、自らの行いの所の其れを耐えさせられる。224-12)結ばされた正しいものは悪ものの上に、悪いものは結ばされた、自ら有る上に。時に、正しい父は 224-13)悪ものの息子が、亦、有る。時に、其の所の正しい分けることの一つは悪いものである。彼らの 224-14)それらの其の所の主たることは、生き物たることのために、なしている。その様に、ダハーグのフラシャヴ 224-15)ダータンの風と亦、他のものが、此の形により、死に値するものたちの処罰を、ダマ・224-16)ヤズダーン・ドークを耐えさせる（それらは）。亦、如何なる人間も耐えることがない。処罰の所、225-01)ティシュラーム・クシャフナムと呼ばれる。其のフラシャギルドの働きの内に、225-02)正しいものたちの所の彼ら人間たちの所の書かれたこと、即ち、生きて有る。十五の男 225-03)と十五の女が、ソーシュヤンスの所の手助けに対して打ち到る。亦、ゴージフルの 225-04)ヘビが、その様に、大地と虚空の内に、月の所の端より大地に対して落ちる。大地は 225-05)この様に、丸く有る。その様に、羊が、それには時に、オオカミのパダームがない。225-06)爾後、火と亦、神が齎した金属が、山々と峰々の内に注がせられる。225-07)大地に於ける川の様になる。爾後、全ての人間は、其の熔けた金属の内に 225-08)打ち耐えさせられる。亦、清らかに打ち為される。亦、其の所の正しいものは、それには更に、225-09)この様に思う。その様に、時に暖かい所のミルクが常に行くと。時に、225-10)悪いものは、それには更に、同じ類に思う。即ち、熔けた金属が 225-11)常に行くと。爾後、愛情の最も大きい所の其れに於いて、全ての人間は 225-12)同じに対して到る（それらは）。父と息子と亦、兄弟、全ての友達の人人が人より 225-13)尋ねさせられる。即ち、其の多くの年、即ち、汝は有って有る。汝に亦、靈魂の 225-14)判決に於いて、有った其の所が汝は正しく有ったか、あるいは悪く。始めに、靈魂は 225-15)身体を見る。それには亦、尋ねる。言われた答えの所の其れに於いて、人は 225-16)同じ声と共に有る（それらは）。亦、高い讃えることをオフルマズドと、亦、226-01)アマフラスパンドたちに対して運ぶ（それらは）。オフルマズドはそのガーフに於いて成し遂げる。生き物はまた、226-02)それには即ち、一つの行いを、

上に為してはいけない。其の内には、それらの時に、逃れた。設えた 226-03) 敬いは、死に於いて起せ (なんじは)。ソーシュヤンスを為す (それらは)。友達たちと共に為す。226-04) 亦、ハドハヨシュの所の牛を、其の信仰に於いて殺す (それらは)。其の牛の所の脂より、白い 226-05) 所のハオマ、不死を設える (それらは)。全ての人間に対して与える (それらは)。亦、全ての人間が 226-06) 不死と為る (それらは) 所の、常の振舞いまで。更にまた、言う、即ち、其の所の人間の取り決めが 226-07) 有つてある。それらには更に、四十歳の所の齎されたことに於いて、再び設えさせられる。226-08) 其れの所の其の所は小さなものに到られることはなく有る。それらには更に、十五歳の所の 226-09) 齎されたことに於いて、再び与えられる。全ての誰にも妻と亦、子供が与えられる。226-10) 妻と共に交わることが、この様に為される。その様に、即ち為す。ゲーティグは、併し、子供の 226-11) 誕生は有ることがない。爾後、ソーシュアンスは、創造主の全ての所の命令より 226-12) 人間に褒美と亦、報いを与える。行い、その最後でより少ない、其れも有ること。226-13) この様に、正しいもの、即ち言う、即ち、導く。オフルマズドの所のガロードマーンに対して、その様に 226-14) 自らの欲望が有る。身体を上を取る。常々の振舞いまで、其の手助けに於いて 226-15) 行く。此れも言う、即ち、時に信仰の為に為したこと、227-01) 見たことを、蒔く。命じていない。着物は正しいものの齎したことに於いて、値打ちに対して 227-02) 創っていない。其処に裸の、それには亦、オフルマズドの信仰を 227-03) 打ち為す。それには亦、メーノーグのガーサの着物の所の働きを、今、為す。227-04) 爾後、オフルマズドと亦、ガンナーグ・メーノーグ、ヴァフマンとアコーマン、ウルドヴァヒシュトとアンダル、227-05) シャフレヴァルとサウル、スパンドルマドとタロマトが有る。アンハイフ。ホルダード、227-06) アムルダードとタイレヴと亦、ザイリクと亦、言葉の所の真実が、言葉の偽りに対して、227-07) スローシュと嗚呼、亦、ワシの旗印の所のヘシュムを為す (それらは)。爾後、二つの悪魔と亦、先へと 227-08) 留まる (それらは)。アフリマンと亦、アズ、オフルマズドはゲーティグに対して来る。自らの 227-09) ソタとスローシュ、嗚呼。ラースピーグと亦、アスプ・ガーハーンは栄光に於いて持つ。227-10) ガンナーグ・メーノーグと亦、アズは呪文のガーハーンの所の其れに於いて、馬の鎧に亦、力なく 227-11) 其の空の道を横切り、それに対して内に跋扈した。再び、暗闇の道に対して 227-12) 亦、ゴージフルのヘビは、熔けた所の金属の其れに於いて、焼かしめられる。227-13) 亦、金属は地獄に対して内に流れる。其の嫌な臭いと亦、汚物は、大地の内に 227-14) 即ち、地獄が有る。其の金属に於いて焼く。明らかに 227-15) 為る。其のガンナーグ・メーノーグの所の数限りないものはそれに対して内に跋扈した。其れに於いて、228-01) 金属と亦、軍隊が有る。其の大地の地獄は、再び、世界の所の繁栄に対して 228-02) 運ばれる。亦、有る。フラシャギルドはハーワンの内に不死の世界の所の欲望に於いて 228-03) 常々に振る舞うことまで。此れも言う、即ち、此の大地、228-04) 善い王冠の、亦、乾ききった、亦、平らなものに打ち為る。山の峰、洞穴と

亦、228-05) 上に保つこと、したへ保つことは有ることがない。カイの所の繋がり所の所のタネの上に。228-06) ホーシャング、フラワク、月の所のシヤマクの、228-07) ガヨーマルト、タフムラト、ヴィヴァンガのヤンハト、ホーシャング、228-08) イムのタフムラプ、スピトゥルと亦、ナルシフ、ラシュン、ジウディズと呼ばれる。全て 228-09) 兄弟で有つてある。イムと亦、イムアグより、その其の姉妹が生まれた。228-10) 一つの組み合わせの男と亦女と亦、共に妻と亦、若い男の夫が。アスピーガーン、228-11) ジャナカ、ザルダヒムの名が有つてある。繋がり打ち進んだ。228-12) スピトゥルの其れが有る。其のダハーグと共にイムを作る所の。ナルシフは 228-13) 更に亦、生きた。彷徨いの所のナルシフと呼ばれる。言う、それには即ち、228-14) 栄光が上に与えられていると。即ち、全ての日、諸市場の内に打ち 228-15) 過ぎる。全ての食べ物は、神聖にして亦、清らかに打ち為す。ダハーグの 229-01) フルタスプのザニガウ、ブスビラフたち、ニグのタズの所、フラワクのシヤマク、229-02) 人々よりダハーグの自身のバヤキ・タム・バヤコヴォ、229-03) イキパイロル・トウルヴァジャスミ・ドウルアスカーンの 229-04) ガンナーグ・メーノーグ。ファリドーン、アスピガーンのプルトラ、アスピガーンのソグトラ、229-05) アスピガーンのボルトラ、アスピガーンのスヤートラ、アスピガーンの 229-06) スペードトラ、アスピガーンのスプルトラ、アスピガーンのラマグトラ、229-07) アスピガーンの等々、取り囲むアスピガーンのエムの女神たち。その様に、かれらには 229-08) アスピガーンのプルトラより他に、十の繋がり、夫々一つの百年を打ち 229-09) 求めて有る。有ること、千年、其の千年にダハーグの 229-10) 悪い統治が有つた。アスピガーンのプルトルよりファリドーンは生まれた。229-11) 其の所の、イムの所の復讐を望んだ所の。他の亦、子供、バルマユン、カタユン、ファリドーンは 229-12) 彼らより、満ちたより優れた栄光が有る。ファリドーンより生まれた三息子 229-13) サルムと亦、トゥジと亦、アイリクと亦、アイリクより二息子と亦、一娘が生まれた。二種の所の息子、229-14) フニダール、アナスタブ、亦、名前が有つてある。娘はグジャクの名が有る。サルムと 229-15) 亦、トゥジも、アイリクの子供たちの世代たちを全て殺した。其の娘、230-01) ファリドーンを秘密のうちに於いて保つた。其の娘より一の娘が生まれた。彼らには 230-02) 有つた。それらには亦、母親と亦、其の娘を殺した。つねにファリドーンは秘密裡に於いて 230-03) 打ち為した。十の繋がりまで、時にマーススの太陽は、鼻に於いて 230-04) 同じより生まれた。上にその様に、打ち生まれた。光の太陽は、鼻に於いて 230-05) 落ちた。マーススの姉妹よりマーススフルナル、マーススフルナルより 230-06) 姉妹のマーススチフルが生まれた。その其のサルムと亦トゥジを殺した所の。230-07) アイリクの所の復讐は、元より知られた。マーススチフルより生まれた。さらなるノダルと亦、230-08) ドウラスロボは。その様に、マーススチフルのマーススフルナルとマーススフルナクは、同じ 230-09) ソザクより、アイラクのシリタクのビタクのフラズシャクのズシャクのパレーン、其れも其れの所の 230-10) アイリチュのファリドーン、フラシヤヴ、パシャングのザ

エーシュム、トゥラクのスパエンヤスプの 230-11) ドウロシャスプのトゥジのファリドーン、その様に、カルセヴァズ、其の 230-12) 占い師と呼ばれる所の。アグフレラドは夫々、三兄弟が有ってあった。亦、パシヤング、亦、230-13) ヴィサクは夫々二兄弟有ってあった。亦、ヴィサクよりピラン、フマン、シャーン、230-14) 他の兄弟たちが生まれて有る。フラシヤヴよりフラスプイチュルと 230-15) 亦、シャーンダイタク他の子供たちが生まれてある。ヴィスパンフルヤ、231-01) カイホスラウ、それには亦、生まれた。フラシヤヴの所の娘が有った。他にフラスプイ 231-02) チュルは同じ女で有った。フラスプイチュルよりスラク、アスリク、他の 231-03) 子供たちが、彼らよりフヴァストアイリフトと亦、シャーンアイリフトイーフと亦、シャーンイーフ 231-04) ラード、フレフフルド、ラーンハーク他が生まれてある。ネーク・ホスログより、231-05) アグレラドよりゴスパトシャフが生まれた。時に、フラシアヴのマーヌスチフル 231-06) はイラーンの人たちと共に、山の暗闇を為したパデシュフヴァルガルの所の山の内に 231-07) 越え行き、上に捨てた。アグレラドは神々より賜物を望んだ。231-08) それには亦、其の善いことを得た。それには即ち、其のイラーンの戦いの所の軍隊は 231-09) 其の強さより救った。フラシヤヴは、其の一つのアグレラドに於いて、231-10) 殺した。アグレラドは、其の報いに於いて、子供、ゴパトシャフのように生んだ。231-11) アウゾボ、トゥフマスピアンのカアンアクのバルジシュト、231-12) アラヴィシュ・アナスプ、ダエタンガイ・ラギノイド、アガイイ 231-13) マシャヴァークイ、亦、ノダルのマヌスチフル、アウゾボより生まれた。三息子と 231-14) 一娘。カワドの子供は一つのクスブドの内にあった。それらには亦、川に於いて 231-15) 打ち棄てられた。カワドカーンに於いて打ち冷やされた。アウゾボを打ち見て、232-01) 取った。併し、子供の正しさは損ないを取る。名を置いた。亦、カワドより 232-02) カイ・アピヴェフが生まれた。カイ・アルシュの所のカイ・ヴァルシュ、カイ・ピサンの所の 232-03) 亦、カイ・カウスまで、生まれた。カイ・カウスよりシヤヴァフシュが生まれた。亦、シヤヴァフシュより 232-04) カイ・ホスラヴの所が生まれた。ケルシャスプと亦、アウルヴァフシュは夫々二兄弟で 232-05) 有ってあった。トゥラクの所のアタラト・サフム、ラシュプの所のスパエニヤ・スパーン、232-06) ファリドーンの所のトゥジ。アウザフのマフシュの所のロフラスプ、カイ・ピシン、カイ・アピヴェフ、232-07) カイ・ホバド。亦、カイ・ロフラスプより、ウィシュタスプ、ザリルと亦、他の兄弟たちが生まれて 232-08) 有る。ウィシュタスプより、スペンド・ヤズドと亦、ペシュオタンが生まれてある。232-09) 亦、スペンド・ヤズドより、ヴァフマン、アタロ・タルサフと亦、ミトロ・タルサフと亦、他が生まれて 232-10) 有る。パーパカーンの所のアルタフサタル、それには其の同じササーンの所の娘の所、亦、シャープルまで。232-11) ザリルのササーンのアルタフサタル、其の所の、ヴァフマンのスペンド・ヤズドをよく言ったところの。232-12) カイ・アピヴェフの所の母、ファルハンクのダダエアー、フラシュター、ウルヴァト、ガーイ 232-13) のフラシュトのラク、ドウラスラボ、マヌシャチフル。此れも言う、

232-14) 即ち、ファリドーンの所の栄光は、豊かに為した所の海の内に一つのアシに於いて元より植えるもの。232-15) ノクトルガは魔法に於いて、一つの牛を救う所に対して為した。其処に対して行った。233-01) 三年、其処にアシと水を運んだ。牛に対して与えた。栄光が牛に打ち対して行くまで、233-02) 運んだ。ミルクを食い、三息子の所に対してそれには其れが有って、233-03) 与えた。その様に、ナームンドたちのチングランハーの栄光は息子たちに対して 233-04) ファルハンクに打ち対して行くことはない。ノクトルガー、ファルハンクを殺すことを望んだ所の。233-05) ファランクは栄光に於いて、父の際より行った。誓いを為した、即ち、233-06) 最初の子供をアウシュバムに対して我は与える、と。爾後、アウシュバムは彼を父の所より 233-07) 救った。最初の子供、カイ・アピヴェフを生んだ。アウシュバムに対して与えた。新たに 233-08) アウシュバムと共に助けるもの。アウシュバムは混合の内に進んだ。アウゾボの所の母、233-09) ナムンドの所の娘は魔術師で、時に、ナマクはフラシヤヴと共に、それらには亦、233-10) 同じくも、サムより生まれた。六の子供は連れ合いに於いて男と亦、女であり、一つは 233-11) ダムナク、一つはホスラウ、一つはマルガンダクの名が有ってある。亦、男と妻と亦 233-12) 一緒の名の一つが有った。それらには亦、一つのダムスターンの名が有った。233-13) 其れらより其れがより進んで保った。それには亦、三つのそれらが、亦、それに対する所の方向が 233-14) 与えられた。それには亦、アヴァルシャトロの住処と統治権が、彼のアヴァラクに与えられた。アヴァルシャトロは 233-15) 此れを言う、即ち、アヴァラクの町はスローシュに行った。誓いを為した。234-01) 即ち、最初の子供をアウシュバムに対して我は与える、と。爾後、アウシュバムは父より対して 234-02) 救った。最初の子供、カイ・アピヴェフを生んだ。アウシュバムに対して与えた。新たに 234-03) アウシュバムと共に助けるもの。アウシュバムは混合の内に行った。アウゾボの所の母、234-04) ナムンドの所の娘は魔術師で、時に、ナーマグはフラスヴ・アーブシャーンと共に同じくも其の生んだ所の、234-05) ピストは恵みのナーンハシュトと共に繋がりについて彼らの男の所の王をなした。234-06) 此の為に、馬を持つもの、武器を持つもの亦、強い弓であること、清らかであること、234-07) 亦、明らかであること、安らうこと、喜びと亦、更なる名であることが、彼らの妻に於いて。234-08) 亦、アスリスターンの家と統治権がそれに対して与えられた。統治権も亦、与えられた。234-09) 統治権が設えられた。亦、海の力と亦、骨折りを用意して運ぶ。彼らに於いて 234-10) 有った。スパルナクはスパハクの家と統治権をそれに対して与えた。ホスロの 234-11) ライは家と統治権をそれに対して与えた。マルガンラクとパダシュフヴァルガルの王であること 234-12) ノダクの設えと、亦、薬の大麻であることが、それに対して、与えられた。歩兵の進むこと、234-13) 夜の主を為すこと、善い生き方、安らかな生き方、常の勝利が 234-14) 敵たちに於いて。ダスタンよりルダステムと亦、フズヴァルクは生まれて有る。ポウルシャスプ 234-15) のパイティラスプ、ハエチャダスプイーフ、チャフシュヌシュのパイティラスプのハルキャダルシンの 235-01) ハライダ

ールのスピターマーンのヴァユドゥシュトのアヤゼムのラジャンのドゥラスロボ、
235-02) マヌシュチハル。その様な、パユルタラスピの息子が有った。一人はポウルシャ
スプ、235-03) 一人はアラスプイ。ポウルシャスプよりズルドゥシュトのダトリガーフ
235-04) アンダイニシュが生まれて有る。アラスティの所よりマイドゥヨマーフが生まれ
た。235-05) ザルドフシュトは、その時に、教えを運んだ。始めに、イラーンの故郷の
内に先へと 235-06) 信仰した。パルシュのタダト・マイドヨクマーフが、それには亦、受
けた。パルスの所の家長たちは 235-07) 全て再び此のマヌシュチハルの所のタネに対して
行く（それらは）。詳しくを 235-08) 我は為す。ザルドフシュトより生まれた。三息子三
娘。一つはイサドワスタル、235-09) 亦、一つはウルヴァタドナル、亦、一つはドウルチ
フル。その様に、イサドワスタルは 235-10) 僧侶、モウベドたちのモウベドで有る。教え
の所の百年に於いて打ち死ぬ。235-11) ウルヴァタドナル、大地の上の所のイム・カルド
の人々の所の人の所の主の所の家長。235-12) フルヴチハルは軍隊の戦士、ウィシュター
スプたちのペシュオタンの所のリーダーの所の。235-13) カングデズに於いて呼ばれる。
三娘。一つはフレーン、一つはスリト、235-14) 一つはポウルチストの名が有ってある。
アウルヴァタドナルの所、亦、フルチハルは 235-15) 第二夫人の所の女より、他は主たち
の所より有ってある（それらは）。亦、イサドヴァスタルより、236-01) 生まれた一人の息
子のウルヴァルネーザグの名が有った。それらには亦、ビラダンの所のアランジ 236-02)
と呼ばれる。其の為に其の勇敢な所の妻より有る所の。それらには更に 236-03) イサドヴ
ァスタルの所の任せることに於いて、打ち委ねる。更に、ザルドフシュトの三息子 236-04)
そのような、ホシュエダルと亦、ホシェダルマーフと亦、ソシュヤンスはフヴォディより
236-05) 有った。その様に言う、即ち、ザルドフシュトは三度、近くに対して 236-06) 妻
のフヴォヴィに常に行った。それぞれの度、其のタネは大地に対して行ったこと、236-07)
ネルヨサングを与えること、光と亦、其のタネの所の力を受けた。亦、見かけに於いて
236-08) 保つことはアナーヒードに対して与えて、任せた。自らの善い生き物は 236-09)
母に対して混ぜさせた（それらは）。九千と亦、九百と亦、九十と亦、九の 236-10) 無数
の正しいものの所のフラワフルは守護に於いて任せている。ザルドフシュトの所の母は
236-11) ドゥクドゥブの名が有った。ザルドフシュトの母の所の父の所は、236-12) ファラ
フムルドの一つの亦、一つの亦、名が有った。家長たちの所の家族、ヴァフブフトたちの
所の 236-13) バハク、アタロボンダクのマフダドのマイドクマーフのフラフォフシュ
236-14) ヴンダド、マイドクマーフ、カドのマイドクマーフのアラスティフの 236-15) パ
イラダスプ、その様な、オフルマズドたちの所のシャフプフルの所、マーンベドたちの
237-01) マーンベドが有る。亦、カドは偉大なダライの内にフラマールが有った。237-02)
アタロパド、マールスパンド、ダーダルダイのダーディラードのフディノの 237-03) アタ
ロパドのマヌシュチハルのヴァフマンチハルのフリヤノのバハクのバハクの 237-04) フ
アリドーン、フラシュンダーダール、プルシャスプのヴィナスプのニヴァルのヴァフシュ

の 237-05) ディヒダロヴのフラシュトガクのヴァフシュのフルヤ、ラジュンのドウルスラボ、マヌシュ 237-06) チハル、ミフルヴァラズの亦、ニガフのアフズンダシュンのシルヤシャスプのバルシュ 237-07) トヴァのウルヴァアドガーフのタハンのザヒルのドウラスロボのマーヌの 237-08) デウルナミクのザグのマシュヴァークイ・ニダルのマヌシュチハル。ミフルアカヴィドの 237-09) マルダーンヴェーフのアフロバグのヴィンダードのヴィンダードのペダクを為す所のバハクの 237-10) ヴァエブフト。母親は、それには其の我をそれには亦、我が生まれて有る所の。娘のフレフマーフの 237-11) チャハールバフトのマーフアヤーリーフと亦、マーフブンダクのマーフブフト。プイシュンシャドの 237-12) マルダーンヴェーフ、アフロバグヴィンダードのヴィンダードペダク、ヴァイブフト、バハクのヴァイブフト、237-13) 他の全てのマーンベドたち、それらには亦、統治権に於いて、同じ家族の所よりのタネ。237-14) 言う、物事はマヌシュチハルの所のタネが有る。彼らにもモウベドであることが 237-15) 今、有る。全ては同じ家族より有ると、呼ばれる。逃げて、行く（それらは）の所と呼ばれる。238-01) ダーダギーフのアシュヴァヒシュトの。ユダーンイムのヴァフラーム、ザードのザルドフシュトの、238-02) ザルドフシュト、アタロパド、マルスパンドたちの、ザードスプラムのユダーンイム、238-03) アタロパド、ハミドたちの所の、亦、アショヴァヒシュトのフレフスロシュと亦、他の 238-04) モウベドたちは、同じ家族より有ってある。此れも言う、即ち、一冬に於いて 238-05) 五十日、マズデースンたちの所の教えは、六大陸に於いて第二に打ち 238-06) 来た。上に年の数、タージクたちの十二の千年が。

第 4 1 章：千年紀の主について

238-07) 言う、教えに於いて、即ち、三千年、メーノーグの続くことが有った。即ち、238-08) 生き物は考えることなく、亦、動かず、実体なく有った。千年間はドーパヒカル 238-09) の所のワッラグとガーウが主で有った。三千年、ガヨーマルトが牛と共に 238-10) 続くことが有ってある。邪惡の兄弟と亦、千年間の主、カルザングと亦、238-11) シャグルと亦ホーシャグが有ってある。その様に有る。六千年、時に、238-12) 千年間の主はタラーザグに対して来る。邪惡は、跋扈の内にガヨーマルトが 238-13) 邪惡の内に三十年生きた。爾後、四十年、マシュエーと亦 238-14) マシュアンが上に育っている。亦、五十年、其れは有る（それらは）。それらには、時に 238-15) 妻たること、夫たことは有ったこととはない。九十と亦、三年、六月、共に 239-01) 妻と亦、夫で有ってある（それらは）。其のホーシャングまで、大人であることに対して来た。239-02) ホーシャングの四十年、タフムルプの三十年、イムは栄光まで、それには亦、打ち行った。239-03) 六百は六月まで、亦、爾後、其の百年より逃げることに有った。七百は 239-04) 六年六月まで有る（それらは）。亦、爾後、千年間の統治権はガズドゥムに対して、打ち 239-05) 来た。ダハーグは千年の統治権を為した。爾後、統治権の所の千年間は、239-06) ネーマスプに対

して来た。ファリドーンの統治権は、魔術師の五百年は、同じファリドーンの所の 239-07) 五百年の内に、アイリクの十二年、マヌシュチハルの百と亦二十の所の年はマヌシュチハルの所の同じ 239-08) 統治権の内に、時に、パダシュフヴァルガルに於いて有った。239-09) フラシヤヴの十二年、トフマスピアーンの所のフゾブは三年。カイ・カワドの 239-10) 十五年、統治権のカイ・ハムは其のカワド、マヌシュチハルの所のフゾブの内に 239-11) 有った。カイ・カイユヌスは空に対して行くことの所まで、七十と亦五年。239-12) 爾後、八十五年まで、共に。百と亦、五十年、カイ・ホスロウの 239-13) 六十年、カイ・ロフラスプの百と二十年、カイ・ウィシュタースプは教えの来ることの所まで、239-14) 三十年、悪党の千年。爾後、統治権の所の千年間はヴェーニーグに対してきた。239-15) スピタマーたちの所のザルドフシュトは使いであることの所に於いて創造主のオフルマズドより、240-01) ウィスターズプたちに対して来た。ウィスターズプたちは、爾後、教えの所の受け入れること、240-02) 九十年。ヴァフマンのスペンドダーダンの百と亦、十二年、ヴァフマンの娘の 240-03) 三十年、チハル・アザードたちの所のダライが有って、ヴァフマンの十二年、ダライシュンの所のダライの 240-04) 十四年、ワシの所のアレクサンドルの十四年、アシュカニアンは 240-05) 正しい統治権に於いて名に耐える。二百と亦、それ程の年、それには亦、無数のサーサーンたちの 240-06) より優れた統治権のパーパカーンが、四百と亦五十年、場所の賜物まで、240-07) タージークたちの所の乾きが、四百四十七の所の年まで、パラサークたちは、今、240-08) 七の二十と七の年の所のパラシクが終わった。年に於いて 240-09) 楽しさと亦、平和が、アシュタードの所の日、ティルの所の月の内に、実りの年の 240-10) 九百と亦、七十と亦、五。爾後、私により、併し、ルビー、完全な教えの所の二十の王たちの王 240-11) ファリドーン、マルゾバーン、ファリドーン、ヴァーフラムのルストン、ブンダール王、240-12) 人々の教えの友を私は書いた。亦、先へと捨てた（かれらは）有って私は有る。部分より 240-13) 自らのことは全て、勝利と我が地域と、幸せとを産んだ。与えること、240-14) 槍の所の友を。

テキストは Google から Bundahisn - TD2 ANKLESARIA. pdf をダウンロードして使用した。Anklesaria による編集でボンベイ、1908 年初版のものである。ただし、215-01～216-15 が落丁。

翻訳にあたっては、E. W. West の “Bundahishn” from Sacred Books of the East, volume5、オックスフォード大学印刷、1897 年を参考とした。ただし、かなりの部分で相違しており、写本がちがうものと考えられる。

占星術に関する挿絵も本文に合わせて訂正している。

解 説

大宇宙としての睡眠

冒頭で挙げた四つの注目すべき点について、『アルダー・ウィラーズ・ナーメ』と対応させながら述べていくことにしたい。

第一に、「睡眠」については、全体を通して三十回ほどの用例がある。第二十五章には「睡眠の性質について」詳しく述べられるが、特に、第五章「邪悪の侵入について」では、オフルマズドの「睡眠」が述べられる。最初の三千年期で原初の創造が完了し、第二の三千年期、睡眠がオフルマズドを捉える、それは以下の部分である。

44-3) オフルマズドの睡眠はガヨーマルトの上に先へと運ばれ、長さのそれ程に 44-4) 一偈を打ち言う。本質が創造された。オフルマズドの其の睡眠は、44-5) 高い光の十五歳の人間の身体に於いて、時に、ガヨーマルトは 44-6) 睡眠より先へと有った。大地の夜のような暗黒の世界を見て、44-7) 針のような悪夢のフラフスタルたちの跋扈が、免れること無く 44-8) 在った。

ガヨーマルトとは最初に創造された人間であるが、それはオフルマズドの睡眠の中の存在であり、さらには、悪夢としてのフラフスタル（有害な生き物）も同じ夢の存在として示されている。したがって、睡眠の間から抜け出せば悪は雲散霧消するような非実在的存在である。第三十三章「メーノーグについて」には

時に、太陽が上に来るに、全ての大地の悪魔どもを 171-12) 打ち叩き、清らかに打ち為す。此れも言う、即ち、時に太陽が 171-13) 一つの時、爾後、上に来るに、デーウたちの全ての生き物の所を 171-14) 打ち壊す。打ち叩く。太陽は、闇と亦、暗闇や亦闇に関わるものたちの闇、171-15) デーウたちのものを。

悪によって創造されたものも含めて、全ての現象は宇宙的遍在者の夢の中にある。この『ブン・ダヒシュン』の考え方は、ゾロアスター教聖典『アヴェスター』にその原点を見出すことができる。ヤスナ第三十章の第三に

では、睡眠を通して双生児としてあらわれた、かの始元の二霊についてであるが、両者は、心意と言語と行為において、より正善なるものと邪悪なものであった。

ここに示される「睡眠」と同義のものと考えられる。この双生児を生み出した、より根源的なものとして、『ブン・ダヒシュン』第三章には、オフルマズドとガンナーグ・メーノーグとの対立を超えた「時（ザマーン）」が言及されている。この点に、「ズルワーン教」

として展開して行く側面も現われている。

一方、『アルダー・ウィラーズ・ナーメ』にはアフラマズダ（中世語形＝オフルマズド）とアンラ・マインユ（中世語形＝アフリマン）の本質的な相違が示されている。光明と暗闇、善と悪、安楽と刑罰、名誉や不名誉などといったそれぞれの具体的特徴は「神や大天使の実在」と「アフリマンや悪魔たちの非実在」という相違によるというのである。善悪の二元として対立しつつ、善は実在であり、悪は非実在であるとする点に単純な二元論とはいえない側面をもっている。これも全ての現象が睡眠中の夢想としての非実在であるという点に起因するものである。

例えば、『アルダー・ウィラーズ・ナーメ』第百章から引用すれば、

その後、私（アルダー・ウィラーズ）は、ガンナーグ・メーノーグ（邪悪な精霊）の死に満ちた邪まな教えにおける世界の破壊者（アフリマン）を見た。彼は地獄の内で、悪い者たちを絶えず嘲笑し嘲った。彼は言う。即ち、「何故に、オフルマズドのパンを絶えず食いながら、我が業を為すのか。また、自分の創造主を思うことなく、我が欲望を行なうのか」と。そのように、多くを嘲って、悪い者たちを絶えず怒鳴っている。

ここでは、アフリマンの言葉を借りて、全ての者が本来的にオフルマズドの創造物であり、オフルマズドが存在としての拠り所となっていること、そして、そのような本来の在り方を忘れてアフリマンの所業をなすものが悪人であることが示されている。さらに、第百一の最終章においては、より明確に善悪の関係が述べられている。

また、そこでメーノーグ（精神世界、精霊）たちの中でも最も寛大な創造主オフルマズドは言った、即ち、「まさに言え、汝、アルダー・ウィラーズよ。ゲーティーグのマズダニアンたちに向けて、即ち、真実の道、元始の教えの道が、唯一のものである。他の道は全て道ではない。汝等は、その唯一の真実の道を取れ。繁栄においても、悲しみにおいても、他の道においても、汝等はそれを変えてはならぬ。また、汝等は、善い思い、善い言葉、善い行いを打ち行なえ。また、汝等は、その同じ教えに深くあれ。我より受けたスピターマ（ザラスシュトラの父方の称）たちのザラドゥシュトやウィシュタースパ（ザラスシュトラに帰依した最初の王）が世の中に広めた、その正しい教法を、汝等は保ち、邪悪から打ち護れ。そして、汝等は等しく、この智慧において有れ。即ち、牛は塵であり、馬は塵であり、金銀は塵であり、また、人々の身体も塵である。その唯一にして塵に混じることのないこと、それはゲーティーグにおいて正しいことを称賛し有徳の仕事を行なうことであると。

この最終章では、オフルマズド自身が、全ての現象が塵であることを説示している。第

三の注目点として挙げた、原初の創造に対して邪惡の侵入による善惡の混合も、塵に覆われていない状態が善であり、塵に覆われた状態が悪となるのである。

ここで興味深いのは「塵」という表現が用いられていることである。すぐ思い浮かぶのが、如来藏思想でつかわれる客塵煩惱という言葉である。我々の仏性は外から偶発的に付着した煩惱によって汚染されており、この塵を払拭することで仏性が顕現するという考え方である。塵に纏わりつかれた状態を在纏位の仏性と呼ぶ。同じ心が煩惱で汚染されている場合には衆生、煩惱が払拭された場合には仏となるのである。

この仏性の在り方を、縁起によって生起したもの（有為法）と対比して解明しようとしたのが華嚴教義で説かれる法性生起である。

『華嚴經』には

・・・仏子よ。菩薩摩訶薩は、又た復た応に知るべし。如来性起の正法は、功德無量なり、行無量の故に。十方に充滿す、来去無きが故に。生住滅を離る、行有ること無きが故に。心意識を離る、身有ること無きが故に。性は虚空の如し、悉く平等なるが故に。一切衆生は無我我所なり、尽くこと有ること無きが故に。一切刹に無尽なり、転ずること有ること無きが故に。未来際を断ぜず、退くこと有ること無きが故に。如来智は無疑なり、無二平等にして、有為無為を觀察するが故に。等正覺を成じて衆生を饒益す、本と回向を行じて自在満足せるが故なり。

とある、上述の「十方に充滿」し、「性は虚空の如し」という教説は、真理として遍滿する無為、縁起によって生起した有為の本質としての無為を指した表現である。それが法性そのものであり、また、このことから、「三界虚妄 但是一心作」とも説示される。世界中の善惡の諸行は虚妄であって、法性からの顕現に他ならないと説くのである。この法性を宇宙に遍在する超越的一心と示すところに、オフルマズドの一心、あるいはそれをも超越した「時」の一心と通ずるものがある。

さて、『アルダー・ウィラーズ・ナーメ』において、ウィラーズは現実世界から中間界を経て、星の駅、月の駅、太陽の駅、そしてガロードマンの天界へと上昇する。これは『アヴェスター』に示される善思天、善語天、善行天を経て無始光天に至ることと一致している。一方、『華嚴經』においては、釈尊は菩提樹下の金剛座から天界へと上昇する際に、忉利天、夜摩天、兜率天、他化自在天の四天を経て地上に戻る。六欲天の中から四天王衆天と樂變化天を除いた四天を挙げるのは、初禪天から第四禪天までに対応させるためとも考えられるが、ゾロアスター教の昇天思想に基づくものであった可能性も指摘できる。

また、『華嚴經』入法界品では善財童子の求法遍歴の旅が示されるが、その中に地獄に相当する描写がある。入法界品第三十四之六に、満足王が登場する。善財童子は、満足王が罪人への刑罰として身体を切り刻み、火に焼かせるという地獄の相を現すのに疑問を抱

き、教えを受ける善知識としてはふさわしくないのではと考えた時、天の声がそれをたしなめ、王を訪ねるように勧める。善財童子が満足王のもとを訪ねると、善財童子の疑念を察した満足王は、「我が普段の行動を知るべきである。アリさえ殺生することはない。どうして人を切り刻んだり焼いたりするであろうか。幻化の法をもって地獄の相を顕現し、人々に見せしめて、罪惡を犯させないようにしているのである」と告げる。ここにも地獄の非実在が説かれることとなる。

以上のような、大宇宙が超越者の夢想であり、我々自体もその超越者の夢の一部にすぎないというゾロアスター教の教説はヒンドゥー教にも影響を与えたとも考えられる。すなわち、全ての現実世界はヴィシュヌ神の夢の中の出来事に過ぎないと言う教義に類似性を認めることができる。

小宇宙としての人間に内在するディーン

先に普遍的世界、大宇宙としての一心を述べたが、次に、外来の塵に覆われながらも人間に内在する一心について述べることにしたい。それは、第二の注目点として挙げた、死後の靈魂が自己の心の顕現であるディーンと呼ばれる少女に出遭うという形で描かれている。『ブン・ダヒシュン』第38章には「死後の靈魂の行方について」と題されて、善人と悪人の靈魂の運命が対照的に描かれている。靈魂はディーンとの出遭いの後に、チンヴァト橋に到り、天界のガロードマンへ行くか、地獄へ落ちるかの判定を受ける。ただし、ディーンの姿の優劣にはその判定がすでに示されていると考えて良いようである。

例えば、悪人の靈魂は死後、三日を経て、少女に会う。靈魂は悪意に満ちた少女に対して問い、少女は答える。以下にその部分を引用すると、

202-07) 其の所の汝、其の所の汝が有る。より邪惡な汝より、ゲーティーグに於いてみることがない。202-08) 答えを、彼に対して言う。即ち、一つの悪いもの、我は汝の所のディーン、なんじの其の所の自らの行いが 202-09) 汝に有り、時に、汝が邪惡な所の其れを行つた。此処に汝の為に我は有っている。202-10) 見えることなく、即ち、全ての誰かの行うこと自身が向かつて有る。爾後、202-11) 其の靈魂を導かせられる。ハルボルズ山の所の起こりまで、即ち、錘の所の端も其の上に 202-12) 行く。峰の所の高まりまで、即ち、鋭い所の其の端で有る。

また、『アルダー・ウィラーズ・ナーメ』においても、第四章には善人の靈魂の運命が、第五章にはチンヴァト橋が、第十七章には悪人の靈魂の運命が描かれている。以下、第十七章を引用する。

そして、悪人の靈魂、これら最初の三晩の間に害と惡事に出会った靈魂たちを見る。こ

の世において決して出会わなかったような苦痛に苛まれる。そこでウィラーズは精霊スローシュとアードウルに次のように尋ねる、「これらの靈魂は誰のものなのか？」と。

精霊スローシュとアードウルは次のように答える。この悪人の靈魂はその悪人が死んだ場所、命が去った場所の上で彷徨っていた。それは彼の頭のそばに立ち、ガーサーの言葉をこのように言う、「大いなるオフルマズドよ！どの国へ私は行くのか？なにをより所とすべきなのか？」と。そしてその夜、ありとあらゆる不幸や困難が彼に起こる。それは、この世において生きていた間に生きた困難さと不幸の中のようなのである。

その後、臭い寒風が彼のところへ来る。そしてそれはその靈魂にとって北の方角、悪魔たちの方角から来るように思われる。それはこの世では嗅いだことのないような、より臭い風である。そしてその風の中、彼は自分自身の信仰心と行為を、放蕩で、裸で、墮落した、がに股で尻が垂れ、痣と痣がつながるほどに多くの痣のある、最も忌まわしい有害な生き物（フラフスタル）のように、最も不潔で最も臭い女としてみる。

そこで悪人の靈魂はこのように言う、「汝はだれだ？オフルマズドやアフリマンの創造物でより醜く不潔な、あるいはより臭いものをいまだかつて見たことがない」と。

彼にその女はこのように言う、「私は汝の悪い行為である、邪悪な思い、邪悪な言葉、邪悪な行ないの若者よ！汝の意思と行為の故に私は、汝に明らかになったように、ひどく醜く下劣に、邪悪で病んだ、腐敗し不潔な臭い、不幸で苦痛に満ちているのです。汝は、だれかがヤジシンやドロンの祭礼や、賞賛や祈禱を、また神への奉仕を執り行い、水や火や家畜や木々、そしてそのほかの良い生き物を保護し守るのを見ては、アフリマンや悪魔たちの意志や不適切な行為を實踐した。また、汝は、だれかが、遠来であれ近くから来たものであれ、善良で価値ある者たちの利便のために心からの歓迎をなし贈り物や慈善として何物かを正当に与えるのを見ては、強欲になり、扉を閉め切った。そして、私は神聖ではなかったけれども、汝のせいでさらに神聖ではなくなった。また、私は非常に醜かったけれども、汝のせいでさらに非常に醜くなった。私は臆病ではあったけれども、汝のせいでさらに臆病になった。私は悪魔たちのいる北の方角に置かれていたけれども、汝のせいでさらに北に置かれるようになった。汝が行ったこれら邪悪な考えやこれら邪悪な言葉やこれら邪悪な行ないのせいで。長きに亘る邪悪な霊との邪悪な交感や嫌悪の中で彼らは私を呪ったのである」と。その後、悪人の靈魂は第一歩をドウシュフマト（悪い思い）へ、第二歩をドウシュフクト（悪い言葉）へ、第三歩をドウシュフヴァルシュト（悪い行為）へと進み、そして第四步で地獄へと駆けていく。

これらの内容は魂の運命として（ハーゾークト・ナスク第二章）記述されるものと一致する。『アヴェスター』に説かれる義者のダエーナー（ディーン女神）について、以下に引用する。

ザラスシュトラがアフラ・マズダーに問うた

「最勝のスプンタ・マンユなるアフラ・マズダーよ、有象世界の創造主、義者よ。義者が逝世するとき、どこに、その夜、彼の魂はとどまるのですか。」

すると、アフラ・マズダーは仰せられた

「頭の近くに坐しているのだ、ウシュタワティー・ガーサーを唱え、所望の実現を期しながら。だれによって所望されたことでも、そのものの所望どおりに、御望みのままに支配し給うマズダー・アフラはお願ちくださるように。その〔義者たる逝世者の〕魂は、すべて、この生きているものどもの世界にあると、同じ平安を、その夜、願い求めるのである。」

「第二夜には、どこに、彼の魂はとどまるのですか。」

すると、アフラ・マズダーは仰せられた

「頭の近くに坐しているのだ、ウシュタワティー・ガーサーを唱え、所望の実現を期しながら。だれによって所望されたことでも、そのものに所望どおりに、御望みのままに支配し給うマズダー・アフラはお願ちくださるように。

魂は、すべて、この生きているものどもの世界にあるのと同じ平安を、その夜も願い求めるのである。」

「第三夜にも、どこに、彼の魂はとどまるのですか。」

すると、アフラ・マズダーは仰せられた

「頭の近くに坐しているのだ、ウシュタワティー・ガーサーを唱え、所望の実現を期しながら。だれによって所望されたことでも、そのものに所望どおりに、御望みのままに支配し給うマズダー・アフラはお願ちくださるように。魂は、すべて、この生きているものどもの世界にあるのと、同じ平安を、その夜もまた願い求めるのである。」

義者なる人の魂には、第三夜が経過しおえて夜の明けるのが見え、木々のなかにおいて、匂いを嗅ぎとっているような気がする。最南の方処から、最南のもろもろの方処から、芳香ある〔風〕が、もっとも芳香ある—他のもろもろの風よりも—風がそれ（魂）に吹きよせてくるようにおもわれるのである。

すると、義者なる〔その〕人の魂は、その風を鼻で呼吸しているような気がする

「どこから、この風は吹いてくるのか—かつてわたしが鼻で嗅いだことのある、もっとも芳香ある〔この〕風は—。」[と言いながら。]

この風のなかを、彼のほうへすすんでくると見えるのは、彼のダエーナーで、少女のすがたをして—美しい、かがやかしい、腕の白い、力強い、姿の美しい、肢体のすらりとした、たけ高い、乳房の張り出した、身体のりっぱな、高貴の生まれの、富家の出にかかり、姿では、十五歳の、からだではまるで、最も美しい庶類と同じ美しさを具えた〔少女のすがたをして〕。

そこで、彼女に問うて、義者なる人の魂は〔こう〕言ったのです。

「若き女よ、あなたはだれですか—かつてわたしが見たことのある、若い女たちのなかで、からだのもっとも美しいあなたは。」

すると、彼に、彼のダエーナーは答えた。

「わたしくしは、まことに御身のものです、若者よ、善思者・善語者・善行者・善ダエーナー者〔たる御身〕よ。〔すなわち〕御身みずからのダエーナーです。」

〔義者曰く〕「わたしに見えているそなたが〔そのように〕大きいことと、すばらしいことと、美しいことと、かぐわしいことと、敵に勝つことと、敵に抗することとのゆえに、そなたを、だれが、愛好してきたのですか。」

〔少女曰く〕「御身がです、わたしを愛好してくださったのは、若者よ、善思者・善語者・善行者・善ダエーナー者〔たる御身〕よ—御身に見えているわたしが〔このように〕大きいことと、すばらしいことと、美しいこととのゆえにです。御身は、他のものがサオチャヤやバオスとをなすのを見たり、ワラクズラをなすのや、牧草の根絶をなすのを〔見た〕とき、そのとき御身は坐してガーサーを唱え、そしてよき水とアフラ・マズダーの火を崇め、近くから、はたまた遠くから来た、義者なる人を満足させたのでした。そのとき、愛らしかったわたくしを、いっそう愛らしく、美しかった〔わたくし〕を、いっそう美しく、吉祥だった〔わたくし〕を、いっそう吉祥なものに〔してくださったし〕、顕位に坐していた〔わたし〕を、いっそう高い顕位につけてくださったのでした。—〔御身の〕この善思によって、この善語によって、この善行によって。こうして、人々は、以後、わたくしとアフラ・マズダーを崇めることでしょう、—〔それも〕永く崇め、そして〔教えをうけるために〕共に談合することによってです。」

義者なる人の魂は、第一歩をすすめて、善思〔天〕においた。

義者なる人の魂は、第二歩をすすめて、善語〔天〕においた。

義者なる人の魂は、第三歩をすすめて、善行〔天〕においた。

義者なる人の魂は、第四歩をすすめて、無始光〔天〕においた。

伊藤義教『アヴェスター』より

善悪の何れにおいても、第四歩目に天国か地獄に到ると示されるが、その分れ目がチンヴァト橋である。この橋は、『ブン・ダヒシュン』の中では、チンカール橋、チンナール橋、チンワト橋の名で呼ばれている。

チンナール橋の上、靈魂は過ぎ行つた。199-03) 教えに於いて言う、即ち、百の人の高さの所の一つの峰、間の世界、其の所は 199-04) チャガード・イ・ダイティーと呼ばれる。穢れの秤のラシャンの神、峰、元の山 199-05) のハルボルズは、北の方向に於いて、亦、山の所のハルボルズの頂に於いての所の峰、199-06) 南の所の方向に於いて、間の上、其のチャガード・イ・ダイティーが在る。199-07) 其の間の場所に於いて、剣のような鋭い

所の峰が在る。199-08)それには其の所の、九長槍の長さとも亦、幅の亦、其処に在る。メーノグたちの 199-09)秘事、其の所は、メーノグに適うものたち、正しいものたちの靈魂が浄められる。

チンヴァト橋は亡者の善悪の程度によって、広くも狭くもなるという審判の機能をもった橋として登場する。この橋はゾロアスター教聖典『アヴェスター』中、ヤスナ第五章にも「チンワント橋」として出てくる。

伊藤義教『アヴェスター』（世界古典文学全集三）解説には「人間の寿命・命数がつきて、肉体と我・魂との分離がおけると、後者は『検別者の橋、チンワントの橋』なるものを通過する。・・・中略・・・検別者、善悪をわかつ者がだれをさすかは問題であるが、この橋自体が裁きの役を演じることはたしかである。しかし、人間は生前すでに善悪いずれかに属し、死後いずれの果を受けるかを、自身の身・語・意の三業、別言すれば、自己の『選取』のいかんによって決定しているはずである。そうしてみると、この橋は事実の確認に法形式を付与したものとみることができる」とある。チンヴァト橋などで行われる個別審判と世界の終末にある総審判（最後に審判）のはっきり区別されることなく、混在していたもののようである。ザラスシュトラにとって世界の終末は近い将来に迫ったものとして意識されていた。これは他のキリスト教、イスラームにおいても共通する危機意識であった。

さて、『アルダー・ウィラーズ・ナーメ』の中では、ウィラーズがこの橋にさしかかった時には、そこを悪人が通ったため、橋は大変狭くなっていたようである。以下に引用する。

その後、チンヴァト橋の広さは再び九ジャヴェリン（戦闘用の長やり）長になった。精霊スローシュとアードウルの介添えにより、ウィラーズはチンヴァト橋を易々と幸福に雄々しくそして勝利に満ちて渡りきった。ウィラーズには、天使ミフル、公正なるラシャン、善良なるヴァイ、力強い天使ヴァルハラン、世を増強する天使アシュタド、マズダヤスニアンたちの善なる宗教の栄光、また敬虔なる守護の天使（フラヴァシ）、そして最初にウィラーズに敬礼した残りの精霊たちからの多くの守護力があつた。アルダー・ウィラーズはその手に黄金の秤を持ち、敬虔さと邪悪さを量る、公正なるラシャンを見た。

そしてその後、精霊スローシュとアードウルはウィラーズの手を取り、このように言った、「おいでなさい、私たちは汝に天国と地獄を見せようと思いますので。敬虔さの報酬である壮麗で光輝あり安らかで満足の喜びや楽しみや歓喜やうれしさそして芳しさが天国にはある。私たちは汝に地獄の刑罰において、悪魔や魔術師や罪人が繰り広げる様々な種類の、暗黒や監禁や不名誉、また不幸や悲しみや邪悪、苦痛や病や恐怖、また恐ろしさや有害さや悪臭を見せようと思います。私たちは汝に真実の場所と虚偽の場所を見せよう

と思います。私たちは汝に、オフルマズドや大天使へのゆるぎない信心の報いを、天国にある善なる者を、地獄にある邪悪なる者を、そして神や大天使の存在を、そしてアフリマンや悪魔たちの非存在を、死者の救済と未来の身体が存在を見せようと思います。私たちは汝にオフルマズドや大天使からの敬虔さの報いを天国の真中で見せようと思います。私たちは汝にアフリマンや悪魔の乱暴からの様々な拷問や刑罰を地獄の真中で見せようと思います。・・・」と。・・・

ディーンという名詞は、「教え」という普通名詞とディーン（ダエナー）という女神を表す固有名詞としてつかわれる。人間の心の中の良心が死後、靈魂に先立ってチンワト橋の前で待ち受け、ディーン（ダエナー）女神の姿を顕現して靈魂の行くべき道を指し示す。その後に、善人の靈魂には樂園としてのガロードマンが顕現し、悪人の靈魂には責め苦の地獄が顕現する。人間内在の良心が外界の現象世界に反映して顕現するのである。

このような、全てが心の変現であるという考えは、仏教においては唯識学派の識転変として展開していく。この唯識教義では弥勒論師を第一祖としている。『婆藪槃豆法師伝』（大正新脩大蔵経第50巻）には無着は神通力によって兜率多天に昇り、弥勒菩薩に教えを諮問したと記されている。弥勒菩薩は大乗の空觀を説いたという。以後、度々、兜率多天に昇って弥勒から大乗の教義を受けられ、地上に降りて禪定思惟して大悟したとある。無着菩薩や世親菩薩はガンダーラのプルシャプラの出身である。その周辺地域は長くペルシア文化の影響下にあり、宗教的背景としてゾロアスター教が存在していた。

もし、「弥勒」という語がゾロアスター教との関連を示す指標であるとすれば、心が全てを描き出すという思想の源流について再検討する必要があるであろう。

大宇宙と小宇宙の相即

冒頭で挙げた第四の注目点として、宇宙全体と人間の身体とが相即することを挙げていた。このことは、『ブン・ダヒシュン』第36章の「人間たちの身体について」で説かれている。以下に、引用すれば、

189-03) 人間たちの様な所の身体の上に。教えに於いて言う、即ち、189-04) ゲーティーグの様な人間たちの身体は、其れはゲーティーグが一つの水の雫より 189-05) できている。その様に言う、即ち、此の生き物は、始めは全て一つの水の 189-06) 雫で有った。人間たちも、一つの水の雫で常に有った。189-07) この様に、その様に、ゲーティーグは広さと共に長さが等しく、人間もその様に 189-08) 全て誰でも自らのナーイの所の長さで有る。尋ねられた。皮は 189-09) 空の様に、肉は大地の様に、骨は山の様に、亦、諸血管は 189-10) 諸川の様に、亦、身体の内血は海の所の内の水の様に、腹の所は山々の様に、189-11) 亦、髪は其処の植物の様に、即ち、髪は育っている、更に茂みの様に、189-12) 身体の所

の物は金属の様に、内なる知恵は人間の様に。

ここに示されるように、大宇宙としての一心は山川草木としての森羅万象として顕現し、人間の内面の小宇宙はそれら外界と相似して成り立っている。それは両宇宙の等質性を明らかにするものと言える。人間内在の良心はディーナ女神となって顕現し、天界ガロードマンに帰一するのである。そして、この大宇宙と小宇宙の関係性は仏教の如来蔵思想にも共通するものである。

『究竟一乘宝性論』には、如来蔵經典の諸義を整理して、1)衆生＝如来の胎児、2)衆生＝如来と同じ本性(真如)を有する者、3)衆生＝如来の因(＝仏性)を有する者と解説している。1)はさらに、すべての衆生が如来法身に遍満されている意であるとも考えられていた。漢訳の『仏性論』ではこの説について、1)は所摂蔵(衆生は法身により包摂。法身は宇宙大、衆生はその一部)、2)は隠覆蔵(真如法身が衆生内に隠れ潜む)、3)は能摂蔵(衆生は如来の徳性を本来的に具有する)の三蔵としている。

まとめ

阿弥陀仏の起源としてミトラ神を中心に進めてきた研究ではあるが、ここに至って、ゾロアスター教の影響が大乗仏教全般に関わることが明らかとなってきた。特に重要な概念として多用されるのが「混合」である。オフルマズドによる原初の創造においては善であったものに、邪悪が混入されることで混合物としての現実世界が創造されたと言くのである。イスラームでは人間は誕生した時点では善なるものであり、大人になるにしたがって悪に染まっていくと説く。この点にイスラームとゾロアスター教の共通点を見出すことができる。しかし、さらに重要なのは大乗仏教にも同様な教義があることである。無着・世親の唯識思想では依他起性・遍計所執性・円成実性の三性説が説かれる。縁起によって生起した依他起性が執着によって汚染されて遍計所執性となり、執着を滅することであるがままの真理としての円成実性になる。この見方は4世紀前後において如来蔵思想へと展開する。

【参考図書】

- Martin Haug 『The book of Arda Viraf』 一八七二年(ボンベイ)
D.N. Mackenzie 『A concise Pahlavi dictionary』 一九七一年(ゲッティンゲン)
Y. ヤクボフ 『古代ソグドの宗教』 一九九六年(ドシャンベ)
伊藤義教 『ゾロアスター研究』 岩波書店、一九七九年
伊藤義教 『ヴェーダ・アヴェスター』 世界古典文学全集三・筑摩、一九八一年
山内和也 『パフラヴィー語・その文学と文法』 シルクロード研究所、一九九七年
塚本善隆・他編 『望月仏教大辞典』 世界聖典刊行協会、一九五四～六三年
中村元・他編 『岩波仏教辞典』 岩波書店、一九八九年

【後記】

科研費助成の最終年度である2017年度にあたり、第三巻目の報告書「ミトラ仏と観貨邏の仏教 3」を製本してタジキスタン調査の総括とする。第二巻は、「ミトラ仏と観貨邏の仏教 2」と題し、蓮池 利隆と Бобомуллоев, Саидмурод を編集者として併記し、2016年度に製本している。初期の調査の成果は「ミトラ仏と観貨邏の仏教 1」と改題して改訂増補版を製本した。三次にわたったタジキスタン調査の端緒がどのようなものであったかを記録しておくのもそれなりの意義があるものと考えた次第である。

2005年度から三次、通算十三年間にわたる科学研究費の助成による研究を通して、中央アジアの仏教が大乘仏教の形成に重要な影響を及ぼしたことを明らかにすることができたように思う。ゾロアスター教の専門知識がないままに中央アジアの宗教的背景を考察することは無謀の誹りを免れないであろう。しかし、仏教学の視点から、ゾロアスター教から多大な影響を受けたことを明らかにすることはできたと思う。しかも、教義の重要な部分においてもそのことを確認できた。

従来の研究では、夫々の宗教における専門的研究は盛んにおこなわれてきたが、その交渉については十分な配慮がなされてこなかったように思う。この研究が、そのような学際的部分にすこしでも触れることができたとすれば幸いなことである。

調査を進める上で多くの方々のご理解とご協力を賜ったことを最後に感謝申し上げたい。



2018年1月16日 蓮池利隆